

万博国際交流プログラム 交流計画の令和7年度取組状況

<特別交付税措置対象地域>

令和8年 2月
内閣官房 国際博覧会推進本部事務局

本資料は、万博国際交流プログラムの登録自治体からの報告を基に、内閣官房国際博覧会推進本部事務局が取りまとめたもの。

令和7年度事業報告

・北海道東川町(ラトビア)..... 5	・岐阜県(フランス)..... 61
(カナダ)..... 8	(ポーランド)..... 66
	(リトアニア)..... 69
・岩手県岩手町(アイルランド)..... 11	(英国)..... 73
	(ハンガリー)..... 75
・山形県村山市(ブルガリア)..... 17	・岐阜県・多治見市(中国)..... 77
・茨城県(イタリア)..... 19	・岐阜県・関ヶ原町(米国)..... 81
・栃木県那須塩原市(オーストリア)..... 24	(ベルギー)..... 85
・群馬県甘楽町(中国)..... 32	・岐阜県岐阜市(中国)..... 89
・東京都渋谷区(米国)..... 35	・岐阜県恵那市(ポーランド)..... 93
・新潟県(ベトナム)..... 39	・岐阜県八百津町(リトアニア)..... 101
・石川県(韓国)..... 42	・静岡県(中国)..... 104
・福井県福井市(スロベニア)..... 44	・愛知県美浜町(シンガポール)..... 108
・山梨県(米国)..... 50	・滋賀県(バチカン)..... 111
・長野県駒ヶ根市(ネパール)..... 55	・滋賀県長浜市・滋賀県(米国)..... 114
・長野県宮田村(韓国)..... 58	・京都府(インドネシア)..... 118
	(英国)..... 122
	(カナダ)..... 125
	(中国)..... 128

令和7年度事業報告

・京都府(フランス).....131	・大阪府富田林市(米国).....198
(米国).....135	
(ベトナム).....139	・大阪府河内長野市(米国).....201
・京都府亀岡市(米国).....142	・大阪府松原市(オーストラリア).....204
(ウクライナ).....146	(韓国).....207
(オーストリア).....149	・大阪府泉南市(フィリピン).....210
(中国).....152	
・大阪府(フランス・米国・オーストラリア・ベトナム・イタリア	・兵庫県三木市(フランス).....216
・中国・インドネシア(アラブ首長国連邦)).....154	
・大阪府大阪市(オーストラリア).....157	・奈良県(ウズベキスタン).....219
(韓国).....160	・島根県海士町(ブータン).....227
(中国).....163	・岡山県(韓国).....231
(ドイツ).....165	・広島県福山市(リトアニア).....235
(ベトナム).....170	・山口県山口市(スペイン).....239
・大阪府堺市(チェコ).....173	・徳島県東みよし町(カナダ).....244
・大阪府岸和田市(フランス).....176	・香川県(イタリア).....249
・大阪府豊中市(米国).....179	(ベトナム).....253
・大阪府吹田市(スイス).....185	(中国).....256
・大阪府八尾市(米国).....192	・香川県・丸亀市(スペイン).....259
(中国).....195	

令和7年度事業報告

・愛媛県愛南町(カナダ).....	266
・佐賀県(オランダ).....	269
・長崎県雲仙市(デンマーク).....	273
・長崎県東彼杵町(オランダ).....	279
・大分県(英国).....	284

東川町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

北海道東川町

相手国・地域

ラトビア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

東川町は2008年にラトビア・ヴァルミエラ県と姉妹都市提携を締結し、長年にわたり学生交流や職員研修を実施してきた。また、写真文化を活用した国際交流を推進し、世界に開かれた町づくりを進めている。大阪・関西万博を契機に、ラトビアとの人的・文化的交流をさらに深め、多文化共生や地域活性化の促進を目的とする。

イ 目標

高校生派遣を通じた国際理解の促進、高校生国際交流写真フェスティバルの実施による国際的な交流拡大、ラトビア大使館との連携による交流の深化、万博を活用した地域経済の活性化と国際的認知度向上。

2-1 事業内容

【高校生海外交流事業】

- ①スケジュール(派遣⇒募集:5月末、実施:9月6日～21日/受入⇒募集:5月末、実施:10月17日～10月27日)
- ②体制及び③内容(派遣⇒東川町在住の高校生を対象に参加者を公募し、4名をラトビアルーイエナ高校へ派遣し研修する。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在する/受入⇒ルーイエナ、ヴァルミエラの高校生を対象に参加者を公募し、4名を東川高校で受け入れ研修する。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在する)
- ④効果(特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
東川町と良好な国際交流を図っている各国及び地域のうち、姉妹都市であるラトビア・ヴァルミエラ県へ高校生を派遣し、語学研修や異文化体験、地元高校生との交流を図る。特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する。
◆事業実施日 2025年9月6日から9月21日までの16日間(移動日を含む)

2-2 事業内容

【高校生国際交流写真フェスティバル】

- ①スケジュール(募集:5月30日、参加国決定:6月上旬、フェスティバル:8月18日～8月24日)
- ②体制及び③内容(現地コーディネータを通じてラトビア国内で作品を公募したのち、審査を実施し参加国を決定。フェスティバル期間中は、東川町内の宿泊施設に滞在しながら、町内を撮影する)
- ④効果(写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることが期待できる)
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
「写真文化首都」写真の町東川町が目指す写真文化を中心とした未来に向かって均衡ある適疎な町づくりを実現するため、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う世界の高校生同士が写真文化を通じて、会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和を願うことを目的として行う。
東川町と交流のある国・地域の中から、それぞれテーマに沿った作品(組写真)を募集し、国・地域ごとに作品審査を行い、フェスティバルへの参加校を決定する。各国のフェスティバル参加校は、東川町に滞在しながら撮影を行うことで、写真文化と世界の人々を繋ぎ、次代を担う高校生同士が会話を深め、友情の輪を拡大し、世界の恒久平和へ繋げることを期待し実施します。ラトビアより高校生3名、指導者1名参加予定。
◆事業実施日 2025年8月18日～2025年8月24日までの7日間(招へい期間)

2-(3) 事業内容

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

①スケジュール(5月28日～6月1日)

②体制及び③内容(東川町CIRを含む職員がブース出展し、写真文化やリサイクル事業について発信する)

④効果(多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与する)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

日本の言語や社会・文化、そしてリサイクル技術を学び、世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する人材を輩出することで、多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与します。

本展示では、北海道東川町の写真文化を活かした社会課題解決のプロジェクトを広くPRするため、ブース内にて、万博や町をモチーフとした記念写真を撮影するフォトブースを設置し、写真家による撮影を体験できる場を提供します。取り組みを通じてラトビアからの来場者にも写真文化を通じた交流を期待し実施します。

◆事業実施日 2025年5月28日～2025年6月1日までの5日間

2-(4) 事業内容

【ラトビアナショナルデー参加】

①スケジュール(5月20日)

②体制及び③内容(東川町長及び職員、ラトビア交流協会長がラトビア大統領をお迎えしてのナショナルデーに出席)

④効果(国家間の友好を深め、国際的な信頼関係の強化に寄与する)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ラトビア大統領出席の式典、音楽・ダンス公演、伝統工芸ワークショップのほか、都市・モビリティに関するビジネスフォーラムが実施され、文化紹介と経済交流を通じて得られた知見や成果によって国家間の友好関係の強化につながった。

◆事業実施日 2025年5月20日

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

本事業の実施により、高校生の異文化理解が促進され、国際的な視野の育成に寄与しました。また、万博を活用した地域のPRにより、東川町の国際的認知度が向上し、観光誘致や地域活性化にもつながる成果が期待されます。さらに、ラトビア大使館や協賛企業との連携を深めることで、地域と万博関係者のつながりが強化する。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

本事業は、長年にわたる姉妹都市交流が基盤となっており、関係者との調整が比較的スムーズに進められました。また、高校生の参加意欲が高く、今後の交流発展への期待が高まっています。

●苦勞した点

事業の継続性を確保するための資金や人的リソースの確保も課題として浮上しました。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉幕後も、本事業を継続するために、CIR(ラトビア人国際交流員)の継続雇用や、国際交流プログラムの発展に取り組めます。これにより、地域の国際化と多文化共生の推進を図り、地方創生の一環として、観光誘致や国際的な人材育成にも貢献することを目指します。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今後は、文化体験プログラムの拡大や企業との連携強化を図り、交流の内容をさらに充実させます。また、万博閉幕後も継続的な交流を維持するための枠組みを確立し、国際交流の発展に向けた取り組みを進めます。

交流事業を継続するためには、安定的な資金調達と支援体制の強化が必要です。また、より多くの町民が交流に参加できるよう、さらなる普及啓発と体制整備が求められます。



高校生海外交流事業 ラトビア訪問



高校生国際交流写真フェスティバル



高校生海外交流事業 ラトビア高校生受け入れ

東川町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

北海道東川町

相手国・地域

カナダ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

東川町は1989年にカナダ・キャンモア町と姉妹都市提携を締結し、長年にわたり学生交流や職員研修を実施してきた。また、写真文化を活用した国際交流を推進し、世界に開かれた町づくりを進めている。大阪・関西万博を契機に、ラトビアとの人的・文化的交流をさらに深め、多文化共生や地域活性化の促進を目的とする。

イ 目標

高校生派遣を通じた国際理解の促進、高校生国際交流写真フェスティバルの実施による国際的な交流拡大、カナダ大使館との連携による交流の深化、万博を活用した地域経済の活性化と国際的認知度向上。

2-1) 事業内容

【高校生海外交流事業】

①スケジュール(派遣⇒募集:5月末、実施:9月19日～10月5日)

②体制及び③内容(派遣⇒東川町在住の高校生を対象に参加者を公募し、4名をキャンモア高校へ派遣し研修する。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在する/受入⇒キャンモアの高校生を対象に参加者を公募し、4名を東川高校で受け入れ研修する。期間中はホームステイや宿泊施設に滞在する)

④効果(特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成する)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

東川町と良好な国際交流を図っている各国及び地域のうち、姉妹都市であるカナダ・キャンモア町へ高校生を派遣し、語学研修や異文化体験、地元高校生との交流を図る。特徴ある文化や習慣等を交流成果として青少年を中心に広く共有することにより、青少年のバランスのとれた国際感覚を育成に関する交流イベント

◆事業実施日 2025年9月6日から9月21日までの16日間(移動日を含む)

2-2) 事業内容

【2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展】

①スケジュール(5月28日～6月1日)

②体制及び③内容(東川町CIRを含む職員がブース出展し、写真文化やリサイクル事業について発信する)

④効果(多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与する)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

日本の言語や社会・文化、そしてリサイクル技術を学び、世界各地で直面する資源リサイクル問題に挑戦する人材を輩出することで、多文化共生社会の実現や資源問題などの社会課題の解決に寄与します。

本展示では、北海道東川町の写真文化を活かした社会課題解決のプロジェクトを広くPRするため、ブース内にて、万博や町をモチーフとした記念写真を撮影するフォトブースを設置し、写真家による撮影を体験できる場を提供します。取り組みを通じてカナダからの来場者にも写真文化を通じた交流を期待し実施します。 8

◆事業実施日 2025年5月28日～2025年6月1日までの5日間

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

本事業の実施により、高校生の異文化理解が促進され、国際的な視野の育成に寄与しました。また、万博を活用した地域のPRにより、東川町の国際的認知度が向上し、観光誘致や地域活性化にもつながる成果が期待されます。さらに、カナダ大使館や協賛企業との連携を深めることで、地域と万博関係者のつながりが強化する。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

本事業は、長年にわたる姉妹都市交流が基盤となっており、関係者との調整が比較的スムーズに進められました。また、高校生の参加意欲が高く、今後の交流発展への期待が高まっています。

●苦勞した点

事業の継続性を確保するための資金や人的リソースの確保も課題として浮上しました。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉幕後も、本事業を継続するために、CIR(カナダ人国際交流員)の継続雇用や、国際交流プログラムの発展に取り組みます。これにより、地域の国際化と多文化共生の推進を図り、地方創生の一環として、観光誘致や国際的な人材育成にも貢献することを目指します。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今後は、文化体験プログラムの拡大や企業との連携強化を図り、交流の内容をさらに充実させます。また、万博閉幕後も継続的な交流を維持するための枠組みを確立し、国際交流の発展に向けた取り組みを進めます。交流事業を継続するためには、安定的な資金調達と支援体制の強化が必要です。また、より多くの町民が交流に参加できるよう、さらなる普及啓発と体制整備が求められます。



高校生海外交流事業 カナダ訪問



高校生海外交流事業 カナダ訪問



2025大阪・関西万博 地方創生SDGsフェス出展

1 背景と目標等

ア 背景と目的

●岩手町は2020年に内閣府のSDGs未来都市に選出された。岩手町SDGs未来都市計画は、①シビックプライドの醸成・向上を図ること、②町のブランド価値を高めること、③国内外のSDGs姉妹都市連携、この3つの方針を掲げている。これに基づき、リビングラボ及び地域共創人材育成により、岩手町の特徴である「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの側面をSDGsの視点で磨き上げ、持続可能性を高めて行くこととした。2021年度からスタートした岩手町総合計画は、この岩手町SDGs未来都市計画の理念・コンセプトに従った内容となっている。岩手町万博国際交流プログラムは、岩手町SDGs未来都市計画のうち「SDGs姉妹都市連携」の実現のため実施しようとするものである。

●岩手町は、東京2020オリンピックにおいてアイルランドのホストタウンとなり、アイルランド女子ホッケーチームの事前合宿を受け入れたことが契機となり、岩手町においてアイルランドの文化等を紹介する取組が始まった。東京2020オリンピック開催翌年度の2023年3月には初めて地元岩手県立沼宮内高等学校生徒5名をアイルランドのダブリン市にあるマウントテンプル・コンプリヘンシヴ・スクールに研修に派遣することができた。翌2024年2月にも同様の派遣事業を実施した。さらに2024年10月にはこの受入れ校の高校生4名が初来町し、ホームステイしながら高校生や町民と交流した。これまでのアイルランド紹介事業、高校生による交流が契機となり、このたびの大阪・関西万博関連でのアイルランドとの、幅広い世代・業種でのさらなる交流が実現することで、岩手町の「農業」、「健康・スポーツ」、「芸術・ものづくり」に磨きがかかり、「SDGs姉妹都市連携」の実現に向けた機運醸成につながるものと考えている。

イ 目標

●このたびの大阪・関西万博におけるアイルランドのテーマは、「クリエイティビティが人と人をつなぐ」であり、岩手町の特徴、強みである「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの分野で岩手町民がアイルランドの人々となつなかり合うことを大きな成果として目指すものである。そしてその先には、SDGsの視点でお互いの特色を高め合い、持続可能性を創造し合うような姉妹都市連携を目指す町との交流に深化させていきたい。

2 - (1) 事業内容

【万博アイルランドナショナルデー参加】

①スケジュール：R7年6月14日の万博アイルランドナショナルデーに参加。

②体制：岩手町国際交流協会、岩手県立沼宮内高等学校、岩手町

③内容：R7年6月14日万博会場内において開催された、アイルランドナショナルデー公式式典、記念レセプション、アイリッシュ盆踊りに参加した。町関係者6名参加。報道各社へプレスリリース、テレビ岩手へ写真提供。

④効果

自治体内への波及効果：地元高校生と町国際交流協会が参加することで、地元の地域文化への関心が深められた。また、メディアや町広報紙により交流の様子が発信され、町民のアイルランド文化への理解と関心を深められた。

実施により達成できた成果：町参加者及び町民がアイルランドへの歴史・文化への理解と関心を深められ、さらに万博来場者へ岩手町をPRすることができた。

相手国への波及効果：公式式典や記念レセプション等参加により、アイルランド関係者に町の交流意識を伝えられた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【アイルランド視察研修】

- ①スケジュール: R8年1月委託業務契約締結～R8年2月19日～26日事業実施(予定)
- ②体制: 岩手町商工会、岩手町認定農業者協議会、いわてまち女性の会、岩手町(予定)
- ③内容: 岩手町の各分野における町民の親善使節団を組織し、アイルランドに派遣し視察研修を行い、SDGs姉妹都市連携に向けた交流を行う。町関係者5名参加(予定)。
- ④効果
自治体内への波及効果: アイルランドの関係機関との交流により、各分野の視野を広げるとともに、まちづくりの足掛かりをつかむ。
実施により達成できた成果: 未実施
相手国への波及効果: アイルランドの関係機関視察によりさらなる町の交流意識を印象付けられる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【アイルランド交流事業(高校生受入れ)】

- ①スケジュール: R7年9月委託業務契約締結～R7年10月18日～30日事業実施
- ②体制: (株)スポーツユニティ、アイルランドダブリン市マウントテンプレル高校、岩手県立沼宮内高等学校、岩手町
- ③内容: 沼宮内高校の生徒宅をホームステイ先とし、アイルランドの高校生を受入れ、相互の生活、文化、歴史及び風土等を理解し、国際的視野を広めるとともに、地域のリーダーの育成を図る。アイルランド高校生5名参加。岩手日報記事掲載。
- ④効果
自治体内への波及効果: アイルランドの高校生が町のイベント等に参加し、町民が直接交流することで、町の交流意識を深められた。
実施により達成できた成果: 高校生同士という若い世代の交流により、相互の文化や歴史の理解を深め、国際的視野を広げられた。
相手国への波及効果: ホームステイによりアイルランドの高校生を受け入れたことで、より深く町の文化や歴史を知ってもらえた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【岩手町アイルランドフェスティバル2026】

- ①スケジュール: R7年12月実行委員会開催～R7年12月アイルランド大使館職員の派遣要請～R8年3月20日イベント開催(予定)
- ②体制: アイルランドフェスティバル岩手町実行委員会、アイルランド大使館(予定)
- ③内容: 町民がアイルランドの歴史や文化への理解と関心を深めるため、アイルランド大使館職員を講師として招聘し、岩手町アイルランドフェスティバル2026を開催する。
- ④効果
自治体内への波及効果: アイルランド大使館職員の講演により、アイルランドの歴史や文化が町民にとって身近なものとなる。
実施により達成できた成果: 未実施
相手国への波及効果: アイルランド大使館職員が町を訪れることで、アイルランドと町が相互に歴史や文化の理解を深めるきっかけとなる。また、同職員のイベント参加により、町のアイルランド交流への意識を強く伝えられる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (5) 事業内容

【アイルランド交流事業(高校生派遣)】

- ①スケジュール: R8年1月委託業務契約締結～R8年2月19日～26日事業実施(予定)
- ②体制: ㈱スポーツユニティ、アイルランドダブリン市マウントテンプル高校、岩手県立沼宮内高等学校、岩手町(予定)
- ③内容: 出国前に駐日アイルランド大使館、在日アイルランド商工会議所を表敬訪問。アイルランドでは沼宮内高校生徒がホームステイを行い、アイルランドの文化・習慣を学習し、広い国際的視野を身に付ける。沼宮内高校生5名参加予定。
- ④効果
自治体内への波及効果: 高校生という若い世代が交流することで、改めて地元の地域文化への関心が深められ、また、世界とつながる体験により、より視野の広い人材育成につなげる。
実施により達成できた成果: 未実施
相手国への波及効果: 国同士の距離は遠いが、情報通信技術の発達により文化、情報の交流は容易な環境となっており、対面での交流により、より身近な存在であることを印象付けられる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (6) 事業内容

【グリーンアイルランドフェスティバル2026出展】

①スケジュール: R8年1月出店に向けた情報収集～2月出店申込～3月出展物決定・イベント参加(予定)

②体制: グリーンアイルランドフェスティバル実行委員会、岩手町(予定)

③内容: アイルランド文化を体験する日、グリーンアイルランドフェスティバルに出展参加し、町とアイルランドの交流の状況を発信。

④効果

自治体内への波及効果: アイルランドに興味を持つイベント来場者に町とアイルランドとのつながりを紹介することができ、町をPRできる。また、在日アイルランド人や駐日アイルランド大使館の職員にも町出展ブースを紹介することができ、広く町をPRすることができる。

実施により達成できた成果: 未実施

相手国への波及効果: イベントにはアイルランド人やアイルランド関係者も多数参加するため、アイルランド国内へ町を認知されることができ、また、町との交流意識を醸成できる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (7) 事業内容

【にっぽんの宝物セミナー】

①スケジュール: R7年9月26日、10月28日セミナー開催～R8年1月16日グランプリ大会開催

②体制: ㈱にっぽんの宝物、㈱肉のふがね、岩手町

③内容: EXPO共創パートナーの㈱にっぽんの宝物及びにっぽんの宝物世界大会2023で最高峰牛肉部門チャンピオンとなった町事業者(㈱肉のふがねと共同し、町に眠るモノやサービスの掘り起こしのためのセミナー、グランプリ地区予選を行う。12事業者参加。報道対応なし。

④効果

自治体内への波及効果: 万博のテーマが「いのちを育む＝宇宙・海洋・大地に宿るあらゆる「いのち」のつながりを感じ、共に守り育てる。」とあるように、町に眠るモノやサービスの掘り起こしにより、町の「宝物」を守り育て、さらに進化させられる。

実施により達成できた成果: 町の事業者が自社のモノやサービスについて、あらゆる方向からアプローチし、町の宝物の継承、進化につなげられた。

相手国への波及効果: 本事業の参加事業者の異分野間交流により、自社製品等について様々な視点から考え、また、異分野事業者間の交流が生まれ、アイルランドの万博のテーマ「創造性が人々をつなぐ」に沿った事業となった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (8) 事業内容

【クアオルト健康ウォーキング】

①スケジュール：R7年5月28日、9月6日、11月24日、12月6日体験会実施

②体制：東北経済産業局、株式会社近藤設備、岩手町

③内容：健康寿命延伸に係る取り組みとしてクアオルト健康ウォーキング体験会を実施。41名参加。報道各社へプレスリリース、岩手日報記事掲載、岩手朝日テレビ放送。

④効果

自治体内への波及効果：万博と健康増進への理解が増した。

実施により達成できた成果：万博の企画・運営に関わる日本側の関係者との交流。

相手国への波及効果：アイルランドの万博のテーマは「創造性が人々をつなぐ」である。クアオルト健康ウォーキングという新たな視点の健康づくりから参加者の交流ができ、アイルランド万博テーマに沿った活動となった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

このたびの大阪・関西万博におけるアイルランドのテーマは、「創造性が人々をつなぐ」であり、岩手町の特徴、強みである「農業」「健康・スポーツ」「芸術・ものづくり」の3つの分野で岩手町民がアイルランドの人々とならつながり合うことを大きな成果として目指すものである。万博を通じた取り組みは、各分野における町の課題解決や活性化を後押しをするものとなり、アイルランドの人々と町民との「つながり」を広げ深めることができた。また、事業実施により、分野を超えた交流も生まれ、万博におけるアイルランドのテーマ「創造性が人々をつなぐ」に沿った成果を得ることができた。

ICTの発達により、相互交流が容易となり、互いの文化を理解する機会が増えたことにより、SDGsの視点で互いの特色を高めあうことにつながっていく。若い世代での人的交流も容易となり、持続可能性を創造し合うような姉妹都市連携を目指す相互の継続的な交流につながると考えている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

町の課題解決や活性化に向けた継続的な取り組みの基礎をつくることができた。

●苦労した点

アイルランドとの交流に係る同国との折衝・調整期間がタイトなものとなった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博に係る交流を契機に、NPO法人岩手町国際交流協会との連携が深まり、国際交流の効果を町民と共有し、国際交流に係る人材育成に取り組む素地ができた。また、交流の効果は町内事業者にも波及し、町の持続可能な産業創出の足掛かりをつかむことができた。今後もアイルランドと調整を重ね、必要に応じICTも駆使しながら、SDGs姉妹都市連携に向けた持続可能な交流を行っていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

アイルランドとの交流に係る折衝は時間を要することもあり、SDGs姉妹都市連携に向けた具体的な交流も行っていく必要があるため、特に在日アイルランド大使館との調整を密に行う。



【万博アイルランドナショナルデー参加】
アイリッシュ盆踊りを踊る沼宮内高校の生徒



【アイルランド高校生受入れ】
岩手町産業まつりに参加した
アイルランドの高校生



【クアオルト健康ウォーキング】
ウォーキング体験会に参加した参加者

村山市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

山形県村山市

相手国・地域

ブルガリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

人口約2万人の市である村山市は、少子高齢化に伴う地域課題を解消するために、交流人口を創出し、中長期的な人口増や地域振興、地域資源PRによる経済効果など、万博や国際交流を契機とした地域再生を目指す。

イ 目標

交流人口を創出し村山市をPRすることで、インバウンドを含めた観光PRや地域資源のPR等による経済効果創出と市民との国際交流を行う。

2-1) 事業内容

【ブルガリアナショナルデー村山市催事】

- ①令和7年5月18日(日)
- ②村山市、ブルガリア中小企業促進庁、駐日ブルガリア大使館、組織委員会との連携
- ③万博内ナショナルデーホールにて副市長挨拶、居合道演武、新体操演技、展示等のイベントを行い、約300人の来場者に情報発信を行った。なお、山形県内さくらんぼテレビ、山形新聞で報道いただいた。
- ④イベントだけでなく展示観覧も含めて多数の交流人口を創出することができた。当日はブルガリアナショナルデーのため、ブルガリア大統領はじめブルガリアに関わるたくさんのVIPとトップ会談することができ、村山市の地域資源のPRや意見交換につながった。
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2) 事業内容

【ブルガリアパビリオン村山デー催事・村山市民訪問団】

- ①令和7年9月20日～22日
- ②村山市、ブルガリア中小企業促進庁との連携
- ③万博内ブルガリアパビリオンブースにて市長挨拶、ローズウォーターの散布、村山市とブルガリアのPRうちわの配布、村山市の紹介及びブルガリアとの友好交流に関する動画の放映を行い、約1,500人の来場者に情報発信を行った。なお、山形新聞で報道いただいた。
- ④ブルガリア館内だけでなくブルガリアパビリオン周辺の来場者へのPRも行い、不特定多数の方に村山市及びブルガリアのPRができた多くの交流を創出した。
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前には、万博ブルガリアパビリオンを主管する中小企業促進庁の長官を招き視察を行い、合同イベントの合意に至った。また、ブルガリア新体操連盟指導者による市民交流・国際交流により万博に向けた機運醸成を図った。会期中には、ブルガリアナショナルデー村山市催事、ブルガリアパビリオン村山デーを行い、村山市とブルガリアの交流を広くPRした。また、会期後にもブルガリア新体操パリュ五輪銀メダリストの招へい交流など、継続した交流を継続している。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

東京五輪から万博まで継続した国際交流の流れや市民の意欲があったため、万博に向けた国際交流実施に際して友好的に継続した交流ができた。また、ブルガリアとの国際交流だけでなく、万博市民訪問団など市民が直接万博に参画する機会も創出できた。万博開催に伴う国際交流の盛り上がりにより、継続的にブルガリアとの交流を行うきっかけとなった。

●苦労した点

ブルガリアとの国際交流の意識はあるものの、山形県村山市から万博会場までの物理的な距離があるため、市内での国際交流の意欲を万博参加など直接的な意識へつなげることに苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

東京五輪後、ブルガリアとの交流が縮小気味であったが、万博開催をきっかけにブルガリアとの国際交流の意欲が再度高まったため、今後も継続的にブルガリアとの交流を実施する予定。次年度以降も予算を確保して、ブルガリア新体操チーム(選手)を招へいた交流を見込んでいる。また、万博をきっかけにインバウンド観光推進に注力するきっかけにもつながったため、観光振興に向けた地域おこし協力隊配置に向けて予算化するなど、地方創生や地域振興にも大きく寄与している。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

ブルガリアとの交流を継続するための財源確保とマンネリ化しないようにするための企画運営、更なる推進に向けた手法の模索と新たな取り組みの創出により、中長期的に交流し続けること、経済活性化や観光推進など広域的な発展が課題。

◆ 交流の様子



【会期前】中小企業促進庁長官の村山市視察



【会期中】ブルガリアパビリオン参画



【会期後】ブルガリアとの継続交流

茨城県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	茨城県
相手国・地域	イタリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

茨城県は約280万人の人口（R7.1月現在）を有し、県北地域においては、日立製作所の協力企業を中心に電機・機械産業等が集積するとともに、県南地域のつくばでは、国等の教育・研究機関などが多数集積するなど、産業拠点としての発展を遂げている。また、つくばエクスプレスや茨城空港、茨城港など陸海空の広域交通ネットワークが充実し、国内外との物流拠点としても整備が進むとともに、豊富な農林水産物にも恵まれ、農業産出額が全国第3位の農業県でもある。

一方、県北地域を中心に人口減少、高齢化が進んでおり、地域産業の担い手確保等が課題として挙げられるところである。

エミリア・ロマーニャ州は、本県同様、農業県であり工業も盛んである一方、人口減少や農業就業人口減の課題等を抱えている。

こうした中、本県同様の強み弱みを持つ両地域が、万博を契機とした人的交流・経済交流を進めることにより、住民の国際化の意識向上のみならず、県産品のPR等を通じた地域の活性化に繋げていきたい。

イ 目標

両地域の住民及び自治体同士の相互交流や、地域資源等の強みを生かした経済交流等を促進する

2 - (1) 事業内容

【事業名】万博会場又は他の関連施設等での本県及びイタリア宇宙関連企業による交流イベント

①スケジュール：2025年5月22日

②体制：航空宇宙関連の茨城県内企業5社、エミリア・ロマーニャ州内企業8社及び1研究機関、茨城県職員

③内容：（場所）Venture Café Tokyo（東京都港区）

（内容）航空宇宙分野における、日伊の先進スタートアップや中小企業が出席し、国際ピッチセッションの開催
・各社によるプレゼンテーションの後、有識者等との意見交換を実施

④効果

・茨城県及びエミリア・ロマーニャ州からの企業関係者を含め、約100名の参加のもと活発な意見交換が行われた。

・両地域が強みとする、宇宙分野における技術交流を通じ、ビジネスに繋がる可能性を見出すことができた

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】 エミリア・ロマーニャ州との交流に関するパネル展及び県内催事場を活用した県産品コラボレーションPRイベントの開催

- ①スケジュール: 2025年5月20日～25日 (イオンモール土浦:トークショー及びパネル展)
2025年7月18日～8月8日 9月8日～17日 (茨城県庁:パネル展)
- ②体制 : 県民約100名～200名/日
- ③内容(場所)イオンモール土浦(茨城県土浦市)、茨城県庁2階及び25階(茨城県水戸市)
(内容) <イオンモール土浦>
 - ・イタリア人料理研究家によるトークショーを開催(エミリア・ロマーニャ州の紹介、茨城県産食材を用いたイタリア料理の紹介)
 - ・茨城県とエミリア・ロマーニャ州の友好交流の軌跡を紹介するパネル展を開催。<茨城県庁>
 - ・茨城県とエミリア・ロマーニャ州の友好交流の軌跡を紹介するパネル展の開催。
- ④効果
 - ・エミリア・ロマーニャ州の特産品や魅力、茨城県との継続的な友好交流の軌跡を紹介し、来客された多くの方の関心を集めた。
 - ・社会科学等県庁に来庁した児童等の若年層に対してもリーチすることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】 イタリア歴史研究者、県内留学生等と県内大学生との文化交流

- ①スケジュール: 2025年7月3日
- ②体制 : 茨城県エミリア・ロマーニャ州友好交流協会会員、大学生、茨城県職員等 約70名
- ③内容(場所)水戸京成ホテル(茨城県水戸市)
(内容)ラヴェンナ伊日交流協会会長兼ローマ・サピエンツァ大学東洋学科准教授マルコ・デル・ベネ氏による「徳川齊昭公時代のエミリア・ロマーニャ州」と題した、講演会をオンラインで開催
- ④効果
 - ・県内大学生、交流協会会員等に対して、日本史上、特に激動の時代と言われる幕末と同時期のER州を紹介することにより、両地域の歴史について関心を深めるとともに、再認識できた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【事業名】 イタリアパビリオンにおける県民と州関係者による学術交流イベント

- ①スケジュール: 2025年9月22日
- ②体制: 筑波大学関係者4名 ポローニャ大学関係者5名 ミケーレ・デ・パスカーレ エミリア・ロマーニャ州知事
- ③内容(場所) 大阪・関西万博 イタリアパビリオン内 (エミリア・ロマーニャ州ウィーク)
(内容) 精密医療分野や分子生物学の臨床応用など、幅広い分野について意見交換を実施
- ④効果
 - ・筑波大学附属病院とポローニャ大学附属病院間でパートナーシップ構築に向けた協力意向書(LOI)を締結
 - ・両病院等においてセミナーを実施したことにより、共同研究の枠組み構築の検討を進めることで一致
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者

2-(5) 事業内容

【事業名】 エミリア・ロマーニャ州及びミラノでの経済・文化交流事業

- ①スケジュール: 2025年9月28日～10月2日
- ②体制: 茨城県内酒蔵4者、ラヴェンナ伊日交流協会、エミリア・ロマーニャ州政府、イタリア現地市民、現地バイヤー、茨城県職員 等
- ③内容(場所) イタリア・ミラノ市内及びポローニャ市内
(内容) <ミラノ市内>
ミラノ酒エクスペリエンス2025(BtoB及びBtoC)への茨城県内酒蔵4者及び茨城県職員の参加
<ポローニャ市内>
 - ・ポローニャ市内のレストランにて、現地バイヤーやレストラン関係者を招待し、茨城県の日本酒を紹介するイベント(BtoB)を開催
 - ・ポローニャ市内の考古博物館にて、笠間焼を用いたお茶会を開催
- ④効果
 - ・茨城県内の日本酒をイタリア国内にPRすることにより、販路開拓の機会を提供した。
 - ・茨城県の伝統工芸品である笠間焼を用いたお茶会及び茨城県の紹介を行い、ポローニャ市民の日本のお茶文化及び笠間焼を含む茨城県への関心の高さを伺うことができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者

2-(6) 事業内容

【事業名】 茨城県知事とエミリア・ロマーニャ州知事との会談及び茨城県・エミリア・ロマーニャ州・大阪府によるセミナー

- ①スケジュール: 2025年9月22日
- ②体制: 大井川和彦 茨城県知事、ミケーレ・デ・パスカーレ エミリア・ロマーニャ州知事、大阪府関係者、エミリア・ロマーニャ州政府・経済関係者 等
- ③内容(場所) 大阪・関西万博 イタリアパビリオン内 (エミリア・ロマーニャ州ウィーク)
(内容) 茨城県知事とエミリア・ロマーニャ州知事が会談
・茨城県、エミリア・ロマーニャ州、大阪府によるセミナーを開催(茨城県からはエミリア・ロマーニャ州との今後の更なる交流についてプレゼン)
- ④効果
 - ・友好交流締結40周年を迎える2026年に向け、両地域の友好関係を更に深化させ、文化交流はもとより、経済・産業分野の交流を一層推進していくことで一致。
 - ・セミナー参加者からは、茨城県とエミリア・ロマーニャ州との更なる交流やビジネス発展への期待が寄せられた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

次年度以降の交流事業に係る持続可能性や自治体の地方創生の取組への寄与の状況

※次年度の取組み実施に向けた経費確保の見通し、相手国、交流関係団体等との調整状況などにも触れつつ記載をお願いします。

- ・2026年に茨城県とエミリア・ロマーニャ州が友好提携関係を締結してから40周年をむかえる。
- ・今年度の万博国際交流プログラムの各種イベント等を通じて、次年度の40周年記念事業実施に向けた布石を打つことができた。
- ・次年度は、友好交流のみならず、両地域が強みとする経済・産業分野の交流を一層推進しビジネスに繋げていきたい。
→次年度の交流内容について、エミリア・ロマーニャ州政府と連携していくことで一致
次年度の取組実施に向け、必要経費を当初予算で計上予定

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・万博国際プログラムの各種イベントを通して、文化、経済、学術など幅広い分野での交流を推進することができた。
- ・友好提携締結40周年を迎える2026年に向け、両自治体間での一層の連携を深めていくことを再認識できた。

●苦勞した点

- ・イタリア現地との時差や現地の休暇習慣を考慮しながら、迅速な調整に苦慮した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・大阪・関西万博イタリア館におけるエミリア・ロマーニャ州ウィークを通じ、万博を訪れた茨城県民にエミリア・ロマーニャ州について関心を持ってもらうことに繋がった。
- ・エミリア・ロマーニャ州ウィークに開催した、茨城県知事とエミリア・ロマーニャ州知事の会談及びセミナーを通じ、次年度の友好提携締結40周年事業に向け両地域の友好関係を更に深化させ、友好交流はもとより、経済・産業分野の交流も一層推進していくことで一致した。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

友好提携40周年事業を実施するにあたり、エミリア・ロマーニャ州政府及び各種事業者と密な調整が必要



東京で開催した、本県及び
イタリア宇宙関係企業によ
るイベントの様子



茨城県庁25階での茨城県とエミ
リア・ロマーニャ州の友好交流の
軌跡を紹介するパネル展の様子



ボローニャ市内の考古博物館で
の笠間焼を用いたお茶会の様子

那須塩原市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

栃木県那須塩原市

相手国・地域

オーストリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

(地域の現状と課題) 那須塩原市は、豊かな自然と温泉、酪農を中心とした農業が盛んな地域であり、首都圏からのアクセスも良好なことから観光地として発展してきた。しかし近年は、全国的な傾向と同様に少子高齢化や労働人口の減少が進み、地域経済の活力低下が懸念されている。また、国際化の進展に伴い、外国人住民との共生も重要な課題となっている。本市は、大阪・関西万博を契機としたオーストリア共和国との国際交流を通じ、これらの課題解決を目指すものである。**(交流の経緯)** 本市は明治期に本格的な開拓が行われた地であり、当時の偉人の別邸などが数多く残されている。その中の一人に、明治期に駐ドイツ公使を務めるとともに、オーストリア＝ハンガリー帝国の公使も兼任し、条約改正交渉や欧州外交の舞台で活躍した青木周蔵がいる。市内には現在も、青木が開校した青木小学校や、国指定重要文化財である旧青木家那須別邸などゆかりの史跡が存在する。オーストリア共和国との交流は、2004年の青木小学校創立100周年記念式典に、同国リンツ市在住の青木の子孫が来訪したことを契機に始まった。翌2005年には本市中学生のリンツ市への派遣が開始され、後に相互ホームステイへと発展し現在に至っている。2016年には姉妹都市協定を締結し、交流はさらに加速した。これらの経緯を踏まえ、2017年には東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会における同国のホストタウンに登録され、コロナ禍以降もオンライン等を通じた交流を継続している。

イ 目標

- ・万博を契機に那須塩原市の魅力を国内外に発信し、インバウンド誘客を含む地域活性化を図る。
- ・子どもたちの国際感覚を養い、多様性を尊重する心を育むことで、外国人住民らとの相互理解を深め、多文化共生社会の実現に貢献する。
- ・国際交流を通じて、次世代を担う子どもたちの夢や創造性を育み、将来の地域リーダーを育成する。
- ・これまでのホストタウンレガシーを、万博に続く新たなレガシーへと発展・継承させる。

2-(1) 事業内容

【リンツ市観光局PRイベント(リンツ市観光局主催)】 ※万博会場内

①スケジュール

- 令和7年3月:リンツ市観光局から情報提供・招待
- 令和7年4月16日:交流事業実施(イベント参加)

②体制

那須塩原市、リンツ市、リンツ市観光局、駐日オーストリア大使館(文化フォーラム、観光局、商務部)、オーストリア万博事務局

③内容

令和7年4月16日、大阪・関西万博オーストリアパビリオンにて本イベントが開催された。本市は姉妹都市として招待を受け、市長および市職員(計4名)が参加した。本イベントの様子は新聞やSNSなど各種メディアにより報道・発信された。

④効果

姉妹都市として招待を受け市長自らが参加したことは、市職員や市民の国際交流および万博出展に対する機運醸成に大きく寄与した。また、オーストリア及びリンツ市関係者と現地で直接交流したことにより、万博期間中のみならず、ポスト万博を見据えた情報交換や協力体制の強化が図られた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【オーストリア音楽家コンサート】

①スケジュール

令和7年2月：駐日オーストリア大使館（文化フォーラム）から情報提供・開催打診
令和7年2月～5月：駐日オーストリア大使館（文化フォーラム）、出演音楽家、那須塩原市国際交流協会との調整
令和7年5月13日：交流事業実施（コンサート）

②体制

那須塩原市、那須塩原市国際交流協会、駐日オーストリア大使館（文化フォーラム）

③内容

令和7年5月13日、那須塩原市三島ホールにおいて、大阪・関西万博出演のために来日したオーストリア出身ピアニスト、ドロシー・カーデム＝ミサク氏によるピアノリサイタルを開催した（那須塩原市国際交流協会協力）。当日は、市民約300名に加え、姉妹都市であるリンツ市の市議会議員らも参加し、盛況を博した。本イベントの様子は新聞など各種メディアにより報道・発信された。

④効果

これまでの国際交流の成果として、著名なオーストリア音楽家のコンサートを市内で開催できたことは、市民が同国の芸術文化に直接触れる貴重な機会となった。これにより、市民の国際交流への理解促進および万博に対する意識向上が図られた。また、オーストリア関係者が本市の文化事業や市民の歓迎に触れたことで、両国の友好関係および相互理解の促進に大きく寄与した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【オーストリア・ナショナルデー（オーストリア共和国主催）】 ※万博会場内

①スケジュール

令和7年1月：オーストリア万博事務局から情報提供・招待
令和7年5月23日：交流事業実施（式典及び祝賀会出席）

②体制

那須塩原市、オーストリア政府、駐日オーストリア大使館（文化フォーラム、観光局、商務部）、オーストリア万博事務局、在オーストリア日本国大使館、2025年日本国際博覧会協会

③内容

令和7年5月23日、大阪・関西万博ナショナルデーホールにて開催されたオーストリア共和国のナショナルデー式典に招待を受け、市長及び市職員（計4名）が出席した。また同日、大阪ステーションホテルにて開催された祝賀会（レセプション）にも参加し、関係者との交流を深めた。本イベントの様子はテレビ、新聞、SNSなど各種メディアにより報道・発信された。

④効果

市長自らが式典へ出席したことは、市職員や市民の国際交流に対する意識向上および、本市の存在感向上に大きく寄与した。また、オーストリア政府要人や参加した日欧の民間企業関係者との間で、万博事業や今後の経済・文化交流に関する情報交換を行い、協力体制の強化が図られた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(4) 事業内容

【那須塩原版リンツァーアウゲン】※万博会場内

①スケジュール

令和6年4月～令和7年7月：駐日オーストリア大使館及びオーストリア万博事務局との調整

令和6年4月～12月：(株)八芳園協力のもと、栃木県立那須拓陽高等学校とリンツ市エルムベルグ校によるオンライン交流及びアレンジレシピの共同開発

令和6年12月：アレンジレシピ「那須塩原版リンツァーアウゲン」完成

令和7年1月：市内で開催したオーストリア関連イベントにて完成品を披露(駐日オーストリア大使館、オーストリア万博事務局関係者を招待)

令和7年2月～6月：販売に向けたオーストリアパビリオンレストラン運営会社との調整

令和7年4月～6月：商品化に向けた市内菓子製造業者との調整

令和7年7月19日～：市内での一般販売開始

令和7年7月27日・28日：交流事業実施(記念式典及び特別販売)

②体制

那須塩原市、栃木県立那須拓陽高等学校、リンツ市エルムベルグ校、(株)八芳園、市内菓子製造業者、オーストリアパビリオンレストラン運営会社、駐日オーストリア大使館(文化フォーラム、観光局、商務部)、オーストリア万博事務局

③内容

令和7年7月27日、大阪・関西万博オーストリアパビリオンで開催した本市の「万博出展記念式典」において、本市とリンツ市の高校生が共同開発した「那須塩原版リンツァーアウゲン(オーストリア伝統菓子のアレンジ版)」の発表を行った。式典には、市民及び関係者約100名のほか、駐日オーストリア大使館および万博事務局関係者らが列席した。また、同月27日・28日の2日間、同パビリオン内にて数量限定販売を実施し、完売するなど好評を博した。開発から販売に至る一連の取り組みは、テレビ、新聞、SNSなど各種メディアにより報道・発信された。

④効果

万博という世界的な舞台において、次世代を担う高校生の国際交流の成果(共同開発商品)を披露できたことは、市民の国際理解を深め、万博への関心を高める大きな契機となった。また、自市の産品や人材が万博で活躍した事実は、市民のシビックプライド(郷土愛)醸成に大きく寄与した。対外的には、オーストリア関係者の日本文化への関心を喚起するとともに、食を通じた友好関係の促進、および本市の知名度向上(PR)につながる成果を得た。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(5) 事業内容

【姉妹都市学生合唱団コンサート】 ※万博会場内

①スケジュール

令和5年3月～令和7年7月：駐日オーストリア大使館及びオーストリア万博事務局との調整
令和5年3月：令和4年度万博国際交流プログラムモデル事業（オーストリアオンライン合唱交流会）実施
令和6年3月：令和5年度万博国際交流プログラムモデル事業（オーストリア合唱交流会）実施
令和6年10月：合唱団員募集
令和6年11月～令和7年7月：合唱団結成、練習、英語学習、オンライン交流実施
令和7年3月：万博記念講演会兼オンラインプレ発表会実施
令和7年7月22日～29日：交流事業実施（合唱交流・コンサート）
令和7年9月：成果報告会実施（合唱フェスティバル出演）

②体制

那須塩原市、市内中学校（那須塩原市万博合唱団）、リンツ市、リンツ市アダルベルト・シュティフター校（リンツ市万博合唱団）、駐日オーストリア大使館（文化フォーラム、観光局、商務部）、オーストリア万博事務局、在オーストリア日本国大使館、2025年日本国際博覧会協会

③内容

令和7年7月22日、大阪・関西万博出演のためリンツ市万博合唱団が来日した。同月24日までは那須塩原市内で合同練習や文化交流を行い、25日から29日までは大阪へ移動し、那須塩原市万博合唱団と共に合唱を通じた交流事業を実施した。両市の生徒で結成した「姉妹都市学生合唱団」は、7月27日にオーストリアパビリオンおよびポップアップステージ北にてコンサートを開催した。翌28日には、万博首長連合主催「LOCAL JAPAN展」のステージイベント「未来への共奏」に出演し、本市とリンツ市（合唱）、大阪府豊中市（ピアノ）、沖縄県沖縄市（エイサー・民謡）による、「音」をテーマとした自治体間共演を果たした。万博出演後の9月15日には、国際交流の成果を広く市民へ還元するため、那須塩原市万博合唱団が「大正堂くろいそみるひいホール（黒磯文化会館）」で開催された合唱フェスティバルに出演し、成果報告を行った。この一連の取り組みは、テレビ、新聞、SNSなど各種メディアにより報道・発信された。

<記録動画>

・<https://www.youtube.com/watch?v=mluWiV60ny4>

・<https://www.youtube.com/watch?v=KGHOkHpJyFU>

・<https://www.youtube.com/watch?v=rgvyCBeg684>

④効果

音楽（合唱）を通じた長期間にわたる両国の文化交流は、単なる魅力発信にとどまらず、参加した生徒の国際感覚を養い、多様性を尊重する心を育む大きな契機となった。また、世界的な舞台での共演は、生徒のみならず関係者や市民の万博への関心を高めるとともに、今後の国際交流継続への期待感を醸成する結果となった。さらに、他自治体（豊中市、沖縄市）との共演により、国内における広域的な連携強化にも寄与した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

(2)ー6 事業内容

【那須塩原市中学生海外派遣研修(那須塩原市青少年派遣団歓迎式典)】

①スケジュール

- 令和7年4月～10月:リンツ市関係機関との調整
- 令和7年5月:派遣団員の募集・選考
- 令和7年6月～10月:派遣団員向け事前研修の実施
- 令和7年10月6日～16日:交流事業実施(リンツ市派遣)

②体制

那須塩原市中学生海外交流事業実行委員会、在オーストリア日本国大使館、リンツ市、リンツ市オウホフ校、リンツ市アダルベルト・シュティフター校

③内容

令和7年10月6日から16日にかけてリンツ市で実施した「那須塩原市中学生海外派遣研修」の期間中、リンツ市主催「那須塩原市青少年派遣団歓迎式典」が開催された。式典には、本市派遣団(中学生及び引率者ら約30名)が出席したほか、駐オーストリア日本国大使、リンツ市長、青木周蔵の子孫であるニクラス・サルム伯爵らが列席した。また、現地交流校であるオウホフ校に加え、7月の大阪・関西万博において来日・共演したアダルベルト・シュティフター校の関係者らも集い、合唱披露や食事会を通じて友好を深めた。この交流の様子は、在オーストリア日本国大使館のSNSなどを通じて広く発信された。

④効果

次世代を担う中学生がリンツ市を訪問し、異文化に直接触れたことは、生徒自身の国際的視野の拡大やコミュニケーション能力の向上のみならず、学校や地域社会全体における国際交流への関心向上に大きく寄与した。また、派遣生と交流したオーストリア側の関係者や生徒にとっても、日本文化や本市への関心を高める貴重な契機となり、草の根レベルでの相互理解が促進された。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

駐日オーストリア大使館等との連携や万博行事への参画を通して機運を高めつつ、スイーツ開発や合唱コンサートなどの話題性ある取り組みを戦略的に発信したことは、国内外における市の認知度向上と信頼構築に大きく寄与した。さらに、次世代を担う子どもたちの創造性や相互理解を育む主体的交流を実現したことで、これまでの交流の積み重ねを「万博レガシー」へと昇華させ、万博後も続く持続可能な交流基盤を未来に向けて確立することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

● 良かった点

多様な国際交流を通じて、地域活性化やシビックプライドの醸成、相互理解が進んだ。さらに、学生主体による次世代育成や情報発信による知名度向上など、多角的な成果が得られた。これらの成果に加え、長年の姉妹都市・ホストタウン交流を基盤としたスムーズな連携により、万博期間中のネットワークを姉妹都市やホストタウンの枠組みと統合し、未来へ継承する明確な道筋を立てることができた。

● 苦労した点

国内外の多岐にわたる関係機関との調整や、市民参加を促す企画立案には多大な時間を要した。あわせて、言語・文化の相違やオーストリアとの時差への細やかな対応も、運営上の大きな負担となった。また、万博終了後を見据えた持続可能な交流体制の構築や、予算・人的リソースの確保など、事業をレガシーとして定着させるための多角的な課題解決にも苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

中学生相互派遣事業の継続に加え、万博から生まれた地域産品「那須塩原版リンツァーアウゲン」の販売やふるさと納税返礼品への活用を通じ、次世代育成と地域経済の両面で万博レガシーの着実な定着を図る。さらに、令和8年度の姉妹都市提携10周年に向け、国内外の関係機関と緊密な連携を維持しつつ、中学生訪問団の受入れやリンツ市への表敬訪問を計画しており、これまでの成果を統合した象徴的な事業として、市民の理解と共感を得ながら未来へ継承していく。

6 次年度以降の取り組みを実施する上での課題

オリンピック・パラリンピックや万博といった国の大規模プロジェクトへの参画は、予算確保や成果の可視化において利点がある一方、市町村単独事業では効果が見えにくく実施のハードルが上がるため、持続的な交流には市民・庁内の深い理解と安定的な財源・人的リソースの確保が不可欠な課題となる。この課題を克服するためには、参加意欲を喚起する魅力的なプログラムの構築に加え、適宜事業評価を行いながら、社会情勢や市民ニーズの変化に即した双方にとって有益な「新たな交流の在り方」を絶えず模索し続ける必要がある。



リンツ市観光局PRイベント



リンツ市観光局PRイベント



オーストリア音楽家コンサート



オーストリア音楽家コンサート



オーストリア・ナショナルデー



オーストリア・ナショナルデー



那須塩原版リンツァーアウゲン



那須塩原版リンツァーアウゲン



那須塩原版リンツァーアウゲン



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



姉妹都市学生合唱団コンサート



那須塩原市中学生海外派遣研修



那須塩原市中学生海外派遣研修

甘楽町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

群馬県甘楽町

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

甘楽町は都心から約100kmに位置する、自然と歴史豊かな人口約12,000人の町である。2022年に策定した第6次総合計画において、地域の魅力を生かした共創のまちづくりを通じた「しあわせホームタウン甘楽」の実現を目指しており、万博を契機として、町民が多文化共生、国際交流に参加しやすい環境づくりを推進する。

イ 目標

甘楽町はイタリア国チェルタルド市との姉妹都市交流を40年以上、中華人民共和国ハルビン市との友好都市交流を30年以上続けている他、オリパラ東京2020大会でニカラグアのホストタウンとなったことを契機として、同国との交流も活発となっている。中国との交流計画を実施することにより、ハルビン市だけでなく中国の他都市・地域に対する町民の理解を促進する。

2-（1）事業内容

【事業名】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

9月13日(土) 万博中国パビリオンを往訪

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

森平町長を団長とし、町議会、商工会、国際交流振興協会等で構成される訪問団を万博会場に派遣した。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

万博中国パビリオンの訪問を通じて、甘楽町訪問団の中国パビリオンでの取組みに対する理解を深めた。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

訪問結果を町議会で報告、役場ホームページでも発信するなどし、町民の多文化共生、国際交流に関する認知度の向上に貢献した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前の平成7年2月に、森平町長を団長とする甘楽町訪問団3名を中国ハルビン市に派遣し、万博に係る意見交換を行い、中国側関係者との交流を促進した。

今年度に入り、ハルビン市関係者の万博会場来訪などについて可能性を探ってきたが、ハルビン市側より、中国当局の方針により渡航は不可との連絡があった。これを受けて、万博会期中においては、甘楽町訪問団が万博中国パビリオンを訪問し、その結果の広報などを通じて、町民の多文化共生、国際交流に関する認知度の向上に努めた。

なお、万博会期後の令和8年度には、甘楽町と中国ハルビン市との相互訪問交流が予定されているので、万博で醸成された相互理解の機運を踏まえて、来年度の相互交流の準備を進めていくこととしたい。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

森平町長を団長とする、町議会、商工会、国際交流振興協会等といった町の主要なステークホルダーで構成される訪問団が、熱気あふれる中国パビリオンを実際に訪問し、中国の活力を肌身で感じられたことは、今後の甘楽町とハルビン市との交流を更に発展させていくうえでの弾みとなった。

●苦勞した点

長年の交流を通じて甘楽町との人脈が形成されているハルビン市の万博参加が叶わなかったことで、万博会場での対面での交流イベント等の開催が実現できなかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期後の令和8年度には、甘楽町と中国ハルビン市との相互訪問交流が予定されている。地政学的な変化など世界情勢が大きく変動する状況下において、重要な隣国である中国との草の根レベルの国際交流を継続していくことを通じて、万博のレガシーである「つながり」に、自治体としても貢献していきたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

日本と中国との二国間関係が、自治体レベルの草の根交流にどのような影響を及ぼすのかをよく見極めながら、交流の準備を進めていく必要がある。



中国パビリオンを訪問する甘楽町訪問団



中国関係者から説明を受ける森平町長



中国関係者から説明を受ける森平町長

渋谷区交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	東京都渋谷区
相手国・地域	米国

(1) 背景と目標等

ア 背景と目的

渋谷区は令和6年5月にアメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市と「姉妹都市提携に関する覚書」を締結し、更なる交流、事業連携を進めて行く中で、スポーツ交流を通じて、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市との人的・経済的・文化的な相互交流を図るとともに青少年の交流機会を創出する。

渋谷区において、アメリカ合衆国・ハワイ州で人気のあるピククルボールの普及を図るとともに区内で大会を開催し、優勝者等をハワイ州で令和8年2月28日に開催されるホノルル市長杯へ招待する。

イ 目標

【国際交流の深化と継続的な関係構築】

・アメリカ発祥で、ホノルル市でも非常に人気の高いスポーツであるピククルボールの認知度を向上させることで、区民にホノルル市の文化に関心を持つきっかけを提供し、異文化理解・国際感覚の育成を図る。

・継続的にホノルル市長杯など現地大会に区民等が出場し、ホノルル市との交流及び連携をPRしていく。

2 - (1) 事業内容

【渋谷区・ホノルル市 姉妹都市提携に基づく給食交流会】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年6月初旬 区及び中学校とで事業内容確認

7月初旬 本事業のプレスリリース配信

中学生ピククルボール体験授業開始(全学年クラス別に実施)

7月17日 当日

②体制

渋谷区、渋谷区立代々木中学校、アメリカ合衆国ハワイ州ホノルル市、ハワイ州観光局

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年7月17日に渋谷区立代々木中学校生徒約330人が参加。具体的には、ピククルボール体験、ホノルル市から来日した生徒による紹介授業、ハワイアンメニューを通じた給食交流を実施。来日生徒はその後、授業や大掃除、部活動など日本の中学校の文化にも触れた。

④効果

(自治体内への波及効果) 区内中学生へのハワイ州の興味・関心の創出

(実施により達成できた成果) スポーツ及び食文化を通じた国際交流

(相手国への波及効果) 日本の中学校の文化体験

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【第1回ホノルル市長杯姉妹都市交流ピックルボール大会】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年5月・7月・11月 ピックルボール普及委員会／実行委員会開催

令和7年11月29日 ピックルボール渋谷カップ2025開催

令和8年2月28日 第1回ホノルル市長杯姉妹都市交流ピックルボール大会参加(予定)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

渋谷区、ハワイ州ホノルル市、【大会主催】日本ハワイピックルボール協会、【大会後援】(一財)ピックルボール日本連盟

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和8年2月28日にPickleball at Forte(ホノルル市内)というピックルボール専用コートにてピックルボール大会及び交流会を実施予定。日本の姉妹都市提携都市からの参加者及び現地参加者120～150人(想定)が集う。報道対応は現時点でなし。

④効果(自治体内への波及効果) ピックルボールを通じたハワイ州ホノルル市との姉妹都市提携の認知度向上

(実施により達成できた成果)

(相手国への波及効果)

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【大阪・関西万博 米国パビリオン訪問】

①スケジュール

令和7年9月7日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

渋谷区、米国パビリオン関係者、米国大使館

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年9月7日午後 米国パビリオンにて渋谷区在住の高校生4人と万博関係者が交流し、意見交換やアロハシャツ着用ハチ公がデザインされたピックルボールのパドル型ステッカーと米国パビリオンバッジの交換等を行った。報道対応はなし。

④効果(自治体内への波及効果) 参加者への米国への興味・関心の創出

(実施により達成できた成果) 異文化理解の深化、コミュニケーション能力の実証

(相手国への波及効果) 両当事者の知識及び経験に関する情報の共有、人的交流等

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

【万博会期前】

- ・万博会期中に実施するイベント等について、米国エキスポパートナーズ等の相手国関係者との意見交換を実施
- ・ピククルボール視察・交流(ハワイ州ホノルル市)
- ・ハワイ大学女子バスケット部による区内小学生対象のクリニック(渋谷区スポーツセンター)

【万博期間中】

- ・万博会場で行われるイベントに自治体職員が参加して、相手国の参加者と交流する。

【万博会期後】

- ・渋谷区で開催するピククルボール大会で優勝した区民等をハワイで開催されるピククルボール大会へ招待する(予定)。
- ・ピククルボール大会の様子をレポート・公表(予定)

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・生徒らが自ら英語でコミュニケーションを図ろうとするなど、積極的に交流していた点
- ・スポーツや食事を通じたコンテンツは、相互の文化を理解するのに適当だった(言語の違いがあっても交流のハードルが高くない)

●苦勞した点

- ・日々変化する情勢により、計画していた事業が突然見送りになるなど一部計画的に実施できなかった点。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

姉妹都市提携の協定締結内容として、観光振興・教育連携・スポーツ交流など多分野に広がっており、単発イベントではなく、複数部局で継続的に推進する体制が形成されている。これらの連携項目は次年度も具体的事業として実施予定で、長期的な交流基盤が既に存在する。スポーツ、とりわけピククルボールは年齢・性別問わず参加できるため、青少年交流と親和性が高く、両都市が共通して推進できる持続性のある分野である。大会・普及イベントが連続事業として定着し、万博レガシーとしても区民参加型の国際交流として継続可能と思われる。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

ホノルル市との交流事業は、教育・文化・スポーツ・観光など多様な分野で展開している一方、部局間の細やかな連携、民間事業者との役割分担、学校現場を含む人的リソースの確保、継続的な財源の確保、年間スケジュールの過密化(受入側の負担)など、次年度以降の継続実施にあたり解消すべき課題が存在する。これらの課題に対応するため、プロジェクト横断の調整体制強化、財源多様化の検討が必要である。



中学校でのピククルボール体験・交流



ハワイアンメニューで給食交流



ホノルル市長杯参加をかけた大会の実施

新潟県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	新潟県
相手国・地域	ベトナム

1 背景と目標等

ア 背景と目的

新潟県では、今後8年間の計画期間において分野横断的に対応すべき6つの重要課題の1つとして「国際拠点化と戦略的な海外展開・交流促進」を掲げ、その中で、「海外との交流拡大、グローバル人材の育成、多文化共生の推進など、県民が世界をより身近に感じる環境づくりを促進する」としており、本交流はその取組の一環である。

県内における在留外国人数は、国・地域別ではベトナムが最も多く、就労者や留学生等のベトナムからの外国人材が増えている状況の中で、相互理解の促進が求められている。また、県では令和5年にベトナムビンロン省及びタインホア省と交流協力に関する覚書を締結し、人材交流等を進めることとしている。

こうした中、万博という世界に向けて日本をアピールできる貴重な機会を活かし、多文化共生に対する本県の姿勢について広く発信することや、「にいがたベトナムフェスティバル」を通じた、ベトナムの文化に触れ親しむ機会を提供することにより、国際理解の促進を図るとともに、県内在住のベトナムからの就労者等との交流を促し、多文化共生やベトナムとの交流の推進を図るものである。

イ 目標

「多様な人や文化が交わる賑わいのある新潟」の実現に向けて、本プログラムに取り組むことにより、新潟県における多文化共生やベトナムとの交流の推進へつなげる。

にいがたベトナムフェスティバルの開催(1回) 来場者数7,000人を目指す。(3,500人/日)

2 - (1) 事業内容

【「にいがたベトナムフェスティバル2025」の事前開催PR】 ※他、7月13日(県主催イベント時)に知事がベトナム館訪問

- ① スケジュール:ベトナムパビリオン関係者と事前交渉のうえ、下記内容実施
- ② 体制:県職員2名をベトナムパビリオン派遣
- ③ 内容:時期 9月9日(火) *ベトナムナショナルデー、 場所 万博会場内ベトナム館、 参加者 ベトナム館来場者、
取組内容 ベトナム政府協力のもと、「にいがたベトナムフェスティバル2025」の開催に向けて、万博内で広報活動を実施する(広告チラシ約1,000枚配布)
- ④ 効果:世界とつながることができる万博会場内にて、多文化共生等に対する新潟県の姿勢を広くPRし、ベトナムとの交流の機運醸成を図った。
- ⑤ 交流した交流相手の類型:ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【「にいがたベトナムフェスティバル2025」の開催】

- ① スケジュール:公募型プロポーザル実施のうえ7月17日委託事業者と契約、関係者と調整のうえ下記内容実施
- ② 体制:主催 新潟県、後援協力 駐日ベトナム大使館/新潟県国際交流協会/新潟ベトナム協会/在新潟県ベトナム人会
- ③ 内容:時期 10月4日(土)~5日(日)(2日間開催)、 場所 新潟駅南口広場、
参加者 本県在住のベトナム人を含む県民等7,224名(10月4日4,048名、10月5日3,176名)、ブース出展数10事業者、
取組内容 新潟市内でベトナム交流イベント(ベトナム料理ブース出展等、ベトナム文化の紹介)を開催
- ④ 効果:ベトナムの文化に触れ親しむ機会を提供することにより、国際理解の促進を図るとともに、県内在住のベトナムからの就労者等との交流を促し、多文化共生やベトナムとの交流の推進を図った。
- ⑤ 交流した交流相手の類型:イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【「にいがたベトナムフェスティバル2025」のSNS等での発信】

- ① スケジュール: イベント前後の9月以降順次発信
- ② 体制: 県媒体及び在留外国人団体等を通じて発信
- ③ 内容: 取組内容 ベトナム人等による、イベントの情報発信、新潟のPR(発信計22回)
- ④ 効果: 「にいがたベトナムフェスティバル2025」を県内外(海外を含む)へ、SNS等を活用して情報を発信することで、新潟に対しての興味・関心を持ってもらい、将来の交流機会の創出へとつなげていく。
- ⑤ 交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【「にいがたベトナムフェスティバル2025」のベトナムでの情報発信】

- ① スケジュール: 下記内容と同じ
- ② 体制: 主催 ベトナム外務省、31省市の代表者や企業関係者、日本からは伊藤大使、16の地方自治体や友好協会の代表者、日系企業の代表者など参加
※ファン・ミン・チン首相の来席あり
- ③ 内容: 時期場所 令和7年11月25日(火)、越日地方協カフォーラム(ベトナム・クアンニン省)、
取組内容 「にいがたベトナムフェスティバル2025」をフォーラム講演で紹介及び交流促進のため新潟のPRを実施する
- ④ 効果: 「にいがたベトナムフェスティバル2025」を県内外(海外を含む)へ発信することで、新潟に対しての興味・関心を持ってもらい、将来の交流機会の創出へとつなげていく。
- ⑤ 交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

<万博会期前>ベトナム省市とのオンラインセミナーを実施し、大阪・関西万博の理念や新潟県の取組を共有することで、相互理解を深めるとともに、万博開催を契機としたベトナムとの交流に対する機運醸成を図ることができた。

<万博会期中>万博会場内のベトナム館において、「にいがたベトナムフェスティバル2025」の事前開催PRを行い、世界各国からの来場者に対して、新潟県の多文化共生への取組やベトナムとの交流の姿勢を発信することができた。

<万博会期中・後>新潟市内で開催した「にいがたベトナムフェスティバル2025」では、県内在住のベトナム人を含む多くの県民が参加する中で直接的な交流機会を創出することで、多文化共生への理解を促進するとともに、今後の継続的な人的交流の基盤となる関係を構築することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

・万博会期前から会期後までを見据えた段階的な交流計画を策定し、事前のオンライン交流、万博会場でのPR、県内での交流イベントを一連の流れとして実施できたことで、単発的な取組に終わらせることなく、目標に対する事業効果を段階的に深化させることができた。

●苦労した点

・「にいがたベトナムフェスティバル」は初開催であったため、より効果の高い広告PRの方法を探ることが難しかった。
・万博会場内でのPR実施に際しては、運営上の制約や関係機関との調整が多く、事前準備が煩雑かつ時間を要することとなった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博の機会を活用し、「にいがたベトナムフェスティバル」をはじめ、本県とベトナムとの交流について幅広くPRを行うことができたほか、ベトナム関係者にフェスティバル初開催の周知・説明を行うことで、ベトナムとの交流促進に向けた関係をより強固なものとするよい機会となったところであり、来年度のフェスティバル開催に向けて準備を進めていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

「にいがたベトナムフェスティバル」が、多文化共生への理解促進やベトナムとの人的交流の促進に資する機会となるよう、ベトナム関係団体のイベントへの一層の協力を促すとともに、イベントにおける交流の活性化に向けて工夫を施しながら開催していく必要がある。



万博ベトナム館にてチラシの配布



知事の万博ベトナム館訪問



イベントチラシ



にいがたベトナムフェスティバル2025



SNS発信

石川県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	石川県
相手国・地域	韓国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

- ・2001年に「友好交流に関する合意書」を締結し、行政・産業・文化・スポーツなど各分野で交流の推進を図ることとした。
- ・2023年8月には、石川県知事が全北特別自治道(旧全羅北道)を訪問し、大阪・関西万博に向けて国際文化交流をさらに推進していくことを、道知事と合意した。
- ・2024年8月には、全北特別自治道で開催される、国際的な音楽芸術祭である「全州世界ソリ祭り」に、本県から文化団体を派遣した。
- ・万博という舞台への参加を通じて、これを一つの契機に、さらなる「文化交流の推進」を図ることを目的とするものである。

イ 目標

- ・行政・産業・文化・スポーツなど各分野で交流の推進を図ること。

2 - (1) 事業内容

【大阪・関西万博を見据えた国際文化交流推進事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ・2023年10月 「いしかわ国際交流フェスタ」において、全北特別自治道から文化団体(道立国楽院芸能団)を本県に招聘し、韓国の代表的な伝統芸能であるパンソリや舞踊、音楽を披露していただいた。
- ・2024年8月 全北特別自治道で開催される、国際的な音楽芸術祭である「全州世界ソリ祭り」に、本県から文化団体を派遣した。
- ・2025年8月 全北特別自治道から文化団体を招聘し、万博会場内で本県の祭りの披露と合わせて公演してもらうほか、本県と道の文化団体のコラボを実施。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

石川県、韓国・全北特別自治道、両国文化団体など

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時 2025年8月27日(水)

場所 大阪・関西万博 EXPOアリーナ「Matsuri」

取組内容 大阪・関西万博石川県催事「石川の日」において、道の文化団体を招へいし、韓国の伝統芸能を披露するとともに、石川県の文化団体と共演した。

参加者 輪島・和太鼓 虎之介(22名)、任実(임실)ピルボン農楽保存会(30名)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

大阪・関西万博石川県催事「石川の日」において、道の文化団体を招へいし、韓国の伝統芸能を披露するとともに、石川県の文化団体と共演することで、相互に文化への理解を深め、国際文化交流を推進した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

- ・万博会期前には、相互に文化団体を派遣し、
- ・万博会期中には、石川県催事において、相互の文化団体による演技の披露及び共演を実施、
- ・会期後である来年度は、中学生の派遣・受入事業において、全北の中学生を受け入れる予定であり、相互に文化への理解を深め、国際文化交流を推進することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

万博本番に向けて、本県と韓国・全北特別自治道の担当者間や文化団体間において、連携・交流を深めることができた。

●苦労した点

共演については、練習時間の短さや太鼓の拍子における文化の違いなどから、コラボ方法の検討の調整に時間がかかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・文化を通じた交流は、相手への尊敬や信頼を生み、互いへの理解を深めるものであり、こうした友好の輪が世界に広がれば、ひいては世界平和につながっていくと考えられるため、継続して国際文化交流に取り組んでいく。

・中学生の派遣・受入事業を実施しており、来年度は、夏頃に、全北の中学生を受入予定。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

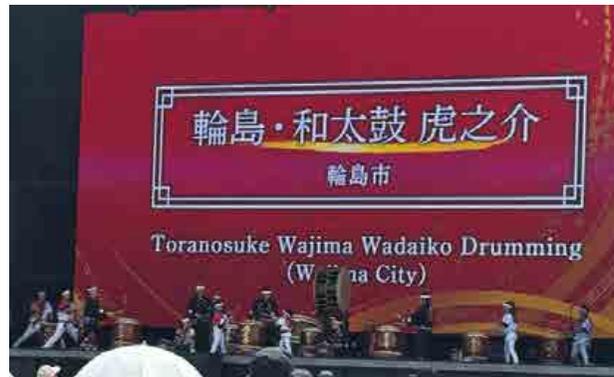
来年度以降、中学生の派遣・受入事業を継続するにあたり、

・予算の確保

・交流プログラムの一層の充実 が課題



全北特別自治道文化団体



石川県文化団体



コラボ演舞

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、2021年の東京オリンピック・パラリンピックにおいてスロベニア共和国のホストタウンに登録されたことを契機とし、同国との交流を国際化推進施策の大きな柱の一つとして位置付け取組を進めてきた。今回、同国が大阪・関西万博に公式参加し、会場内でパビリオン出展やナショナルデーを開催することとなり、同国の魅力を直に感じることができる機会であることから、本プログラムを通じて関係機関と連携しながら取組をさらに推し進め、持続可能な友好関係の実現を図るとともに、市民間における相互理解の促進を目指す。

イ 目標

姉妹友好都市締結後の市民間での文化交流や、民間でのビジネス交流、観光交流など多方面での交流につなげるため、市民の興味関心を高め、互いのまちの相互理解や人的ネットワーク構築を図る。

2 - (1) 事業内容

【事業名】市内高校生とスロベニア共和国クラン市の学校との交流事業（福井商業高校とフランツェ・プレシェーレン高校との交流）

①スケジュール 【第1回目】令和7年5月28日 【第2回目】令和7年11月11日 【第3回目】令和8年2月10日

②体制 福井商業高校3年生6名、2年生5名
フランツェ・プレシェーレン高校生徒13名程度

- ③内容 【第1回目】オンラインで学校紹介を行い、商業高校からは同校が誇るチアリーダー部をはじめとした部活動のほか日本独自の学校行事（修学旅行、文化祭）や学校文化（制服、購買、自動販売機）などを英語で紹介。相手校の生徒は興味深そうに説明を聞き入っていた。相手校からは、校内の様子や授業内容のほか、同校が輩出したオリンピックメダリストの紹介やアスリート用のスポーツ施設などが説明された。
- 【第2回目】オンライン交流にて、福井市ゆかりの詩人のプレゼンテーションや書道のライブ配信を通じて福井や日本の伝統文化を発信した。この活動を通じ、双方の伝統文化を紹介しながら交流を深め、着実に友好を育むことができた。
- 【第3回目】クリスマスや正月など年末年始の伝統的なイベントや文化をテーマにオンラインで紹介し合った。

④効果（自治体内への波及効果）継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築
（実施により達成できた成果）英語学習の実践と児童生徒の異文化理解を図る貴重な機会の創出。
（相手国への波及効果）継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/日本文化への関心向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者



福井商業高校とフランツェ・プレシェーレン校とのオンライン交流の様子



スロベニアの生徒からフォークダンスの説明を受ける

2 - (2) 事業内容

【事業名】スロベニア・クラン市代表団の来訪に関する市民交流の実施

- ①スケジュール 滞在期間の令和7年9月21日～24日(福井市内一円)
- ②体制 福井市
クラン市訪問団(クラン市行政・観光関係者・万博関係者)
福井市民
- ③内容 クラン市訪問団が姉妹都市協定締結に合わせて本市を訪問。滞在期間中に教育や経済などの分野で福井市民との交流を行った。
教育分野では、福井大学にてクラン市の事例を基に「環境負荷低減・スマートシティ」に関して講義を行い、大学関係者、市役所職員など計76名が聴講。
- ④効果(自治体内への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成/将来的な観光誘客の可能性/行政・学術分野における知見の共有
(実施により達成できた成果)今後の協力関係の発展につながる基盤形成
行政・学術分野における先進事例の共有(聴講者76名)
(相手国への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成/福井の魅力発信
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者



福井商業高等学校での交流



福井大学での特別講義

2 - (3) 事業内容

【事業名】福井まちなか野外イベント「オータムフェスト in ハピテラス 楽しいが集まる場所 ～美酒と音楽とamicalと～」等 スロベニア・クラン市の周知イベント

- ①スケジュール 【イベント】令和7年9月21日～22日(福井市にぎわい交流施設 ハピテラス)
【パネル展】令和7年9月16日～30日(福井市にぎわい交流施設 ハピリン3階 ハピリンホール)
- ②体制 福井市・クラン市、福井市・クラン市交流関係者
福井市民
- ③内容 食・文化・交流を楽しむイベントにおいて、スロベニアワインの試飲や販売を行い、スロベニアの郷土料理や人気料理を福井の素材を使用し期間限定特別メニューで提供。イベント参加者にスロベニア文化を体験してもらった。クラン市長らもイベントに参加することで、参加者と交流し、機織りや紙漉きなどの伝統文化も体験し、両市の相互理解を深めた。
- ④効果(自治体内への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成
(実施により達成できた成果)スロベニア・クラン市の認知度向上/福井への理解促進
(相手国への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成/福井の魅力発信



オータムフェストの様子

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【事業名】クラン市との姉妹都市協定締結

- ①スケジュール 令和7年9月22日(福井市にぎわい交流施設 ハピリン3階 ハピリンホール)
- ②体制 福井市・クラン市、福井市・クラン市交流関係者
福井市民・クラン市民(オンライン)
- ③内容 東京オリパラ大会でのホストタウン交流から続く交流の節目として、大阪関西万博参加への来日に合わせて、令和7年9月22日(月)に姉妹都市協定を締結。YouTubeで式典の様子を生配信し、クラン市・福井市の両市民あわせて291名が視聴。
- ④効果 (自治体内への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成
(実施により達成できた成果)持続可能な友好関係の実現・周知(視聴者291名)
(相手国への波及効果)継続的な市民交流に向けた人的ネットワークの構築/交流への機運醸成/福井の魅力発信
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者



姉妹都市協定書への署名

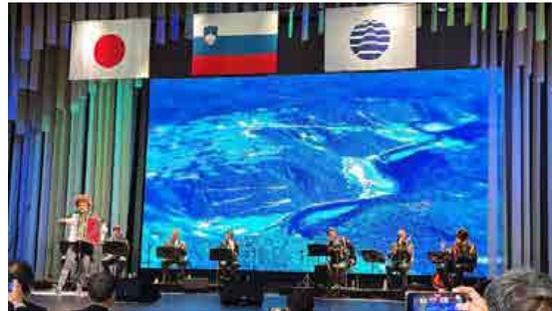
2 - (5) 事業内容

【事業名】大阪・関西万博 スロベニア共和国ナショナルデー行事参加

- ①スケジュール 令和7年9月26日(金) (公式式典)11時～12時
(大阪・関西万博会場内 EXPO ナショナルデーホール「レイガーデン」、スロベニアパビリオン(コモンズ-C))
- ②体制 万博博覧会協会、スロベニア共和国万博関係者
スロベニア共和国関係者、駐日スロベニア大使館
福井市
- ③内容 市長が公式式典、午餐会に参列し、マティヤシュ・ハーン経済・観光・スポーツ大臣をはじめユーリ・リフェル駐日スロベニア共和国大使、ドゥブラウカ・カリン観光局長、ゴラズド・スクルトパビリオンディレクターなどスロベニア共和国側の賓客と交流。
午餐会の乾杯挨拶で、福井市とクラン市とのこれまでの交流や姉妹都市協定締結について紹介し、両市の友好関係を広く発信した。
- ④効果 (自治体内への波及効果)福井市・クラン市の交流発信
(実施により達成できた成果)スロベニア・クラン市の認知度向上/福井への理解促進/関係機関の協力基盤の醸成
(相手国への波及効果)福井の認知度・関心向上
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者



スロベニアパビリオン視察
(右)マティヤシュ・ハーン
経済・観光・スポーツ大臣



スロベニア共和国ナショナルデー公式式典

古賀友一郎 経済産業
副大臣が、式典の挨拶
の中で、9月22日の
クラン市と福井市の姉
妹都市協定締結につ
いて紹介された。



スロベニア共和国・日本国賓客との午餐会
乾杯挨拶をする西行市長



2 - (6) 事業内容

【事業名】福井市国際文化交流大使によるスロベニア文化を体験する出前講座

- ①スケジュール 令和7年10月17日(金)13時30分～15時 (福井市湊公民館)
- ②体制 湊地区・西藤島地区住民 約50人
福井市国際文化交流大使(FCA) タデイ・ラスロ氏
福井市職員
- ③内容 スロベニア出身のFCAであるタデイ・ラスロ氏が講師となり、スロベニアの歴史や観光地、料理などを紹介。そば料理が盛んであることから、スロベニア料理を日本人向けにアレンジしたそば粉を使ったクレープやソバの実を使ったリゾットを同国のハーブティーとともに味わい、スロベニアの食文化を体験した。翌日の地元新聞に、当日の様子が紹介された。(福井新聞2025年10月18日)
- ④効果 (自治体内への波及効果)スロベニアやクラン市の認知度向上/市民レベルの交流機運の維持・醸成
(実施により達成できた成果)住民発意による学習・体験の場の創出/同国への関心の継続と裾野の拡大への寄与
(相手国への波及効果)特になし
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者



スロベニアの歴史について説明



スロベニア料理を試食



ソバの実を使ったリゾット

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

2025年の姉妹都市締結実現に向け、令和6年度はスロベニア側からの訪問団受け入れや、福井市からの行政調査団の現地訪問による相互派遣を実施。市民団体や経済団体等の交流を行うことにより、行政や経済だけでなく、教育や観光等、多方面での人的ネットワークの構築を図ることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

市民に異文化交流の機会が増えたことで、教育や文化活動などの現場で意気軒高な姿勢が見られ、地域活性化につながっている。

●苦労した点

社会制度や教育システム、文化的な相違や時差などにより、コミュニケーションが滞ることがあり、計画的に業務を行うことが難しい。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

東京オリンピック・パラリンピックのホストタウン交流を起点としたスロベニアとの関係性は、大阪・関西万博開催年を節目に、スロベニア・ナショナルデー前後の期間に姉妹都市協定締結へと結実し、一過性に終わらない国際交流のレガシーとして位置づけられた。万博に際しては、クラン市の先進的な自然環境保全の取組に加え、福井市との姉妹提携記事も収録したデジタルブックをクラン市と共同制作し、協定締結の弾みをつけた。

これにより、行政主導にとどまらず、企業や学校、観光、経済、教育、スポーツ分野など多方面において、市民が主体的に参画・連携する交流基盤が整備された。対話と具体的な取組を通じて価値観の共有や新たな価値の再発見が進むこととなり、地域活性化に寄与するとともに、交流人口の拡大を通じた将来的なインバウンド需要の創出が期待される。

こうした「つながり」を継承するため、従来の教育交流に加え、相互の児童生徒派遣を見据えた経費を次年度当初予算として本市財政当局に要求し、持続的な交流体制の構築を図っている。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

交流人口拡大に向けて、新規層の開拓と既存層の活性化を並行して進めていく必要がある。新規層の開拓にあたっては、スロベニアやクラン市に関する認知度が必ずしも高くない現状を踏まえ、交流の意義や内容が分かりやすく伝わるよう、継続的かつ効果的な周知・広報を行い、交流参加への動機づけを図っていくことが課題である。

また、既存層の活性化においては、これまでの交流に参加した市民や団体が継続的に関わられるよう、交流メニューの整理・充実など交流内容の多様化を進めるとともに、交流を主体的に担う人材や団体への支援体制を整える必要がある。あわせて、クラン市との連携をより一層密にし、双方のニーズを踏まえた交流機会の創出と実施回数の拡大に向けて取り組んでいくことが求められる。

山梨県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

山梨県

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

人口が80万人を切り、人口減少傾向にある本県において魅力ある地域づくりは喫緊の課題。

山梨県では新しい時代の芸術・文化・教育の中心地を目指した「富士五湖自然首都圏構想」を推進。この大きな取り組みの1つとして、グローバル社会においては「アートが共通言語」「若い世代こそ人類の希望」の考えのもと、豊かな国際感覚を持つ若者の育成につながることを目的とした事業を実施。

イ 目標

- ・社会課題をテーマにしたアートの製作(個人・グループ)を通じ、若者が社会への課題認識を持ち、アートによる国際交流を図る。
- ・カリフォルニアの若手音楽家を招聘し、地元住民や県内トップ層と音楽交流を通じた国際交流を図る。

2-(1) 事業内容

【事業名】Fuji-California Young Artists Expo (万博会場外)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ～5/15 : Fuji-California Young Artists Expo募集
- 5月 : 受賞者決定
- 10/7 : Fuji-California Young Artists Expo授賞式

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: California Sister Cities 共催: 山梨県/静岡県/富士五湖自然首都圏フォーラム/学校法人21世紀アカデメイア/Anaheim University

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

- ・チラシ及びポスターの配布による参加者募集(3/24～)
 - 山梨県内 85校(大学コンソーシアム:1、大学・専門学校:31、公立高校:42、私立高校:11)
 - 静岡県内 264校(大学・短大33、専門学校96、高校135)
- ・ポスター3,000部(10部×3種×各校)、チラシ9,000部(30部×3種×各校)を配布 ※紙媒体と併せて電子メールによる学生への周知も実施
- ・山梨県HP掲載による参加者募集
- ・授賞式(10/7)を報道発表 参加者約80人

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・カリフォルニア州(California Sister Cities)との連携により世界30ヶ国以上、約1,800作品の応募があった。
- ・山梨県、静岡県の300を超える学校に対し、世界に向けて作品を発表する機会を提供できた(両県から約30作品の応募)。
- ・山梨県・静岡県両知事に出席による授賞式を報道発表することにより、アートを活用した国際交流の取り組みを広く発信できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】学生アート交流カリフォルニア州派遣事業 (万博会場外・会場内)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ～5/15 Fuji-California Young Artists Expoの募集
- ～5/20 学生アート交流カリフォルニア派遣事業の募集
- 6/2 派遣者選考・決定
- 8/22～24 万博会場内EXPOメッセ: 山梨県催事ブースでのアートプロジェクトの事業紹介
- 9/6 事前学習回(1回目)
- 9/13 事前学習回(2回目) ※内閣官房国際博覧会推進本部事務局 講演あり
- 10/7 任命式
- 11/21～26 カリフォルニア渡航

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催: 山梨県/富士五湖自然首都圏フォーラム 協力: 静岡県・21世紀アカデミア・California Sister Cities

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

- ・アンバサダー任命式(10/7)を報道発表 参加者約80人
- ・アンバサダー カリフォルニア渡航時の各種交流 県アンバサダー7人
- ・県政番組(1/12)、オウンドメディア、県内成果発表会による情報発信(2月予定)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

カリフォルニア州(California Sister Cities・ラグナビーチ市等)との連携により本県アンバサダー7人がアートを通じた様々な国際交流を体験することができた。県政番組やオウンドメディア等を活用してアンバサダーが渡航成果を発信することにより、本県が実施する国際交流を県民に共有(1月～2月予定)。また本事業による連携を通じて、カリフォルニア州(California Sister Cities・ラグナビーチ市等)との関係性を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】カリフォルニア州バンドチームとの音楽交流(万博会場外)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ・9/20 山中湖村 : 富士五湖ジャズフェスティバルへのカリフォルニア州バンドチームとの音楽交流
- ・10/8 富士吉田市 : 富士カリフォルニアリーダーズサミットでのカリフォルニア州バンドチームと地元学生との音楽交流

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

山梨県/富士五湖自然首都圏フォーラム

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

- ・9/20 山中湖村 山中湖交流プラザきらら 富士五湖ジャズフェスティバル 約1,200人来場
ロサンゼルスからジャズ・ボーカル・グループ「The Bean Tones」が来日。演奏及び地元学生や地域住民と交流。
- ・10/8 富士吉田市 ハイランドリゾートホテル&スパ 富士カリフォルニアリーダーズサミット 約80人
カリフォルニア州14団体(市長・議長等)25名が来日し、富士五湖自然首都圏フォーラム構成員(山梨県知事・静岡県知事・地元首長・議員等)と交流
サミット内で、「The Bean Tones」と地元学生の音楽セッションを披露。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・カリフォルニア州との連携により、地元学生や地域住民が音楽を通じた国際交流を体験することができた。
- ・本事業による連携を通じて、カリフォルニア州との関係性を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

「グローバル社会においてはアートが共通言語」「若い世代こそが人類の希望」の考えに基づき、学生を対象にした国際交流事業(カリフォルニア州派遣事業)を実施。現地ですばらしい交流を実施した結果、学生の著しい成長の確認と共に、国際交流への興味関心が非常に高まった。

さらに、上記成果を県政番組やオウンドメディアを活用して情報発信することにより、本県が実施する「意欲的な国際交流」※の一例として県民に情報共有。(1~3月予定)

※国際交流2.0の取り組み

従来の行政主体の儀礼的交流に留まらず、実益をもたらす実質的交流を目指すもの。具体的には「人の交流を基盤とした新しい価値の創造/国内外の自治体を面的に結ぶ国際連携の推進」

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で特に良かった点、苦労した点

●良かった点

相手国(南カリフォルニア地域)との具体的な交流が実現し、本県が推進する国際交流2.0の取組に寄与。

富士五湖自然首都圏フォーラムに加盟した静岡県と連携したことで、富士山を中心とした地域全体で国際的なアート事業・人材育成事業に取り組むことが実現。事業後も相手国(南カリフォルニア地域)と情報交換を継続中。

●苦労した点

相手国(南カリフォルニア地域)との調整(事業構築・渡航時のプログラム等)に想定以上に時間を要した。

静岡県の対象校は山梨県の約3倍もあるためチラシやポスターの送付が手間取った。新規事業のため事業内容の検討・渡航先との調整に時間を要した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

魅力ある地域づくりを目指す本県において新しい企画の国際交流を実施する機会が得られた。

具体的事業の成果と今後については次のとおり。

- ・若者がアートによる社会課題を表現する国際コンペに参加することにより、言語の壁を越えた国際交流に寄与。来年度も実施を目指し調整中。
- ・大阪・関西万博を契機としたカリフォルニア州への派遣事業を実施することにより、国際感覚を備えた若者の育成に寄与。来年度も実施を目指し調整中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今年度の事業成果を検証し、より事業効果が出るよう仕組みの改善を図る必要がある。

Fuji-California Young Artists Expoと連携や渡航先との調整をより円滑に実施できるよう、事業プロセスの改善を図る必要がある。



学生アート交流カリフォルニア派遣事業

- 11/21～26 カリフォルニア渡航時の集合写真
(創作活動の拠点としたクールジャパンセンター前)



Fuji-California Young Artists Expo授賞式

- 10/7 Fuji-California Young Artists Expo授賞式
(山梨県知事賞、フォーラム会長賞授与)



富士五湖ジャズフェスティバル

- 9/20 山中湖交流プラザきらら
(The Bean Tones演奏/地元出演者との共演)



富士カリフォルニアリーダーズサミット

- 10/8 ハイランドリゾートホテル&スパ

(The Bean Tones演奏/地元学生とのセッション披露) 54

駒ヶ根市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	長野県駒ヶ根市
相手国・地域	ネパール

1 背景と目標等

ア 背景と目的

当市は、全国で2つしかないJICA青年海外協力隊の訓練所や青年海外協力協会JOCA本部があるまちとして、長い年月をかけて国際交流の取組を進めているが、今後ネパール国やポカラ市の文化をより身近に感じることで、さらに国際交流・国際協力のまちづくりを市民に広く浸透させる。(DEEPネパール、DEEPポカラ) また、駒ヶ根文化をネパールへ発信する。

イ 目標

国際理解の促進や草の根レベルでの国際交流の発展、また駒ヶ根の文化がネパールで認知され、今後のインバウンド需要が期待される。

2 - (1) 事業内容

【事業名】中高生万博訪問事業

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

6月に定例記者会見で事業を発表し参加者を募集開始。7月～大使館を通じてパビリオン関係者と万博訪問時の交流内容について調整開始。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

駒ヶ根市総務部企画振興課

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

市内の中高生を対象に、万博を訪問して得た気付きを新聞にまとめて発表する企画。参加者は中学生7名、高校生2名。

【事前研修1】8月6日(水)13:30～15:30(場所:赤穂公民館) 駒ヶ根市とネパールの交流の歴史や国際協力友好都市ポカラ市について学んだ

【事前研修2】8月20日(水)9:00～11:00(場所:駒ヶ根市役所) 元新聞記者の伊藤市長による新聞作り講座、ポカラ市とのオンライン交流など

【万博会場訪問】9月6日(土) ネパールパビリオンにおいては展示品の解説をいただいたほか、新聞製作のためパビリオン関係者のネパール人にインタビューを行った。

【事後研修】9月13日(土)10:00～12:00(場所:駒ヶ根市役所) 万博訪問の振り返りと新聞製作を行った。

製作した新聞は10月に市内で行った国際イベントにおいて発表したほか、地元紙において5回の連載で掲載いただいた。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

参加者のネパールへの関心や理解が深まったとともに、新聞にまとめたことで広く市民の皆さんにも知ってもらうことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【事業名】大阪・関西万博ネパールパビリオンナショナルデー公式式典参加

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

7月上旬に博覧会協会及び駐日ネパール大使館から案内あり

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

駒ヶ根市、駐日ネパール大使館

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

期日:7月28日(月)

場所:大阪・関西万博会場

内容:15:00~15:30 ネパールパビリオン見学会

16:30~17:30 ネパールデー公式セレモニー

出席者:伊藤市長、随員職員

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

今後の取り組みに向けて交流が深められた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【事業名】中学生海外派遣国際交流事業

令和8年1月に市内の中学生をネパールへ派遣する事業を予定していたが、令和7年9月にネパール国内で発生した暴動により事業を中止した。

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

- ・文化や語学の講座を通じて、ネパールへの理解を深め興味・関心を高めてもらうことができ、長年取り組んできた国際交流の取り組みを深化させることができた。
- ・習字、着物、抹茶、折り紙などの日本文化をポカラ市の皆さんに体験してもらい、ネパールに向けて日本文化を発信できた。
- ・ネパール大使館との交流が深められ、今後の取り組みに向けて関係性が構築できた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

事業の計画や調整を進める中で駐日ネパール大使館や地域のネパール関係者にご協力いただき、関係が深まった。

●苦労した点

万博開幕後もネパールパビリオンの開館時期が分からず、ぎりぎりまで万博訪問時の計画が立てられなかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

2026年は日本とネパールの国交樹立70周年、駒ヶ根市とポカラ市の国際協力友好都市協定締結25周年の節目の年である。本プログラムの実施を通じて培った関係者との協力体制を生かして、さらなる相互交流の促進につなげていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

関係者の中だけではなく、より多くの市民に関わってもらい交流に参加してもらえるようにしていきたい。



市長による新聞作り講座



ネパールパビリオンの訪問



生徒が製作した新聞

1 背景と目標等

ア 背景と目的

宮田村は令和7年4月1日時点で、総人口は8,739人、うち男性は4,286人、女性は4,453人です。65歳以上人口が28.3%を占めており、高齢化が進んでいる。産業構造としては、農業が中心で、特に米作において「宮田方式」と呼ばれる独自の農業技術が特徴です。この方式は、機械化一貫体系による稲作を担う集団耕作組合と、農地利用委員会が連携し、地域の農業振興を推進しております。地理的要因は中央アルプスとその麓、南アルプスに囲まれた、自然豊かな地域であること、そして市街地を中心に半径2km内に集住するコンパクトビレッジであります。社会課題として人口減少、高齢化、空き家問題、就労人口の減少などが挙げられます。特に、高齢化と人口減少は深刻で、社会保障費の増加や医療、福祉サービスの供給体制への影響が懸念されています。これらを踏まえ、一昨年万博で利用している「RemoteVoice®(自動翻訳システム)」を活用し、より国際感覚を身に付けてほしい思いもあり活用した経過があります。

イ 目標

上記を踏まえ、交流計画でより多くの生徒を本国際交流事業により訪韓させる事を目的としたいと考えております。

2 - (1) 事業内容

【中学生海外派遣事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過):

令和7年度は12月21日～24日の3泊4日で訪韓サンミョン中学校と交流、1月14日～16日で宮田中学校で交流及び受入を実施。

・事前学習にて万博に関して一部学習を実施

9/10: 荷物と薬の持参方法について

9/17: 前年度参加中学生の体験談、韓国のお金と買い物方法

9/24: 長野県国際交流員「高 雄途」先生による学習会(文化)<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai-kouryu/sangyo/kokusai-kouryu/kouryu/kouryuin/index.html>

10/1: 長野県国際交流員「高 雄途」先生による学習会(言語)<https://www.pref.nagano.lg.jp/kokusai-kouryu/sangyo/kokusai-kouryu/kouryu/kouryuin/index.html>

10/8: グループ毎調べ学習

10/15: 調べ学習/派遣団個人面談①(歴史、文化、食文化)

10/22: 調べ学習/派遣団個人面談②(歴史、文化、言語、食文化 他)

10/29: サンミョン中学校オンライン授業①(韓国語学習、発音 他)

11/5: サンミョン中学校オンライン授業②(韓国語学習、双方で発音確認 他)

11/12: 調べ学習/派遣団個人面談③(言語 他)

11/26: 調べ学習結果グループ発表

12/3: 韓国と日本の歴史、アレルギーに関して、部屋割りについて

12/10: 飛行機の乗り方や荷物の確認

12/17: スケジュールや体調チェックなど最終確認

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

宮田村 : 宮田村立宮田中学校、宮田村教育委員会及び産業振興推進室

ソウル市: 大韓民国ソウル市サンミョン中学校

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

上記①②に加え、事前学習を実施し学習を行った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

村民への報告会を実施するなど、生徒から村内への情報発信をすることで本事業への関心を高めている他、毎年多くの生徒が本交流事業に大変興味を持ってきている。

また、交流後も双方の生徒同士でSNSによる交流を継続させている。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【中学生海外派遣事業(事前視察)】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)：

令和7年度は9月29日～10月1日の2泊3日で訪韓サンミョン中学校との交流に向けた事前視察を実施。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

宮田村：宮田村教育委員会及び産業振興推進室

ソウル市：大韓民国ソウル市サンミョン中学校

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

年度末に向けスケジュールと交流内容の事前確認を行った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

派遣事業本番時に事前視察の効果が、空港手続きや学校での動き方などスムーズな対応ができました。また、事前に確認していたため訪韓時は交通など含め安心安全な対応が可能であった。

また、交流後も双方の生徒同士でSNSによる交流を継続させている。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

今年度は双方でICT環境を活用し、リモートで交流を実施し、より本事業を充実させることができた。
実施内容としては事前学習会時にサンミョン中学校の講師による、外国語講座や発音など双方で学ぶことができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点** ICT環境を利用し、事前につながることができ、訪韓後の当日はより深い交流ができた。
派遣団員が他国の文化や歴史、をより深く学ぶことができたこと、ホームステイ先など新たな出会いができたこと、本交流を終えて改めて宮田村の良さに気づいたこと。
- 苦労した点** 万博会期とのつながりを持つことがもう少しスムーズにいけばよかったです。
また、英語の発音が良く、聞き取るのが難しい点や話してもなかなかうまく伝わらない点など、文化の違いで浴室の利用方法に困惑した点や日本とお金の単位が違う事から理解に苦しむ点があったこと

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

交流が継続できるよう閉会後も学習や報告会を継続し、派遣団を募集し、取り組みを続けていくこと。
また、ここまでの経過を振り返り、学校間交流は継続していく中で人数を制限し代表生徒との学校間交流を検討していく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

学校間交流としての目的を果たすことができたと考えているが、今後継続的に実施していくためにはまた別の視点から本事業を検討して時期がきている。
今後は代表生徒が訪韓し、学校間交流や双方の文化、歴史などを学ぶ機会を検討していく必要がある。



令和7年11月5日事前学習会(リモート接続)



令和7年12月22日サンミョン中学校にて歓迎会



令和7年12月22日サンミョン中学校にて記念品贈呈

自治体名	岐阜県
相手国・地域	フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

- ・本県は、フランス・アルザス欧州自治体と友好交流に関する覚書を交わし、スポーツや観光、食、青少年育成などの交流を進めている。
- ・本県は、数多くの温泉や豊かな自然環境といった地域資源を有しており、人口減少が進行する中、こうした地域資源を活用し、交流人口の拡大や地域の活性化を図る必要がある。
- ・このため、ガストロノミー・ウォーキングの本場であるフランス・アルザス地域と連携し、食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」を実施することで、地域の魅力の発掘・発信、誘客、交流の深化を図る。

イ 目標

- ・フランス・アルザス欧州自治体関係者等を招き、ONSEN・ガストロノミーウォーキングをはじめとする交流事業を実施することで、地元の住民や子ども達による国際交流、県内外からの誘客、地域の魅力の発掘・発信を図る。

2 - (1) 事業内容

【事業名】ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

R6.4.5 万博国際交流プログラム 交流計画 第1次登録

以降 アルザス関係者、地元関係者と調整

R7.4.10 ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯 参加者募集開始

R7.4.22 ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯 知事記者会見

R7.5.24 ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯 開催

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県側は、環境エネルギー生活部環境生活政策課及び観光文化スポーツ部国際交流課が交流事業を実施(岐阜県・一般社団法人奥飛騨温泉郷観光協会：共催)。

フランス・アルザス側は、アルザス・欧州日本学研究所(GEEJA)が窓口となり、フランス・アルザス関係者等の参加・交流を調整。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時、場所

R7.5.24 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷平湯

取組内容

ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯を開催

地元の食、自然、温泉、伝統、文化等に加え、フランス・アルザスの食文化、観光等を発信・PR

参加者

アルザス・ワイン委員会会長、アルザス・ワイン委員会前会長、フランス最優秀ソムリエ(2012)、アルザス・ワイン委員会コンクール・研修責任者、

CEEJA フランス・アルザス日本代表部 代表、岐阜県議会副議長

一般参加者100名

報道発表

R7.4.22 プレスリリース(知事記者会見)

R7.5.25 中日新聞朝刊に記事掲載等

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・地域の食、自然、温泉、伝統、文化等の魅力を発掘し、これらを一体的に体験する周遊コースとして設定
- ・地元住民の他、首都圏、大阪、広島など全国の参加者に対し、地域の魅力を発信
- ・地元住民、子ども達との交流をはじめ、フランス・アルザスとの交流の深化

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】アルザスの子どもたちの絵画展

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R7.11 開催準備
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
主催:岐阜県
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
日時: R7.11.1～11.24
場所: 中部山岳国立公園奥飛驒ビジターセンター
取組内容: アルザス・コマル市のアソンプション小学校の児童が描いた絵をはじめ、アルザスの地勢、文化等の紹介パネルを展示した
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
岐阜県とアルザスとの交流について理解を深めた
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】「[岐阜県の日]『清流の国ぎふ』絵巻 ～輝く“いのち”の処方箋～」

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
～R7.5 現地及びYoutubeライブ配信での観覧を案内
R7.6.9/6.10～ 現地及びYoutubeライブ配信での観覧
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
岐阜県
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)
日時: R7.6.9～6.10
場所: EXPOホール「シャインハット」
取組内容: EXPOホール「シャインハット」で開催した催事「[岐阜県の日]『清流の国ぎふ』絵巻 ～輝く“いのち”の処方箋～」の観覧
(フランスパビリオンのゴールドパートナーであるアルザスワイン委員会(CIVA)関係者は現地で、その他フランス・アルザス欧州自治体関係者はYoutubeライブ配信にて)
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
岐阜県の魅力を相手国を含む多くの人々にPRした
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

・地域の食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」を通じて、新たな切り口での地域の魅力の発掘・発信、約150名の誘客、地元住民等の参加や対話を通じた交流の深化を図ることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

ONSEN・ガストロノミーウォーキングをはじめとした交流事業を通じて、新たな切り口での地域の魅力の発掘・発信、約150名の誘客、地元住民の参加や対話を通じた交流の深化を図ることができたこと。

●苦勞した点

特に無し

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・県内各地における地域の食、自然、温泉、伝統、文化等を一体的に体験する「ONSEN・ガストロノミーウォーキング」の継続的实施を通じた地域の魅力の増進、活性化の推進

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

・本県とアルザス欧州自治体、高山市とコルマール市、白川村とリクヴィル村のほか、飛驒の地酒とアルザスワインなど民間レベルを含め、重層的な交流を継続することが課題と認識している。



ONSEN・ガストロノミーウォーキングin奥飛騨温泉郷平湯



アルザスの子どもたちの絵画展

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本県では、世界に開かれた岐阜県づくり・誇りの持てるふるさとづくりを目指していくため、各国・地域との交流を進めている。

ポーランド・シロンスク県との交流は、東京オリンピック2020競技大会の事前合宿を契機に、2023年に「岐阜県とシロンスク県の協力と友好関係の発展に関する覚書」に調印し、交流を進めてきた。万博のポーランドパビリオンにおける「シロンスク・ウィーク」の機を捉え、シロンスク県との交流事業を実施することにより、一層の交流の深化と、国内外における両県の認知度の向上を図る。

イ 目標

ポーランド(シロンスク県)の歴史・文化を広く紹介することを通じた県民の国際理解並びに「2025年大阪・関西万博」に向けた機運醸成。

2 - (1) 事業内容

【事業名】万博ポーランドパビリオン・シロンスクウィークへの参加くセレモニー・・・万博会場内／経済会議・・・会場外＞

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

R6.12 招待状受領、R7.4 経済会議への参加企業選定 R7.4-5 出席者調整・プレゼン準備・展示準備

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

主催:ポーランド投資貿易庁、シロンスク県 ※本県は交流団体としてゲスト参加

③内容

R7.5.4 万博ポーランドパビリオンにおいて、シロンスク県オープニングセレモニー出席(プレスリリース済み)

参加者:万博ポーランド政府代表代理、シロンスク県副知事、国立民族合唱舞踊団「シロンスク」団長ほかシロンスク県行政・文化団体の長等計50名程度
内 容:本県からは副知事が出席の上、来賓挨拶

R7.5.7 大阪市内において、シロンスク県主催経済会議(プレスリリース済み)

参加者:シロンスク県副知事、シロンスク県行政・企業関係者、医療関係者等計100名程度

内 容:医療、ITをテーマに、両県を中心とした参加企業・病院関係者がプレゼンを実施。

本県からは、県観光文化スポーツ部次長が岐阜県の紹介プレゼンを行うとともに、県内医療機関・企業計4団体が各団体の概要や強みについてのプレゼンを実施。また、隣接するレセプション会場において、県の工芸品の展示を実施した。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・自治体間だけではなく、両県の医療機関・企業の交流が深まった。
- ・経済会議翌日にはシロンスク県の病院関係者の希望により、本県の病院を急きょ視察するなど今後の交流に向けた進展がみられた。
- ・シロンスク県の企業、医療機関等の代表者に対しても本県の魅力を知っていただくことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】 シロンスク県副知事の岐阜県訪問<万博会場外>

①スケジュール

R6.12～ 来訪日程調整 R7.3-4: 視察先調整

②体制

主催…県、協力…ポーランド・シロンスク県、ポーランド投資・貿易庁

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

R7.5.7 岐阜かかみがはら航空宇宙博物館、郡上八幡城及び城下町を視察、食品サンプルづくりを体験(5名来岐、プレスリリース済み)

④効果 (自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果) (相手国への波及効果)

・今後の交流に向け、シロンスク県幹部に、岐阜県の魅力について知っていただくことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者、イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】 シロンスク県写真パネル展開催<万博会場外>

①スケジュール

R7.3:会場確保 R7.9:会場との調整 R6.8-9 ポーランド投資貿易庁・シロンスク県との写真提供に係る調整、R6.9-10 パネル作成

②体制

主催…県、協力…ポーランド・シロンスク県、ポーランド投資・貿易庁

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

R7.11.1～11.16 岐阜県図書館にてパネル展開催(フリースペースのため観覧者数集計なし。プレスリリース済み)

④効果 (自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果) (相手国への波及効果)

・県民にシロンスク県と岐阜県との交流についての認知度を高めることができた。
・万博に行かれなかった方に対しても、ポーランドパビリオンの雰囲気伝える展示を行うことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者、イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【事業名】 ポーランド物産フェア開催<万博会場外>

①スケジュール

R7.6:事業者と協議 ～R7.10:取扱商品決定 R7.11 ポーランド・シロンスク県との展示品に係る調整

②体制

主催…県、協力…ポーランド・シロンスク県、ポーランド広報文化センター、ポーランド投資・貿易庁 東京オフィス

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

R7.11.21～12.7 THE GIFTS SHOP(岐阜県アンテナショップ)にて物産フェア開催(期間中来店者14,956名、プレスリリース済み)

④効果 (自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果) (相手国への波及効果)

・県民に本県とシロンスク県との交流並びにポーランド及びシロンスク県の産業及び製品の魅力を知っていただくことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者、イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

各種行事の結果、本県とシロンスク県との交流が深まり、県民の国際理解の促進とともに、2025年大阪・関西万博に向けた機運を醸成した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・多くの県民にシロンスク県の文化を紹介することが出来、岐阜県とシロンスク県との交流に関する認知度が高まった。
- ・シロンスク県の自治体関係者以外にも本県の魅力をPRすることができた。

●苦労した点

- ・異なる言語・文化的背景を持つ岐阜県側とシロンスク側とで、舞台の設営内容を始めとした各種調整事項について認識を合わせることに苦労した。
- ・ヴィーガンなど食事制限のある方に対応可能な飲食店を探すことに苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・R7.11に本県職員がポーランドを訪問し、今後の交流について協議。
- ・引き続き交流継続のため、所要の予算を計上していく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・長期的な交流の継続



シロンスク県主催経済会議の様子



シロンスク県副知事一行の岐阜県訪問
(食品サンプルづくり体験)



ポーランド物産フェアの様子 68

1 背景と目標等

ア 背景と目的

当県では、「命のビザ」を発給した外交官・杉原千畝氏を縁に、リトアニアを紹介する文化イベント「リトアニアNOW」を2018年から毎年開催するなど、同国と息の長い交流を続けている。万博においてリトアニアから芸術団が来訪する機会を捉え、岐阜県内においても同芸術団を招いたコンサートを開催し、一層の交流の深化と、県民が友好国であるリトアニアの歴史・文化等への知識・関心を深めることを目的とする。

イ 目標

リトアニアに関する様々な交流イベントを通じ、県民における、同国の歴史・文化等についての知識・関心の向上を図る。

2 - (1) 事業内容

【事業名】リトアニア・ナショナルデーへの参加

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

当初の予定通り実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

駐日リトアニア大使館をはじめとした万博リトアニア関係者の主催により、在岐阜リトアニア名誉領事、岐阜県関係者、八百津町関係者、岐阜県民等の参加のもと実施

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日程: 2025年7月6日(日)

会場: 大阪・関西万博会場

(タイムスケジュール)

11:00-11:40 ①公式式典 (於: EXPOナショナルデーホール「レイガーデン」)

16:00-17:00 ②ミカロユス・チュルリヨーニスに捧げるコンサート (於: EXPOナショナルデーホール「レイガーデン」)

17:00-19:00 ③イブニング・カクテルレセプション (於: ゲストハウス ※EXPOナショナルデーホール横)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・リトアニア音楽家によるコンサートを鑑賞し、パピリオンを見学することで、県民や県内関係者が友好国であるリトアニアの文化を体感することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のパピリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】リトアニアNOWの開催

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

当初の計画どおり2025年8月～9月にリトアニアNOW2025を実施完了し、現在2026年度に実施予定のリトアニアNOW2026の企画・調整を進めている。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

駐日リトアニア大使館、リトアニアと交流のある八百津町や岐阜大学、岐阜商工会議所、岐阜リトアニア友好協会等の協力を得て、産学民官が一体となり実施

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

○リトアニアNOW2025の内容

1 オープニングイベント

内容:大阪・関西万博に出演するリトアニアのフォークダンスアンサンブル「イエワラス」による公演

開催年月日:2025年8月22日(金)

会場:ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

2 リトアニア写真パネル展

(会場1)

開催期間:2025年8月22日(金)～9月19日(金)

会場:県庁20F清流ロビー

(会場2)

開催期間:2025年9月1日(月)～5日(金)

会場:岐阜商工会議所ビル1階

3 リトアニア語翻訳者特別講演会

演題:はじめてのリトアニア語

開催年月日:2025年8月23日(土)

会場:アクティブG 2F会議室(ECC奥)

4 リトアニア文化教室

タイトル:リトアニア文化教室～リトアニアのオーガニック生活紹介～

(第1回)

開催年月日:2025年9月7日(日)

会場:土岐市文化プラザ3F第5研修室

(第2回)

開催年月日:2025年9月13日(土)

会場:アクティブG 2F会議室(ECC奥)

5 リトアニア物産フェア

開催期間:2025年8月22日(金)～9月19日(金)(※会場によって開催日は異なる)

会場:The Gifts Shop、ぎふ清流文化プラザ1階、県庁2階物販スペース、岐阜商工会議所(1階ホール)

6 リトアニアはちみつフェア

開催期間:2025年8月22日(金)～9月19日(金)

会場:敷島珈琲店岐阜駅店(アクティブG2階)

7 八百津町ブリッジプロジェクトwithリトアニアの展示

開催期間: 2025年8月22日(金)~31日(日)

会場: 八百津町杉原千畝記念館

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・多くの県民に友好国であるリトアニアの歴史・文化等について学ぶ機会を提供することができた。

・リトアニアからの来賓や、招へいたフォークダンスグループ「イエワラス」との交流会を開催し、リトアニアの方々に岐阜県の魅力をPRすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前から会期後まで、両国県の関係者が密に連携し、連続的にリトアニア文化紹介イベント「リトアニアNOW」を企画・実施することで、多様なプログラムを用意し、多くの県民に友好国であるリトアニアの歴史・文化等について学ぶ機会を提供することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

パネル展や文化教室の開催にあたり、人気スポーツやストリートアート、オーガニック等、従来のプログラムと比べよりリトアニアの「今」を体感できる内容とし、参加者から好評を得た。

●苦労した点

国内に流通するリトアニア商品が少なく、物産フェアのための仕入れ先開拓に苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今回、大阪・関西万博に出演したリトアニアのフォークダンスアンサンブル「イエワラス」の県内公演が実現し、万博を訪問していたリトアニア本国の政府要人にも来県いただくなど、万博を契機として同国との交流が一層深化した。

次年度以降においても、今回の交流で得られた人脈を活用し、限られた予算の中でリトアニア側から魅力的なゲストを招聘する等、さらなるプログラムの充実に向け、より多くの県民の同国理解・交流の促進を図っていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

リトアニアについて知識・関心が薄い層への情報提供



リトアニアNOW2025(OPイベント)



同左(特産品フェア)



同左(パネル展)

岐阜県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

岐阜県

相手国・地域

英国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

近年、英国など欧州諸国を中心に、日本の伝統文化が有するストーリーや価値観への関心が高まっており、本県が世界に誇る伝統工芸品等についても、付加価値の高い商品として海外販路開拓の好機を迎えている。今後、商流確保・拡大を実現するため、「岐阜ブランド」としての一層の認知度向上が不可欠である。

イ 目標

大阪・関西万博イヤーである2025年を「岐阜ブランド」を海外に発信する絶好の機会と捉え、英国ロンドンにある芸術・デザイン分野における世界有数の展示施設「ヴィクトリア&アルバート博物館」(以下、「V&A」という。)の関係者を招請し、本県が世界に誇る伝統工芸品や伝統文化の魅力を、V&Aの発信力を活用し世界に向けてPRすることで、海外における認知度向上を図る。

2-1(1) 事業内容

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

V&A関係者招請にむけて、メール等により随時調整

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県、V&A、英国大使館

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

2025年6月9日 万博会場内 V&A関係者を岐阜県催事(R7.6.9~10)に招待し、岐阜県が誇る伝統文化「地歌舞伎」の公演観覧や同会場で行われている県産品販売会場を視察。また、英国パビリオン館を訪問し、パビリオン関係者、V&A、岐阜県の3者で意見交換を実施。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

事業コンセプトやテーマ性等に係る意見交換を通じ、今後の事業実施計画に繋げる交流ができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-1(2) 事業内容

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

V&A関係者招請にむけて、メール等により随時調整

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県、V&A、伝統工芸品生産者及び伝統文化関係者

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

2025年6月10日~12日 万博会場外(※) 万博での交流イベント後、岐阜県に移動し、県内の伝統文化及び産業関係者との交流を実施

※和傘CASA stella(岐阜和傘)、美濃竹紙工房(美濃和紙)、松久永助紙店(美濃和紙)、小坂酒造場(日本酒)、

津田彫刻(一位一刀彫)、幸兵衛窯(美濃焼)、美濃歌舞伎博物館相生座(地歌舞伎)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

伝統文化及び産業関係者との交流を通じ、県内産品のブランド力強化や販路開拓に繋がる意見交換を実施できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

(2)－1・2 ④と同様

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点
双方の調整を進めることと同時に交流を深めることができた
- 苦労した点
V&A関係者及び英国パビリオン担当である在大阪英国総領事館との各種調整

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を契機としたレガシー創造への寄与に向け、万博会期後の交流事業に係る意見交換を進めることができた

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

交流の継続に向けた相手国との各種調整



2025年6月9日
英国パビリオンでの
在大阪英国総領事との交流の様子



2025年6月9日
岐阜県催事での
在大阪英国副総領事との交流の様子



2025年6月10日
岐阜県内での
美濃和紙生産者との交流の様子 74

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県を代表する地場産業の一つである陶磁器、その中でも「美濃焼」は、国の伝統的工芸品にも指定されており、国内トップシェアを誇る日本を代表する陶磁器である。しかしながら、県内の陶磁器産業は、人口減少などにより、生産が伸び悩み、後継者不足なども課題となっている。

イ 目標

万博を契機として、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を行うことにより関係を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ繋がる活動を実施していく。

2 - (1) 事業内容

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

岐阜県的美濃焼製造企業の社員をヘレンド社へ研修派遣するにあたって、同社とメール等により随時調整。

研修派遣にあたって、美濃焼製造企業とヘレンド社でやきものの製造や文化にかかる情報交換や今後の交流について意見交換を実施。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県、美濃焼製造企業、ヘレンド社

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時:2月10日 場所:オンライン会議 参加者:岐阜県、美濃焼製造企業、ヘレンド社

内容:やきものの製造や文化にかかる情報交換や今後の交流について意見交換

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

来年度に実施する研修派遣に向けた調整を行うとともに、今後の交流事業について意見交換を行うことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ向け、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を図り、関係を深めることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点
岐阜県の陶磁器、ヘレンド社の磁器製品を通じて両国の文化などの交流を深めることができた
- 苦労した点
相手国との調整
研修内容の検討

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を契機としたレガシー創造への寄与に向け、交流を深めることができた。
今後の交流事業の継続に向け、岐阜県とヘレンド社とで意見交換を行うことができた。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・交流の継続に向けた相手国との調整
- ・より効果的な研修内容の検討



これまでの交流事業により美濃焼とヘレンド製品に与えた影響や、来年度に実施予定の研修派遣の内容や、今後の交流事業について意見交換を行う様子



令和6年度に岐阜県で研修を行ったヘレンド社の社員が製作した商品を紹介している様子

岐阜県・多治見市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	岐阜県・多治見市
相手国・地域	中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県を代表する地場産業の一つである陶磁器。その中でも「美濃焼」は、国の伝統的工芸品にも指定されており、国内トップシェアを誇る日本を代表する陶磁器である。しかしながら、県内の陶磁器産業は、人口減少などにより、生産が伸び悩み、後継者不足なども課題となっている。

イ 目標

万博を契機として、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を行うことにより関係を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ繋がる活動を実施していく。

2 - (1) 事業内容

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
景德鎮陶磁大学関係者を万博会場内の岐阜県催事に招聘するにあたって、多治見市政アドバイザーを通じて調整。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
岐阜県、景德鎮陶磁大学関係者2名
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
日時:6月9日 場所:万博会場内 参加者:景德鎮陶磁大学関係者2名
内容:万博催事「岐阜県の日」の視察
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
岐阜県催事や県産品展示の視察を通じて、陶磁器だけでなく、様々な岐阜県の魅力を知ってもらうことができ、関係を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

岐阜県催事や県産品展示の視察を通じて、本県の文化や魅力を知ってもらうことで、陶磁器作品の背景などを理解いただき、その上で意見交換を行うことで、双方の陶磁器産業の多様化・活性化に向け、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を図り、関係を深めることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・岐阜県催事を通じて、陶磁器以外の岐阜県の魅力を知ってもらうことができた
- ・岐阜県と中国景德鎮市との交流関係を深めることができた

●苦勞した点

- ・相手国との調整
- ・空港から万博会場までの送迎など、通訳がない場合のコミュニケーション

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博への招聘、意見交換を通じて交流を深めることで、レガシー創造へより寄与することができた。
陶磁器産地の多治見市と連携し、今後の交流について検討を行う。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・継続交流に向けた相手国との調整
- ・相手国との国際情勢



「岐阜県の日」のイベント視察



岐阜県催事に合わせて開催された
県産品展示を視察



万博会場内で昼食を取りながら意見交換

岐阜県・多治見市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	岐阜県・多治見市
相手国・地域	中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県を代表する地場産業の一つである陶磁器。その中でも「美濃焼」は、国の伝統的工芸品にも指定されており、国内トップシェアを誇る日本を代表する陶磁器である。しかしながら、県内の陶磁器産業は、人口減少などにより、生産が伸び悩み、後継者不足なども課題となっている。

イ 目標

万博を契機として、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を行うことにより関係を深め、双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ繋がる活動を実施していく。

2-(1) 事業内容

【事業名：景德鎮陶瓷大学関係者多治見市訪問事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

岐阜県が景德鎮陶瓷大学関係者を万博会場内の岐阜県催事に招聘。万博視察後、多治見市を訪問。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

岐阜県、多治見市、景德鎮陶瓷大学

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

期日：6月10～11日 場所：岐阜県多治見市内 参加者：景德鎮陶瓷大学関係者2名、各団体・施設等の長等 報道：なし

内容：美濃焼の産地において地元陶磁器関係者及び自治体関係者等と交流、意見交換

国際陶磁器フェスティバル美濃実行委員会事務局訪問、陶磁器意匠研究所視察、多治見陶磁器卸商業協同組合訪問、美濃焼ミュージアム視察、多治見市長表敬訪問、幸兵衛窯視察、美濃陶芸協会会長表敬訪問

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

意見交換では具体的な提案があり、双方の陶磁器関係においてより交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

双方の陶磁器産業の多様化・活性化などへ向け、両国を代表する陶磁器を通じた国際交流を図り、関係を深めることができた。10月の景德鎮陶磁博覧会に招待され、業界及び自治体関係者4名が参加した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点
陶磁器業界等、双方の交流を深めることができた。
- 苦労した点
相手国との各種調整。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・陶磁器業界等の交流の継続、具体的な提案への対応などを、市政アドバイザーでもあるコーディネーターの協力のもと引き続き検討していく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・交流の継続に向けた相手国との各種調整
- ・相手国との国際情勢



陶磁器意匠研究所研究生等と交流



陶磁器業界関係者と交流



美濃焼ミュージアム視察

岐阜県・関ヶ原町交流計画の 令和7年度進捗状況報告

自治体名

岐阜県・関ヶ原町

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県と関ヶ原町では、アメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」とベルギー王国「ワーテルロー古戦場」と連携し、「世界三大古戦場」として魅力を発信する取り組みを行っている。今回、万博を契機として世界三大古戦場交流を実施することにより、世界の古戦場の歴史的意義を学び、世界平和を考える機会とする。

イ 目標

古戦場関係者との交流を通じ、アメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」の歴史・文化に対する県民の国際理解を促進するとともに、関ヶ原古戦場を広く発信する。また、各古戦場が抱える課題を共有することで、古戦場運営に係る相互理解を進めるとともに、人的ネットワーク構築を図る。

2 - (1) 事業内容

【事業名】万博自治体催事「岐阜県の日」開催に合わせた万博会場内交流事業

①スケジュール

令和7年5月～6月 万博会場での交流実施に向けての意向確認、日程調整
令和7年6月10日「岐阜県の日」開催

②体制

岐阜県、岐阜県関ヶ原町、在名古屋米国領事館、アメリカパビリオン関係者、2025年日本国際博覧会協会

③内容 日 時 令和7年6月10日(火) 11:00～14:45

場 所 万博会場内「シャインハット」、「アメリカパビリオン」

内 容 シャインハットでの自治体催事「岐阜県の日」に米国関係者、博覧会協会関係者を招き、古戦場連携の取組を紹介。併せてアメリカパビリオンで、パビリオン関係者との交流を実施

④効果

各関係者に関ヶ原古戦場とゲティスバーグ古戦場とのこれまでの取組を紹介することで、岐阜県・関ヶ原町と米国の交流をPRすることができた。また、岐阜県催事に訪れた万博来場者に関ヶ原古戦場とゲティスバーグ古戦場との連携を紹介することで広く関ヶ原古戦場をPRすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】世界三大古戦場サミットの開催及び関連交流事業

①スケジュール

- ～令和7年9月 来岐・出演に向けた意向確認、サミットの内容調整
令和7年10月10日 関ヶ原小学校児童との交流事業実施
令和7年10月11日 関ヶ原で開催する武将イベント(大関ヶ原祭2025)オープニングイベントとして世界三大古戦場サミットを開催
海外古戦場関係者と関ヶ原中学校生徒との交流事業実施
令和7年11月8日 ゲティスバーグ大学留学生と関ヶ原小学校との交流事業実施

②体制

岐阜県、岐阜県関ヶ原町、ゲティスバーグ区、ゲティスバーグ観光協会、ゲティスバーグ国立軍事公園、ゲティスバーグ大学

③内容

③-1 海外古戦場関係者と関ヶ原小学校児童との交流

- 日 時 令和7年10月10日(金) 13:30～14:30
場 所 関ヶ原町立関ヶ原小学校体育館(岐阜県関ヶ原町)
内 容 海外古戦場との文化交流を図るため、関ヶ原小学校4～6年生が地元の伝統芸能である「関ヶ原合戦語り太鼓・剣舞」を海外古戦場関係者へ披露

③-2 世界三大古戦場サミット

- 日 時 令和7年10月11日(土) 10:00～12:00
場 所 関ヶ原ふれあいセンター大ホール(岐阜県関ヶ原町)
内 容 各古戦場関係者が、各国の歴史的転換点となった戦いについて、古戦場の使命や課題をテーマに意見を交換するとともに、歴史的な意義と平和の尊さを発信

③-3 海外古戦場関係者と関ヶ原中学校生徒との交流

- 日 時 令和7年10月11日(土) 14:30～16:30
場 所 関ヶ原ふれあいセンター視聴覚室(岐阜県関ヶ原町)
内 容 関ヶ原中学校3年生が、持続可能な関ヶ原古戦場をテーマに自ら考えた内容を海外古戦場関係者へ発表し、意見交換を実施

③-4 ゲティスバーグ大学留学生と関ヶ原小学校生徒との交流

- 日 時 令和7年11月8日(土) 12:30～14:30
場 所 関ヶ原小学校(岐阜県関ヶ原町)
内 容 ゲティスバーグ大学留学生が関ヶ原小学校児童との給食、レクリエーション等で国際交流を実施

④効果

ゲティスバーグ古戦場の歴史・文化に対する県民の国際理解が促進されたほか、各古戦場の歴史的意義と平和の尊さを世界に発信できた。また、ゲティスバーグ古戦場と更なる相互の連携、交流を継続することで合意した。加えて、海外関係者との異文化交流を通じ、地元小中学生が外国語や異文化に対して身近さを感じることで国際理解が深まったとともに、英語やジェスチャーで積極的にコミュニケーションを図ることで、国際感覚を育むことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】 ゲティスバーグ古戦場ガイドと関ヶ原史跡ガイドとの交流事業

①スケジュール

～令和7年10月 オンライン交流に向けての意向確認、日程調整、
令和7年12月19日 オンラインによるゲティスバーグ古戦場ガイドとせきがはら史跡ガイドとの交流

②体制

主催: 岐阜県関ヶ原町
協力: ゲティスバーグ国立軍事公園

③内容

日 時 令和7年12月19日(金) 8:30～9:30
場 所 関ヶ原町役場(オンライン)
内 容 ゲティスバーグ古戦場ガイドがせきがはら史跡ガイド(7名)とお互いのガイド方法や課題の共有、今後の連携の可能性について意見交換を実施

④効果

意見交換を通じて、双方がガイド手法や案内の工夫を共有し、ガイドのスキルアップを図ることができた。また、国際的な視点で古戦場の魅力を再確認し、相互理解が深まった。さらには共同企画でのパンフレット制作や将来的な現地交流の可能性も生まれるなど、継続的な連携に向けた土台作りにつながった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

交流事業実施により県民の国際理解の促進を図ることができたほか、各古戦場の歴史的意義と平和の尊さを世界に発信できた。また、ゲティスバーグ古戦場と更なる相互の連携、交流を継続することで合意した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・前回サミットから10年が経過し、関係者の異動等により各古戦場と連携した事業実施が難しくなっていたが、今回改めて各古戦場関係者が集うことにより人的ネットワークが再構築できた。
- ・関ヶ原町内の地元小中学生が、ゲティスバーグ古戦場関係者との交流を通じて、外国語や異文化に自然に触れ、主体的にコミュニケーションを図る姿が見られるなど、次世代の国際感覚育成にもつながった点が大きな収穫であり、関ヶ原ならではの学びの機会確保につながった。

●苦労した点

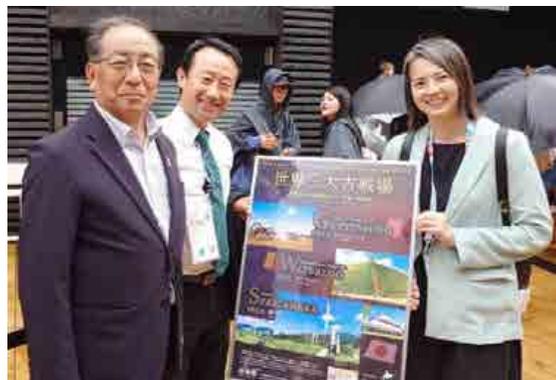
- ・米国の政府機関閉鎖の影響により、世界三大古戦場サミット直前に米国領事館関係者の来賓参加が出来なくなり、各種進行の変更調整が発生した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・今年度の交流を通じ、ゲティスバーグ古戦場との連携が一層強化され、万博閉会後も継続的に歴史的意義と平和の尊さを発信していくための基盤が形成された。
- ・また、町内小中学校では、海外古戦場関係者とのより一層の交流を経験したことで異文化交流への心理的ハードルが下がり、国際理解教育の充実に向けた共通認識が醸成された。これらの成果を踏まえ、交流を一過性のものとせず、継続的な学びの機会として発展させることで、関ヶ原の未来を担う人づくりに寄与する。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・ゲティスバーグ古戦場関係者の来日等に要する事業費や将来的な関ヶ原町民(小中学生や史跡ガイド)による現地訪問に要する経費の確保。
- ・小学校、中学校、史跡ガイドそれぞれの主体が次年度以降も事業を継続していくために、属人的ではなく標準化された仕組みづくりが必要。



万博会場内での交流



世界三大古戦場サミット



ゲティスバーグ古戦場関係者と
地元中学生の交流

岐阜県・関ヶ原町交流計画の 令和7年度進捗状況報告

自治体名

岐阜県・関ヶ原町

相手国・地域

ベルギー

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜県と関ヶ原町では、ベルギー王国「ワートルロー古戦場」とアメリカ合衆国「ゲティスバーグ古戦場」と連携し、「世界三大古戦場」として魅力を発信する取り組みを行っている。今回、万博を契機として世界三大古戦場交流を実施することにより、世界の古戦場の歴史的意義を学び、世界平和を考える機会とする。

イ 目標

古戦場関係者との交流を通じ、ベルギー王国「ワートルロー古戦場」の歴史・文化に対する県民の国際理解を促進するとともに、関ヶ原古戦場を広く発信する。また、各古戦場が抱える課題を共有することで、古戦場運営に係る相互理解を進めるとともに、人的ネットワーク構築を図る。

2 - (1) 事業内容

【事業名】万博自治体催事「岐阜県の日」開催に合わせた万博会場内交流事業

①スケジュール

令和7年5月～6月 万博会場での交流実施に向けての意向確認、日程調整
令和7年6月10日「岐阜県の日」開催

②体制

岐阜県、岐阜県関ヶ原町、ベルギーパビリオン関係者、2025年日本国際博覧会協会

③内容

日時 令和7年6月10日(火) 11:00～14:45

場所 万博会場内「シャインハット」、「ベルギーパビリオン」

内容 シャインハットでの自治体催事「岐阜県の日」に米国関係者、博覧会協会関係者を招き、古戦場連携の取組を紹介。併せてベルギーパビリオンで、パビリオン関係者との交流を実施

④効果

各関係者に関ヶ原古戦場とワートルロー古戦場とのこれまでの取組を紹介することで、岐阜県・関ヶ原町とベルギーの交流をPRすることができた。また、岐阜県催事に訪れた万博来場者に関ヶ原古戦場とワートルロー古戦場との連携を紹介することで広く関ヶ原古戦場をPRすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】世界三大古戦場サミットの開催及び関連交流事業

①スケジュール

～令和7年9月 来岐・出演に向けた意向確認、サミットの内容調整

令和7年10月10日 関ヶ原小学校児童との交流事業実施

令和7年10月11日 関ヶ原で開催する武将イベント(大関ヶ原祭2025)オープニングイベントとして世界三大古戦場サミットを開催
海外古戦場関係者と関ヶ原中学校生徒との交流事業実施

②体制

岐阜県、岐阜県関ヶ原町、ベルギー王国ブラバンワロン州、駐日ベルギー王国大使館

③内容

③-1 海外古戦場関係者と関ヶ原小学校児童との交流

日時 令和7年10月10日(金) 13:30～14:30

場所 関ヶ原町立関ヶ原小学校体育館(岐阜県関ヶ原町)

内容 海外古戦場との文化交流を図るため、関ヶ原小学校4～6年生が地元の伝統芸能である「関ヶ原合戦語り太鼓・剣舞」を海外古戦場関係者へ披露

③-2 世界三大古戦場サミット

日時 令和7年10月11日(土) 10:00～12:00

場所 関ヶ原ふれあいセンター大ホール(岐阜県関ヶ原町)

内容 各古戦場関係者が、各国の歴史的転換点となった戦いについて、古戦場の使命や課題をテーマに意見を交換するとともに、歴史的な意義と平和の尊さを発信

③-3 海外古戦場関係者と関ヶ原中学校生徒との交流

日時 令和6年10月11日(土) 14:30～16:30

場所 関ヶ原ふれあいセンター視聴覚室(岐阜県関ヶ原町)

内容 関ヶ原中学校3年生が、持続可能な関ヶ原古戦場をテーマに自ら考えた内容を海外古戦場関係者へ発表し、意見交換を実施

④効果

ワートルロー古戦場の歴史・文化に対する県民の国際理解が促進されたほか、各古戦場の歴史的意義と平和の尊さを世界に発信できた。また、ワートルロー古戦場と更なる相互の連携、交流を継続することで合意した。加えて、海外関係者との異文化交流を通し、地元小中学生が外国語や異文化に対して身近さを感じることで国際理解が深まったとともに、英語やジェスチャーで積極的にコミュニケーションを図ることで、国際感覚を育むことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】 ワーテルロー古戦場ガイドと関ヶ原史跡ガイドとの交流事業

①スケジュール

～令和7年5月 オンライン交流に向けての意向確認、日程調整、
令和7年6月25日 オンラインによるワーテルロー古戦場ガイドとせきがはら史跡ガイドとの交流

②体制

主催: 岐阜県関ヶ原町
協力: ワーテルロー古戦場 Guides1815

③内容

日時 令和7年6月25日(金) 16:30～17:30
場所 関ヶ原町役場(オンライン)
内容 ワーテルロー古戦場ガイドがせきがはら史跡ガイド(6名)とお互いのガイド方法や課題の共有、今後の連携の可能性について意見交換を実施

④効果

意見交換を通じて、双方がガイド手法や案内の工夫を共有し、ガイドのスキルアップを図ることができた。また、国際的な視点で古戦場の魅力を再確認し、相互理解が深まった。さらには共同企画でのパンフレット制作や将来的な現地交流の可能性も生まれるなど、継続的な連携に向けた土台作りにつながった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

交流事業実施により県民の国際理解の促進を図ることができたほか、各古戦場の歴史的意義と平和の尊さを世界に発信できた。また、ゲティスバーグ古戦場と更なる相互の連携、交流を継続することで合意した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・前回サミットから10年が経過し、関係者の異動等により各古戦場と連携した事業実施が難しくなっていたが、今回改めて各古戦場関係者が集うことにより人的ネットワークが再構築できた。
- ・関ヶ原町内の地元小中学生が、ワーテルロー古戦場関係者との交流を通じて、外国語や異文化に自然に触れ、主体的にコミュニケーションを図る姿が見られるなど、次世代の国際感覚育成にもつながった点が大きな収穫であり、関ヶ原ならではの学びの機会確保につながった。

●苦労した点

- ・招聘のための行程の調整に時間を要したほか、当初想定していた海外関係者の来日が困難となり、各種進行の変更調整が発生した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・今年度の交流を通じ、ゲティスバーグ古戦場との連携が一層強化され、万博閉会後も継続的に歴史的意義と平和の尊さを発信していくための基盤が形成された。
- ・また、町内小中学校では、海外古戦場関係者とのより一層の交流を経験したことで異文化交流への心理的ハードルが下がり、国際理解教育の充実に向けた共通認識が醸成された。これらの成果を踏まえ、交流を一過性のものとせず、継続的な学びの機会として発展させることで、関ヶ原の未来を担う人づくりに寄与する。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・ワーテルロー古戦場関係者の来日等に要する事業費や将来的な関ヶ原町民(小中学生や史跡ガイド)による現地訪問に要する経費の確保。
- ・小学校、中学校、史跡ガイドそれぞれの主体が次年度以降も事業を継続していくために、属人的ではなく標準化された仕組みづくりが必要。



世界三大古戦場サミット



ワーテルロー古戦場関係者と
地元小学生との交流



ワーテルロー古戦場ガイド関係者と
関ヶ原史跡ガイドとの交流

岐阜市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

岐阜県岐阜市

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岐阜市と杭州市が交流を開始してから、60年という年月が経ち、当時のことを知る人は徐々に少なくなっている。長きにわたる両市の友好の絆を途絶えさせないためには、事業の継続と、若い世代への継承が必要である。これからの担う青少年に事業参加を促すことで、国内外から注目度が高い万博を一つの契機とし、先人が築き上げてきた日中友好の絆を未来へとつなげていきたい。

イ 目標

若い世代を中心に、岐阜市と杭州市との友好の絆を再確認し、友好関係の向上を図る。また、岐阜市の認知度向上、多文化共生社会への意識の醸成につなげる。

2 - (1) 事業内容

【杭州×岐阜 交流イベント in 万博】

①スケジュール:

2024年2月 万博国際交流プログラムモデル事業として、杭州芸術学校を招聘。ながら児童合唱団も共演し、岐阜市内で記念公演を開催。

2024年9月 岐阜市職員が杭州市を訪問し、万博でのイベント共同開催を依頼。2024年12月 杭州市職員が岐阜市を訪問し、イベントについて協議。

2025年4月 杭州市職員が岐阜市及び万博会場にて、岐阜市職員と万博共同開催イベントに向けて最終協議。

2025年7月 「杭州デー」に合わせ、大阪・関西万博中国パビリオンにて、共同事業を実施。

②体制:

岐阜市国際課及び杭州国際貿易促進委員会が主体となり、共同イベントを実施した。杭州芸術学校、「天眼杯」中国(杭州)国際少年児童漫画コンテスト代表団、ながら児童合唱団、岐阜日中文化協会等の関係団体と協力し、イベントを行った。

③内容:

7月13日 大阪・関西万博中国パビリオンで杭州芸術学校とながら児童合唱団による共同ステージイベントを実施したほか、岐阜日中文化協会による日中青少年漫画コンクールの展示を行った。事業については2月の予算発表及び7月8日に記者発表済。

④効果:万博を通じて、杭州市との友好関係の向上や岐阜市の認知度向上が達成できた。

- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

万博会場内



両市の青少年で杭州市歌を披露



杭州芸術学校の演目



日本のアニメソングを披露



日中の青少年の漫画作品を展示

2 - (2) 事業内容

【杭州×岐阜 交流イベント in 岐阜】

万博会場外

①スケジュール:

2024年2月 万博国際交流プログラムモデル事業として、杭州芸術学校を招聘。ながら児童合唱団も共演し、岐阜市内で記念公演を開催。

2024年9月 岐阜市職員が杭州市を訪問し、杭州芸術学校に共同開催イベントへの出演を依頼。

2025年7月 岐阜市内において、事業実施。

②体制:

杭州芸術学校、「天眼杯」中国(杭州)国際少年児童漫画コンテスト代表団、岐阜市少年訪中団、杭州市青少年訪日団等の関係団体と協力し、イベントを行った。

③内容:

7月15日 岐阜市のぎふしんフォーラムにて、杭州芸術学校と中高生の友好訪中団・訪日団などによる記念公演を開催。市内の小中高生及び一般市民を中心に約800名が参加した。また、会場では「天眼杯」中国(杭州)国際少年児童漫画コンテスト代表団による漫画作品も展示した。

7月16日 岐阜市内の友好校2校にて、青少年交流を行った。教育委員会や学校など関係団体と協力して実施し、約600人の児童生徒が交流を深めた。

事業については2月の予算発表及び7月8日に記者発表済。

④効果:公演や学校訪問を通じて、杭州市との友好関係の向上や両市の友好関係に対する市民の理解促進が達成できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型:ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 イ 万博参加国・地域の関係者



両市の青少年が友好の歩みを紹介



杭州芸術学校による演舞



演者全員による合唱



青少年の漫画作品を展示



岐阜市の児童による学校紹介



杭州市の学生による演奏を披露



高校の部活動を体験



クイズ大会で交流を深める

2 - (3) 事業内容

【CONNECT万博～万博振り返りイベント in 岐阜～】

①スケジュール:

2025年2月 日本国際博覧会協会を通じて、岐阜にゆかりのあるテーマ事業プロデューサーに出演依頼。日程・内容等の調整を進める。

2025年10月 イベント出演団体の調整。イベント内容についても協議を進めている。

2026年2月 岐阜市内にてイベントを実施予定。

②体制: 岐阜市国際課及び講師、出演団体等で事業実施に向けて調整を進めている。

③内容:

2026年2月28日 岐阜市のみんなの森 ぎふメディアコスモスにて、万博テーマ事業プロデューサーによる講演会を開催予定。

合わせて、万博に出演しながら児童合唱団や、杭州市出身の琵琶奏者による演奏を披露。また、大阪・関西万博公式キャラクターミャクミャクも出演して、岐阜市の万博国際交流プログラム事業の成果を振り返る。

④効果: イベントを通じて、両市の友好関係に対する市民の理解促進が見込める。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

万博会場外

2 - (4) 事業内容

【杭州市青少年友好訪日団の受入】

①スケジュール:

2024年12月～2025年6月 岐阜市教育委員会社会・青少年教育課及び杭州市教育局により、渡航計画、交流計画を立案。

2025年5月 岐阜市長から杭州市長へ招聘状を送付。

2025年7月 杭州市青少年友好訪日団の受入実施。

②体制: 岐阜市教育委員会社会・青少年教育課及び杭州市教育局で連絡調整。岐阜市と市立学校4校(友好校)で受入準備。

③内容:

7月14日 岐阜市内の友好校を訪問し、青少年交流を実施。日中友好庭園(岐阜公園内)を視察。ぎふ長良川鶺鴒観覧船に乗船。

7月15日 岐阜市内施設(岐阜城、長良川うかいミュージアム)を視察。「杭州×岐阜 交流イベント in 岐阜」に参加。市役所、市立図書館視察。市長表敬訪問実施。

7月16日 岐阜市内の友好校を訪問し、青少年交流を実施。

④効果: 学校訪問に係る事前学習、当日の交流活動、事後の振り返り活動等を通じて、杭州市と岐阜市との絆を実感すると共に、互いの国の文化の理解を深めることができた。また、岐阜市内視察を通じて、両市の友好関係を深め、岐阜市の魅力を発信することができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

万博会場外



友好校での歓迎レセプション 友好の絆



青少年による両国の文化発信



中学校訪問時の全校生徒による歓迎会



高等学校訪問時の武道体験

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

・岐阜市と杭州市との友好関係についての認知度向上

→ 万博会場での共同イベントを通じて、国内外から参加した約200名の来場者に、両市の友好関係について知ってもらうことができた。

・交流事業の次世代への継承

→ この事業に参加した青少年へのアンケートでは、今後の中国や杭州市との交流について「とても持ちたい」と「持ちたい」と答えた参加者が合計で95%に達するなど関心を示しており、参加者の国際的な視野を広げる重要な機会となった。

・岐阜市民の多文化共生への理解促進

→ この事業に参加した青少年へのアンケートでは、今回のイベントを通して中国や杭州市に対する興味・関心が高まったかという質問に対し、「とても高まった」と「高まった」と答えた参加者が合計で92%を占め、多文化共生理解へのきっかけづくりができたと思われる。

・岐阜市と杭州市の友好関係向上

→ コロナ禍を経て対面での交流が減少する中、共同イベントを実施するため、両市間で何度か協議を重ねたり顔を合わせたりする中で、互いの絆が深まった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

近年、友好都市として共同でイベントを開催する機会がなかったため、万博で共同イベントを実施することができ、両市にとって非常に良い交流実績となった。対面で協議等を重ね、無事にイベントを開催することができたことで、コロナ禍で少し疎遠となっていた担当レベルでの関係がより深まったと思う。また、世界中が注目する万博という舞台で両市の取り組みが披露できたことは、岐阜市と杭州市の子どもたちにとって非常に貴重な体験となった。

●苦勞した点

万博全体やパビリオンに関する情報の入手に苦勞した。また、万博会場で実施するイベントのステージ確保については、直前までその交渉に苦慮した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博を契機に、さらに深まった友好都市の絆を、より一層強固なものとしていくために行政交流や青少年交流、文化交流など様々な分野で、今後も事業を継続して実施していく予定。

特に、次世代を担う青少年交流を中心に、万博で得た成果をさらなる両市の友好交流推進につなげていけるよう、対面で交流できる機会を創出していきたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

渡航や受入などの交流事業は、国の情勢に左右されやすい一面もあり、綿密に計画していたとしても地方政府のレベルでは対処できない問題である。

岐阜市と杭州市は、今回の万博を契機に友好関係がさらに深まり、また、これまで長きにわたり交流を続けてきた実績もあるので、先人たちの友好への思いを引き継ぎ、情勢等に左右されることなく、今後もこうした草の根レベルでの交流を続けていきたい。

恵那市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

岐阜県恵那市

相手国・地域

ポーランド

1 背景と目標等

ア 背景と目的

恵那市は人口47,774人(令和2年国勢調査人口)でありながら、面積は504.24平方キロメートルと広く、典型的な中山間地域の都市で、大学進学や就職の機会に市外に転出する若者が多い。今後も生産年齢人口も減少していく見込みで、少子高齢化とともに人口減少対策が大きな課題です。このような状況の中、本市は、「人・地域・自然が輝く交流都市～誇り・愛着を持ち住み続けるまち～」を将来像に掲げ、「はたらく・たべる・くらす・まなぶ」を重点分野として各種施策、事業を進めています。交流人口の増加は、人口減少に悩む地方自治体の生命線とも言えるもので、観光交流や地域間交流、国際交流を通じて交流人口を確保し、まちの元気を維持していく必要があります。

当市は、東京オリンピックとポーランド共和国カヌーチームのホストタウン事業をきっかけに、同国との交流が始まり、様々な交流を積み重ねてきました。2025日本国際博覧会においては、同国との交流をさらに深めるものにするべく、様々な取組みを進めました。

イ 目標

ポーランド共和国や大阪・関西万博2025の関係者との交流により、次代を担う児童青少年に対し、グローバル人材の育成につながるきっかけを提供、郷土の誇りや国際理解、多文化共生意識を向上させるとともに、交流人口の拡大につなげます。

2 - (1) 事業内容

【事業名】ポーランドパビリオン憲法記念日式典及び舞踊パレード参加事業(万博会場内)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和6年3月に関係者とウェブ協議を開始し大枠決定。同年11月にポーランド12月に市内の児童生徒を対象に公募を開始、参加者を決定。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

ポーランド貿易投資庁大阪関西万博部、恵那市と岐阜県ポーランド交流協会事務局で協議の上、実現。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年5月3日(祝)午後1時30分ポーランドパビリオンに集合、14時からパビリオン前で式典開始。式典終了後、引率者とともにパレードに参加。

市内の小中高生19名は、パビリオン関係者、岐阜県と交流のあるシロンスク県の舞踊団シロンスク団員とともに憲法記念日式典及び舞踊パレードに参加。パレード終了時に大屋根リングで関係者と記念撮影。その後関係者の引率によりパビリオン見学を行いました。小坂喬峰恵那市長、阿部伸一郎岐阜県ポーランド交流協会長、水野正敏岐阜県議会議長、酒井弘貴岐阜県国際交流課長も引率者として式典及びパレード、パビリオン見学に参加し、交流を深めました。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

参加した児童生徒からは、「海外の国の行事に参加できたことが非常に名誉で貴重な経験になった」との感想がもらえました。

観光経済新聞のウェブ記事にも取り上げていただくことができ、合わせてポーランドパビリオンや同国大使館、同国広報文化センターのSNSでも大きく発信され、同国との交流が知られることとなりました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】ポーランドジャズトリオ公演事業及び青少年交流事業(万博会場外)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和5年12月にポーランド広報文化センター(東京都)より、アーティスト派遣について協議があり、令和6年1月に派遣アーティストが、ポーランドジャズ財団主催アジアツアーを行う「レマンチク・ゴリツキ・サルネツキ・トリオ」に決定。会場、日時、必要資機材等の調整を経て、(公財)岐阜県国際交流センターの支援を受け実施にいたりしました。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

ポーランドジャズ財団:アーティストアテンド、セトリスト調整他。ポーランド広報文化センター:ポーランドジャズ財団との調整、国内移動支援。

岐阜県ポーランド交流協会・恵那市:公演主催、会場確保、チラシポスター作製、集客、必要資機材準備、滞在費用負担、地域調整。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

「レマンチク・ゴリツキ・サルネツキ・トリオ ジャズ公演 in 五毛座」

令和7年5月14日(水)18:30開場・19:00開演、五毛座(恵那市飯地町の地芝居小屋)で、ポーランドジャズ公演を開催。200名の観客が集まり、普段聞く機会のないポーランドジャズを歌舞伎公演を行う会場で楽しんだ。遠くは愛知県や長野県からも観客が訪れていました。公演の様子は、市広報のみならず、参加者のSNSや、ポーランドジャズ財団のインスタグラム等で広く世界へ発信されました。

「児童青少年交流事業」

令和7年5月15日(木)10:30、恵那北中学校(恵那市笠置町河合)に、恵那北中学校生徒、恵那北小学校、中野方小学校、飯地小学校児童生徒教職員等168名が参加、初めてのジャズ演奏を間近で楽しみました。また、その様子は岐阜新聞にも取り上げられ、岐阜県内に広く知られました。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

多くの市民に加え、ジャズ公演には参加しづらい児童青少年については、小中学校の協力により交流事業を実施することができました。次代を担う参加児童生徒に一流の演奏に触れるという特別な体験を得る機会を作ることができました。報道機関による放送や新聞記事への掲載により、ポーランド共和国との交流を広く周知することができた。また、関係者以外でも、ジャズ公演に来場した方が、各々のSNSに好意的な投稿を多くしていただくことで、口コミ情報が多く流れました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】岐阜県の日における恵那市議会議員団パビリオン訪問事業(万博会場内)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年4月22日に岐阜県の日開催について岐阜県知事より記者発表があり、恵那市内のたんぼぼ作業所の参加も発表された。5月に市議会と調整し、市議会議員団で岐阜県の日への参加とポーランドパビリオンを公式訪問することを決定しました。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

恵那市、恵那市議会、岐阜県ポーランド交流協会が参加。ポーランドパビリオンが貸切体制で受入いただけました。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年6月9日、パヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド共和国大使と現地で合流し、岐阜県の日イベントを大使とともに観覧し、パビリオンを見学しました。

※恵那市報道関係者に報道発表を行いました。「岐阜県の日イベント」自体は東海地方のテレビ局の取材がありました。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

体調不良者以外の全ての市議会議員が、市長、副市長及び大使とともにポーランドパビリオンを公式に訪問し、交流を深めることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【事業名】 恵那北中学校修学旅行生の事前学習(万博会場外)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和7年4月に万博協会に事前学習としてオンライン学習を申込、6月10日に実施。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
万博協会 : オンライン学習教材の提供
恵那市立恵那北中学校: 授業としての設定、オンライン学習の実施
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年6月10日(火)
※修学旅行生の万博訪問については、恵那市報道関係者に報道発表を行った。
※一連の取材の中、メーテレの取材も入り、学習の風景が放送された。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
修学旅行先として万博会場を訪れる中学3年生が、万博について事前学習することで、万博に対する理解度が上がり、訪問時の理解度の向上に寄与した。
知名度の高い番組で紹介されたことから、岐阜県内外に交流の様子が知れ渡りました。なお、番組のアーカイブは、まだ番組YouTube内で視聴可能。
『メーテレニュース 岐阜の中学生が修学旅行で大阪・関西万博へ 初めて触れた“世界”から得たものとは【こどものマナビバ】』
<https://www.youtube.com/watch?v=-Su6m6Vj1Bk>
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (5) 事業内容

【事業名】 ポーランドパビリオンによる恵那北中学校修学旅行生の招待(万博会場内)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和6年12月より修学旅行スケジュールを確認、令和7年4月に正式に訪問を打診し快く了承を得た。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
ミレフスキ大使より提案を受け、恵那北中学校・鈴木教頭と協議。恵那市がポーランドパビリオンとの間で調整を行い、招待に至った。
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年6月19日に恵那北中学校修学旅行生27名及び引率教員4名がポーランドパビリオンを訪問。訪問時には、名古屋テレビの「ドデスカプラス」のディレクター、カメラが帯同し、恵那北中学校が訪問に至る経緯から訪問の様子まで、東海エリア3県で放送されました。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
訪問した31名全員にポーランドのピンバッジを政府副代表ほか職員が取り付けてくれ、また見学も貸切の状態で行われた様子が、東海エリアで非常に知名度のある名古屋テレビのドデスカプラスで放映されたことは、生徒にとっても誇らしく特別な体験でした。
また、知名度の高い番組で紹介されたことから、岐阜県内外に交流の様子が知れ渡りました。なお、番組のアーカイブは、まだ番組YouTube内で視聴可能。
『メーテレニュース 岐阜の中学生が修学旅行で大阪・関西万博へ 初めて触れた“世界”から得たものとは【こどものマナビバ】』
<https://www.youtube.com/watch?v=-Su6m6Vj1Bk>
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (6) 事業内容

【事業名】日本美術技術博物館マンガと中山道広重美術館共同展示事業(万博会場外・内)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年1月に、日本美術技術博物館マンガより、中山道広重美術館における共同展示事業の打診があり、協議を重ねてきて、実施に至りました。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

日本美術技術博物館マンガ:作家との調整、展示物の準備、日本への発送、館長、担当者、通訳、マテウシュ夫妻の5名が恵那市を来訪(8/9-8/12)

中山道広重美術館 :共同展示事業の実施、集客、アーティストトーク及びワークショップの募集、準備、実施

恵那市・岐阜県ポーランド交流協会:両者の調整、必要資金の調達、現地滞在支援。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年6月19日(木)から8月24日(日) 共同展示 マテウシュ・コウエク ～さまよう街～ 場所:中山道広重美術館2階展示室

令和7年8月10日(日) 午後1時30分 アーティストトーク(岐阜県内外から約40名が参加) 場所:同上

令和7年8月11日(月・祝)午後1時30分 ドローイングワークショップ(事前登録12名が受講) 場所:中山道広重美術館3階セミナールーム

令和7年8月12日(火) 午前より終日 一行とともに中山道広重美術館副館長他2名が同行し、ポーランドパビリオンを訪問、交流を行いました。

※恵那市報道関係者に報道発表を行い、岐阜新聞社の取材あり。

ポーランドパビリオンのSNSでは、万博会場においてマテウシュ・コウエク氏と中山道広重美術館学芸員により、ポーランドパビリオンと中山道広重美術館での企画展への来場の呼びかけが行われた。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

日本文化、浮世絵に影響を受けたポーランド・クラクフ市で活躍するアーティストの作品を広く多くの方に観覧いただくとともに、本人による解説、猫の書き方の指導などを通じた交流を行うことができました。ホスタウン合宿地や広重が絵を描いたとされる中山道の甚平坂、坂折棚田や岩村城下町など広く恵那市を訪問。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (7) 事業内容

【事業名】ポーランドパビリオンにおけるレガシー継承に関する協議(万博会場内)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

事前に主旨及び訪問日程を調整し、市長、岐阜県ポーランド交流協会長、市議会副議長と訪問。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

ポーランドパビリオン :エリザ・クロノフスカ・シヴァク政府副代表、イェジー・ジコヴィツキ館長、マレック・ジェベツキ副館長 他

恵那市 :恵那市長、岐阜県ポーランド交流協会長、恵那市議会副議長、交流連携課長

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和7年9月12日(金)午後4時にパビリオンを訪問し、ポーランドパビリオンの壁を飾る木組みと、展示物の中の何かをご寄贈いただきたい旨、恵那市においてポーランド交流が始まったホスタウンに隣接する恵那北中学校と市役所に木組みをご寄贈いただき設置したいとの提案書を持参し、寄贈について依頼を行った。12日の時点では、木組みと展示物「Aura」についてポーランド貿易投資庁に協議するとの回答をいただいた。なお、木組みについては全く問題ないと考えている旨の回答を得た。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

移設事業が実現した場合には、ポーランドパビリオンのレガシーを継承する唯一のモニュメントが恵那市にできることになり、友好交流の証としてまたポーランド等の方々の訪問すべき場所として活用できる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (8) 事業内容

【事業名】ポーランドナショナルデーへの招待(万博会場内)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和7年4月より招待について協議。9月12日に正式に招待状を受領、10月1日のポーランド共和国ナショナルデーに参加。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
ポーランドパビリオン イベント、式典への招待
岐阜県ポーランド交流協会 役員等参加者の調整
恵那市 ポーランドパビリオン関係者との協議、調整
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
日時:令和7年10月1日 午後1時 ポーランドパビリオン訪問・見学
午後2時 ポーランドナショナルデーパレードに参加
午後3時30分 記念式典に参加
参加者:市長、岐阜県ポーランド交流協会会長他、計14名が参加し、交流を深めました。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
公式行事に参加することで、同国との交流を深めることができました。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (9) 事業内容

【事業名】ポーランドパビリオン木組みモニュメントの移設(万博会場外)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和7年9月よりポーランドパビリオンとの協議を開始、10月に入り、木組みについて承諾を得た。
令和7年11月 恵那市臨時議会において、移設費用の予算を議決
令和7年11月 実施主体の岐阜県ポーランド交流協会にて補正予算案を議決
令和7年12月 岐阜県より当該事業に対する補助金の内示を受ける。
移設工事を発注、手配を開始。
令和8年2月 モニュメント移設工事完成予定
令和8年3月 8日(日)に恵那北中学校において、完成記念式典を開催予定
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
ポーランドパビリオン エリザ・クロノフスカ・シヴァク政府副代表、マウゴジャータ・シュミット様をご来賓で式典に参加予定
駐日ポーランド大使館 パヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド共和国大使をご来賓として式典に参加予定
岐阜県ポーランド交流協会 移設工事及び式典の開催、式典参加者の調整
恵那市・岐阜県 予算の確保、式典参加者の調整
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
日時:令和8年3月8日 午後1時 恵那北中学校においてモニュメントの除幕式、完成式典を開催予定。市報道機関に周知。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
移設事業が実現した場合には、ポーランドパビリオンのレガシーを継承する唯一のモニュメントが恵那市にできることになり、友好交流の証としてまたポーランド等の方々の訪問すべき場所として活用できる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (10) 事業内容

【事業名】日本美術技術博物館マンガ中学生訪問交流事業(万博会場外)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和6年11月に日本美術技術博物館マンガと中学生、学芸員の訪問交流について協議、了承をいただく。

令和7年8月に恵那市来訪の際、再確認。同年11月にも再確認。

令和8年3月26日に日本出国、27日、28日に同館及び付随する日本語学校を訪問し、交流予定。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

日本美術技術博物館マンガ : 中学生、学芸員の受入れ

岐阜県ポーランド交流協会及び中山道広重美術館: 事業の実施主体

恵那市 : 予算の確保

(公財)伊藤青少年育成奨学会 : 助成金の交付

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和8年3月27日(金)午後、28日(土)に同館及び日本語学校を訪問し、交流予定

こども版画コンクール入賞者の中学生2名、中山道広重美術館学芸員1名、付き添いの教員1名、アテンド職員1名が訪問

先方は、館長、日本語学校担当ヴィオレッタ・ラスコフスカ様等が対応予定。

事業については、全員協議会及び報道関係者へ2月に周知予定。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

中学生という多感な時期に恵那市と交流の深いポーランド共和国を訪れ、現地の人たちと交流するという特別な体験をしてもらうことで、国際交流や多文化共生意識の醸成を図るとともに、将来を考えるきっかけとなることを期待。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

【会期前】

令和5年5月、ワルシャワで行われたポーランドオリンピック委員会主催の公式行事等に参加した際、駐日ポーランド大使に調整いただき、万博を担当するポーランド貿易・投資庁との面会の機会が設けられました。面会の際には、Grzegorz Piechowiak長官(当時)より、同国の万博参加に対する協力を求められました。また、担当部署のEliza Klonowska-Siwakポーランド政府副代表、担当者の1人マウゴジャータ・シュミット様とも直接面会、名刺交換をすることができ、会期前から交流事業についての協議を行うことができました。その後も、ポーランドパビリオンの企画に深く関わる日本美術博物館マンガ館のKatarzyna Nowak館長ご一行の恵那市への招待、恵那市施設の中山道広重美術館と日本美術技術博物館マンガとの友好協力に関わる協定の締結が進みました。また、岐阜県と友好協力の覚書を結んだシロンスク県の舞踊団の恵那公演等も行われました。さらには、外交のために訪日していた大臣も観光のため大使の同行で当市を訪れるなど、様々な交流が進みました。

【会期中】

市長及び岐阜県ポーランド交流協会長(事務局:恵那市内)が会期中に4回(内2回は在京ポーランド大使同行)ポーランドパビリオン訪れるとともに、恵那市内においても、地芝居小屋におけるジャズ公演や中山道広重美術館と日本美術技術博物館マンガの共同企画展を開催するなど、同国との交流を推進することができました。さらには、ポーランドパビリオンを象徴する壁面を飾った木組みの意匠の一部を恵那市内に移設展示する旨の協議を行い、了承いただきました。

【会期後】

3月8日(日)に、ミレフスキ大使や前在ポーランド日本国大使の宮島昭夫様などを招待し、ポーランドパビリオン木組みの意匠の移設展示完成式典の開催を予定しています。また、初めての試みとして、日本美術技術博物館マンガと市内中学生との渡航交流事業を計画しています。木組みの意匠は、ホストタウン事業時の合宿地に隣接する恵那北中学校入口と恵那市役所エントランスの壁面に設置します。これは、マンガ館との今後の交流を含め、会期後も同国との交流を推進していく象徴となるものです。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

当市の次代を担う、児童青少年にとって、5月3日の憲法記念日記念式典とパレードへの参加、中学校体育館におけるポーランドジャズトリオとの交流事業、また修学旅行生の招待など人生における特別な体験を提供することができたのが、一番良かった点と考えています。また、パビリオンの木組みの意匠の移設についても承を得て現在移設工事を行っており、今後の同国との交流の象徴として活用していきます。

●苦労した点

当市にとって、会期前から様々な交渉の窓口になってくれる旧知の方々がパビリオンにいらっしゃったのも、様々な事業を進めるにあたり大変ありがたかったのですが、人気のパビリオンでもあり、特にナショナルデーのあたりが会期終了直前ということもあり、様々な事柄についての決定がなかなか回答いただけなかったことが一番苦労した点です。また、特に終盤当たりの入場チケットの確保も大変苦労しました。しかし、電話やメールのみならず、WhatsAppでのやり取りを日本語で行うことができる方々がいらっしゃったのが心強かったです。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今年の3月8日には、パヴェウ・ミレフスキ駐日ポーランド大使や前在ポーランド日本国大使の宮島昭夫様などをご来賓に迎え、ポーランドパビリオン木組みの意匠の移設展示の完成式典を行います。この展示は恒久的なものとして設置工事を行い、まさに大阪・関西万博を契機としたレガシーとして残していくものとなります。また初めての試みとして、3月下旬に市内中学生を同国クラクフ市の日本美術技術博物館マンガに連れて行き、交流事業を行う予定で調整を進めています。次年度においても、ポーランド広報文化センター（東京）とポーランドジャズ財団の協力により、昨年に引き続きポーランドジャズ公演を行う計画で調整を進めています。こうした渡航経費や公演の経費については、当市が発祥の地である株式会社バローホールディングスの創業者が創設された（公財）伊藤青少年育成奨学会や、岐阜県の外郭団体である（公財）岐阜県国際交流センターに経費の一部をご支援いただき実施していきます。今後も、日本美術技術博物館マンガと中山道広重美術館との交流や、ポーランド広報文化センターを介した同国アーティストの恵那公演の開催等、特に児童青少年に特別な体験を提供していきます。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

やはり、一番の課題となるのは財源です。今回、万博国際交流プログラムということで、初年度は直接対象経費に充ちいただき、次年度からも特別交付税による財政支援をいただけたのは、予算計上していく上で大変ありがたいものでした。今後を見据え、政府や諸団体の様々な助成事業を調べていますが、なかなかフィットしたものがみつからないのが現状です。今後、特別交付税などでも良いので、交流事業に対する何らかの財政支援制度が設けられると、交流事業を実施していくにあたり、非常な追い風になると思います。



ポーランドパビリオン憲法記念日式典
及び舞踊パレード参加①



ポーランドパビリオン憲法記念日式典
及び舞踊パレード参加②



ポーランドジャズトリオ恵那公演
恵那市飯地町五毛座



ポーランドジャズトリオ恵那公演
小中学生との交流事業



2025日本国際博覧会岐阜県の
恵那市議会議員団パビリオン訪問事業



ポーランドパビリオンによる恵那北中学校
修学旅行生の招待



共同企画展「マテウシュ・コウエク さまよう街」
アーティストトークの様子



共同企画展「マテウシュ・コウエク さまよう街」
ドローイングワークショップの様子



ポーランドナショナルデー
記念パレード参加の様子

八百津町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	岐阜県八百津町
相手国・地域	リトアニア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本町は、木曾川の清流と豊かな自然に恵まれた人口9,704人(令和7年12月1日現在)のまちです。20代を中心に転出超過が続いており少子高齢化が進んでいる。リトアニア共和国とは、第2次世界大戦中、何千人もの尊い命を救った外交官杉原千畝氏をきっかけに交流している。2019年には、本町とリトアニア共和国のカウナス市の間で、文化、教育、経済面で相互協力の合意を締結。万博を契機に、お互いの文化や歴史を学ぶ機会を通じて、交流をさらに発展させる。

イ 目標

町民の国際交流に対する理解を高める。

2 - (1) 事業内容

【事業名】町民海外派遣交流事業

①スケジュール

2024年8月～ リトアニア関係者へ協力依頼
2025年5月21日 参加者選考
2025年6月11日 第1回参加者事前勉強会
2025年7月29日 第2回参加者事前勉強会
2025年8月24日 杉原まどか氏講演会参加及び記念館見学
2025年9月19日 第3回参加者事前勉強会
2025年9月29日 出発式
2025年10月6日 解散式

②体制 駐日リトアニア大使館、在リトアニア日本大使館、カウナス市、八百津町

③内容

期間 9月29日～10月6日

場所 リトアニア共和国

取組内容 町民20人、町長以下職員5名でリトアニアを訪問。歴史的建造物、杉原記念館等の視察、市庁舎表敬訪問やリトアニア アレクソータス地区民との交流を通して、杉原氏の人道精神を学び、互いの歴史や文化を学び交流を深めた。

参加者 100人

報道対応等 中日新聞、町広報誌掲載

④効果 参加町民は、アレクソータス地区民との交流を通して、言語の壁を越えたつながりを得ることができた。また、お互いの地域の現状や文化について交流したことで、リトアニアカウナス市と八百津町間の絆の強さを再確認できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】大阪関西万博リトアニアナショナルデー小学生参加交流事業

①スケジュール

令和6年8月～ 駐日リトアニア大使館に協力を依頼。

リトアニア共和国政府官庁万博担当者とメールやオンラインミーティングで実施内容を調整。

②体制 駐日リトアニア大使館、リトアニア共和国政府官庁万博担当者、八百津町、八百津町教育委員会、町内4全小学校

③内容

日時 令和7年7月6日

場所 大阪・関西万博 会場内

取組内容 リトアニア共和国「ナショナルデー記念式典」に町内全4校の小学6年生が参加。バルト館スタッフと文化交流をした。

参加者 八百津町全4小学校児童及び引率教諭、町長、町職員、リトアニア政府関係者、バルト館パビリオンスタッフ

参加人数 約100人

報道対応等 中日新聞掲載 町広報誌掲載

④効果 ナショナルデーでは、リトアニアと日本、本町との友好関係を再確認する政府関係者のスピーチや力強く表現豊かな演奏とリトアニアを代表する画家を融合した芸術を体感し、子どもたちは次から次へと目に入る刺激的な光景に目を輝かせた。バルト館では、パビリオンのスタッフからリトアニア語のあいさつを教えてもらい交流した。子どもたちは、初めて触れるリトアニアの言語や文化に興味を持ち、子どもたちにとってかけがえのない体験になった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

町民海外派遣交流事業を通じて、住民同士の直接交流を図ることができた。交流イベントが、新聞や町広報誌に掲載されたことで、町民の国際交流の機運を醸成するとともに、本町の杉原千畝氏の人道精神啓発する活動を町内外へ発信することもできた。

子どもたちは、今回の体験を通じて、異文化へ興味を持つとともに、夢や創造性、日本の文化や地域の誇りをもつことができた。

海外派遣された町民を対象に、満足度アンケートを実施。①満足45%②やや満足45%③やや不満10%④不満0%と、全体的に参加者からは高い評価を得られた。「相手国に対する尊敬の気持ちが高まった」や、「リトアニアとの関係を今後も末永く大切にしていきたい」、「もう一度訪れたい」など前向きな意見が多くみられ、これまで長年にわたり築き上げた友好関係を感じられる事業となった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

カウナス市や大使館、学校関係者などの協力により、事業を進めることができた。

相手国の文化や歴史に対する理解が深まり、これまでは「遠く離れた国」であったが、今回の派遣研修でより身近に感じられるようになった。

●苦労した点

万博会場内での交流については、非常に暑い時期であったので、交流内容だけではなく、参加者の体調管理にも配慮が必要となった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博国際交流プログラムを活用し実施した事業のうち、保育園の映像交流事業、中学生海外派遣事業及びやおつかジュカスマーケットの開催事業については、来年度も予算を確保し実施する予定。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

住民の直接交流を継続的に実施するためには、予算の確保や支援体制が必要である。



アレクソータス地区民による温かい歓迎



カウナス市役所主催の歓迎式



万博ナショナルデー小学生参加

静岡県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	静岡県
相手国・地域	中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

静岡県と浙江省は、1982年の友好提携以来長年にわたり、経済、農業、教育、文化、環境、防災など様々な分野で交流を推進し、友好関係を深めてきた。提携以降、5年毎の節目の年度に知事と省長を筆頭とする訪問団を相互に派遣し、民間交流を進めてきたが、今回の万博開催による国際交流の機運の高まりを踏まえ、スタートアップの本県招へい等による経済交流促進、県内医療機関・介護事業所等への研修員受入による人材育成への協力等により、浙江省との交流の一層の深化を図る。

イ 目標

浙江省の万博へのブース出展及び浙江ウィーク開催に合わせた本県訪問団の万博訪問等により、令和9年の友好提携45周年に向けた交流の深化を図る。

2 - (1) 事業内容

【知事の浙江省訪問】

- ①スケジュール: 6/2～5
- ②体制: 浙江省・・・省書記、省政府職員等、浙江大学関係者、静岡県・・・知事、県職員、県内大学関係者、計80名、県省とも報道あり
- ③内容: 両県省トップ同士の交流、県と両県省大学間にて覚書の締結、スタートアップ企業等の視察
- ④効果: 両県省間の連携強化、大学発スタートアップの交流・育成協力
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【静岡県・浙江省経済交流促進機構全体会議】

- ①スケジュール: 7/10
- ②体制: 浙江省・・・副省長ほか計20名 静岡県・・・県日中友好協議会理事長、静岡県経済産業部長、多文化共生推進官兼企画部理事ほか計15名
歓迎夕食会のみ 知事、県議ほか計4名 報道あり
- ③内容: 浙江ウィークに合わせて来静した訪問団と本県行政、企業等関係者が一堂に会する会議を開催。両県省の経済、観光、福祉に関する話題等、昨年度の両県省の交流事業の総括と今年度の事業計画についての確認、両県省の交流について意見交換
- ④効果: スタートアップ支援、富士山静岡空港の利用促進、医療健康産業における連携等、今後の両県省の交流強化
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博の参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【事業名】万博の「浙江ウィーク」の開幕式に出席 万博会場内

- ①スケジュール: 7/12
- ②体制: 浙江省・・・副省長一行、万博出展関係者、静岡県・・・副知事、自治体職員 計約150名 浙江省での報道あり
- ③内容: 中国パビリオンにおける「浙江ウィーク」の開幕式に参加、副知事と副省長の面会、副知事による同省メディアへのインタビュー対応
- ④効果: 省行事への応援による信頼関係の構築、省の経済発展状況への理解増進、副省長の他、同省との友好提携自治体トップ(栃木、福井)との意見交換による連携強化
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博の参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (4) 事業内容

【TECH BEAT Shizuoka 2025】

- ①スケジュール: 7/24～26
- ②体制: 浙江省・・・6月に覚書を締結した浙江大学関連スタートアップ関係者、浙江省駐日本商務代表処代表、計11名、静岡県・・・地域外交課、産業イノベーション推進課、県内金融機関等 プレスリリースを実施
- ③内容: 同省スタートアップ企業を招聘し、3社出展(透明有機太陽電池モジュール、AIパワーフィットネスマシン・フィットネス体験、磁共振システムとRFコイル)
- ④効果: 両県省のスタートアップ等経済分野における交流促進
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (5) 事業内容

【中国研修員受入事業】

- ①スケジュール: 8/8～2/27
- ②体制: 浙江省・・・同省からの研修員2名(浙江省人民医院、浙江省衛生健康委員会より)を受入、静岡県・・・地域外交課、静岡県日中友好協議会 プレスリリースを実施
- ③内容: 8月から約2か月日本語オンライン研修、10月末から県関係部署、県内医療機関、日中友好協議会等で約4か月研修 県の健康福祉関連施設への視察、病院での看護研修や、両県省交流事務に関する研修
- ④効果: 人材育成を通じた国際協力と両県省の理解・交流促進
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

- ・友好提携先である浙江省に知事が就任後初めて訪問したことにより、トップ同士で顔の見える関係を築くことができた。
- ・訪中時に調印した両県省の大学間スタートアップ促進に係る覚書に基づき、翌月には同大学発スタートアップ企業を県イベントに招聘し、両県省のスタートアップ交流を促進した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

- 良かった点
万博を機会として相互の交流が活発化し、令和9年度に迎える両県省友好提携45周年に向けて、更なる交流の深化が図れた。
- 苦勞した点
日程の調整に時間が掛かったこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・今年度は万博という国際的なプラットフォームを活用しながら、両者の交流プロジェクトを対面で進めることができた。次年度以降も、令和9年度の友好提携45周年を見据えた、スタートアップ交流などの事業等、相互交流を進めていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・今後も訪問団の派遣受入等、更に交流を深める事業を進めていきたいと考えているが、日中関係の悪化により、見通しが不透明である。



知事と浙江省書記の面会 (25.6)



静岡県・浙江省経済交流促進機構全体会議 (25.7)



万博「浙江ウィークの開幕式」 (25.7)



TECH BEAT Shizuoka 2025 (25.7)



中国技術研修員受入事業 県内視察 (25.12)

1 背景と目標等

ア 背景と目的

美浜町は少子高齢化に直面しており、地域経済の活力低下という課題を抱えています。国際交流事業を通じて、地域の国際的な知名度向上や地域の魅力や文化の発信を目的としています。

イ 目標

- ①シンガポールと美浜町の長年にわたる関係性に関する周知
- ②シンガポールに対して美浜町という地方地域の魅力の周知および地域が抱える課題への理解の深まり
- ③美浜町民に対してシンガポールに関する理解の深まり

2-1(1) 事業内容

【シンガポール国立大学 美浜町訪問】

- ①スケジュール： 令和7年5月17日(土)に実施
- ②体制： 美浜町、町内企業または団体、シンガポール国立大学
- ③内容： シンガポール国立大学カレッジの「グローバルエクスペリエンス」コースの一環として、名古屋滞在期間中に一日美浜町を訪問しました。塩づくり、魚裁き、そば打ち、えびせんべい作りなど、町ならではの体験をしたあと、町民とスポーツを楽しみ、町産の竹を使った箸づくりをしながら、シンガポール館の「サニー折り紙キャンペーン」にも参加しました。
- ④効果： 自治体内への波及効果： 町民に対してシンガポールへの理解の深まり、万博キャンペーンへの周知
実施により達成できた成果： 町民からスポーツ交流参加者38名
相手国への波及効果： 現時点でなし
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
【イ 万博参加国・地域の関係者】

2-1(2) 事業内容

【愛知県町村会 シンガポール館視察】

- ①スケジュール： 令和7年9月30日(火)
- ②体制： 美浜町長をはじめ、愛知県町村長16名、シンガポール館スタッフ
- ③内容： 愛知県町村会行政調査の一環として、シンガポールパビリオンの視察が実施されました。
- ④効果： 自治体内への波及効果： 相手国の行政同士の繋がりの強化
実施により達成できた成果： 愛知県町村長16名
相手国への波及効果： 現時点でなし
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
【ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者】

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

シンガポールの大学生たちが美浜町を実際に訪れることで町をはじめ、日本の地方地域の魅力を発見させることとともに、町民と直接交流することで、相互理解の促進を図ることもできました。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

愛知県にいながらも町民やシンガポールから町を訪問する方にもキャンペーンを周知し、実際にキャンペーンに当選してシンガポール館を訪れる機会をいただいた町民もいました。

●苦労した点

特になし

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

次年度以降もシンガポールにある小学校、中学校、および国立大学との交流事業は継続する見込みです。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

主に予算的制約が課題となります。



シンガポール国立大学生と町民がシンガポール館のサニー折り紙に挑戦している様子



町産の竹で行われた割り箸作りワークショップ



塩づくり体験

滋賀県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	滋賀県
相手国・地域	バチカン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

近江国安土(現滋賀県近江八幡市安土町)は、織田信長が当時来日していた宣教師たちに屋敷地を与え、セミナリヨの建設を許した地である。信長は宣教師たちと親しく交わり、その内の1人であるヴァニャーノが日本を離れる際には安土城と城下町を描かせた屏風を贈り、帰国の途中に披露することを依頼するなど、世界に向けて日本を発信することを求めた。日本と西洋が初めて交流を持った16世紀末に、もっとも親密な交流が行われた舞台がこの安土の地であった。令和8年(2026)に安土城築城450年をむかえるにあたり、織田信長が安土を舞台にキリスト教宣教師と親密な交流を行ったことを踏まえ、信長時代から現代までつづく、日本と西洋との交流の歴史をあらためて振り返り、その歴史的意義を広く発信する。

イ 目標

今後も交流を継続し、安土セミナリヨ450年(令和12年)などの節目に新たな交流事業の実施を目指す。

2-1) 事業内容

【事業名】～万博会場での交流

- ①スケジュール 令和7年10月9日(木)に実施
- ②体制 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
- ③内容 場所:大阪・関西万博関西パビリオン・滋賀県ブース、
取組内容:滋賀県ブースの見学および意見交換(「安土山図屏風」の所在と今後の探索について)、滋賀県ブース入口に「織田信長とキリスト教」の歴史的
関係を紹介するパネルを展示
参加者:4名
- ④効果 「安土山図屏風」の所在についての情報収集および今後の探索についての示唆 滋賀とバチカン(キリスト教)の歴史についての普及啓発
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-2) 事業内容

【事業名】～「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー「バチカンと日本・東アジア その歴史的交流」

- ①スケジュール 令和8年3月3日～4日実施予定～世界情勢の急変により中止
- ②体制 滋賀県文化スポーツ部文化財保護課
- ③内容 3日:場所:コラボしが21(滋賀県大津市)、取組内容:バチカン図書館研究員を招いてのシンポジウム(「バチカンと日本・東アジア～その歴史的交流」)
4日:場所:特別史跡安土城跡・安土セミナリヨ跡(滋賀県近江八幡市安土町) 取組内容:バチカン図書館研究員に県のカトリックゆかりの地を案内する。
- ④効果 日本とローマカトリックの歴史的交流の実像の紹介、「安土山図屏風」探索に向けての機運醸成
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

- ・バチカンと滋賀との歴史的な交流についての認識の向上
- ・万博を契機とした交流に向けての機運醸成

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

- **良かった点**
バチカンと滋賀との歴史的な交流について再確認ができた。
万博に対する関心の高さを実感でき、来訪意欲を拡大させることができた。
滋賀県が「安土山図屏風」を探索していることの必要性・重要性について認識してもらえた。
- **苦勞した点**
準備に要する時間が少なく、講師選定や会場確保が難しかった。
多忙な相手方だったので、スケジュール調整に時間を要した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・バチカンと滋賀との歴史的な交流の舞台である安土セナリヨ跡や安土城跡等のさらなる整備・活用に向けてのきっかけづくり。
- ・安土セナリヨ建設450年(令和12年)に向けての機運醸成

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

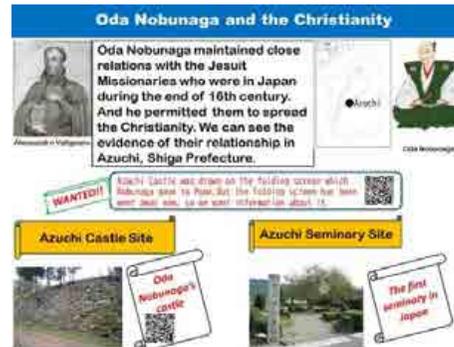
- ・開催後の交流事業
- ・招聘する研究者の早期決定
- ・会場、内容等の決定



2 - (1) 滋賀県ブース見学風景



2 - (1) 意見交換風景



2 - (1) 展示パネル



2 - (1) 展示パネル見学風景

滋賀県・長浜市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

滋賀県・長浜市

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

長浜市の子どもたちは、文化活動やフラッグフットボール(アメリカンフットボール)に地域を挙げて取り組んでいるところである。大阪・関西万博を契機に、長浜の子どもたちが積極的に取り組んでいる文化活動やスポーツ活動を通じて米国との交流を深め、世界に向けて長浜の魅力発信をすることで、万博開催後もレガシーとしての国際交流が深まることを促進する。また、フラッグフットボールの本場である米国の「ホンモノ体験」を通じて、子どもたちが夢を大きく持つとともに、長浜と米国の橋渡し役となることで国際的な視野を広げ、自分たちの地域や文化に誇りを持つシビックプライドの醸成を目的とする。

イ 目標

滋賀県長浜市の子どもたちが積極的に取り組んでいる「文化活動」や「フラッグフットボール」を通じて、本場である米国との国際交流を深化するとともに、世界に向けて滋賀・長浜の魅力を発信する。

2 - (1) 事業内容

【アメリカパビリオン交流】万博会場内

①スケジュール: 2025年9月6日(土) 13時~15時

②体制: ノバイ市2名(市長、シティマネージャー)、虎姫高等学校新聞部10名、新聞部顧問1名、滋賀県3名(スポーツ課、国際課)、長浜市5名(副市長、市民協働部次長、文化スポーツ課3名)

③内容: 大阪・関西万博アメリカパビリオン内にて、パビリオン内見学、虎姫高等学校新聞部の活動としてノバイ市(市長、シティマネージャー)へインタビュー、ディスカッションを実施。

④効果: 交流を経て、国際的な視野と異文化理解を深めるとともに、インタビューを通じて生徒たちが自らの考えを発信し、他者の価値観を理解する力の育成につながった。また、その成果として、部内で作成している「虎姫高校新聞」に記事を掲載した。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【ミシガン州交流事業】万博会場外

①スケジュール: 令和7年9月10日(水)~15日(月・祝) 4泊6日

②体制: ノバイ市(市長、シティマネージャー、ノバイ高校アスレチックディレクター、小中学校関係者複数名)、長浜市小学生7名、引率3名(指導員1名、市職員2名)

③内容: アメリカ合衆国ミシガン州ノバイ市にて、現地の学校訪問や現地学生とのフラッグフットボール交流試合、試合見学等での本場のスポーツ文化の体験。

④効果: 本市の地域スポーツであるアメフトやフラッグフットボールの更なる機運を醸成し、スポーツ交流を通じて、日米の文化の違いと国際感覚を養い、長浜の魅力を再認識し、シビックプライドやウェルビーイング向上につながった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【多文化交流事業】万博会場外

- ①スケジュール: 2025年10月25日(土)
- ②体制: ミシガン州立大学日本連合センター (JCMU)留学生6名、虎姫高等学校生徒11名、引率5名(JCMU1名、虎姫高校1名、文化スポーツ課3名)
- ③内容: 長浜市内文化観光施設見学(慶雲館、長浜鉄道スクエア、黒壁スクエア、海洋堂フィギュアミュージアム)
食文化体験(長浜の郷土料理である焼鯖そうめん)
着物・茶道体験
伝統文化(富田人形)体験(地域に伝わる伝統芸能である「富田人形」を鑑賞するとともに、実際に手に取って体験した)
- ④効果: 留学生と価値観や文化を共有し相互理解を深めることができた。また、ホスト役として活動した高校生が地域の文化を案内する中で、本市の魅力や伝統文化を再確認するキッカケとなった。交流を通じて、多文化共生への意識向上と地域の文化発信を行うことができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【関西万博会場滋賀ブース出展】万博会場外

- ①スケジュール: 2025年9月6日(土)
- ②体制: 長浜市文化スポーツ課3名
- ③内容: 大阪・関西万博 滋賀魅力体験ウィークにて、長浜市の文化を発信するブースを出展。長浜市の文化・魅力を世界に向けたPR活動を行った。
- ④効果: イベント参加条件を長浜市公式SNSのフォローとすることで、来場者との交流を図りつつSNSフォロワー数が増加。これにより情報発信力を向上させ、長浜市の認知度と魅力の浸透に寄与した。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

本事業は、学生たちが多様な価値観に触れ、共有する貴重な機会となった。

会期中に実施したパビリオンでのインタビューやアメリカ合衆国ミシガン州ノバイ市への訪問、市内での文化体験を通じて、学生は主体的に自らの考えを発信するとともに、言葉の壁はあれど、他者の意見に耳を傾ける力を育むことができた。

こうした交流の中で互いの文化や価値観の違いを認め合う経験を重ねることにより、国際的な視野と相互理解が深まり、学習意欲や意識の向上につながった。

これらの成果は、次世代を担うグローバルな人材育成の基盤形成に寄与するものである。さらに、会期後も本交流で得た経験やシビックプライドを財産として継承し、多文化共生の推進と地域のウェルビーイング向上に向けた取組を継続していく。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・言葉が十分に通じなくても、同じ体験や時間を共有することで距離が縮まったこと。
- ・インタビューやスポーツ交流を通じ、学生が自らの考えを発信する姿が見られた。他者の価値観を尊重しつつ、地元の魅力を再発見することで、「自己成長」と「地域への誇り」を同時に向上させる機会となった。
- ・言葉が十分に通じなくても、同じ体験や時間を共有することで、国や文化の違いを越えて心理的な距離が縮まった。
- ・インタビューやスポーツ交流を通じて、学生が主体的に自らの考えを発信する姿が見られ、相手の価値観を尊重しながら対話を重ねる中で、地元の文化や魅力を改めて見つめ直す機会となり、「自己成長」と「地域への誇り(シビックプライド)」の双方を高める効果があった。
- ・実際に現地で活動し、異文化に直接触れる体験を通じて、教室内の学習では得られない実践的な国際理解が深まった。

●苦勞した点

- ・開催に向けて事前に十分な打ち合わせを行っていたものの、言語の壁や文化的背景によるニュアンスの違いから、関係者間で認識のずれが生じる場面があった。その結果、一部のスケジュールについて調整が必要となった。
- ・現地の運営方法や時間感覚の違いにより、当日の進行に柔軟な対応を求められる場面があった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

大阪・関西万博を契機に築かれたアメリカ合衆国ミシガン州ノバイ市との関係を、地域にとって重要な国際的なつながりとして、今後も継続的に維持・発展させていく。本交流を通じて、学生たちは多様な価値観や文化に触れることで視野を広げ、将来的には地域を支える国際感覚を備えた人材の育成につながる事が期待される。また、異文化との対話や交流の過程において、長浜ならではの伝統文化やスポーツの魅力を改めて見つめ直す機会となり、地域への誇りや愛着の醸成を促した。これらの成果は、大阪・関西万博の理念を継承するレガシーとして、次世代へと受け継がれ、持続的な地域活性化の原動力となる。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・ 一時的なイベントに終わらせず、オンライン交流や定期的な相互訪問など、継続的な関係維持のための仕組み作りが必要である。
- ・ 交流を行う為には、アメリカ・ミシガン州への渡航費や滞在費、交流の受入れにあたり必要となる費用などの予算を確保する必要がある。



ノバイ市長へ虎姫高校新聞部によるインタビュー



ノバイ市の中学生とフラッグフットボール交流試合



富田人形見学&体験

京都府交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

京都府

相手国・地域

インドネシア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州等とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州等については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

ジョグジャカルタ特別区を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-1 事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州等及びベトナム・フエ市より学生を招待。インドネシア共和国からは令和6年度にジョグジャカルタ特別区の大学生などを対象として開催した日本語スピーチコンテストの優勝者等が参加。

③内容: 京都府の友好提携州等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(2) 事業内容

【京都府・ジョグジャカルタ特別区友好提携40周年記念事業】

- ①スケジュール：令和6年11月 京都府知事がジョグジャカルタ特別区を訪問。同特別区知事と40周年記念事業について協議を実施。
令和7年6月 日本側の出演者決定。日本及びインドネシアでコンサートに向けた練習を開始
令和7年9月11日～12日 リハーサル
令和7年9月13日 本番
- ②体制：京都府、ジョグジャカルタ特別区
- ③内容：令和7年9月13日（土）京都府民ホールアルティにおいて、同特別区より来日したジョグジャカルタロイヤルオーケストラと府内中高生等による「ジョグジャカルタロイヤルオーケストラコンサート」を開催。インドネシアのマラン市に位置するブラウィジャヤ大学日本文学科によるインドネシア文化紹介ブースを同時開催し、来場者にインドネシア文化をPRした。参加者約500人。
- ④効果：本コンサート出演者である府内中高生をはじめとする若い世代を中心とした京都府民に、ジョグジャカルタ特別区をはじめとするインドネシアの文化を広め、両地域の交流を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール：令和7年12月にジョグジャカルタ特別区から絵画が送付され、令和8年1月31日～2月1日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府からジョグジャカルタ特別区に送付した絵画は、令和7年11月4日～10日に同特別区に位置するガジャマダ大学で展示された。
- ②体制：京都府とジョグジャカルタ特別区の担当者
- ③内容：児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果：両地域での相互理解が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。ジョグジャカルタ特別区とは友好提携40周年を迎え、京都府及びジョグジャカルタ特別区の両方で記念事業を実施し、自治体関係者だけではなく、両地域の住民も参加することで住民レベルでの相互理解を深めることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

自治体関係者だけではなく、住民にも両地域の文化や魅力を発信することができたこと。

●苦労した点

相手側との調整の中で、実施の直前まで決まらない内容もあり、当日の対応に追われたこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取組みについて、ジョグジャカルタ特別区と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



友好提携40周年記念事業
「ジョグジャカルタロイヤルオーケストラコンサート」



京都—ジョグジャカルタ児童絵画展(ジョグジャカルタ特別区で開催)



「きょうと国際学生サミット」グループ発表

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州等とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州等については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

エディンバラ市を含む各国の若者の中で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-(1) 事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州等及びベトナム・フエ市より学生を招待。

③内容: 京都府の友好提携州等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(2) 事業内容

【府立高校生によるエディンバラ市への留学】

- ①スケジュール: 令和7年7月19日(土)～8月11日(月)
- ②体制: 京都府教育委員会
- ③内容: 府立高校生15名がエディンバラ市へ留学し、語学を学ぶ
- ④効果: 学生の異文化理解・国際感覚の醸成、語学力の向上
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。また、府立高校生によるエディンバラ市への訪問では、学生がホームステイを通じて文化の違いを学び、グローバルな視野が広がったほか、語学力向上につながった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点
学生の異文化理解・国際感覚の醸成、語学力の向上につながったこと。
- 苦労した点
特になし。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取り組みについて、エディンバラ市と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



「きょうと国際学生サミット」ディスカッション



「きょうと国際学生サミット」グループ発表

自治体名	京都府
相手国・地域	カナダ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州等とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州等については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて、万博を契機に若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

ケベック州を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-（1）事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州等及びベトナム・フエ市より学生を招待。

③内容: 京都府の友好提携州等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

参加者の国際交流に対する意識が向上した点。

●苦労した点

特になし

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取組みについて、ケベック州と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



「きょうと国際学生サミット」
カナダパビリオン関係者と交流



「きょうと国際学生サミット」
グループ発表

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州省とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州省については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて、万博を契機に若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

陝西省を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-（1）事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州省等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州省及びベトナム・フエ市より学生を招待。

③内容: 京都府の友好提携州省等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(2) 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール: 令和8年3月末に京都府から陝西省に絵画を送付し、陝西省内で展示予定。
- ②体制: 京都府と陝西省の担当者
- ③内容: 府内の児童が制作した絵画を送付し、送り先の美術館等で展示。
- ④効果: 両地域での相互理解が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

参加者の国際交流に対する意識が向上した点。

●苦労した点

特になし

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取組みについて、陝西省と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



「きょうと国際学生サミット」
中国パビリオン関係者と交流



「きょうと国際学生サミット」ディスカッション

京都府交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

京都府

相手国・地域

フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州等とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州等については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

オクシタニ州を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-（1）事業内容

【きょうと国際学生サミット】（万博会場内及び会場外）

①スケジュール：令和7年1月 京都府の友好提携州等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制：京都府の友好提携州等及びベトナム・フエ市より学生を招待。

③内容：京都府の友好提携州等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合（京都）

8月1日 大阪関西万博視察（本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施）

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催（内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施）、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果：日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(2) 事業内容

【京都府・オクシタニ州友好提携10周年記念事業】

- ①スケジュール：令和7年5月 オクシタニ州と10周年記念事業について協議を実施
令和7年8月 オクシタニ州及びオクシタニ州出身のアーティストと本事業について協議を実施
令和7年9月 オクシタニ州からアーティストが来日
令和7年9月30日～10月2日 アーティストが府内各地の食材生産者や和食料理人の現場を視察
令和7年10月7日 本番
- ②体制：京都府、オクシタニ州
- ③内容：令和7年10月7日（火）京都府内において、同州から来日した料理デザイナーなどのアーティストが、京都の食材（京野菜、水産物）の生産者や和食料理人との交流を通じて創作した料理パフォーマンスを披露する文化イベントを開催。参加者約60人。
- ④効果：両地域の交流を促進し、イベント参加者や食材生産者などの京都府民に、オクシタニ州の魅力や文化を広めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール：令和8年1月にオクシタニ州から絵画が送付され、令和8年1月31日～2月1日に京都市京セラ美術館で展示。令和8年3月末に京都府からオクシタニ州に絵画を送付し、オクシタニ州内で展示予定。
- ②体制：京都府とオクシタニ州の担当者
- ③内容：児童絵画を交換し、美術館等で展示。
- ④効果：両地域での相互理解が深まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【鴨沂高校のフランス・ジュールゲード国際高校との高校生交流】

- ①スケジュール：令和7年12月1日（月）～12月22日（月）及び令和8年1月30日（金）～2月2日（月）
- ②体制：高校間で調整
- ③内容：ジュールゲード国際高校の生徒が鴨沂高校を訪問し、授業体験や部活動体験、ホームステイを通じた交流事業を実施。
- ④効果：両地域の青少年交流が深まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(5) 事業内容

【鳥羽高校とヌヴェール総合高校の高校生交流】

- ①スケジュール: 令和7年3月21日(金)～4月7日(月)【鳥羽高校の生徒がヌヴェール総合高校を訪問】
令和7年8月30日(土)～9月13日(土)【ヌヴェール総合高校の生徒が鳥羽高校を訪問】
令和7年12月11日(木)～12月14日(日)【ヌヴェール総合高校の生徒が鳥羽高校を訪問】
令和8年1月9日(金)～1月26日(月)【鳥羽高校の生徒がヌヴェール総合高校を訪問】
- ②体制: 高校間で調整
- ③内容: 双方の高校を訪問し、フィールドワークや授業体験等を通じた交流事業を実施。
- ④効果: 両地域の青少年交流が深まった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。また、オクシタニ州とは友好提携10周年を迎え、記念事業として京都府内で文化イベントを実施。友好提携記念事業として、食をテーマとする文化イベントは初めての開催であり、同州から料理デザイナーなどのアーティストが来日し、料理パフォーマンスを通じてオクシタニ州の新たな魅力を京都府民に発信することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

- 良かった点
参加者の国際交流に対する意識が向上した点。
- 苦勞した点
相手国側との調整に時間を要した点。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取り組みについて、オクシタニ州と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



「きょうと国際学生サミット」
フランスパビリオン関係者と交流



「きょうと国際学生サミット」ディスカッション



友好提携10周年記念事業
文化イベント

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本府が友好提携を締結している海外の各州等とは、交流の一環として5年毎に周年の記念事業を実施している。令和7年度に周年を迎える友好提携州等については、万博国際交流プログラムとして周年記念事業を実施する。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

オクラホマ州を含む各国の若者間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-（1）事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州等及びベトナム・フエ市より学生を招待。

③内容: 京都府の友好提携州等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(2) 事業内容

【京都府・オクラホマ州友好提携40周年記念事業】

- ①スケジュール：令和6年10月 オクラホマ州商務省職員が京都府を訪問。40周年記念事業について協議を実施。
令和7年6月 オクラホマ日米協会との意見交換
令和7年9月24日 オクラホマ州政府入洛
令和7年9月25日 オクラホマ経済・観光セミナー実施
- ②体制：京都府、オクラホマ州
- ③内容：令和7年9月25日（木）ホテルグランヴィア京都において、同州より来日したオクラホマ州政府による「オクラホマ経済・観光セミナー」を開催。航空宇宙、エネルギー、先進製造など多様な産業が発展しているオクラホマ州の最新の経済動向をはじめ、観光資源や経済発展、農業や国際ビジネス戦略など、幅広い魅力を参加者にPRした。参加者約80人。
- ④効果：府内事業者、大学関係者、自治体関係者など京都府民に、オクラホマ州の魅力を広め、国際連携の新たな可能性を探る機会を提供し、両地域の交流を深めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【児童絵画交流】

- ①スケジュール：令和7年12月にオクラホマ州から絵画が送付され、令和8年1月31日～2月1日に京都市京セラ美術館で展示。令和7年3月末に京都府からオクラホマ州に送付した絵画は、令和7年5月の1か月間、同州タルサ市に位置するマーティン地域図書館で展示され、約1万人が訪れた。
- ②体制：京都府とオクラホマ州の担当者
- ③内容：児童絵画を交換し、美術館等で展示
- ④効果：両地域での相互理解が深まった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。オクラホマ州とは友好提携40周年を迎え、記念事業として京都府で「オクラホマ経済・観光セミナー」を実施し、府内事業者、大学関係者、自治体関係者など多様な分野からのご参加をいただき、同州の観光資源や経済発展、農業や国際ビジネス戦略などについて、同州政府から直接学ぶ貴重な機会となった。また、本セミナーを通じて、京都府と同州とのさらなる連携の可能性についての認識が深まり、今後の国際交流の足掛かりとなる有意義な場となった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

自治体関係者だけではなく、府内事業者や大学関係者などにも両地域の魅力を発信することができたこと。

●苦労した点

時差の影響もあり、相手国側との調整に時間を要し、実施直前まで確定しない事項もあったことから、余裕を持った調整が困難であったこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取組みについて、オクラホマ州と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



パビリオン運営スタッフとの交流会
(万博会場内)



「きょうと国際学生サミット」グループ発表



友好提携40周年記念事業
「オクラホマ経済・観光セミナー」

1 背景と目標等

ア 背景と目的

フェエ市とは京都と同じ古都として、これまでから築いてきた関係を活かし、留学先、就職先としての京都の認知度を高め、親しみを深めてもらえるような交流を続けることで、将来的に互いの価値を引き出せるような関係構築を目指している。また、「きょうと国際学生サミット」を通じて万博を契機として若い世代における地球規模での横の連帯を創出し、次世代の国際交流につなげる。

イ 目標

フェエ市を含む各国の若者の間で「万博」「京都」を共通のテーマとして友好交流を促進する。

2-(1) 事業内容

【きょうと国際学生サミット】(万博会場内及び会場外)

①スケジュール: 令和7年1月 京都府の友好提携州省等へ学生派遣の依頼

5月～6月 日本人参加学生の募集

7月 参加学生による事前打ち合わせを実施

8月1日～4日 「きょうと国際学生サミット」を開催

②体制: 京都府の友好提携州省及びベトナム・フェエ市より学生を招待。

③内容: 京都府の友好提携州省等7地域から招待する大学生14名と京都府内の大学生13名が参加、万博理念に沿ったテーマで万博視察等を通じて得た学びをもとにディスカッションを行った。

令和7年7月31日 参加者集合(京都)

8月1日 大阪関西万博視察(本サミット参加者の出身国のパビリオン運営スタッフへのインタビュー及び交流を実施)

8月2日 KYOTO地球環境の殿堂「未来会議」ワークショップに参加

8月3日 きょうと国際学生サミット開催(内閣官房国際博覧会推進本部事務局職員による講評を実施)、「けいはんな万博2025」視察、交流会

8月4日 振り返り・解散

令和8年2月にフォローアップミーティングをオンラインで開催。

④効果: 日本及び京都の魅力を発見するとともに、各国の学生の交流を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

大阪・関西万博を契機として、これまで交流を深めてきた友好提携州省等の学生が一堂に京都に集まり、府内の大学生とともに万博理念に沿ったテーマでディスカッション等を行う「きょうと国際学生サミット」という新たな取組みを実施することができ、今後の友好提携州省等とのさらなる交流を促進するための基盤ができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

自治体関係者だけでなく、住民にも両地域の文化や魅力を発信することができたこと。

●苦労した点

相手側との調整の中で、実施の直前まで決まらない内容もあり、当日の対応に追われたこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

「きょうと国際学生サミット」を通じて、将来的な学生交流の基盤を構築することができた。
今年度の取組の成果を継続できるよう、来年度以降の取組みについて、フエ市と協議中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

京都府だけではなく、相手国側の状況も踏まえながら検討する必要があるため、取組内容や事業内容を前もって確定させることが難しく、事業内容に合わせた予算を確保することが難しい。



「きょうと国際学生サミット」ディスカッション①



「きょうと国際学生サミット」ディスカッション②

亀岡市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

京都府亀岡市

相手国・地域

米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都市内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2-（1）事業内容

【ワールドフェスタ2025 LET'S GO EXPO IN KAMEOKA】

①スケジュール

令和7年4月～8月 関係者との協議を毎月1回開催

②体制

主催：亀岡国際交流協会 共催：亀岡市

③内容

日時：令和7年8月24日（日）

場所：ガレリアかめおか 2階大広間（亀岡市余部町宝久保1-1）

取組内容：ワールドフェスタは、亀岡国際交流協会が主催するイベントで、国際交流や多文化共生について考える場として様々な国籍の子どもから大人までが一緒に楽しめる内容で開催しています。今回は、令和7年4月13日から10月13日まで開催の大阪・関西万博にちなみ、亀岡市の姉妹都市や友好交流都市、友好合意書を締結した都市の国のパビリオンや文化の紹介やワークショップも行うなど、「亀岡ミニ万博」と銘打ったイベントを開催しました。アメリカパビリオンのユースアンバサダー（学生スタッフ）をゲストに迎え、アメリカの文化をプレゼンやクイズで楽しく学びました。後半のワークショップでは、ポンポンを使った白頭鷲を作り、交流を深めました。

④効果

亀岡市民の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【亀岡市制70周年記念姉妹都市等訪問団招へい事業】

①スケジュール

令和7年4月～8月 訪問団とのスケジュール調整

令和7年9月29日(月)～10月4日(土) 訪問団滞在

②体制

亀岡市、亀岡国際交流協会、スティルウォーター市、スティルウォーター市姉妹都市委員会

③内容

◇亀岡市制70周年記念式典

日時:令和7年10月1日(水)

場所:ガレリアかめおか1階 ロビーギャラリー

取組内容:市制施行70周年を記念し、市民の方々も自由に参加できる「開かれた式典」として開催しました。亀岡市とスティルウォーター市の姉妹都市関係に長年貢献したとして、スティルウォーター姉妹都市委員会の元委員長が特別表彰を受賞されました。また、スティルウォーター市長より市制70周年のお祝いのメッセージをいただきました。保津川下りや染め物の体験をしていただき、学生だけでなく地域住民との交流も実施しました。

◇大阪・関西万博訪問

日時:令和7年10月2日(木)

場所:大阪・関西万博会場

取組内容:訪問団が自身の国のパビリオンを訪問しました。ユースアンバサダーのマネージャーからご招待いただき、アメリカのパビリオンを訪問しました。パビリオン内には、8月に開催したイベント「ワールドフェスタ2025」のゲストとしてお迎えしたユースアンバサダーとの交流もありました。

④効果

亀岡市とスティルウォーター市の交流を市民の方々に身近に感じてもらうことができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【令和7年度亀岡市・スティルウォーター市スタディアブロードプログラム】

①スケジュール

訪問団を令和7年10月に受け入れるにあたり、本市の教育委員会を通じて受入校とのカリキュラムの調整を行いました。また、ホストファミリーを募集し、事前説明会を実施しました。

②体制

亀岡市、スティルウォーター市、大成中学校、スティルウォーターミドルスクール、亀岡国際交流協会、スティルウォーター姉妹都市委員会

③内容

日時: 令和7年10月13日(月・祝)～10月19日(日)

場所: 大成中学校(スティルウォーターミドルスクールの姉妹校)を始めとする亀岡市内

取組内容: 姉妹校盟約を締結している大成中学校とスティルウォーターミドルスクールの生徒による、学生同士の交流を行いました。また、保津川下り、藍染等の体験をしていただき、学生だけでなく地域住民との交流も実施しました。

④効果

亀岡市及びスティルウォーター市の青少年の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

姉妹校の交流を継続させると共に、姉妹都市締結40周年でもあったことから、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりの機会にすることができました。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

同プログラムの海外派遣事業となると、交流できる人数が予算の都合上限られてしまうが、今回の受入事業ではより多くの本市の学生が交流を深めることができました。

●苦勞した点

学生は長期間のホームステイになるため、ホストファミリーの募集に少々苦勞しました。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

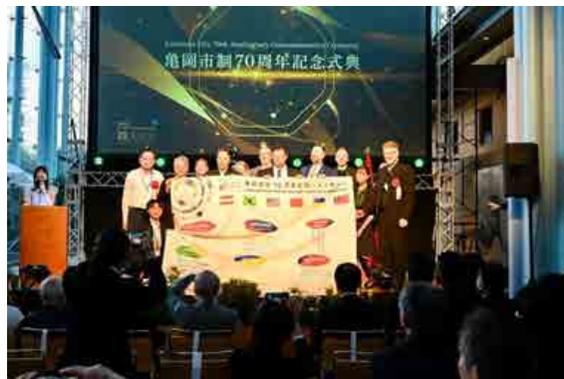
万博閉会後も、学生の派遣・受け入れ事業を隔年で実施することを両市長が同意しています。学生同士の交流のみならず、各国ならではのイベントやお祭りをプログラムに取り入れ、地域の伝承に触れる機会も継続させることで、様々な分野での交流を目指します。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

学生同士の長期間の交流を実施するにあたって、受入校の教育カリキュラムの調整を行う必要があります。



ワールドフェスタ
(白頭鷲のマスコット作り)



市制70周年記念式典
(海外交流都市からのお祝いメッセージ)



受入校での授業
(書道体験)

亀岡市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

京都府亀岡市

相手国・地域

ウクライナ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都府内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

大阪・関西万博を契機として、ウクライナとの国際交流事業を実施し、亀岡市民に対する国際理解及び平和学習を推進することを目標とします。

2 - (1) 事業内容

①スケジュール

令和7年度、トルスカヴェーツ市長を含む訪問団を受け入れ、シンポジウムなどを実施しました。

②体制

亀岡市、駐日ウクライナ大使館、NPO亀岡人権交流センター、ウクライナパビリオン関係者

③内容

令和7年4月14日(月) 亀岡市長表敬

大阪・関西万博のオープニングセレモニーのために来日したテチャーナ・ベレジュナ経済省副大臣が、亀岡市長と面談。亀岡市が、ウクライナを万博国際交流プログラムの交流国として登録したことへの感謝を述べられました。

令和7年4月25日(金) 大阪・関西万博校外活動 (亀岡市立蔭田野小学校)

蔭田野小学校の児童が校外活動として大阪・関西万博を訪問しました。5年生と6年生がウクライナパビリオンを見学し、パビリオン代表者と交流しました。

令和7年4月28日(月) 大阪・関西万博校外活動 (亀岡市立保津小学校)

保津小学校の児童が校外活動として大阪・関西万博を訪問しました。ウクライナパビリオンを見学し、パビリオン代表者と交流しました。

令和7年7月16日(水)から7月22日(火) トルスカヴェーツ市訪問団来市

トルスカヴェーツ市長を含む訪問団が亀岡市を訪問し、浄水場や病院など市内の施設を見学。蔭田野小学校では、ウクライナの戦時下の状況について市長が説明するなど、児童と交流しました。7月21日には、亀岡市×トルスカヴェーツ市友好記念シンポジウムを開催。文化・経済・教育の3分野で関係を深めるとした「友好合意書」を締結しました。

2 - (1) 事業内容

- 令和7年8月5日(火) 大阪・関西万博「ウクライナナショナルデー」
亀岡市が万博国差交流プログラムにウクライナを登録したこと、トルスカヴェーツ市との交流を開始したことから、ウクライナ及び万博協会から招待を受け、亀岡市長が出席しました。ウクライナからの訪問団とパビリオンを訪問し、平和のあり方について意見交換をするなどして交流しました。
- 令和7年8月24日(日) ワールドフェスタ2025「LET'S GO EXPO IN KAMEOKA」開催 [主催: 亀岡国際交流協会、共催: 亀岡市]
本市の姉妹都市・友好交流都市のほか、ウクライナの国や文化紹介を行い万博を身近に感じてもらうことを目的としたイベントを開催しました。ゲストとしてウクライナ文化センターの方々をお呼びし、ウクライナの文化を楽しく体験できるワークショップを実施し、亀岡市民と交流しました。
- 令和7年12月15日(月) ウクライナ・トルスカヴェーツ市のこどもたちとのオンライン交流
ウクライナ・トルスカヴェーツ市第三小中学校と蕨田野小学校、在ウクライナ日本大使館と在日本ウクライナ大使館の4カ所をZOOMでつなぎ、オンライン交流会を実施しました。

④効果

亀岡市及びウクライナの青少年の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

継続的な相互を目指す中で、ウクライナへの理解促進や異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりとする交流の場を調整することができました。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

新たな海外の都市との交流を始めるにあたって、姉妹都市や友好交流都市に限らない、亀岡市民に対する国際理解及び平和学習の推進の可能性を見出すことができました。

●苦勞した点

特にありません。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博国際交流プログラムをきっかけに新たに交流が始まったウクライナ(トルスカヴェーツ市)と、特定の分野に捉われない交流を目指します。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

ウクライナには引き続き退避勧告が発出しているため、文化・経済・教育の3分野でどのように交流していくかを引き続き検討していく必要があります。



亀岡市×トルスカヴェーツ市友好記念シンポジウム



ワールドフェスタ
(ウクライナの伝統的な装飾絵画
「ペトリキウカ」体験)

亀岡市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

京都府亀岡市

相手国・地域

オーストリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都府内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2-(1) 事業内容

【ワールドフェスタ2025 LET'S GO EXPO IN KAMEOKA】

①スケジュール

令和7年4月～8月 関係者との協議を毎月1回開催

令和7年8月24日(日) イベント当日

②体制

主催: 亀岡国際交流協会 共催: 亀岡市

③内容

日時: 令和7年8月24日(日)

場所: ガレリアかめおか 2階大広間(亀岡市余部町宝久保1-1)

取組内容: ワールドフェスタは、亀岡国際交流協会が主催するイベントで、国際交流や多文化共生について考える場として様々な国籍の子どもから大人までが一緒に楽しめる内容で開催しています。今回は、令和7年4月13日から10月13日まで開催の大阪・関西万博にちなみ、亀岡市の姉妹都市や友好交流都市、友好合意書を締結した都市の国のパビリオンや文化の紹介やワークショップも行うなど、「亀岡ミニ万博」と銘打ったイベントを開催しました。オーストリアの文化をプレゼンやクイズで楽しく学び、後半はチロリアンハットのワークショップで交流を深めました。

④効果

亀岡市民の国際対応能力の向上や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【亀岡市制70周年記念姉妹都市等訪問団招へい事業】

①スケジュール

令和7年4月～8月 訪問団とのスケジュール調整
令和7年9月29日(月)～10月4日(土) 訪問団滞在

②体制

亀岡市、亀岡国際交流協会、クニッテルフェルト市

③内容

◇亀岡市制70周年記念式典

日時: 令和7年10月1日(水)

場所: ガレリアかめおか1階 ロビーギャラリー

取組内容: 市制施行70周年を記念し、市民の方々も自由に参加できる「開かれた式典」として開催しました。クニッテルフェルト市長より市制70周年のお祝いのメッセージをいただきました。保津川下りや染め物の体験など、学生だけでなく地域住民との交流も実施しました。

◇大阪・関西万博訪問

日時: 令和7年10月2日(木)

場所: 大阪・関西万博会場

取組内容: 訪問団が自身の国のパビリオンを訪問しました。オーストリアのパビリオンを訪れ、パビリオンスタッフと交流しました。

④効果

亀岡市とクニッテルフェルト市の交流を市民の方々に身近に感じてもらうことができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

令和6年度に実施した、クニッテルフェルト市への亀岡市中学生派遣事業をきっかけとして、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成する機会にすることができました。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

令和6年度の学生交流をきっかけとして、クニッテルフェルト市と新たな分野で交流することができました。

●苦勞した点

特になし。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

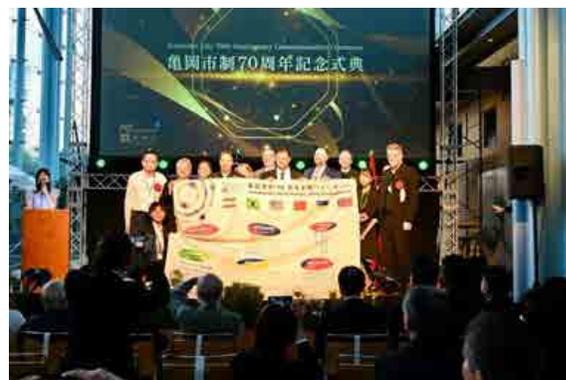
万博閉会後も、学生の派遣・受入事業の実施について、両市長が同意しています(令和8年度にクニッテルフェルト市の中学生受入実施を検討中)。学生同士の交流のみならず、各国ならではのイベントやお祭りをプログラムに取り入れ、地域の伝承に触れる機会も継続させることで、様々な分野での交流を目指します。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

クニッテルフェルト市の中学生を受けると、約1週間のホームステイを予定していることから、ホストファミリーの募集の仕方を検討する必要があります。



ワールドフェスタ



市制70周年記念式典
(海外交流都市からのお祝いメッセージ)

亀岡市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	京都府亀岡市
相手国・地域	中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

亀岡市は、京都市の西隣に位置しており、JR・国道・自動車道などで結ばれ、京都市までは約20分と、暮らしや経済はもちろん、観光にも便利なまちです。周囲は500～800mクラスの山々に囲まれた盆地状の地形にあり、市域の約7割が山林となっているほか、中心部には北から東へ貫流する桂川をはじめとして、中小河川も市域を覆うように流れています。本市は、京都市内3位の人口を有している一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、地域コミュニティの衰退や地域活力の低下につながる恐れがあります。姉妹都市や友好交流都市等及び本市の学生との相互交流や、市民参画型のイベントを積極的に実施することにより、亀岡市民に対する国際理解を推進させることを目的とします。さらに、本市の人材や文化、豊かな観光資源等を活かした交流事業を実施することで、地域の魅力を高めたまちづくりを目指します。

イ 目標

本市の中学生の国際理解を深めるとともに、姉妹都市との交流を通して、姉妹都市の歴史や文化への相互理解と友好関係を深めることを目標とします。

2 - (1) 事業内容

【ワールドフェスタ2025 LET' S GO EXPO IN KAMEOKA】

①スケジュール

令和7年4月～8月 関係者との協議を毎月1回開催

令和7年8月24日(日) イベント当日

②体制

主催: 亀岡国際交流協会 共催: 亀岡市

③内容

日時: 令和7年8月24日(日)

場所: ガレリアかめおか 2階大広間(亀岡市余部町宝久保1-1)

取組内容: ワールドフェスタは、亀岡国際交流協会が主催するイベントで、国際交流や多文化共生について考える場として様々な国籍の子どもから大人までが一緒に楽しめる内容で開催しています。今回は、令和7年4月13日から10月13日まで開催の大阪・関西万博にちなみ、亀岡市の姉妹都市や友好交流都市、友好合意書を締結した都市の国のパビリオンや文化の紹介やワークショップも行うなど、「亀岡ミニ万博」と銘打ったイベントを開催しました。中国出身の方々をゲストに迎え、中国の文化をプレゼンやクイズで楽しく学びました。後半のワークショップでは、ブックマーク作りや切り絵(剪纸)体験を行い、交流を深めました。

④効果

亀岡市民の国際対応能力の工場や多文化共生社会づくりへのきっかけとすることができました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

令和6年12月に開催した同事業により、中国にゆかりのある人物と交流をすることができ、相手国への理解促進だけでなく、異文化に対する寛容性を形成するきっかけづくりの機会にすることができました。今回のイベントでも、プレゼンやクイズ、ワークショップを通じて、中国の文化を実際に体験することができました。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

蘇州市との学生交流事業は中止となってしまいましたが、イベントで蘇州市にゆかりのある方をゲストとして迎えたことで、中国のパピリオンや文化について知っていただき、市民の方々と交流する場を設けることができました。

●苦勞した点

特になし。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期中及び万博会期後に予定していた学生の派遣・受入事業が中止となったため、関係機関と調整の上で、同事業を実施できるように経費確保に努めていきます。

6 次年度以降の取組みを実施する上での課題

学生同士の交流再開に向けて、受入校の教育カリキュラムの調整を行う必要があります。



ワールドフェスタ(切り絵体験)

大阪府交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府

相手国・地域

フランス、米国、オーストラリア、ベトナム、イタリア、中国、インドネシア、UAE

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪府では都市魅力創造戦略の中で「出会いが新しい価値を生む多様性都市」の実現に向け、都市間ネットワークを活用した交流を促進することとしている。また、2025年大阪・関西万博アクションプログラムでは、全国自治体の子供・若者等の万博を通じた海外交流を促進し、地域活性化を実現することが盛り込まれており、海外との交流を通じ、次代を担う若者の国際感覚を醸成するとともに、その交流の裾野を広げていくことが重要。そのため、世界から人が集まる万博の地元開催というチャンスを活かし、国際交流を通じて、若者が国際的な観点から能動的に社会課題に取り組む力を培うことや、府の友好交流都市との連携強化等を目的に「万博国際交流事業」を実施。

イ 目標

若者の国際感覚の醸成、国際交流の裾野拡大および万博への機運醸成、友好交流都市との連携強化

2-（1）事業内容

【Hello-EXPO国際交流事業】

・府の友好交流先自治体(6か国:フランス、オーストラリア、ベトナム、イタリア、中国、インドネシア)から、専門家、行政関係者や教員等(以下「被招聘者」という)を招聘し、府内高校生等を対象に各国・地域の社会課題について、学び、考えるセミナーを開催するほか、被招聘者を万博会場内の大阪ヘルスケアパビリオン等や大阪府内の観光資源等に案内するなど、相互の交流と理解を深め、万博後も一層の連携強化を図るため、万博国際交流事業を実施。

(i) 高校生向けセミナー

【実施日時】 令和7年8月5日12:30～18:00

【開催場所】 TKPガーデンシティ大阪梅田

【参加者数】 府内高校生等 312名、被招聘者 18名

【開催内容】

第1部: 専門家による講演、専門家と高校生相互によるQAセッション

第2部: 第1部講演テーマに沿って社会課題の解決法を検討するワークショップを開催。

第1部で提示された課題への解決や大阪の魅力について高校生が

各国専門家等を相手にプレゼンを実施。

【効果(本事業による成果)】

参加者(府内高校生等)へのアンケート結果、以下のとおりの成果を得た

・(国際交流への興味) 国際交流・活動に関する関心が高まったとする参加者の割合: **99.5%**

・(社会参加意識) 高校生でも社会をよりよくしていけると思うと回答する参加者の割合: **96%**

【当該事業において交流した交流相手の類型】

イ 万博参加国・地域の関係者(フランス、オーストラリア、ベトナム、イタリア、中国、インドネシアからの専門家等)

高校生向けセミナー 第1部各国・地域 講演テーマ:

○ 中国・上海市	徒歩と空間:コンパクトな都市に必要なものとは
○ 中国・江蘇省	湿地の王:タンチョウ:文化と保護
○ フランス・ヴァルドワーズ県	ヴァル・ドワーズ 広がる学びのチャンス-公共政策の中心に若者を据え、彼らの成長を実現し、若者とともに彼らの学習スペースを構築
○ イタリア・ロンバルディア州	未来を育む クオリティ、イノベーションと伝統をロンバルディアから世界へ
○ ベトナム・ホーチミン市	ベトナム・日本—コメのパートナーシップ
○ オーストラリア・クイーンズランド州	どうして世界中の人々がグレート・バリアリーフの保護について考えなければならないの?
○ インドネシア	教育の格差

(ii) 府内視察ツアー

【実施日時】 令和7年8月7日、8日 【参加者数】 被招聘者 18名

【開催内容】 万博会場内の大阪ヘルスケアパビリオンや大阪府内の観光資源等に案内。

【効果(本事業による成果)】 参加者アンケートについて、回答のあった全ての者から今後、教育や文化の分野で交流を深めたいなどの提案があった。

【当該事業において交流した交流相手の類型】 イ 万博参加国・地域の関係者(フランス、オーストラリア、ベトナム、イタリア、中国からの専門家等)

2-(2) 事業内容

【府内高校生及び米国高校生による交流】

- (1)実施日時: 令和7年7月25日
- (2)開催場所: 大阪府咲洲庁舎、大阪ヘルスケアパビリオン、アメリカパビリオン
- (3)参加者: 府内高校生20名、アメリカ高校生15名
- (4)開催内容: 両国参加者によるグループディスカッションを実施。また、万博会場にて、アメリカパビリオン及び大阪ヘルスケアパビリオンを訪問。パビリオン職員から展示内容について説明を受けるなどし、交流を実施した。
- (5)効果(本事業による成果): 府内高校生の実践的な英語コミュニケーション能力の育成及び国際的視野の獲得等につながった。
- (6)当該事業において交流した交流相手の類型: ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者(アメリカパビリオン、大阪ヘルスケアパビリオン職員等)

2-(3) 事業内容

【インドネシア 東ジャワ州主催ビジネスフォーラムへの参加】

- (1)実施日時: 令和7年5月28日
- (2)開催場所: インドネシアパビリオン
- (3)参加者: インドネシア 東ジャワ州政府機関関係者、州内関係機関、日本国内企業19社、大阪府職員など
- (4)開催内容: 府の友好交流都市である東ジャワ州が開催した「東ジャワ州の投資機会を発見するビジネスフォーラム」に、府の関係支援機関が広報協力。日本国内企業、府職員も参加し、交流が行われた。
- (5)効果(本事業による成果): フォーラムを通じて、東ジャワ州とのビジネス面での交流が深まった。
- (6)当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域の関係者(東ジャワ州政府機関関係者、州内関係機関)

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

・交流計画では、各国・各地域との「交流の深化・裾野拡大、青少年の国際感覚の醸成」を目標として掲げているが、上記(2)-1事業の効果として記載のとおり、今回取組により、事業を通じて、「国際交流・活動に関する関心が高まった」とする参加生徒の割合が99.5%という結果を得た。会期前セミナーについても含め、2年連続で高水準(H6年度:95.2%)の回答率となった。そのほか、「国際交流のイベントをもっと参加したい」、「もっと深く興味のある国について調べたいと思った」、「今後も国際交流イベントがあれば積極的に参加したいし、社会問題や世界中の抱えている問題に着いて議論したり、解決策を考えたい」といった前向きなコメントが数多く見受けられ、目標に対する成果が着実に挙がっている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●**良かった点:**会期前には、約200名もの高校生等に、8か国もの国の留学生と交流する機会を提供でき、府内青少年の国際感覚の醸成を進めることができた。同時に万博関係者による講演等を通じて、万博への関心を高めることができ、機運醸成にも貢献することができた。また会期中も、約300名以上の高校生等に府の友好交流のネットワークを活用しながら、国際交流の機会を提供すると同時に、友好交流先に対して、万博会場における府内企業等との交流の機会を提供することができ、相互理解を促進することができた。会期後は会期中の交流の様子を収めた動画を作成し、府内高校等へ展開していく予定。

●**苦労した点:**会期中は特にセミナー講師となる友好交流先からの専門家等の招聘にあたり、相手先との調整が時差、言語、習慣などによりスムーズにいかないこともあり、苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・万博国際交流プログラム、高校生向けセミナーを通じて得たノウハウ、ネットワークを生かし、次年度も友好交流先等から講師を招聘しながら、高校生をはじめとした府民向けセミナーを開催(予定)し、都市間の関係強化と万博のソフトレガシーとしての国際交流の継続・発展を図る。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

・被招聘者の決定と参加者の募集にかなりの時間を要することが予想されるため、計画的な事業実施が求められる。
・被招聘者とのコミュニケーションを円滑に図るための、適切な人材(委託事業者)の確保。



令和6年度 Hello-EXPO
国際交流事業の様子



令和7年度 Hello-EXPO
国際交流事業(高校生向けセミナー)の様子



令和7年度 Hello-EXPO
国際交流事業(府内視察:大阪ヘルスケアパビリオン)の様子

大阪市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府大阪市

相手国・地域

オーストラリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-1) 事業内容

【オーストラリア大使館によるオンライン講話】

- ①令和6年12月 オーストラリア大使館へ依頼 令和7年4月 オンライン講話の打ち合わせ
令和7年5月7日 オーストラリア大使館広報担当者のオンライン講話を実施
- ②体制:オーストラリア大使館、大阪市立波除小学校、大阪市立新翼中学校、万博推進局、大阪市教育委員会
- ③内容:オーストラリアの自然・文化・環境対策、オーストラリアパビリオンのテーマや展示内容の紹介
- ④効果:オーストラリアの自然や文化の大切さ、SDGsの取組について学び、自分たちの国について調べ、自分たちにできることを考える。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-2) 事業内容

【オーストラリアパビリオン訪問】

- ①令和7年7月 オーストラリアパビリオン関係者を通じてパビリオンの訪問予約
令和7年9月18日(新翼中学校)、令和7年9月22日(波除小学校) 大阪・関西万博のオーストラリアパビリオンを見学
- ②体制:オーストラリアパビリオン、大阪市立波除小学校、大阪市立新翼中学校、大阪市教育委員会
- ③内容:オーストラリアパビリオンの掲げる「太陽と大地(自然環境)」をテーマにした展示を見学し、パビリオンスタッフによる説明を聞く。
- ④効果:万博の理念やオーストラリアのSDGsの取組について学び、自分たちの国について調べ、自分たちにできることを考える。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-(3) 事業内容

【アボリジニ文化学習】(予定)

- ①令和7年11月に講師へ依頼、12月に講師と打ち合わせ、令和8年2月24日に実施予定
- ②体制:大阪市立波除小学校、大阪市教育委員会、株式会社With The World
- ③内容:2月24日に大阪市立波除小学校にて、講師を招聘し、低・中・高学年の3回に分け、全校生に対して、アボリジニ文化の講話や、伝統楽器の演奏を行う。
- ④効果:オーストラリアの伝統文化を五感を使って学び、興味関心を深化させる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【ジーロングサウス校・リリーデールハイツカレッジ校とのスライド交流及びオンライン交流】(予定含む)

- ①スケジュール: 令和7年3月18日(新巽中学校・ジーロングサウス校) 令和7年5月7日(波除小学校・リリーデールハイツカレッジ校)第1回オンライン交流実施
令和7年11月にスライドを使った学校間交流の実施、令和7年12月にオンライン交流の日程調整、令和8年3月に第2回オンライン交流予定
- ②体制:オーストラリア教育省、ジーロングサウス校・大阪市立波除小学校、大阪市教育委員会、株式会社With The World
- ③内容:波除小学校の高学年を対象に日本とオーストラリアのお互いの国の文化、学校生活の様子を紹介し合う、スライド交流に加え、オンラインでの交流も実施する。
- ④効果:お互いの国や文化、学校生活の様子を理解し、継続的な国際交流への関心・意欲が高める。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(5) 事業内容

【訪日経験者、訪豪経験者による講演会】(予定)

- ①スケジュール: 令和7年11月に講師依頼、令和7年12月に日程調整、令和8年3月に実施予定
- ②体制:大阪市立新巽中学校、大阪市教育委員会、株式会社With The World
- ③内容:大阪市立新巽中学校にて、訪日経験者、訪豪経験者による講演会を実施し、各国でのホームステイ経験を基に、次年度へオーストラリアの生徒を受け入れる体制を作る。
- ④効果:経験者の講演を聞くことで、オーストラリアの方を日本に招いた場合に知っておくべき知識について学び、受け入れの準備をする。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型:
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

事前学習や交流を通じて、児童生徒の意欲関心を高めてから、万博会場を訪問し、オーストラリアパビリオンを見学することで深い学びにつなげることができた。時差やお互いの都合を考慮した、交流方法を用いて負担や言語の壁を超えた交流体系が実施できている。昨年度から今年度にかけて、オンラインで交流した経験をもとに、継続的な学びの展開を構想できている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

時差を考慮した交流の仕組みが実施できること

●苦労した点

日本とオーストラリア双方の年間予定と取組の実施スケジュールの調整

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

・ICTを活用した、業務負担や費用負担を抑えた交流方法を提案、実施していることから、継続的な交流が期待できる。

・オーストラリアの生徒を日本に招待した訪問交流のための予備知識を学ぶ経験ができたことから、今後も相互訪問が実現可能である。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

・学校現場の年間行事を考慮し、年度初めにプログラムデザインをすること

・交流を継続させるための予算の確保

・普段の授業に沿った交流内容を実施することで、負担感を減らし、日常に国際交流を入れられる環境作り



オーストラリアパビリオン訪問

大阪市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	韓国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪市生野区は、5人に1人が外国人住民であり、国籍・地域は約80にのぼる。その7割近くが韓国・朝鮮籍（区内における外国人人口1位）である。外国人が増えるきっかけとして、1922年に韓国の済州島と大阪を結ぶ航路が開設され、同島の出身者が定住するようになった。当区は、その済州島出身者が中心となり形成した「大阪コリアタウン」がある地域であり、いまでは年間約200万人が訪れる観光名所である。また、この度、日韓相互友好増進のため、済州特別自治道知事からトルハンの寄贈を受け、コリアタウン近隣の公園にトルハルバンが設置されたところである。これら長年にわたる地域特有のつながり・交流を、万博を契機にさらに醸成させ、多文化共生の理解促進・まちの魅力向上に取り組む。

イ 目標

万博を契機に、わが国と古くからつながりの深い大韓民国との交流を通じて、多文化共生への理解を促進し、多様な生活・食文化があるまち大阪市生野区のグローバルタウンとしての魅力とにぎわいをより高め、ひいては万博開催後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信へとつなげるとともに、両国の友好と発展に寄与する。

2-（1）事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（EXPOいくの万博夜市～韓国フェア～）

①スケジュール

令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」の登録申請を行い、第一次登録として公表済み。

令和7年1月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。3月に民間事業者より事業提案を受け、5月に業務委託契約を締結。

②体制

業務委託による実施（発注：大阪市生野区、受注：民間事業者）

③内容

日時：2025/7/12(土)、2025/11/8(土)、9(日)いずれも16:00-21:00

場所：「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容：交流相手国の食文化に特化した屋台ブースやキッチンカーを出店、交流相手国の歴史や文化に触れることができるステージのイベントも実施
近隣の大阪コリアタウンでの夜市(ヤシジャン)同時開催

参加者：区内住民を中心とし、約2,000人/日

④効果

区内住民および飲食店を中心にまちの賑わい創出、多文化共生における相互理解の促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（料理イベント「対決！韓国料理の昔と今」）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2025/7/12(土) 14:00-16:00

場所:「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容:新旧韓国料理デモンストレーション。昔ながらの韓国料理の調理人と韓国料理研究者による料理の実演

参加者:30名(抽選)

④効果

伝統的な味わいや現代的なアプローチを楽しみながら、深い歴史と多彩な種類、文化とともに絶えず進化してきた韓国料理の魅力を分かち合い、より一層理解を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(3) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（韓国パビリオン訪問）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2025/9/9(土) 10:00-12:30

場所:大阪・関西万博会場内 韓国パビリオン

取組内容:韓国パビリオン見学

参加者:10名(スタッフ除く)

④効果

韓国の最先端技術に触れ、パビリオン内のスタッフとの交流を図ることができた

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（大阪コリアタウン歴史資料館見学・フィールドワーク）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2025/11/8(土) 14:00-16:00

場所:大阪コリアアタウン歴史資料館とその周辺

取組内容:大阪コリアアタウン歴史資料館周辺のまちあるきと歴史資料館見学・解説

参加者:10名(スタッフ除く)

④効果

参加者アンケートで全員が「生野区は外国人が住みやすいまちだと感じる」と回答し、多文化共生の理解促進とまちの魅力向上に資することができた

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前、会期中を通じて、韓国の食文化を中心とした夜市を開催するとともに、市民向けに文化や歴史を紹介するイベントを実施した。また、韓国総領事館の協力を得て韓国パビリオンを訪問し、相互交流を行った。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

地域では身近な存在の「韓国」について、食文化の歴史や現代の新しいコンテンツ等をあらためて知ることができた。

●苦労した点

地域での身近な存在でありつつ、多文化共生の理解促進やまちの魅力向上につなげるための新たなアイデアを模索した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期前の事前学習期間を含め、韓国総領事館や関係機関との関係が深まり、今後も引き続き協調的な関係づくりを進めていく。また大阪 코리아タウンとの夜市同時開催など長年にわたる地域特有のつながりや文化をあらためて深く感じる機会となり、両国の友好と発展に寄与したと考える。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

外国人住民が増加し続け、外国につながる住民の抱える課題も多様化・複雑化しており、公民連携による包括的な支援を検討している。外国人住民が地域社会に参画し、互いに言語や多様な文化を学び、交流できる場の創出をめざす。



料理イベント



코리아タウン夜市(ポジャンマチャ)



韓国パビリオン訪問



大阪 코리아タウン歴史資料館
フィールドワーク

大阪市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府大阪市

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-（1）事業内容

【中国パビリオン訪問】

- ①令和7年3月 中国領事館を通じてパビリオンの訪問予約を依頼 令和7年5月14日 大阪・関西万博の中国パビリオンを見学
- ②体制：中国領事館、中国パビリオン、大阪市立日吉小学校、大阪市教育委員会
- ③内容：中国パビリオンの掲げる「自然とともに生きるコミュニティ」をテーマにした展示を見学し、パビリオンスタッフによる説明を聞く。
- ④効果：万博の理念や中国のSDGsの取組について学び、自分たちの国について調べ、自分たちにできることを考える。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-（2）事業内容

【中国の伝統ゴマ達人を招待した体験プログラム】

- ①令和7年10月に講師へ依頼、打ち合わせ、令和7年12月18日にイベント実施
- ②体制：大阪市立日吉小学校、大阪市教育委員会、大阪国際交流センター、株式会社With The World
- ③内容：12月18日に大阪市立日吉小学校にて、中国の伝統ゴマ達人を招待して、5年生180名に対し、コマの演技鑑賞や、コマの体験を実施した。
- ④効果：実際に文化に触れ、体を動かすことで、もっと知りたいという気持ちを醸成することができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

2-（3）事業内容

【済南開元外国語小学校とのオンライン交流】（予定）

- ①スケジュール：令和7年10月に領事を通じて依頼、令和7年11月に事前打合せ、令和7年12月に日程調整、令和8年3月にオンライン交流予定
- ②体制：駐大阪中国総領事館、中国校、大阪市立日吉小学校、大阪市教育委員会、株式会社With The World
- ③内容：5年生180名と中国の学校がオンラインにてお互いの国や文化、学校生活の様子を交流予定。
- ④効果：お互いの国や文化、学校生活の様子を理解し、継続的な交流への関心・意欲を高めることができる。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型：
イ 万博参加国・地域の関係者 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

事前学習や交流を通じて、児童生徒の意欲関心を高めてから、万博会場を訪問し、中国パビリオンを見学することで深い学びにつなげることができた。昨年度までの学習をつなげ、5感を使った体験交流をすることで、それぞれの児童がまた学びたいと考える機会を与えられたこと。オンラインでの継続的な交流を通して、学校としての交流イベントを常態化するきっかけにすることができる。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

継続的な文化交流を意識したイベントやプログラムの計画ができたこと。

●苦勞した点

学校の行事が多岐にわたり、日程を確保することやイベントの主旨、内容の認識合わせること。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

中国の小学校の児童との継続的なオンライン交流の取組や時差の影響を受けない交流方法の提案と実施による定期的な学習交流につなげていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・学校現場の年間行事を考慮し、年度初めにプログラムデザインをすること
- ・交流を継続させるための予算の確保
- ・普段の授業に沿った交流内容を実施することで、負担感を減らし、日常に国際交流を入れられる環境作り



中国パビリオン訪問



中国コマゲストティーチャーによる出前授業

大阪市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府大阪市

相手国・地域

ドイツ

○ 教育委員会事務局

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪・関西万博の開催にあたり、地元自治体小中学校及び義務教育学校412校における機運醸成を図るとともに、大阪府教育庁による「2025年日本国際博覧会児童・生徒招待事業」への学校単位での参加に向けた事前・事後学習として国際交流の取組を位置づけることで、万博の理念やSDGsに関する共通課題についての理解を深め、持続可能な社会を担う人材の育成をめざす。

イ 目標

交流相手国関係者や児童生徒との、対面またはオンラインによる国際交流を実施することで、万博の意義をはじめ、お互いの国の文化やSDGsに関する取組についての理解を深める。

2-（1）事業内容

【ドイツパビリオン見学】

- ①令和7年4月 ドイツ領事館関係者を通じてパビリオンの訪問予約 令和7年5月30日 大阪・関西万博のドイツパビリオンを見学
- ②体制：在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、大阪市立大成小学校、大阪市教育委員会
- ③内容：ドイツパビリオンの掲げる「環境」をテーマにした展示を見学し、パビリオンスタッフによる説明を聞く。
- ④効果：万博の理念やドイツのSDGsの取組について学び、自分たちの国について調べ、自分たちにできることを考える。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-（2）事業内容

【ドイツ文化交流イベント】（予定）

- ①令和7年11月に領事館関係者へ講演依頼、令和7年12月にマスコット「サーキュラー」の手配、令和7年12月にドイツ留学経験者との打ち合わせ、令和8年2月9日ドイツ文化交流イベント実施予定
- ②体制：在大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館、大阪市立大成小学校、大阪市教育委員会、株式会社With The World
- ③内容：ドイツ領事館関係者を招聘し、大阪万博のドイツパビリオンが掲げていた「環境」をテーマにした講演を実施する。また、サーキュラーやドイツ留学経験者もイベントに参加し、クイズ大会や交流をする。
- ④効果：児童がドイツへの興味関心を深化するとともに、「環境」について自国の現状と比較しながら学びを展開する。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

事前学習や交流を通じて、児童生徒の意欲関心を高めてから、万博会場を訪問し、ドイツパビリオンを見学することで深い学びにつなげることができた。クイズを通して、知識を養うとともに、親しみやすいマスコットを通して、低学年の児童にも興味関心が持てるプログラム導入ができる。領事館関係者の講演を通して、自分たちにも身近な「環境」について考え、今後の学びにつなげることができる。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

どの発達段階にも刺激のある仕掛けがあるイベント構成ができた。

●苦労した点

学校の行事が多岐にわたり、日程を確保することやイベントの主旨、内容の認識合わせること。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

ゲストティーチャー(ドイツ総領事館関係者)の児童との定期的な交流学習の取組につなげていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・学校現場の年間行事を考慮し、年度初めにプログラムデザインをすること
- ・交流を継続させるための予算の確保
- ・普段の授業に沿った交流内容を実施することで、負担感を減らし、日常に国際交流を入れられる環境作り



ドイツパビリオンの見学

○ 大正区役所

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大正区は第一次世界大戦の折、大正区の南恩加島にあった「大阪俘虜収容所」でドイツ将兵が生活をされた歴史的事実を顕彰し、ドイツとの国際交流を図るため、「大正ドイツ友好の会」が設立され、ドイツ総領事館の協力のもと平成18年2月に収容所跡地近くにある公園内に史跡碑の設置や「第九合唱」、「ドイツセミナー」の実施など交流を行ってきた。ドイツとの交流をきっかけとした地域活動は一部で継続していたが限定的な取組となっていたため、「万博国際交流プログラム」を活用し、ドイツを相手国として友好の絆を深めるとともに万博の盛り上げを図る。

イ 目標

大正区におけるドイツ文化交流イベントを通じて、地域住民に豊かな交流の機会を提供し、ドイツ文化を理解することで多文化共生への認識を高めるとともに、地域の魅力を拡充する。合わせて、地域住民の万博への来場意欲を向上させることをめざす。

2-(1) 事業内容

【事業名】ドイツパビリオンでの区内中学生との交流

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年4月 アイハウス多文化交流プラットフォームの「ドイツの達人」を通じてドイツパビリオンの関係者を紹介いただく。
令和7年5月～9月 ドイツパビリオンの関係者、大正西中学校と調整
令和7年9月 事業実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

大正区役所がドイツパビリオンの運営を行う企業と調整を行い、大正西中学校とドイツパビリオンの関係者の交流を図った。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時: 令和7年9月16日(火) 10時30分～12時
場所: 大阪・関西万博会場 ドイツパビリオン内
取組内容: 大正西中学校の校外学習で大阪・関西万博会場を訪れる際に、ドイツパビリオンを訪問し、パビリオン関係者との交流を図った。
参加者: 大正西中学校生徒・教員: 約200人
報道対応: 実績なし

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

自治体内への波及効果として、地域の文化理解と国際交流への関心が高まった。
また、相手国への波及効果として、ドイツ文化の魅力を広げる場となり、交流のきっかけを提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者



ドイツパビリオン内の様子

2-(2) 事業内容

【事業名】ドイツ歴史・文化学習会

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年12月 アイハウス多文化交流プラットフォームの「ドイツの達人」を通じて在日ドイツ人講師の参加を依頼。

令和7年12月～2月 大阪市立大正西中学校、講師と事業内容を調整。

令和8年2月 事業の実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

大正区役所が主催し、ドイツパビリオンでの交流を行った大阪市立大正西中学校の生徒をを対象に実施予定。講師についてはアイハウス多文化交流プラットフォームの「ドイツの達人」に在日ドイツ人の方をご紹介いただく方向で検討中。

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

日時: 令和8年2月10日(火) 14時25分～15時15分(予定)

場所: 大阪市立大正西中学校

取組内容: 在日ドイツ人の方を講師に招き区民を対象にドイツの歴史や文化を紹介する講習会を行うことで交流を図る。

参加者: 大阪市立大正西中学校2年生の生徒・教員: 約60人

報道対応: 予定なし

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

自治体内への波及効果として、地域の文化理解と国際交流への関心が高まった。イベントを通じて、地域住民の国際意識が向上した。また、相手国への波及効果として、ドイツ文化の魅力を広げる場となり、交流のきっかけを提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前から会期中、会期後にかけて実施した交流推進の取組により、地域の多文化共生に対する理解や区の魅力向上に一定の効果がうかがえる。事業参加者へのアンケートでは、90%以上が肯定的な評価を示しており、交流促進の効果が確認された。

また、令和7年2月に区内1,500人を対象として実施した調査では、万博への来場意向度が54.2%に達し、区民の万博への関心と機運が高まっていたことがうかがえる。なお、この数値は令和6年12月の大阪府・市実施調査(大阪府全体39.6%)と比べて高い傾向を示している。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

今回の取組により、大正区が持つドイツに関わる歴史について住民が再認識する機会を提供できたほか、区内初のオクトーバーフェストの開催や、ハンブルクの合唱団との合同演奏の実現を通じ、ドイツの文化や魅力をより身近に感じていただくことができた。また、こどもを対象としたプログラムも複数実施したため、若い世代の万博参加への関心を高め、国際理解の促進にも一定の成果を得ることができた。

●苦労した点

交流を進める中で、ドイツ側のどなたと連絡を取れば良いのか分からず苦労した。アフリカや中南米などの国々との交流にはコーディネイターが付き、支援があったので同様の支援があれば助かったように思う。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を通じて築かれたドイツとの友好・交流関係を基盤とし、今後は区民や地域事業者が主体となり、民間レベルで交流活動が継続・発展することをめざす。そのため、区役所としては、区民や関係団体による自主的な取組に対して、広報などの支援を検討する。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今後、区民や地域事業者が主体となり、民間レベルで交流活動を持続的に推進していくためには、行政による財政支援に依存しないかたちでの取組のあり方を模索することが重要であるため、その実現に向けて、今後さらに検討重ねていく必要がある。

大阪市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	大阪府大阪市
相手国・地域	ベトナム

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大阪市生野区は、5人に1人が外国人住民であり、国籍・地域は約80にのぼる。その7割近くが韓国・朝鮮籍(区内における外国人人口1位)であるが、近年はベトナム社会主義共和国からの留学生が増加し、現在ではベトナム社会主義共和国は、区内における外国人人口が2位となっている。インバウンド需要の増加など、今後さらにベトナム社会主義共和国からの住民が増えることが見込まれることから、これらベトナムとの交流を、万博を契機に活発化し、多文化共生の理解促進・まちの魅力向上に取り組む。

イ 目標

万博を契機に、ベトナムとの交流を通じて、多文化共生への理解を促進し、多様な生活・食文化があるまち大阪市生野区のグローバルタウンとしての魅力とにぎわいをより高め、ひいては万博開催後も国際都市としての大阪の都市魅力の創造・発信へとつなげるとともに、両国の友好と発展に寄与する。

2-(1) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業 (EXPOいくの万博夜市～ベトナムフェア～)

①スケジュール

令和6年2月末に交流計画を作成のうえ「万博国際交流プログラム」の登録申請を行い、第一次登録として公表済み。

令和7年1月にプロポーザル方式による事業者募集を実施。3月に民間事業者より事業提案を受け、5月に業務委託契約を締結。

②体制

業務委託による実施(発注:大阪市生野区、受注:民間事業者)

③内容

日時:2025/10/11(土)、12(日)いずれも16:00-21:00

場所:「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容:交流相手国の食文化に特化した屋台ブースやキッチンカーを出店、交流相手国の歴史や文化に触れることができるステージのイベントを実施
地域にゆかりのあるサーカス団を招待、国籍や年齢を問わない身体表現によるエンターテインメントと体験コーナーの企画

参加者:区内住民を中心とし、約2,000人/日

④効果

区内住民および飲食店を中心にまちの賑わい創出、多文化共生における相互理解の促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（料理イベント「北と南でこんなに違う！地域で見るベトナムの食文化」）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2025/10/11(土) 14:00-16:00

場所:「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容:ベトナム料理デモンストレーション。地域によって異なる味付けや食材使ったベトナム料理のバラエティー豊かな味わいを再発見・新発見するイベント

参加者:30名

④効果

地域による違いを楽しみながら、深い歴史と多彩な種類、文化とともに絶えず進化してきたベトナム料理の魅力を分かち合い、より一層理解を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者 ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(3) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（万博会場ベトナムナショナルデー訪問）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2025/9/9(土) 10:00-12:30

場所:大阪・関西万博会場内 フェスティバルステーション他

取組内容:ベトナムナショナルデープログラムイベント見学

参加者:10名(スタッフ除く)

④効果

ナショナルデー特有の雰囲気や楽しさを味わい、興味深い異文化体験ができた

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者 イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【事業名】令和7年度 食を通じた国際文化交流事業（実施予定）

①スケジュール ②体制 (2)-1事業内容に同じ

③内容

日時:2026/3/14(土) 14:00-16:00

場所:「いくのパーク」(大阪市生野区桃谷5丁目)

取組内容:交流相手国の歴史や文化に触れる体験

参加者:未定

④効果

多文化共生の理解促進とまちの魅力向上に資する

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前、会期中を通じて、ベトナムの食文化を中心とした夜市を開催するとともに、市民向けに文化や歴史を紹介するイベントを実施した。また、ベトナム総領事館の協力を得て、会期前にベトナムパビリオンの紹介を行うなど万博の認知度向上・機運醸成を図った。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

区内における外国人人口が2位となっている「ベトナム」について、食文化の歴史や国民性を知ることによって相互交流ができた。

●苦労した点

万博参加国関係者への協力依頼をはじめイベント準備など具体的な合意形成に相当な時間を要し、調整が思うように進まず困難に感じられた。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期前の事前学習期間を含め、在大阪ベトナム総領事館やベトナム関係団体との関係が深まり、今後も引き続き協調的な関係づくりを進めていく。万博会期後も関係団体が主催するイベントでの後援・連携など具体的な動きがあり、両国の友好と発展に寄与したと考える。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

外国人住民が増加し続け、外国につながる住民の抱える課題も多様化・複雑化しており、公民連携による包括的な支援を検討している。外国人住民が地域社会に参画し、互いに言語や多様な文化を学び、交流できる場の創出をめざす。



料理イベント



夜市



夜市(ステージ)



夜市(サーカス団パフォーマンス)

堺市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府堺市

相手国・地域

チェコ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市では、現在の人口減少、高齢化社会において、国際化を推進し、多様な文化的背景を持った人々を受け入れ、共生していくことが重要と考えており、大阪・関西万博を契機とし、チェコ共和国(以下、チェコ)出身の画家アルフォンス・ミュシャの作品をはじめ文化的なつながりの深い同国との結びつきを強化し、今後の交流深化につなげる。

イ 目標

交流事業に関わる方に、本市と結びつきのあるチェコの文化への理解を深めてもらう。また、次の時代の堺を担う子どもたちが国際社会を身近に感じ、異文化理解の促進及び多様な価値観や広い視野を養う機会を創出する。

2-1) 事業内容

【ブルノ国立劇場スタッフによるワークショップを開催】

①ブルノ国立劇場と実施に向けた協議を行い、堺市内の小学校にて同劇場スタッフによるワークショップを実施。

②ブルノ国立劇場と連携し実施。

③(日程)令和7年6月3日(火) (場所)堺市立安井小学校

(内容)「母」公演に先立ち、ブルノ国立劇場によるワークショップを市内小学校で実施し、公演理解の促進とチェコの演劇文化に触れる機会を創出。あわせて、舞台芸術を通じた国際交流により、次世代を担う子どもたちの多様な表現や価値観への理解を深め、国際社会への関心を高める取組を実施。

④子どもたちの国際感覚の醸成や異文化理解の促進。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-2) 事業内容

【ブルノ国立劇場を招聘し、チェコ共和国出身の劇作家カレル・チャペックの名作「母」公演を開催】

①ブルノ国立劇場及び(公財)堺市文化振興財団と実施に向けた協議を行い、市内でカレル・チャペックの名作「母」公演を開催。

②ブルノ国立劇場、(公財)堺市文化振興財団と連携し実施。

③(日程)令和7年6月4日(水)、5日(木) (場所)フェニーチェ堺 小ホール

(内容)チェコ共和国からブルノ国立劇場を招聘し、市民向けに関西初となる「母」公演をチェコ語(英語・日本語字幕)で計4回開催。同時に、チェコと堺のつながりを知っていただけるような展示、チェコ関連の絵本の紹介も実施。※なお、計4回の「母」公演のうち、2回は市内学生向けの公演。

④本市とチェコ共和国の一層の交流促進。子どもたちの国際感覚の醸成や異文化理解の促進。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【堺市主催催事へのチェコパビリオン関係者の招待及びコラボレーションステージの実施】

- ①チェコパビリオン、在堺チェコ共和国名誉領事館と協議を行い、堺市主催催事へパビリオン関係者を招待し、9月にはコラボレーションステージを実施。
- ②チェコパビリオン、在堺チェコ共和国名誉領事館と連携し実施。
- ③(日程)令和7年5月10日(土)～13日(火)、7月28日(月)、9月25日(木)
(場所)万博会場内のギャラリーEAST(5月)、大阪ヘルスケアパビリオンリボンステージ(7、9月)
(内容)万博会場内での堺市主催催事へチェコパビリオン関係者を招待。
9月の催事では学生ボランティアとのコラボレーションステージとしてボヘミアンガラスを使用した茶会を実施。
- ④茶の湯文化の魅力発信を通じた堺の認知度・関心度の向上、市内誘客の促進。参加した学生の国際感覚の醸成、相互の異文化理解による交流の深化。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-(4) 事業内容

【外国公館職員による特別授業】

- ①在堺チェコ共和国名誉領事館と実施に向けた協議を行い、堺市内の小学校にて同館職員による特別授業を実施。
- ②在堺チェコ共和国名誉領事館と連携し実施。
- ③(日程)令和7年10月3日(金) (場所)堺市立八田荘西小学校
(内容)こどもたちにチェコの文化や、堺とチェコの文化的つながりを名誉領事館職員から伝えることにより、次の時代の堺を担うこどもたちが国際社会を身近に感じ、多様な価値観や広い視野を養うことで、「未来に向けた行動」に繋がる機会を創出するため、在堺チェコ共和国名誉領事館と連携・協力し、市内学校で特別授業を実施。
- ④こどもたちの国際感覚の醸成や異文化理解の促進。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

2-(5) 事業内容

【チェコパビリオンでの「堺おもてなし茶会」の実施】

- ①チェコパビリオンチームと連携し、堺の茶の湯とチェコのボヘミアンガラスを融合させた「堺おもてなし茶会」を開催。日本とチェコの文化をつなぎ、両国の相互理解と交流を深める特別な体験を提供。
- ②チェコパビリオンと連携し実施。
- ③(日程)令和7年10月9日(木)
(場所)チェコパビリオン
(内容)堺おもてなし茶会へチェコパビリオン関係者、来場者を招待。
- ④茶の湯文化の魅力発信を通じた堺の認知度・関心度の向上、市内誘客の促進。参加者の国際感覚の醸成、相互の異文化理解による交流の深化。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

アルフォンス・ミュシャの作品を通して堺市とチェコとはつながりを深めてきたが、万博国際交流プログラムにおける事業を実施したことにより、これまでとは異なる側面から、同国と堺市とのつながりを創出し、交流を深化させることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

ブルノ国立劇場制作のカレル・チャペック「母」の上演を通じて築かれるネットワークにより、これまでミュシャが中心であったチェコとの交流から、新たな文化や教育などに交流の幅が広がり、一層の交流促進が期待できるようになった点。

●苦労した点

大規模公演の招聘において、相手国と時差がある中、契約書内容調整など相手国関係者との調整に難航した点。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・ブルノ国立劇場による堺市での「母」公演及びワークショップの実施は、万博を契機に大阪で開催したいとのチェコ要人の期待に応えるとともに、ブルノ市からも好意的に受け止められ、国際交流のネットワーク構築に寄与した。
- ・フェニーチェ堺でのギャラリー展示にて、堺 アルフォンス・ミュシャ館が所蔵するミュシャ作品のレプリカやチェコの絵本画家、作家の作品を展示することで、市民のチェコ文化の理解、文化交流の促進に寄与した。
- ・特別授業を通じて、児童がチェコ文化を楽しく学べる機会を提供したことで、こどもたちの国際感覚の醸成に寄与した。次年度以降も継続して当該取組を実施予定。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・本市での大規模公演は終了したが、在チェコ日本国大使館や現地自治体(プラハ市、ブルノ市)、その他文化機関との連携を強化し、国際交流ネットワークを持続的に発展させる仕組みを構築する。
- ・本市のチェコ関連イベントにおいて在堺チェコ共和国名誉領事館や在日チェコ大使館、チェコセンター東京等を招待し、次年度以降を見据えた継続的な交流を図る。



「母」公演の様子



堺市主催催事における
コラボレーションステージ



「堺おもてなし茶会」の様子

岸和田市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府岸和田市

相手国・地域

フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

岸和田市は、大阪市内から約30km、関西国際空港から約10km、大阪府南部の泉南地域に位置し、古くから城下町として、泉南地域の経済・文化・行政の中心的都市として、多様性を持った調和型都市として発展してきました。市内在住の就業者の半数が市外へ通勤し、大阪都市圏の住宅都市としての特性を持ち、製造業や工業、農林水産業を含めた多様な産業都市となっています。現在、人口減少・高齢社会に対応した「選択と集中」や、規模を適正化して機能を維持・充実させるダウンサイジングなど、量より質を重視したまちづくりが求められています。歴史、文化、産業等の地域資源を活かし、「笑顔にあふれ、誰もが幸せを感じる都市」の実現という理念のもと街づくりを進めています。増加する外国人住民も含め、市民が多様な価値観を理解し、共生していく環境づくりのため、国際交流事業を進めています。

イ 目標

海外の多様な都市との人的交流を図り、多文化との共生社会の推進を図るとともに、環境問題などの共通課題についての課題解決型の国際交流へと発展させていくことを目標としています。

2-（1）事業内容

【事業名】青少年海外（ラ・ロシェル市）音楽交流受入事業（大阪・関西万博コンサート）

- ①スケジュール（交流計画通りに事業が進み、全て滞りなく取り組むことができた）
- ②体制（岸和田市、ラ・ロシェル市、在京都フランス総領事館、COFREX、株式会社JTBなど）
- ③内容（日時：R7.4.30～R7.5.5（5.2 万博コンサート）、場所：大阪府岸和田市／大阪・関西万博会場内、取組：日仏の青少年による音楽交流）
- ④効果（万博会場内にて開催したコンサートでは、招待客以外にも、万博に来場して下さっていた多くの方に広く参加いただくことができた。日仏の青少年による演奏はもちろんのこと、岸和田市や取り組みについて広く宣伝することができた。演奏した青少年にとって貴重な経験となった。）
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
 - イ 万博参加国・地域の関係者
 - ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2-（2）事業内容

【事業名】青少年海外（ラ・ロシェル市）音楽交流受入事業（岸和田市立自泉会館コンサート）

- ①スケジュール（交流計画通りに事業が進み、全て滞りなく取り組むことができた）
- ②体制（岸和田市、ラ・ロシェル市、岸和田文化事業協会など）
- ③内容（日時：R7.4.30～R7.5.5（5.3 自泉会館コンサート）、場所：大阪府岸和田市／岸和田市立自泉会館内、取組：日仏の青少年による音楽交流）
- ④効果（岸和田市立自泉会館でのコンサートにおいては、岸和田市民を対象にし、多くの市民の方に参加いただくことができた。本市での取り組みや交流について広く市民に周知することができた。国境や言葉の壁を越えた青少年交流は、青少年の成長や岸和田市の国際交流に寄与するものとなった。）
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
 - イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

交流計画の最終目標として、本市とラ・ロシェル市との姉妹都市締結を目標としている。その為に今回の音楽を通じた相互交流については実績が不可欠であった。ラ・ロシェル市との相互交流を終えた今、ラ・ロシェル市とは今後も引き続き音楽交流を行っていくこととしている。ラ・ロシェル市には音楽交流は継続案件であることを認識してもらっており、岸和田市としても次年度に本市から派遣することを予定している。また、成果としては、両都市が交流を継続すべきであることを見出すことができたことが一番大きかったと言える。またそれ以外にも、青少年による音楽交流は、国境や言語を越えて、青少年の成長はもちろんのこと、音楽の力で人々の心を豊かにする交流であったことは間違いのないであろう。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- **良かった点** 音楽を通じて、国境や言語の壁を越え、コンサートが成立したこと、日仏の青少年が日ごとに絆を深めていく姿を見ることができたことは、この事業の良かった点である。また派遣の成果を多くの市民が関心を持ち、実際に演奏をいただけたことが非常に良かった。
- **苦労した点** フランスとの交流の中で、担当者間のやり取りが英語となり、細かいところを伝えきることができないこともあった。特に、音楽交流ということもあり、平素の青少年交流とは違い、色々気を付ける点が専門的な知識や配慮すべき展があり、苦慮した。

会期前から会期後まで、相互理解・達成感・地域の広がりなど多くの成果があった一方、コミュニケーション・運営・持続化などの面で課題も多かった。しかし、そのような経験が今後の国際交流やレガシーの発展に役立つ貴重な財産となった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博閉会後においても、相互交流を通じて、多くの方に認知をしていただき、両都市の新たな交流の形を築くことができた。今後も両都市にとってよりよい関係性を築くこととし、従来の目標である姉妹都市締結を目指し、音楽交流の事業拡大、またそれ以外の新たな事業の創造に寄与し、多くの市民の参加を促し、市民の国際感覚を養うことができる。また、大阪・関西万博で行った青少年による音楽交流はグローバルな出会いの場として、「国際交流」「人材育成」「文化振興」「地域協働」といった多様なレガシー創造に寄与し、この繋がりや経験は、未来の市民に継承されていく貴重な財産となるだろう。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今後の取り組みの課題としては、音楽を学ぶ青少年の数も限られており(特にピアノ専攻にかたよりがち)、ピアノ以外に楽器を学ぶ青少年の数が少なく選抜が難しくなっている。引き続き、本市の交流内容を広く周知することで、音楽を学ぶ青少年の一定数を確保し、継続的に人材を輩出するように努めることとする。



万博会場内コンサートの様子



ポップアップステージ南にて



フランスパビリオン視察



練習風景



自泉会館コンサートの様子



岸和田市伝統文化体験



万博コンサートのプログラム (表)



万博コンサートのプログラム (裏)

1 背景と目標等

ア 背景と目的

豊中市は大阪市北部に位置する人口40万人規模の中核市。空港、鉄道、バスなどの公共交通機関が発達し、交通アクセスに優れ、早くから郊外住宅都市として発展した。昭和37年にサンマテオ市の高校生が交換留学生として日本滞在中に豊中市へ立ち寄り、住宅都市としての町の雰囲気や空港が近いなどの類似点を当時市議会議員であった父親に話したことをきっかけに、姉妹都市提携に繋がった。その後、親善使節の相互派遣や少年野球、女子ソフトボールなどの学生間交流を絶え間なく行っている。令和5年には姉妹都市提携60周年を迎え、両市長にて「教育と文化」における交流推進を共通目標に掲げ、両市学生が深く繋がるため尽力することを宣言。従来の各種交流も継続しながら、大阪・関西万博を契機に新たな交流機会を設ける。両市の中学生が環境をテーマに学び、意見交換や相互理解を進めることで、世界の共通課題を自分事として捉え、協力して改善提案し、より深い国際交流へ繋げることを狙いとする。

イ 目標

- ・従来の取組み、新規の取組みを通して、両市学生間の教育・文化における交流を促進し、国際理解と姉妹都市交流の深化に繋げる。
- ・万博の理念でもある環境課題やSDGsをテーマに学習し、両市の現状と課題について意見交換しながら、よりよい未来の実現に向けた提案を行う。
- ・大阪・関西万博への訪問を通じて、両市学生が最新技術や他国の文化に触れる体験を創出する。

2-(1) 事業内容

【万博国際交流プログラム】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

～4月16日 参加者募集
4月17日～5月9日 書類・面接審査、参加者決定
5月17日 参加者説明会
5月31日、6月21日、7月12日 オンライン交流(事前学習)
7月16日～7月21日 豊中市での対面交流、万博訪問
8月9日 オンライン交流(振り返り)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

豊中市、サンマテオ市、両市の姉妹都市協会

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

(1)オンライン交流

日時:5月31日、6月21日、7月12日、8月9日 各10時～12時(サンマテオ市は前日の18時～20時)

場所:オンライン(zoom)

内容:オリエンテーション、環境学習(講話、ディスカッション、グループワーク)、万博リサーチ、振り返りなど

参加者:豊中市中学生9人、サンマテオ中学生6人、サンマテオ市引率者4人 計19人 (その他、進行のため委託事業者、市職員の参加あり)

報道対応:ニュースリリース

(2)対面交流

日時:7月16日～7月21日

場所:豊中市内、万博会場

内容:7月16日(水) サンマテオ市訪問団(学生、引率、市長関係者)を市役所でお出迎え、オープニングセレモニー・オリエンテーション

7月17日(木) 豊中第十八中学校訪問・授業体験、ユース交流会の開催(親善使節)

7月18日(金) 豊中市伊丹市クリーンランドで環境学習・施設見学、発電ワークショップの実施(豊中市民エネルギーの会)、歓迎交流会

7月19日(土) 大阪・関西万博訪問、米国ナショナルデーの優先観覧、アメリカパビリオン視察

7月20日(日) 豊中市内で成果物制作ワーク、BBQ

7月21日(月) 豊中市内で成果物発表、クロージングセレモニー

参加者:豊中市中学生9人、サンマテオ中学生6人、サンマテオ市引率者4人、サンマテオ市長・市関係者6人、豊中市参加者家族20人程度

豊中市長・市関係者40人程度、学校訪問先の教員、学生80人程度、姉妹都市親善使節5人、姉妹都市協会関係者15人、市民団体等10人

クロージングセレモニー来場者30人程度 計220人程度

報道対応:ニュースリリース

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

学生間交流の促進、友好関係の深化、グローバルな視野の獲得、異文化理解、環境問題やSDGsへの関心・理解と改善提案、姉妹都市交流の認知度向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【少年野球親善交流】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

7月24日 豊中市長表敬訪問
7月28日～8月5日 豊中市の少年野球チームがサンマテオ市を訪問、親善試合など
8月9日 豊中市長表敬訪問(報告会)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

豊中市少年野球連盟、両市の姉妹都市協会、豊中市、サンマテオ市

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時:7月28日～8月5日

場所:サンマテオ市

内容:サンマテオ市少年野球チームと親善試合等を通じた交流。市内視察、交流会。

参加者:豊中市少年野球チームの小学生20人、豊中市監督及びコーチ8人、豊中市姉妹都市協会員2人、サンマテオ市少年野球チームの小学生20人程度、
ホストファミリー40人程度、サンマテオ市姉妹都市協会員20人程度、サンマテオ市長・市職員5人程度 計120人程度

報道対応:なし

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

学生間交流の促進、友好関係の深化、グローバルな視野の獲得、異文化理解、姉妹都市交流の認知度向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【豊中市からサンマテオ市への親善使節派遣】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- 令和7年2月1日 親善使節選考会を開催。成績優秀者2名を親善使節に任命。博覧会協会職員による講演を行いサンマテオ市にもオンライン配信。
7月16日 派遣準備の一環として、万博国際交流プログラムで親善使節企画のユース交流会を開催。サンマテオ市の学生と交流。
7月18日 派遣準備の一環として、万博国際交流プログラムの歓迎交流会にて日英両言語での司会を担当。
10月～ サンマテオ市とオンラインミーティング実施。親善使節2名とサンマテオ市の高校生とで日本文化紹介の企画等について相談。
令和8年1月29日 派遣に係る説明会を実施。ホームステイ先の選定(予定)
3月24日～30日 親善使節2名をサンマテオ市へ派遣(予定)
4月以降 派遣報告会の実施(予定)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

豊中市、サンマテオ市、両市の姉妹都市協会

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和8年3月24日～30日

場所: サンマテオ市

内容: ・両市学生の交流(豊中市のプレゼン、日本文化紹介、学校訪問)

・サンマテオ市ツアー(警察署、図書館、サンマテオ市主催イベント、日本庭園の訪問など)

・サンマテオ郡所在の企業見学(Googleなど)、サンマテオカレッジ、スタンフォード大学を見学

参加者: 豊中市の高校生2名、サンマテオ市民30名程度(姉妹都市協会員・ホストファミリー・学生)

報道対応: なし

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

学生間交流の促進、友好関係の深化、グローバルな視野の獲得、異文化理解、姉妹都市交流の認知度向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

【その他】

(2)の各種交流事業については、市HPならびに市公式SNS(X、Instagram、Facebook)で随時発信するほか、広報紙や市公式noteへの記事掲載、市公式Youtubeへの動画掲載等により広く周知した。

市HP: https://www.city.toyonaka.osaka.jp/jinken_gakushu/kokusai/shimai/toyonakaexpo2025.html

Instagram: <https://www.instagram.com/s/aGlnaGxpZ2h0OjE3OTc5NDc4NTU5NzIxMjIx?igsh=a2g3dHp2ZGUwdTE2>

広報紙: https://www.city.toyonaka.osaka.jp/joho/kouhou/kouhou/koho_pdf/202509pdf.files/202509_04_tokusyu2_6.pdf

note: <https://toyonaka-city.note.jp/n/n0ea16f3c868a>

Youtube: https://youtu.be/2RPZHudhPCc?si=5yv5CRGWpr_f5BSB

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

歴史ある親善使節派遣や少年野球交流を継続するとともに、会期中には中学生同士によるオンラインと対面を組み合わせさせた新たな交流を実施し、小学生から高校生まで幅広い学生交流の機会を創出。

多感な学生時代に教育・文化の分野で国際交流を経験することで、言語の壁を越えた友情を育み、国際的な視野を養うことができた。また、未来を担う若者が姉妹都市交流に関わることで、両市の友好関係をさらに深め、姉妹都市交流の一層の促進に寄与した。また事後に実施したアンケートでは保護者から本人の生活や考え方にも変化が見られ海外のトピックに関心を強めている傾向があり、進路を考えるにあたりいい影響があったようだとの回答が見られた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

万博をきっかけに中学生同士の新たな交流機会を創出することができ、本交流をモデルケースとした中学生交流の企画に繋がった。国際交流、国際理解という分野において、機会があれば関心を寄せる市民がいることを知ることができた。

国際交流プログラムの実施後に少年野球の訪問が続き、両市の熱が高まった状態で積極的な姉妹都市交流が実施できた。

派遣前に親善使節の活躍の場、サンマテオ市民との交流の場を作ることができ、使節としての役割をより理解してもらうことができた。

●苦労した点

「万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者」との交流について、そのような方と連絡を取るにはどこからアプローチすれば良いかが不明瞭かつ、各種機関に問い合わせても万博担当者に繋がるまでに期間を要し、調整が進まず非常に苦労した。

相手国がアメリカであったため、組織やイベントの規模が大きくパビリオンやナショナルデーでのイベント等を通じた交流が困難であった。企画当初は「ナショナルデーのイベントに参加する」ことをめざして、ナショナルデーに合わせて日程を決定したが、調整は進まずその糸口すら見えないままに一年が過ぎてしまったことは不安だった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

両市の中学生交流を促進するため、フレンドシップ校を中心に、学校間でのビデオ交流の実施に向けて両市学校と調整を進めている。

次年度予算要求中。

これまでは希望者による交流が中心だったが、今回は学校と連携することで、より多くの市民に姉妹都市交流を知ってもらい、学校の枠組みに組み込んだ持続可能な交流の実現をめざす。

親善使節派遣においては、万博国際交流プログラムに参加したサンマテオ市の学生と現地で交流できる仕組みを作り、継続的に姉妹都市交流の担い手になってもらえる体制構築をめざす。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・両市教育委員会との連携
- ・両市姉妹都市協会との連携
- ・時差の課題を克服した効果的な交流手法の確立
- ・親善使節の任期終了後に継続的に姉妹都市交流に関わってもらえる仕組みづくり。(大学進学などで関西を離れ、関係が途絶えてしまうケースが多い)

2-(1) 万博国際交流プログラム

万博訪問の様子



オンライン交流



環境学習 発電ワークショップ



成果物発表

環境課題の解決策を両言語でグループ発表



2-(2) 少年野球親善交流

サンマテオ市での親善試合の様子



豊中市長表敬訪問



2-(3) 親善使節派遣

ユース交流会の実施



親善使節による
能舞の披露



夏まつりを再現し
日本文化を紹介



歓迎交流会での司会の様子



自治体名	大阪府吹田市
相手国・地域	スイス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

吹田市は、北大阪健康医療都市(以下「健都」という。)を中心とした健康・医療のまちづくりを重点取組の一つに挙げており、スイスでも同様に健康寿命の延伸に係る取組を進めている。スイスの高い技術や健康寿命に係る両国の取組などを中心に交流を進めることにより市の健康・医療のまちづくりを推進すること、また文化的な交流を行うことにより市民の国際理解を進めることを目的にしている。

イ 目標

スイス企業の製品について、健都等で実証事業を行い、市民に最先端の技術に触れて未来社会を体験してもらうとともに、市民の健康・医療に関する関心を高める。また、スイスとの文化的交流を通して、市民の国際理解を進めるとともに、4つの公用語があり、様々なバックグラウンドを持つ人々が暮らすスイスのことを学ぶことで多文化共生に対する市民の理解を深化させる。

2-1 事業内容

【事業名】視覚障がい者用商品の実証事業

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和6年11月 スイスのスタートアップ会社の役員の方と対面打合せ

令和6年12月～令和7年3月 来日日程の打ち合わせ及び実施方法の検討・決定

令和7年4月 実証事業実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

Light House Tech役員2名/国立医薬基盤・健康・栄養研究所研究者/シティプロモーション推進室職員

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年4月15日(火)

実施場所: 国立医薬基盤・健康・栄養研究所、吹田市役所庁内

取組内容: スイスのスタートアップ企業が開発している視覚障がい者向けの製品の实証事業を市役所および国立医薬基盤・健康・栄養研究所にて実施

参加者: 国立医薬基盤・健康・栄養研究所の職員6名、市職員60名以上

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

視覚障がい者がどんなところが不便なのか、どういうものが助かるか等を実体験することができた。

スイスのスタートアップ企業による最先端技術に触れることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【事業名】平和シンポジウム

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和6年8月 シンポジウムの開催を検討
令和7年2月 登壇者検討、交渉
令和7年3月 登壇者決定
令和7年4月 スイス大使館へ登壇依頼
令和7年6月 シンポジウム実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

スイス大使館/登壇者3名/吹田市シティプロモーション推進室

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年6月28日(土)

実施場所: メイシアター中ホール

取組内容: 1970年万博のテーマ「人類の進歩と調和」になぞらえ「調和の取れた社会」を考えるシンポジウムに、スイス公使を招聘し、公用語が4カ国語あり移民が25%占めるスイスがどのように共存しているのかスイスの事例についての講演。その後、世界各国で活躍される日本人有識者による紛争の背景や紛争の解決に必要なことについての事例紹介及びパネルディスカッションを実施。

参加者: 市民約100名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

平和構築に必要なことや日本と違う方法で平和へのアプローチの手法などを知ることができたと同時に、世界では大小さまざまな紛争があり、スイスでの平和構築のあり方やスイスの平和へのアプローチの仕方を学ぶことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【事業名】学校交流事業

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年3月 スイス大使館より学校交流事業についての提案
令和7年4月 吹田市立小中学校へ実施希望調査実施
令和7年5月 実施校決定
令和7年7月 学校交流事業実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

スイス大使館広報文化部/吹田市立小学校長/吹田市シティプロモーション推進室

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年7月15日(火)
実施場所: 吹田市立吹田第二小学校、吹田市立千里第三小学校
取組内容: スイス大使館広報課からの職員2名によるスイス文化を紹介する授業
参加者: 吹田第二小学校6年生約50名、千里第三小学校4年生から6年生約450名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

児童のスイスについての理解が深まり、スイスへの興味を持ってもらうことができたと同時に、日本とは違う文化を知ることによって国際理解が深化。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(4) 事業内容

【事業名】万博会場内での交流

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年7月 吹田市が大阪ウィークで出展する際にパビリオン関係者に来ていただくことが可能かの打診及びパビリオン訪問(団体)が可能か打診参加が決定及びパビリオン訪問についても承諾を得る

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

スイス大使館/スイスパビリオン/吹田市シティプロモーション推進室

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年7月28日(月)

実施場所: 夢洲EXPOアリーナ、スイスパビリオン

取組内容: 大阪ウィーク“真夏の陣”で吹田市が権六踊りを披露する際に、市民と交流しながらスイスパビリオンスタッフも踊りに参加。その後、参加した市民と交流し、盆踊り参加者の代表(15名)がスイスパビリオンへ訪問しパビリオンスタッフから説明を受ける。

参加者: パビリオンスタッフ3名、吹田市民約150名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

スイスパビリオンスタッフに吹田市の地域無形民俗文化財である山田権六踊りを知ってもらい、盆踊りというものを体験し日本文化への理解を促進。スイスパビリオンでは、参加者がスイスのテクノロジーや文化に触れ、スイスへの興味・理解、また国際理解が深化。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-(5) 事業内容

【事業名】スイングキッズ

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年6月 スイス大使館よりSwing Kidsのジャパンツアーについて情報提供
令和7年7月 ジャパンツアーをマネジメントしている企業とオンライン打合せ
令和7年8月 開催場所でのステージ関係の打ち合わせ
令和7年9月 チケット販売開始
令和7年10月 コンサート実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

スイス大使館広報文化部/東北メディアクリエイション/関西大学第一中学校高等学校吹奏楽部/吹田市シティプロモーション推進室

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年10月8日(水)

実施場所: メイシアター中ホール

取組内容: スイスで活躍する9歳から17歳までの子どもたちだけのジャズバンドで、ヨーロッパ各国のTV出演や映画などに多数出演しているSwing Kidsの日本来日コンサート日本ツアーを吹田市で実施。コンサート内では、関西大学第一中学校高等学校吹奏楽部の生徒との合同演奏も実施。

参加者: Swing Kids14名、関西大学第一中学校高等学校吹奏楽部約80名、観客約200名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

合同演奏のリハーサルが当日1回のみしかできなかったが、音楽は言葉がなくとも通じ合うことができる、また演奏後の交流でも言葉は通じなくても交流が可能だということを証明できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(6) 事業内容

【事業名】折り鶴交流

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年1月 スイスの日本祭に参加する団体から連絡有
令和7年4月 オンラインでミーティング
令和7年6月 対面で打合せ
令和7年9月 スイスの日本祭開催
令和8年1月 完成品返送(予定)
令和8年2月 学校へ贈呈(予定)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

一般社団法人剣舞会エッジー志伝流ー/スイスの日本祭参加者/吹田市シティプロモーション推進室

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年9月下旬

実施場所: スイスティチーノ州ベリンツォーナ、ジュネーヴ州カルージュ

取組内容: 学校交流事業で訪問した小学校の児童に折り鶴を折ってもらい、スイスの日本祭に参加する団体へ持って行ってもらう、日本祭でスイスの参加者の手で折り鶴アートを作成。その後、完成した折り鶴アートを折り鶴を折ってくれた小学校へ贈呈予定。

参加者: スイスの日本祭の参加者

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

日本文化をスイスの方に知ってもらうことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

会期前に行ったヘルスケア部門でのシンポジウム以降もベルン大学の教授と国立循環器病研究センターの医師の交流が続いている。

スイスのスタートアップ企業の視覚障がい者用製品の実証事業を行うことができたが、庁内職員及び研究者向けにだったので、今後広く市民や視覚障がい者団体向けに行うことができればなおよい。

会期前に行った漫才講座や会期中に行った学校交流事業では児童がスイスについて興味を持ってもらうことができ、またアンケートでは万博へ行った際にはスイスパビリオンへ行きたい等の声があった。会期前の国際理解講座や哲学カフェでも、参加者からはスイスの知らなかったことについて知ることができ、万博ではスイスのパビリオンが楽しみだという声があり、万博の機運醸成とともにスイスについての理解を促進することができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

スイスについてステレオタイプのイメージしかなかったなか、スイスについての講演会などを実施することで、知らなかったスイスを知りた身近に感じ、スイスへ興味を持ってもらうことができた。

●苦労した点

スイス関係者への伝手がなく、また市内にスイスにゆかりがある方がいなかったため、企画を練る上で誰とどう交流すべきかを考えるのが大変だった。また学校同士をオンラインで繋ごうと思っても、時差で日本の学校と時間が合わすことができなかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

今年度実施した学校交流事業及びSwing Kidsジャパンツアーはとても評判がよかったので、来年度も実施したいと考えるが、吹田市主導でできる事業ではないので関係先と調整しながら行えるか要検討。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

令和8年度以降は、万博国際交流プログラムとしては予算がない予定なので、その中で何ができるかを検討する必要がある。



スイングキッズジャパンツアーin Suita



平和シンポジウム



スイス大使館職員による学校交流事業

八尾市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	大阪府八尾市
相手国・地域	米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は他の自治体と比較して外国籍市民がたくさん住むまちであり、地域に暮らす外国人市民との共生を進めることが必要である。本市は姉妹都市ベルビュー市と50年以上にわたり交流をしているが、新型コロナウイルス感染症の影響や相手側の事業により交流が停滞しており、万博を契機として交流を活性化させたい。

イ 目標

市民レベルでの交流の活発化や国際感覚の豊かな人材育成、多文化理解により広がりのある地域社会の形成をめざす。

2-（1）事業内容

【ベルビュー市長万博開幕日訪問時アテンド事業】

- ①2025年4月13日（日）
- ②ベルビュー市担当者と調整
- ③プライベートで来日したベルビュー市長と八尾市長、八尾市姉妹都市提携協会の役員が、大阪関西万博の取組み内容等について会談を行った。八尾市姉妹都市提携協会では万博開幕日のチケットを手配しており、ベルビュー市長に万博会場を訪問いただくことができた。
- ④八尾市が大阪関西万博で発信する魅力や万博の魅力についてPRすることができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者（ベルビュー市長）
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者（八尾市長）

2-（2）事業内容

【ベルビュー市元フェロー職員受入れ事業】

- ①2025年5月27日（火）～28日（水）
- ②ベルビュー市シティマネージャー事務所等と調整
- ③ベルビュー市でフェロー職員として勤めていたジャズミン・クリスティンさんを受入れ、本市のこども施策や環境施策について学んでいただいた。八尾市滞在中には大阪関西万博の魅力発信も行っており、5月29日（木）には万博会場を訪問いただいた。
- ④八尾市が大阪関西万博で発信する魅力や万博の魅力についてPRすることができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者（ベルビュー市元フェロー職員）
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者（八尾市長）

2-(3) 事業内容

【ヘルスケアパビリオンの「展示・出展ゾーン」訪問】

- ①2025年9月18日(木)
- ②日米姉妹都市サミット関係者に依頼
- ③八尾市の企業が出展するヘルスケアパビリオンの「展示・出展ゾーン」を訪問してもらった。
- ④八尾市が大阪関西万博で発信するものづくりの魅力等についてPRすることができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者(日米姉妹都市サミット関係者)
ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者(八尾市内万博出展企業)

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

交流計画に掲げていた令和7年度の訪問団受入れ事業については、相手国側の日程の調整がつかず中止となってしまったが、引き続き、働きかけを行い産業・経済にまで交流の幅が広げられるよう、方法を模索していく。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点 ベルビュー市長や元フェロー職員等に万博に興味を持ってもらうことができ、万博訪問につなげることができた。
- 苦労した点 訪問団受入れ事業が中止となってしまったため、当初計画から変更を余儀なくされた。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

令和6年度・7年度の取組みを通して、本市の魅力発信を行うことができたので、新しい交流につなげることができるよう働きかけを行っていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

ベルビュー市には明確な担当者が配置されていないことから、円滑な連携を図ることが困難である。



ベルビュー市長と八尾市長の会談



元フェロー職員の万博訪問



ヘルスケアパビリオン「展示・出展ゾーン」

八尾市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府八尾市

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は他の自治体と比較して外国籍市民がたくさん住むまちであり、地域に暮らす外国人市民との共生を進めることが必要である。また、本市の外国籍市民のうち、中国籍の方が約23%と3番めに多いことから、中国の文化や習慣を理解することは本市の多文化共生推進に大きく寄与するものと考えられる。

イ 目標

国家間の関係に左右されない市民レベルでの交流や国際感覚の豊かな人材育成、多文化理解により広がりのある地域社会の形成をめざす。

2-（1）事業内容

【中国上海市嘉定区訪問団文化交流事業】

①2025年7月26日（土）～29日（火）

②上海市嘉定区人民政府外事弁公室と調整

③上海市嘉定区から中共嘉定区委員会宣伝部の顧恵文（グ・ウェイウエン）部長を団長とした訪問団6名を受入れ、7月27日（日）には万博会場を訪れ、EXPOアリーナで開催された大阪ウィーク「交流盆踊り」を通じて文化交流を行ったほか、中国パビリオンでの意見交換等を行った。会場外では、市内の視察のほか、八尾市日本中国友好協会と共催で記念式典を開催した。

④万博会場内外での交流を通じて、本市の文化的魅力を伝えることができ、国際親善を深めることができた。

⑤ア 万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者（中国パビリオン関係者）

イ 万博参加国・地域の関係者（上海市嘉定区訪問団員）

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者（大阪ウィーク「交流盆踊り」関係者）

2-（2）事業内容

【八尾市青少年交流団TEAM EXPO発表事業】

①2025年9月7日（日）

②万博の共創パートナー「株式会社小学館集英社プロダクション」「株式会社LearnMore」の2社と協働で実施

③令和6年度に上海市を訪問した八尾市の青少年9名が万博会場のフューチャーライフゾーンで開催された「TEAM EXPOパビリオン」で共創チャレンジを発表した。発表に向けては、上海市の中学生や市内のTEAM EXPO登録企業と連携したワークショップ等を実施した。

④TEAM EXPOでの発表を通じて、国際交流やコミュニケーションの大切さを伝えることができ、国際理解につなげることができた。

⑤イ 万博参加国・地域の関係者（上海市の中学生たち）

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者（万博共創パートナー「株式会社小学館集英社プロダクション」「株式会社LearnMore」）

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

新型コロナウイルス感染症の影響を受けてストップしてしまっていた人的交流事業が、万博国際交流プログラムの活用により再開し、11月には中学校同士のオンライン交流を実施する等、新しい交流につながった。両市区でこれまでの友好関係を祝賀し、連携強化を図ることができたため、万博会期後の継続的な交流を協議する体制を整えることができた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●**良かった点** 市内のTEAM EXPO登録企業や八尾市日本中国友好協会、八尾市の青少年等、たくさんの人や団体を巻き込んで交流を行ったため、国際親善に対して、大きな効果を得ることができた。

●**苦労した点** 多くの人や団体が関わる交流になったため、日程調整や準備に時間がかかり、直前の日程変更も発生してしまった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博会期後も青少年交流について、継続して実施する方向で協議を行った。受入れ・派遣を交互に行えるように調整しており、次年度には上海市中学生受入れ事業を実施するための経費確保を進めているところである。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

中国との国際交流において、政府間の関係に影響を受け、積極的な調整が難しい状況にある。交流事業の停滞は、万博国際交流プログラムの活用で得られた相互理解の促進の妨げにもなるため、青少年交流等の草の根の交流を継続できるよう、方法を模索していく。



交流盆踊り



記念式典での記念品交換



TEAM EXPOでの発表

自治体名	大阪府富田林市
相手国・地域	米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的
本市では、本市総合ビジョン及び総合基本計画において、「多文化共生と国際交流のまちづくり」を施策のひとつとして掲げている。2024年度は姉妹都市提携60周年の節目の年であり、大阪・関西万博を契機に、例年行ってきた事業をさらに深化させた取り組みを行うことで、万博の開催に向けた機運の醸成を図るとともに、本市における国際交流や多文化共生を推進し、地域のさらなる活性化を目指す。

イ 目標
国際交流をきっかけに多様性への理解と、国境を越えて取り組むべきSDGsの目標に関する興味・関心を広げていく。

2-（1）事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業と万博を契機としたさらなる多文化共生推進の取り組み：本市交換学生と米国パビリオン関係者との交流事業】

- ①スケジュール 本市交換学生及び富田林・ベスレヘム姉妹都市協会と米国パビリオン関係者との交流
- ②体制 市及び富田林・ベスレヘム姉妹都市協会、ベスレヘム市への交換学生、米国パビリオン関係者
- ③内容 令和7年7月28日、大阪・関西万博、本市から米国へ派遣する交換学生が万博・米国パビリオンを訪問し、パビリオン関係職員と互いの国の文化やSDGs、米国パビリオンの主旨等について理解を深める交流会を行った ②と同じ
- ④効果 国際交流の機運や万博への関心が高まった 交換学生を通じてベスレヘム市への万博のPRにつながった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
 - ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-（2）事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業と万博を契機としたさらなる多文化共生推進の取り組み：本市交換学生の万博PR事業】

- ①スケジュール 本市から派遣された交換学生がベスレヘム市で万博をPR
- ②体制 本市交換学生、ベスレヘム市、ベスレヘム・富田林姉妹都市委員会
- ③内容 令和7年8月2日～23日、ベスレヘム市、本市よりベスレヘム市へ派遣した交換学生が日本の文化や歴史、大阪・関西万博の魅力を紹介した ②と同じ
- ④効果 国際交流の機運や万博への関心が高まった 交換学生を通じてベスレヘム市への万博のPRにつながった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）
 - イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【姉妹都市提携60周年記念事業と万博を契機としたさらなる多文化共生推進の取り組み:本市交換学生の交流成果発表とベスレヘム市関係者からのメッセージ】

- ①スケジュール 英語弁論大会にて本市交換学生の交流成果発表とベスレヘム市関係者からのビデオメッセージの披露
- ②体制 市及び富田林・ベスレヘム姉妹都市協会、本市交換学生、ベスレヘム・富田林姉妹都市委員会、市内小中学生
- ③内容 令和7年11月29日、富田林市市民会館、英語弁論大会にて、本市交換学生から今回のパビリオン訪問や派遣について成果を発表するとともに、ベスレヘム市関係者から、大会参加者に向けて、国際意識の醸成を促し、今後の交流についてのメッセージをいただいた ②と同じ
- ④効果 国際交流の発展や万博のレガシーについて触れる機会となった
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

世界各地で様々な対立が発生している中、自治体間によるお互いの文化や伝統を尊重した交流、友好関係を改めて確認し、両市の更なる交流と友好親善が深まった。また、取組みを通じて「富田林・ベスレヘム姉妹都市協会」と連携して実施してきた、市民が主体となった国際交流がさらなる発展を遂げ、市民の国際意識が高まったと感じる。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点 市民の国際意識や関心が高まった点
- 苦労した点 「万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者」との交流を実施するための調整に関する点。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

次年度以降も、本市、ベスレヘムともに姉妹都市協会を通じ、友好親善を続け、市民が主体となった国際交流を育んでいく。また、日本に在住する外国人市民は増加傾向にあり、市民の国際意識の醸成に寄与するものとなった。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

特になし



米国パビリオン訪問時の様子



ベスレヘム市派遣時の様子



英語弁論大会での様子

自治体名	大阪府河内長野市
相手国・地域	米国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市は、1994年4月に米国カーメル市と姉妹都市提携を行い、以後、子ども絵画交換やカーメル国際アートフェスティバルへの参加、カーメル市民との交流会など様々な交流活動を進めてきた。2024年に姉妹都市提携30周年を迎えるにあたり、万博を契機として、カーメル市とのつながりを深め交流の活性化を目的とする。

イ 目標

子どもから高齢者まで多世代の多くの市民が世界の文化や芸術にふれるとともに、河内長野市の魅力を発信し、万博後もレガシーとなることを期待する。

2-（1）事業内容

【事業名】米国パビリオン関係者との交流

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年7月8日に米国パビリオン関係者と万博会場にて交流の検討を行った。8月下旬参加者確定し、9月6日～7日実施。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制) 米国パビリオン関係者

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

- ・令和7年9月6日～7日に万博会場EXPOホールにて開催した「奥河内音絵巻2025」に米国パビリオン関係者に参加してもらい、交流を図った。
- ・令和7年9月7日に「奥河内音絵巻2025」に出演した河内長野市の子どもたちを米国パビリオンへ招待いただき、交流を図った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

河内長野市の子どもたちや「奥河内音絵巻2025」の参加者が、米国パビリオン関係者と交流を図ることで、米国の文化に触れ、興味関心が高まった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型 ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2-（2）事業内容

【事業名】多文化の部屋～姉妹都市カーメル編～(予定)

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

河内長野市で毎年開催している多文化交流イベント「多文化の部屋」に合わせて、アートを通じた米国カーメル市との交流の報告会を行う。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制) 米国カーメル市

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

令和8年1月24日に河内長野市にて、米国カーメル市関係者やカーメル市へ渡航したメンバーを集め、広く市民向けに報告会を行う。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

姉妹都市関係の強化・発展および多くの河内長野市民が米国の文化に触れることによる多文化理解の促進。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型 イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

河内長野市の子どもたちや市民が、米国パビリオン関係者と交流を図ることで、米国の文化に触れ、興味関心が高まった。姉妹都市関係の強化・発展および多くの河内長野市民が米国の文化に触れることによる多文化理解の促進。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

河内長野市と米国カーメル市との相互理解が高まった。

●苦勞した点

米国パビリオン関係者へのコンタクトに苦勞した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

カーメル市との姉妹都市関係がより強固なものとなり、引き続き交流が続いていくことが期待される。来年度以降は、これまで長く続けてきた子ども絵画交換事業やカーメル市へのアーティスト派遣事業などを実施するとともに、青少年の国際感覚を養うことを目的に相互交流プログラムを検討中であり、カーメル市役所担当者と調整中。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

姉妹都市関係の継続を重要性を示し、交流を継続するための財源確保が必要となる。



奥河内音絵巻2025での
米国パビリオン関係者と交流の様子



米国パビリオンでの交流の様子

松原市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府松原市

相手国・地域

オーストラリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

松原市は英語圏との交流がなく、学生の国際交流先として英語圏との交流先を探したところ、松原市と同じくセーフコミュニティ活動に取り組むオーストラリア ムーニーバレー市と交流を持つことで、松原市の学生の国際感覚の醸成に寄与することを目的とする。

イ 目標

交流計画を実施するにあたり、今後も継続して学生間の交流を持つことに加え、松原市とムーニーバレー市間を学生が行き来し合える形を目標とする。

2-（1）事業内容

【ムーニーバレー市 渡航】

- ①令和8年3月24日～3月30日
- ②松原市の高校生10名 ムーニーバレー市長および市議 ムーニーバレー市の若者団体Valley Youth
- ③Valley Youthとの活動発表会、交流会、ムーニーバレー市視察
- ④高校生10名の国際感覚の醸成。ムーニーバレー市長表敬により今後の交流について懇談。
- ⑤ イ 万博参加国・地域の関係者

2-（2）事業内容

【万博・オーストラリアパビリオンでの交流】

- ①令和7年9月13日
- ②まつばらゆず（国際交流に取り組む若者の有志グループ）及びパビリオンスタッフ
- ③高校生が渡航した際に経験したオーストラリアの自然や食文化の違い、同世代の交流の重要性についての意見交換
- ④会期後も本市で開催するイベントにおいてパビリオンからの応援メッセージやグッズの提供を受けるなど継続した交流を図れた
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

ムーニーバレー市長表敬を行い、今後学生の往来を含む包括的な友好都市協定の締結に向け、令和8年1月からムーニーバレー市議会で協議を進められることとなった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

時差が2時間と少ないことから、連絡が取りやすかった。

●苦労した点

初めて連絡を取る際に、日本のメールアドレスだと不審に思われ、担当者にメールを送ってもなかなか返信をもらえなかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

万博を機にオーストラリア ムーニーバレー市との関係性を構築したことにより、松原市在住の若者の国際感覚の醸成や多文化理解に繋がることから、松原市への郷土愛も強めることになり、松原市の多文化共生も含め若者の育成につながる。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

ムーニーバレー市では市長が毎年交代するため、協定などの締結による継続した交流の基盤を作る必要がある。



パビリオンスタッフとの交流



パビリオンスタッフとの意見交換



ムーニーバレー市長、市議表敬

1 背景と目標等

ア 背景と目的

本市の重点課題である「子どもの安全」「高齢者の安全」「交通安全」「犯罪の防止」「自殺予防」「災害時の安全」をテーマに、すべての年齢・性別・環境・状況（外国人や障害者などの要配慮者含む）を網羅する長期的・継続的な予防活動や課題解決の方策（セーフコミュニティ活動）の取組について、海外の地域との情報共有や意見交換、異文化交流を行うことにより、本市の安全対策の向上や相手国との安心・安全な交流を深めることに加え、次世代を担う若者を対象に国際感覚の醸成も目的とした事業を実施する。

イ 目標

韓国の都市の状況や課題解決の方策について意見交換の場を設け、互いに優れた取組を幅広く取り込むとともに、文化を含めた相互理解を進める。

2-（1）事業内容

【韓国金海市との市内及び万博・韓国パビリオンにおける交流】

- ①令和7年4月14日から15日、9月13日
- ②韓国金海市およびまつばらゆうす（国際交流に取り組む若者の有志グループ）
- ③セーフコミュニティ「国際安全都市」として本市と同じく取り組んでいる韓国金海市と令和7年2月1日に「国際安全都市相互交流に関する合意書」の締結後、1回目の来日交流を行った。市内企業や中学校で交流を行ったほか、万博会場において韓国パビリオンの館長とともに文化や技術における意見交換を行い、今後の交流の足掛かりとなった。
- ④安心安全の取組に加え、包括的な事業における協定締結に向けた効果的な意見交換及び交流の機会となった。
- ⑤ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
イ 万博参加国・地域の関係者

2-（2）事業内容

【韓国金海市との友好都市協定締結】

- ①令和7年11月12日～14日
- ②韓国金海市の自治体及び地域住民
- ③セーフコミュニティ国際認証を取得の記念式典に出席し安心安全に関する取り組みを視察。現状や課題を共有し、課題解決に向け意見交換を行った。また、安心安全分野をはじめ、行政・経済・教育・文化芸術・観光などさまざまな分野において継続的な交流を維持し、相互発展のため積極的に協力する旨、協定を締結した。
- ④今後の包括的な交流を推進する土壌を構築することができた。
- ⑤イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博を契機に、令和5年度より「セーフコミュニティ」を共通のテーマとして始まった韓国金海市との交流は、「国際安全都市相互交流に関する合意書」や「友好都市協定」の締結に至った。互いの都市の状況や課題解決の方策について意見交換を行い、優れた取組を広く取り込むとともに、文化を含めた相互理解を進める土台を醸成することができた。

また、令和8年2月21日の本市で開催する「セーフコミュニティフェスタ」における金海市の取組やPRのブース展開や、令和8年中の金海市で開催される文化祭に出席し、意見交換や文化交流を行う予定など継続した交流の計画ができています。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- **良かった点** 行政間の情報共有から発展し、「万博を契機とした新たな国際交流」として両市の市民の理解が比較的得られやすかった。
- **苦労した点** 金海市の担当者との日程や行程について直前まで事前調整が必要だった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

令和8年度中の交流について、金海市と密に連絡を取り合い、渡航及び来日の具体的な計画を進めている。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

行政間の交流を市民や企業レベルの交流に広げること。



来日交流



万博・韓国パビリオンでの意見交換



金海市における友好都市協定締結式

泉南市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

大阪府泉南市

相手国・地域

フィリピン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

市域に関西国際空港を含む泉南市は空の玄関口・国際交流の窓口となっており、日常の中でいろいろな国や地域にルーツを持つ方々に出会う機会、コミュニケーションをとらなければならない機会が増えている。

本市は、2023年4月にフィリピン共和国ダバオ市と姉妹都市協定を締結したことをきっかけに両市間における交流を加速している。また、交流においては、2025年に開催される大阪・関西万博（以下、万博）の周知啓発・機運醸成に資する内容となるよう、万博を関連付けた取り組み（テーマやSDGs等）を併せて行っている。

現在、フィリピン共和国ダバオ市では豊かな海洋環境を有する一方、経済発展に伴い都市廃棄物が増加し、都市環境の保全対策等環境面に関心を寄せている。さらに、フィリピン共和国法において、ダバオ地方を「カカオ・キャピタル」、ダバオ市を「チョコレート・キャピタル」と宣言されるほどカカオ豆の生産が盛んである一方で経済格差などの問題を助長している。

子どもたちには、このような共通する地域の課題等への理解やこれから益々発展する国際社会に向けて、多文化への理解を深めるための環境が必要となっている。

イ 目標

教科書だけでは身に付けることができない、広い視野や異文化への理解・尊重する気持ちを、泉南市とダバオ市で育つ子どもたちに、自然なもの・身近なものとして身に付けてもらい、未来の選択肢を増やしてもらおうべく、事業を実施する。

2 - (1) 事業内容

【事業名】 2025年大阪・関西万博フィリピン共和国ナショナルデーイベントに参加

①スケジュール

2025年5月27日 在大阪フィリピン共和国総領事館観光部（フィリピン共和国 政府観光省西日本支局大阪事務所）から招待

2025年6月7日 フィリピン共和国ナショナルデーセレモニー

②体制

市長、市国際交流担当課、万博担当課、フィリピン共和国、在大阪フィリピン共和国総領事館

③内容

2025年6月7日に開催されたフィリピン共和国ナショナルデーセレモニーに市長、フィリピン共和国からのCIR（国際交流員）含め8名が参加。

フィリピンパビリオン視察（本国VIP対応などで入れず）、会場「レイガーデン」にてセレモニー、ダンスパレードなどが開催された。

④効果

会場では、フィリピン共和国から来日されている政府関係者などと交流することができた。また在大阪フィリピン共和国総領事館の関係者とも今後の事業協力について、意見を交わすことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【事業名】フィリピン共和国×泉南市立一丘中学校合唱部の子どもたちが大阪・関西万博で交流

①スケジュール

- 2025年9月17日 フィリピン共和国観光推進庁(本国パビリオン担当者)、在大阪フィリピン共和国総領事館観光部、本市中学校、万博担当課とオンラインにて打合せ
- 2025年9月25日 プレスリリース
- 2025年9月27日 フィリピンパビリオンにて交流

②体制

フィリピン共和国観光推進庁、在大阪フィリピン共和国総領事館観光部、市内中学校、万博担当課

③内容

本市一丘中学校合唱部がフィリピンパビリオンにて歌を通じた交流を実施

【日時・参加者】 9月27日

一丘中学校合唱部 9名、フィリピン共和国出身ALT(外国語指導助手)1名、指導教員、フィリピン共和国舞踊団、フィリピンパビリオン担当者

【取組内容】

フィリピンパビリオンに本市一丘中学校合唱部が訪れ、日本の歌、フィリピンの歌を通じた交流を実施

フィリピンの歌ではパビリオンの舞踊団も曲に合わせて踊り、一緒に来場者へ披露した

④効果

生徒たちは、学校訪問時には訪れることができなかったフィリピンパビリオンを訪れ、姉妹都市に関する情報だけでなく、フィリピン共和国国内の地域文化の違いについても展示を通じて学ぶことができた。また、事前にフィリピン共和国出身の先生からフィリピンの歌を教えてもらい、フィリピンパビリオンで関係者と一緒にその歌を披露できたことは、素晴らしい経験となり、今後の国際的な視野を広げるきっかけにもなった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【事業名】フィリピンパビリオンでのシティプロモーション活動

①スケジュール

- 2025年5月27日 フィリピン本国パビリオン担当者とオンラインにて打合せ
- 2025年6月18日 フィリピンパビリオン玄関付近にて実施

②体制

万博担当課、フィリピン共和国観光推進庁

③内容

本市万博担当課職員にて、フィリピンパビリオン来場者へシティプロモーション活動を実施

【日時・参加者】 6月18日 市職員3名 フィリピンパビリオン関係者約20名、パビリオン来場者約200名

【取組内容】

フィリピンパビリオンの協力をいただき、本市と姉妹都市であるフィリピン共和国ダバオ産コーヒー豆を使い、本市内事業者で焙煎加工したドリップコーヒーをパビリオン関係者や来場者に配付するとともに、本市の紹介をするなどシティプロモーション活動を実施

④効果

「なぜフィリピン産のコーヒーなのか」などの質問や市の場所を聞かれたりと、活動への一定の効果は認められた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (4) 事業内容

【事業名】万博推進事業「オンライン国際交流プログラム事業」

①スケジュール

2025年5月12日 委託事業者(Hello World株)と契約締結。教育委員会、市内小中学校と調整開始
2025年9月～2026年1月 市内全小中学校でオンライン交流実施

②体制

市教育委員会、市内全小中学校、Hello World株(委託事業者)、フィリピン共和国現地学校

③内容

本市小中学生とフィリピン共和国現地学校の児童・生徒とのオンライン交流

【日時・参加者】 2025年9月～2026年1月 全20日間 10小学校、4中学校、971名

【取組内容】

本市小中学生とフィリピン共和国ダバオ市(姉妹都市)を中心とした現地学校の児童・生徒とのオンライン交流
交流内容については、参加学年など考慮し、各学校ごとに調整
(交流例)相手国の言語を使い、お互いの国や文化についての紹介

④効果

アンケートでは「外国の方と会った時、自分から積極的に話そうとしますか」や「異なる文化を持つ人と外国や海外の人と交流することに興味がありますか」などの意欲や理解に関する項目で、実施前と実施後では一定の効果がみられた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (5) 事業内容

【事業名】万博・国際交流イベント「ENJYOせんなんEXPO～フィリピンの魅力に触れる～」

①スケジュール

2025年5月19日 外部イベント業者と契約締結
2025年7月14日 プレスリリース
2025年7月26日 交流イベント実施

②体制

万博担当課、交際交流担当課、在大阪フィリピン共和国総領事館観光部、ジェイコムウエストりんくう局(外部委託業者)

③内容

フィリピンパビリオンで紹介している伝統文化などの紹介や大阪・関西万博機運醸成イベントを実施

【日時・場所・参加者】 7月26日 イオンモールりんくう泉南セントラルコート 来場者約700人

【取組内容】

ステージ(フィリピンパビリオンで展示している伝統の織物や食を紹介。万博関連・フィリピン関連のクイズを実施。)
ワークショップ(織物:ミサンガやコースターづくり、フィリピンパビリオンに展示されている織物のVR体験、姉妹都市フィリピンダバオ市ブースなど)

④効果

開幕から3月を経過した時点でのイベント開催は、万博関連ニュースが多くのメディアから発信されていたため、多くの方に興味を持ってもらえる結果になった。
日本人だけでなく、居住する外国人家族の参加なども見受けられ、姉妹都市関係や市での取り組みなどを楽しく知ってもらうことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (6) 事業内容

【事業名】F&LC(スシロー) × 西信達中学校～次世代を担う子どもたちと水産資源の現状を学び、未来を考える～

①スケジュール

2025年9月2日 株式会社FOOD & LIFE COMPANIES(スシロー)、学校、万博担当課と講義について打合せ
2025年10月6日 プレスリリース
2025年10月9日 講義実施

②体制

市内中学校、F&LC(講師)

③内容

大阪・関西万博で出店している事業者より市内中学生へESD(持続可能な開発のための教育)の視点を持った学習プログラムを実施

【日時・参加者】 10月9日 西信達中学校1年生57名 F&LCサステナビリティ推進室担当者

【取組内容】

本市中学1年生へ講義、グループ討議、発表

「水産資源の現状を知り、未来の回転ずしを考えよう」というテーマで水産資源がどのように変化してきているのか、企業での未来に向けた取り組みなどを講演。講演後にグループ討議、発表を行う。

万博店舗で提供していた「泉南あなご」を地元漁業組合から借用し、養殖資源の取り組みを間近で生徒たちに感じてもらう。

④効果

万博会場に出店されている企業との連携を通じて、万博の理念やテーマ、SDGsに関連する企業の取り組みを知ることができた。また世界で起きている変化に対し、主体的にどのように自分たちが取り組んでいけば良いかなど考える機会を提供できた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博会期前の交流は、オンラインが主であったが、初めて外国の同年代の子どもと接することができ、異国の文化に触れ、子どもたち同士コミュニケーションが図れたこと、「伝わった」という喜びからもっと交流したいと意欲的に言語の授業にも取り組む姿勢がみられた。その経験から万博会場へ訪れた時に実際に外国の方にインタビューを行った学校も複数あり、オンラインでの交流が自信に結び付き、非常に有意義な事業となった。また会期中にはフィリピン本国の協力も得られ、直接パビリオンで地域の文化などを学び、本国から訪日されているパビリオン関係者とも交流できた。このような取り組みが、子どもたちにとって、広い視野や異文化への興味、理解、尊重する効果が期待できると確認できた。また本プログラムを通じて、在大阪フィリピン共和国総領事館観光部より様々な協力を得ることができ、今後の新たな取り組みに対しても連携して実施していきたいと考えている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・子どもたちが相手国の言語を通じて、お互いの文化などを紹介し合うことができ、世界への興味関心を高めるきっかけとなった。またその学びが日常の授業への意欲とつながった。
- ・市内全小中学校でオンライン交流を行えたため、学校間での取り組みの共有などからよりよい交流の形を推進することができた。
- ・在大阪フィリピン共和国総領事館やダバオ市現地学校など関係機関とのつながりが得られた。
- ・万博出店企業とのつながりをきっかけに、学校でのサステナブル授業などの要望も把握できた。

●苦労した点

- ・相手国の雨季による災害等でオンライン接続や日時の変更など急を要することが多かったため、日程調整が難しかった。
- ・市内に一緒に取り組むコミュニティ団体などがない(把握できない)ため、イベント実施時などで協力を得られなかった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

オンラインでの交流は令和7年度から市内全小中学校で実施している。児童、生徒たちに対する効果も認められ、また現地学校等の協力も得られたため、令和8年度以降も継続して取り組みたいと考えているが、財源の確保が課題となる。

また令和9年度実施に向けて、子どもたち同士が現地でリアル交流が実施ができるよう、国際交流担当課において調整を図っていくところである。(令和7年8月現地訪問済、財源の確保が課題)

万博閉幕後、フィリピンパビリオンの正面自動ドアと展示されていた織物の一部をフィリピン共和国から寄贈していただいた。これを市民向けに展示することで、継続したフィリピン共和国とのつながり、伝統文化などを紹介していきたいと考えている。

子どもたちにとって、万博での経験や本事業を契機とした国際交流ができたことは非常に大きなことであり、引き続き外国に関する教育の機運醸成に努めたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

一部の子どもたちだけへの事業ではなく、市内の全小中学校の子どもたちに外国への興味・関心を持ってもらい、国際的な広い視野を身に付けるためには、学校での取り組みが効果的であるが、学校での取り組みでは充当可能な補助事業がなく、財源確保が一番の課題である。



(2)-1 ナショナルデー



(2)-2 一丘中学校合唱部との交流



(2)-3 シティプロモーション活動



(2)-4 オンライン国際交流プログラム



(2)-5 万博・国際交流イベント



(2)-6 スシロー学習プログラム

三木市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

兵庫県三木市

相手国・地域

フランス

1 背景と目標等

ア 背景と目的

三木市人口 約7.3万人 『三木金物』『酒米の王者山田錦』『西日本一ゴルフ場数』、神戸市の北側に隣接するベットタウンと古き良き日本の田園風景が広がる地域である。しかしながら、1997年の人口約8.8万人をピークに人口減少局面に入り、地域産業の衰退が大きな課題となっており、海外販路拡大に向けた糸口を早急に民間ベースだけでなく、行政も伴走支援する必要性が出てきた。そのため、2,820万人が来場を予定されている2025大阪・関西万博を契機に日本全国だけでなく、世界に広く三木市をPRすることで国際交流の拡充や海外販路開拓等につなげていきたい。

イ 目標

① 高校生同士の国際交流の持続可能な仕組みづくりの構築 ② 海外販路の開拓 ③ 新商品開発

2-(1) 事業内容

【事業名】高校生同士の日仏交流

①スケジュール

- 2024年3月フランスクロミエワインとチーズの見本市三木市PRブース出展(@フランス)
- 2024年9月三木高校生がクロミエ市訪仏 スーツケース図案議論(@フランス)
- 2025年4月フランスクロミエワインとチーズの見本市三木市PRブース出展(@フランス)三木金物、日本酒販売、スーツケースお披露目
- 2025年8月プロジェクトについて、三木高校生とフランス人によるPRを実施(@万博・フェスティバルステーションイベント)
- 2025年9月プロジェクトについて、クロミエ市の高校と三木高校生が発表会を開催(@万博・関西パビリオン兵庫県ゾーン)

②体制 三木高等学校、クロミエ高校、三木市(サポート)、クロミエ市(サポート)

③内容 クロミエ高校と三木高校によるスーツケースプロジェクト:スーツケースの裏と表に両国のシンボルや人物、両市の特産品を工業科の生徒がデザイン、ペイント

④効果

- 自治体内への波及効果:高校生の取組が持続可能な形に繋がってきた
- 実施により達成できた成果:高校生同士の交流にとどまらずフランス首相にも紹介
- 相手国への波及効果:クロミエ高校だけでなく、産業や行政が共感しプロジェクトに参画

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加

2-(2) 事業内容

【事業名】フランス人クリエイター×三木金物新商品開発

①スケジュール

- 2024年4月フランス人クリエイターhall haus×永尾かね駒製作所肥後守新商品開発に向けたオンライン会議
- 2024年7月デザイン委託契約(民民連携)
- 2025年3月試作品完成
- 2025年8月新商品発表会を開催(@万博・フランスパビリオン)

②体制 hall haus、永尾かね駒製作所、三木市伴走支援

③内容 三木金物の海外販路開拓を目指し、フランス人若手クリエイター100人に選ばれた事業者と伝統工芸技術を融合したコラボ商品開発によるブランド化

④効果 自治体内への波及効果:自治体の役割が補助金支援からマッチングによる伴走型へ

- 実施により達成できた成果:商品化と今後のブランド化の道筋が見えてきた
- 相手国への波及効果:民間事業者同士がつながり持続可能なビジネス化にチャレンジ

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加

2-(3) 事業内容

【事業名】フランスワイナリー課題解決にチャレンジする三木金物プロジェクト

①スケジュール

2023年11月ワイナリーに事業者と訪問し課題抽出及び実証のため三木金物を提案

2024年11月ワイナリー訪問 実証開始

2025年4月 ワイナリー実証結果を受けた改良検討開始

②体制 Achillee、ドウカン、関西洋鋸、三木市、兵庫県パリ事務所

③内容 フランスワイナリーが抱える剪定作業における腱鞘炎という課題を三木金物で解決するプロジェクト

④効果

自治体内への波及効果: 産業振興の新たな形の提案

実施により達成できた成果: 民間事業者自ら渡仏し、ワイナリーでのニーズ把握による新商品開発に対する意識改革

相手国への波及効果: クロミエ高校だけでなく、産業や行政が共感しプロジェクトに参画

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国と市内事業者による未来の課題解決

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

■持続可能な高校生同士の交流から新たな商品開発に加え、両国のイベントでの相互PRの仕組みづくり
実際にスーツケースの作成ができ、互いの国でお披露目することができた。また、こうした交流をきっかけに、互いの国でのマルシェや展覧会への交流が生まれている。

■フランス新クリエイターとの新商品開発による販路開拓

商品開発ができ、万博で商品発表会を行うとともに、クラウドファンディング等で実際に販売に繋がった。

■フランスワイナリーが抱える腱鞘炎という社会課題を三木金物で解決することによる販路開拓
解決に向けた商品開発が進んでおり、単なる金物紹介にとどまらない交流に結びついている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

【会期前】 2020東京オリパラで出来た繋がりを活かすプロジェクトが出来た。

【会期中】 3年をかけたプロジェクトの成果が実を結んだ。

【会期後】 この取組を持続可能にするためのプロジェクトを進め出せた。

●苦労した点

【会期前】 産業がつながるイメージの組立てと理解の獲得。

【会期中】 フランスとの調整。

【会期後】 仕組み化

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

交流事業の持続性については、2-(1)については、高校生同士の交流は継続、三木市の販路開拓についても毎年フランスクロミエ市で開催される「クロミエワインとチーズの見本市」においてアジア勢唯一として三木市が出展、販売も開始している。(2)については、新商品としてフランス事業者と契約に向けた動きに加え、新たなコラボについて調整中。(3)については、民間の企業努力によるところが大きいものの関係性は構築できている。2025大阪関西万博という世界的なイベントに対する予算措置は、この度の内閣官房国際交流プログラムを通じてスムーズに出来たが、この取組を産業分野に係る販路拡大にどう結び付けるかが、結果とセットになるため仕組みづくりと併せた調整を行っている。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

持続可能な仕組みづくりの構築と市の伴走の仕組みづくり



高校生同士の日仏交流の万博発表会
@万博関西パビリオン兵庫県ゾーン



フランス人クリエイター×三木金物
新商品開発発表
@万博フランスパビリオン



フランスワイナリー課題解決にチャレンジする
三木金物プロジェクト

1 背景と目標等

ア 背景と目的

令和3年12月にウズベキスタン・サマルカンド州との間で友好提携を締結したものの、当時はコロナ禍による入国制限などもあり、具体的な交流ができていなかったが、令和5年10月に奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン共和国大使の三者間でオンライン会議を実施し、大阪・関西万博を契機に、両県州の交流をさらに活性化することで合意した。また同年11月には本県の取組が万博国際交流プログラムに採択された。

そうしたことを背景に、両県州間での具体的な交流が始まり、令和6年度には奈良県公式訪問団や奈良県青年団がサマルカンド州を訪問し、交流を深めた。

令和7年度は、万博を契機としたイベント開催を通じて、県民の方々の国際的視野の涵養や多文化共生の意識醸成につなげる。また、万博に来場された方を対象に、奈良県と各国・地方政府との友好関係や本県の魅力を広く発信し、将来的なインバウンド客の取り込みなど、地域の活性化にもつなげる。

万博閉幕後の令和8年度以降も、万博を契機に実施してきたこれまでの交流に加え、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる。

イ 目標

- ・万博を契機に、両県州知事の相互往来をはじめ、具体的な交流を着実に積み重ねる。
- ・両県州の連携イベントを通じて、両県州の魅力を発信する。
- ・県内教育機関でのウズベキスタンを含む多文化共生にかかる授業を実施する。
- ・万博閉幕後も万博国際交流プログラムを通じて実施してきたこれまでの交流を着実に進めていくとともに、人的交流をはじめ、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる。

【事業名】 サマルカンド州知事訪問団の受入

①スケジュール

令和5年10月：奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施

⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年10月：奈良県公式訪問団がサマルカンド州等を初訪問。

⇒サマルカンド州知事との間で大阪・関西万博にあわせ、両県州が連携したイベントの実施やサマルカンド州知事訪問団の来県で合意

令和7年 3月：奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施（※新サマルカンド州知事就任に伴う）

⇒7月のイベント実施に向け、両県州で協力していくことやイベントにあわせ、サマルカンド州知事訪問団が来県することを確認

4月～：駐日ウズベキスタン大使館及びサマルカンド州政府の担当者と定期的に実務者協議を実施

7月：サマルカンド州知事訪問団の来県

②体制

奈良県、ジェトロ奈良事務所、サマルカンド州、駐日ウズベキスタン大使館

③内容

○来日時期：令和7年7月23日（水）～7月27日（日）

○場 所：大阪・関西万博会場、奈良県内

○取組内容：1. 今後の交流等に関する両県州知事同士の会談

2. 大阪・関西万博会場及び奈良県会場で実施した両県州の連携イベントの視察

3. 県内企業・経済団体関係者等向けの経済セミナーの開催

4. 県内企業（計3社）の視察

○訪問団人数：19名

○報道対応：テレビ大阪ニュースにて報道 (https://youtu.be/Zka7e22KORI?si=R6k4jbCZag1G_T9z)

④効果

・万博を契機に、友好提携後、実現できていなかった両県州知事の相互往来が実現

・経済セミナーを通じて、県内企業・経済団体関係者等に向け、経済分野におけるたウズベキスタンのポテンシャルの高さをアピール

・ウズベキスタンやサマルカンド州の魅力発信や認知度の向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2（1）ア～ウから選択）

イ 万博参加国・地域の関係者

⇒サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使館関係者、県内企業・経済団体関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】奈良県とサマルカンド州が連携したイベントの開催

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施

⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年10月:奈良県公式訪問団がサマルカンド州等を初訪問。

⇒サマルカンド州知事との間で大阪・関西万博にあわせ、両県州が連携したイベントの実施やサマルカンド州知事訪問団の来県で合意

令和7年 3月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施 (※新サマルカンド州知事就任に伴う)

⇒7月のイベント実施に向け、両県州で協力していくことやイベントにあわせ、サマルカンド州知事訪問団が来県することを確認

4月～:駐日ウズベキスタン大使館及びサマルカンド州政府の担当者と定期的にも実務者協議を実施

7月:両県州の連携イベントの開催

②体制

奈良県、サマルカンド州、駐日ウズベキスタン大使館

③内容

○実施時期・場所: <大阪・関西万博会場>

令和7年7月24日(木) ポップアップステージ・東外

7月25日(金) ポップアップステージ・東内

<奈良県会場>

令和7年7月26日(土)～7月27日(日) 奈良公園バスターミナル・レクチャーホール、奈良県庁前広場

○取組内容: 1. 7月24日～25日の2日間、サマルカンド州と連携し、両国の伝統的な音楽や舞踊等の公演を万博会場内のポップアップステージで実施

2. 7月24日のみ、ウズベキスタン・パビリオン前でサマルカンド州側出演者による音楽・舞踊の公演を実施

3. 7月26日～27日の2日間、奈良県内において万博会場と同様に、両国の伝統的な音楽や舞踊等の公演に加えて、ウズベキスタンや奈良県の飲食物や雑貨などの販売会を実施

4. ウズベキスタンに関する出前授業やサマルカンド州の中学校とオンライン交流を行っている県内中学生をイベントに招待し、イベントにあわせサマルカンド州から来日したイベント出演者との交流会を実施

○来場者数: <大阪・関西万博>

令和7年7月24日(木) /ポップアップステージ・東外 延べ2,455名(自由観覧)

7月25日(金) /ポップアップステージ・東内 延べ7,400名(自由観覧)

<奈良県会場>

令和7年7月26日(土) /奈良公園バスターミナル・レクチャーホール 約260名(事前申込制)

／奈良県庁前広場 延べ400名(自由参加)

令和7年7月27日(日) /奈良公園バスターミナル・レクチャーホール 約180名(事前申込制)

／奈良県庁前広場 延べ700名(自由参加)

2 - (2) 事業内容

【事業名】奈良県及びサマルカンド州が連携したイベントの開催

④効果

- ・県民の方々に向け、サマルカンド州の魅力やサマルカンド州との交流意義を発信
- ・将来の交流を担う県内中学生とサマルカンド州から来日したイベント出演者との間で開催した交流会では、単に意見交換だけでなく、ウズベキスタンの伝統楽器に触れるなど、対面ならではの交流を行ったことにより、生徒たちの異文化理解が促進されたほか、ウズベキスタンへのさらなる興味・関心を醸成
- ・ウズベキスタンやサマルカンド州の認知度の向上

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
⇒ウズベキスタン・パビリオン関係者
- イ 万博参加国・地域の関係者
⇒サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使館関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者
⇒日本国際博覧会協会イベント局長、同協会の奈良県出身者

2 - (3) 事業内容

【事業名】奈良県及びサマルカンド州在住の中学生同士の交流（予定）

①スケジュール

- 令和5年10月：奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意
- 令和6年 2月：駐日ウズベキスタン大使館職員による出前授業の実施
- 令和6年10月：中学生同士のオンライン交流を実施
- 令和7年 7月：万博会場及び奈良県内で実施したサマルカンド州との連携イベントに生徒・担当教員を招待
((2)-2で記載したとおり、サマルカンド州から来日したイベント出演者との交流会も実施)
- 8月～：県内中学校及びサマルカンド州内中学校の担当教員と実施内容や時期等について調整
- 9月：ウズベキスタン出身の国際交流員による出前授業の実施
- 令和8年 2月以降：中学生同士のオンライン交流を実施(予定)**

②体制

奈良県、奈良県立国際中学校、サマルカンド市立第8学校(日本の小・中学校に相当)

③内容

- 実施時期：令和8年2月24日(火)
- 場 所：奈良県立国際中学校(オンライン)
- 取組内容：1. お互いの母国語を使った自己紹介、意見交換(予定)
- 参加人数：奈良県立国際中学校：8名程度 (※参加者はウズベキスタンとの交流に特に関心のある令和7年7月に実施したイベント招待者に限定)
サマルカンド市立第8学校：8名程度

2 - (3) 事業内容

④効果

・参加生徒の国際交流や異文化理解の促進

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者
⇒サマルカンド市立第8学校

2 - (4) 事業内容

【事業名】奈良県内でのウズベキスタンに関するイベント開催(予定)

①スケジュール

令和5年10月:奈良県知事、サマルカンド州知事、駐日ウズベキスタン大使の三者間オンライン会議を実施
⇒万博を契機に両県州の交流をさらに活性化させることで合意

令和6年12月～令和7年2月:県庁及び県庁周辺の公共施設において、サマルカンド州や両県州間の交流の軌跡を紹介するパネル展を実施

令和8年 2月以降:県庁周辺の公共施設において、サマルカンド州や両県州間の交流の軌跡を紹介するパネル展を実施(予定)

②体制

奈良県

③内容

○実施時期:令和8年2月24日(火)～2月27日(金)

○場 所:奈良公園バスターミナル

○取組内容:1. サマルカンド州を紹介するパネルの展示

2. 令和7年度の交流内容についても新たにパネルを制作のうえ、これまでの両県州間の交流の軌跡を紹介するパネルの展示

3. サマルカンド州内の観光名所等の写真パネルの展示

④効果

・県民の方々に向け、サマルカンド州の魅力やサマルカンド州との交流意義を発信

・ウズベキスタンやサマルカンド州の認知度の向上

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

■万博会期前

<奈良県公式訪問団のウズベキスタン訪問>

- ・友好提携締結後、新型コロナウイルスの影響により、往来を伴う具体的な交流ができていなかったが、令和6年10月に奈良県公式訪問団が初めてウズベキスタンを訪問し、サマルカンド州知事との間で、万博での両県州で連携したイベントの実施や万博にあわせ、サマルカンド州知事訪問団の訪日で合意
- ・奈良県立大学とサマルカンド国立外国語大学との間でMOUを締結し、両校間での交流が開始
- ・現地の旅行取扱事業者や日本語を学ぶ学生らに向け、知事自らトップセールを実施し、ウズベキスタン国内における奈良県の存在感をアピール

<青少年交流>

- ・令和6年9月に奈良県青年5名がサマルカンド州を訪問し、現地で日本語を学ぶ学生らとホームステイ体験等を通じて交流。今後の両県州間の交流を担う若者同士の交流を通じて、一過性に終わる関係性ではなく、継続性のある関係性を構築したほか、参加学生にはウズベキスタン訪問後も県が実施する国際交流イベントにボランティアとして参加してもらうなど、自身の経験も活かしながら国際交流の担い手として活躍
- ・令和6年10月に県内中学生とサマルカンド州内中学生との間で実施したオンライン交流を通じて、参加生徒の国際交流や異文化理解を促進

■万博会期中

<サマルカンド州知事訪問団の来日>

- ・万博を契機に、友好提携後、実現できていなかった両県州知事の相互往来が実現
- ・経済セミナーや県内企業の視察等を通じて、新たに経済分野での交流を開始

<両県州が連携したイベントの開催>

- ・県民の方々に、普段馴染みのないウズベキスタンの音楽や食に触れてもらうことにより、サマルカンド州の魅力やサマルカンド州との交流意義を発信
- ・県内中学生とサマルカンド州から来日したイベント出演者との間で開催した交流会では、単に意見交換だけでなく、ウズベキスタンの伝統楽器に触れるなど、対面ならではの交流を行ったことにより、生徒たちのウズベキスタンに対するさらなる興味・関心を醸成。令和8年2月に実施を予定しているサマルカンド州内の中学生とのオンライン交流にも繋げることができた

<大学間交流>

- ・MOUを締結している奈良県立大学とサマルカンド国立外国語大学との交流事業の一環として、令和7年8月に奈良県立大学で開催した短期講座にサマルカンド国立外国語大学から5名の学生が参加したほか、同年11月には、サマルカンド国立外国語大学の日本語教員を奈良県立大学に招いてトークショーと映画上映会を開催するなど、人的交流が開始

■万博会期後

- ・令和7年11月、奈良県製薬協同組合がウズベキスタンへの販路拡大を目指し、ウズベキスタンを訪問。本県のウズベキスタン出身の国際交流員も通訳として同行。
- ・12月には奈良県製薬協同組合とウズベキスタン医薬品産業開発庁との間でMOUを締結

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・2021年12月の友好提携締結後、新型コロナウイルスの影響により、具体的な交流ができない状態が続いていたが、万博を契機に、知事の相互往来や青少年交流など、サマルカンド州との間で活発に交流することができた。
- ・成果が見えづらいとされている国際交流だが、令和6年度には県内大学とサマルカンド州内の大学との間でMOUを締結したほか、令和7年度には奈良県製薬協同組合とウズベキスタン医薬品産業開発庁との間でMOUを締結するなど、万博を契機に交流を活性化させたことにより、目に見える形で今後の交流につながる関係性を構築することができた。
- ・一般的にはまだウズベキスタンの認知度が低い中で、万博にあわせたサマルカンド州との連携イベントをはじめ、万博国際交流プログラムを通じて様々な事業を展開したことにより、ウズベキスタンやサマルカンド州の魅力発信や認知度向上につなげることができた。

●苦労した点

- ・奈良県公式訪問団や奈良県青年団のサマルカンド州派遣など、実際に往来を伴う事業については、半年以上前から準備を進めてきたものの、ウズベキスタン側との習慣の違いにより、直前になるまで調整が進まないことが多く、中には現地到着後になっても行程が決まっていないこともあり、相手方との調整の面で非常に苦労した。
- ・万博にあわせた両県州の連携イベントでは、イベントの準備も行いつつ、サマルカンド州から来日する知事訪問団やイベント出演者のロジも調整する必要があったが、上記の訪問団派遣のときと同様、直前まで調整が進まず、そのうえ、直前になっての変更点があったり、万博会場内でのイベント実施にあたっては様々な制約などもあり、非常にタイトなスケジュールの中で現場対応しなければならない場面も多く苦労した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博を契機に積極的な交流を展開した結果、万博閉幕後も医薬品分野でMOUが締結されたほか、令和8年1月下旬には、JICAの草の根事業として実施されている「干し柿を用いた副収入向上のための技術移転モデルの確立」の研修の一環として、同事業に関わっているウズベキスタンの銀行関係者らが県内の干し柿や柿加工品の施設を視察するなど、交流計画の段階では想定していなかった分野での交流も進んでいる。
- ・令和8年度以降も、万博を契機に実施してきたこれまでの交流に加え、さらに幅広い分野での交流の深化につなげる予定。
- ・具体的には、直近の令和8年度では、県内大学とMOUを締結しているサマルカンド州内の大学において、教育セミナーを開催する予定で調整を進めており、渡航費用等を来年度予算に計上しているところ。また、現地渡航の際は、新たな分野での交流促進に向け、サマルカンド州政府と実務者協議も実施する予定。
- ・今後も万博国際交流プログラムを通じて実施してきたこれまでの交流を着実に進めていくとともに、人的交流をはじめ、さらに幅広い分野での交流の深化につなげたい。
- ・また、万博にあわせて開催した両県州の連携イベントでは、県民の方々に普段馴染みのないウズベキスタンの音楽や食に触れてもらうことにより、ウズベキスタンやサマルカンド州の魅力発信や認知度の向上に一定程度、寄与したと考えている。今後も県民の方々の国際的視野の涵養や多文化共生の意識醸成を目的に、同様の文化交流イベントを開催することにより、本県における多文化共生社会の実現につなげる。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

・今年度までは万博国際交流プログラムによる財政的支援があったが、来年度以降は県単体の予算で事業を執行する必要がある、予算次第ではこれまでのように同一年度中に様々な事業を展開するのは難しい可能性がある。

2-(1)に関する写真



知事会談の様子



経済セミナーの様子



イベント時のサマルカンド州知事挨拶の様子

2-(2)に関する写真



万博会場でのイベントの様子



奈良公園バスターミナルでのイベントの様子



県庁前会場でのイベントの様子

海士町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

島根県海士町

相手国・地域

ブータン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

今から約20年前、少子高齢化や学生の島外流出により生徒数が減少した結果、隠岐島前地域で唯一の高校、隠岐島前高校は廃校の危機にあった。この状況を打破するため、生徒が地域へ飛び出し地域課題の改善に取り組む中で学びを得る「地域課題解決型学習」を導入する等、魅力的な学校をつくるための様々な取組を行い、生徒数が回復するとともに、今日では学びの先進事例として注目されている。

ブータン国でも都市部への若年層の流出や知識やテスト重視の教育を改善するため、教育省が海士町の取り組みに着目しており、JICA草の根技術協力を通して地域課題解決型学習の展開に対して協力を行ってきた(2022年1月から2024年12月まで)。

離島と山間地という立地は異なるが、辺境という観点からは類似性を有する海士町とブータン国で「地域課題解決型学習」を通じて双方の社会課題を学び合い、責任ある行動をとることが出来る人材を育成することを目的として交流を行う。

イ 目標

交流計画を実施することにより、ブータン・日本双方の生徒が自ら設定した地域課題解決のための活動に取り組むとともに、双方の文化について理解を深める。

2-(1) 事業内容

【隠岐島前高校生による万博会場におけるブータン探求成果発表】

①スケジュール:ブータン産業省万博担当者と連絡調整を経て企画を合意し、万博パビリオン担当者が来日した後、日時、報告会内容、報告会場設営について確認し、実施された。

②体制:海士町役場と万博ブータンパビリオン関係者との共同事業

③内容:日時:8月1日 11:00~13:00 場所:大阪万博 Commons D 発表内容:①隠岐島前高校ブータン探究 成果発表 ②ブータンとの中継
スケジュール:

11:00~12:00 島前高校生3名発表 ブータン渡航の概要/ブータンの食事について/ブータンの宗教と人々の幸せについて

12:00~12:30 ブータン国チュカからの中継 チュカの学校紹介/

12:30~13:00 パロからの中継パロの町並みとパロの宗教兼行政官庁施設の紹介

聴衆:約70名

④効果 本事業を通じ、隠岐島前高校生は、ブータン渡航で得た文化・宗教・食生活に関する学びを来場者に分かりやすく伝えることができた。特に、ブータンにおける仏教の生活への浸透や手食文化を体感した経験は、参加生徒自身の異文化理解や価値観の広がり大きく寄与した。現地の方々との交流や万博会場での発表を通じ、他者への思いやりや感謝の心の重要性も改めて認識できた。また、来場者や関係者からの質問や反応を通じて、ブータンの魅力を伝える力を実践的に向上させる機会となった。本体験は、今後の地域課題解決型学習や国際交流活動において、生徒自身の学びを地域や国際社会に還元する貴重な礎となると期待される。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア~ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【ブータンパビリオン担当者の海士町訪問・交流】

- ①スケジュール: ブータン産業省万博担当者と連絡調整を経て企画を合意し、万博パビリオン担当者が来日した後、海士町への来訪日、訪問先について意見交換を行い実施された。
- ②体制: 海士町役場と万博ブータンパビリオン関係者との共同事業
- ③内容: 日時: 6月5日広島訪問、6日浜田市世界こども美術館訪問(ブータンで美術教育の協力を実施している)、7日海士町にて、海士町幹部、隠岐島前高校生徒の交流、8日町民に向けてブータン国の文化や観光紹介 聴衆は約20名
- ④効果
本事業は、万博を契機とした国際交流を通じて、高校生・町民双方の国際理解と学びを深化させる効果を生んだ。高校生にとっては、ブータンの価値観やGNHの考え方を当事者から直接学ぶことで、探究活動や万博発表の質が高まり、学びの動機付けが強化された。町民にとっても、文化・幸福観の違いに触れる機会となり、多文化共生への理解が進んだ。さらに、人的ネットワークの構築により、今後の継続的な交流や教育連携の基盤が形成された点も大きな成果である。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【隠岐島前高校生によるブータン探求(ブータンへ訪問し地域課題解決型学習の成果を相互に学び合う)】

- ①スケジュール: 海士町役場がJICAから委託を受けて実施した「ブータン国地域活性化に向けた教育魅力化プロジェクト」の日本人専門家と連携し、ブータン国教育省側と連絡・調整を図り、ブータン国内の高校と日程や交流内容について相談を行い、実施された。
- ②体制: 海士町役場、ブータン国教育省、JICAブータン事務所の連携による実施
- ③内容: 日時: 2025年7月28日から8月6日にかけて、隠岐島前高校生4名および中学生2名がブータン国へ渡航し、海士町と交際交流協定を結んでいるチユカ県の高校にて地域課題解決型学習の合同ワークショップを実施し、環境問題や教育、幸福の捉え方について意見交換を行った。また、ホームステイ、現地校の授業への参加、日本の民謡や踊りを紹介するなど、文化発信を通じて相互理解を図る交流が展開された。
帰国後、中高生により町長及び町役場幹部への報告会(10月3日)、町議会報告(12月11日)を行い、現地での学びと共に、その学びを海士町でどのように活かしていくのかについて各人から発表を行った。
- ④効果
本交流により、生徒は異文化への理解を実体験として深め、価値観の多様性を受け止める姿勢を身につけた。言語や生活習慣の違いに直面する中で、相手を理解しようとする態度や、伝える工夫の重要性を学んだことは、実践的なコミュニケーション力の向上につながった。ホームステイや学校生活への参加を通じ、ブータンの人々が大切にしている協調性や幸福観に触れ、自身の生活や社会を見つめ直す契機となった。また、合同ワークショップでは地球規模課題を自分事として考える力が養われ、主体性と課題意識が高まった。日本文化を発信する経験は自己理解と自信を促し、国際的な視野と協働する力を育成する成果をもたらした。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

交流計画が掲げる目標に対し、本事業は万博会期前・会期中・会期後を通じて段階的な成果を上げた。

会期前には、ブータン万博担当者の来島や事前打合せを通じ、高校生が自ら設定した地域課題や探究テーマについて現地視点で検証・深化させるとともに、町民もブータン文化や価値観への理解を深めた。

会期中は、高校生が万博会場で探究成果を発信し、来場者やブータン側関係者との双方向の交流を実現することで、異文化理解と発信力を高めた。

会期後においては、人的ネットワークと学びの成果が今後の探究学習や国際交流に継承され、双方の生徒が地域課題に主体的に向き合う基盤が形成された点が大きな成果である。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

本事業の最大の成果は、高校生が自ら設定した地域課題や探究テーマについて、ブータン側当事者や万博来場者との対話を通じて学びを深化させられた点にある。会期前の来島交流では、探究内容の正確性や表現方法について直接フィードバックを受け、学習の質が高まった。会期中は万博という開かれた場で成果を発信し、多様な反応や質問を受けることで発信力・主体性が向上した。加えて、町民向け交流や関係者間の人的ネットワーク構築により、学校教育にとどまらず地域全体で国際理解を共有できた点も評価できる。

●苦勞した点

本事業では、日本に大使館が無いブータン国との企画段階でのやり取りに苦勞した。また、万博という大規模かつ時間制約のある場に合わせて、高校生の探究成果を分かりやすく整理し、正確かつ誤解のない表現に落とし込む点に最も苦勞があった。特に宗教や文化、幸福観といった抽象的で繊細なテーマについては、高校生の視点を尊重しつつブータン担当者からのコメントを踏まえた調整が必要であった。また、会期前の来島調整、関係者間のスケジュール調整、オンライン中継を含む万博当日の運営準備など、限られた人員で多岐にわたる実務を同時進行で進める負担も大きかった。加えて、交流成果を一過性に終わらせず、会期後の学びや次の交流へどうつなげるかを明確に示す点にも難しさがあった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本交流事業は、隠岐島前高校の探究学習や海士町の教育魅力化施策と一体的に実施されており、次年度以降も既存事業との連動により継続性が確保されている。経費面では、町単独予算に加え、国際交流・教育分野の補助制度やJICA関連事業との組み合わせにより、一定の見通しが立っている。相手国ブータン側とは、教育省、万博パビリオン関係者、JICA協力隊等との信頼関係が構築されており、調整は円滑に進んでいる。本事業で培われた人的ネットワークと発信実績は、関係人口の創出や若者の学びを核とした地方創生に寄与し、海士町の国際的な教育モデルの発展に資するものである。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

次年度以降の交流事業を継続・発展させるうえでの最大の課題は、安定的な財源と実施体制の確保である。万博という象徴的な機会が終了した後も事業の必要性和成果を分かりやすく示し、国・県補助金や外部資金を継続的に確保することが求められる。また、交流の企画・調整・運営が限られた担当者に集中しやすく、属人化のリスクが高い点も課題である。事業マニュアル化や関係機関との役割分担により、持続可能な運営体制を構築する必要がある。さらに、交流が一過性の国際体験にとどまらないよう、探究学習や地域づくり施策へ成果を還元・蓄積する仕組みづくりが不可欠である。加えて、今後は日本側発信中心の構造を見直し、ブータン側生徒や教育関係者との双方向的な学びと協働をいかに実現するかが重要な検討課題となる。



万博会場での隠岐島前高校生による報告会の様子(事業内容2 - (1))



万博ブータンパビリオン担当者による町民向けブータン紹介(事業内容2 - (2))



隠岐島前高校生によるブータン探求(事業内容2 - (3))

自治体名	岡山県
相手国・地域	韓国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

交流先である韓国慶尚南道とは、地理的条件や産業構造等に類似点が多いことから、平成21年(2009年)に友好交流協定を締結し、令和6年(2024年)に友好提携15周年を迎えたことから、交流事業を万博と関連して実施することで、慶尚南道とのさらなる交流の深化を図ることを目的としている。

イ 目標

青少年交流や職員交流を万博と関連して実施することで、慶尚南道の関係者と岡山県の関係者・学生の継続的な交流のきっかけとするとともに、万博の機運醸成を図る。

2-(1) 事業内容

【慶尚南道青少年受入事業 万博招待ツアー】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年2月下旬～8月4日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

実施主体:岡山県、事業サポート:慶尚南道保育政策課、慶尚南道青少年支援財団青少年活動振興センター、慶尚南道東京事務所

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時:令和7年7月31日～8月4日

場所:岡山県内、万博会場内の韓国パビリオン

取組内容:韓国・慶尚南道の青少年との交流事業の一環で、ホームステイや県内の学校等を訪問するとともに、参加している双方の青少年を万博へ招待し、韓国パビリオンを見学する。

参加者:県内高校生20名、慶尚南道青少年20名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・県内の高校生と韓国・慶尚南道の青少年が万博を訪れ、文化体験など多様な交流を通じて、互いの文化への理解を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(2) 事業内容

【慶尚南道との青少年交流発信事業 in 韓国パビリオン】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年8月4日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

実施主体:岡山県、事業サポート:慶尚南道保育政策課、慶尚南道青少年支援財団青少年活動振興センター、慶尚南道東京事務所

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時:令和7年8月4日

場所:万博会場内の韓国パビリオン

取組内容:県内の高校生や慶尚南道青少年が韓国パビリオンを来訪し文化体験等を行う。また、交流の様子を録画し、韓国パビリオンの公式インスタグラムで動画を発信する。

参加者:県内高校生20名、慶尚南道青少年20名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・青少年交流の様子を広く周知し、また韓国パビリオンの公式インスタグラムにより発信することで万博及び韓国パビリオンへの機運醸成に繋がった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2-(3) 事業内容

【慶尚南道庁からの職員受入事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年3月頃～8月22日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

実施主体:岡山県、事業サポート:慶尚南道国際通商課

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時:令和7年6月9日～8月22日

場所:岡山県内

取組内容:慶尚南道庁から職員を1名受入れ、青少年交流事業や万博関連事業を岡山県と連携して実施する。

参加者:慶尚南道庁職員1名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・青少年交流事業や万博関連事業などを受入職員と連携して実施することで、慶尚南道と岡山県の継続的な交流のきっかけとなるとともに、文化交流を通じて相互理解が深まった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

万博に関連した青少年交流および職員交流を実施した結果、慶尚南道と岡山県の参加者間に新たな関係性が構築され、今後の継続的な交流に向けた具体的なきっかけが生まれた。また、これらの交流を通じて万博への関心と理解が深まり、万博における機運醸成につながった。また、会期後、県内で開催された「韓日文化キャラバン」において、万博での青少年交流の様子の動画放映や制作物を展示し、友好を広く周知した。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

両地域の青少年が万博を訪問して文化体験を行うなど、例年以上に活発な交流ができた。

●苦勞した点

万博パビリオン内での企画実施については、パビリオン側の規定や制約があり、調整に苦勞した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

次年度は、青少年交流として、慶尚南道へ県内学生20名派遣することとで合意が形成されており、万博を契機に友好を深めた青少年のさらなる交流促進を図る。交流を通じて、県内の高校生が国際的な視野と異文化理解を深める機会を提供し、将来的に地域を牽引するグローバル人材の育成に寄与する。

また、万博関連事業を通じて深まった慶尚南道との連携をさらに多角的なものとするため、職員交流として、次年度は県庁職員を慶尚南道庁に派遣することで調整を進めている。職員交流を通じて、行政職員が国際的な視点や他地域の取組を学び、多分野での連携強化の足掛かりとする。また、政策立案や行政サービス向上に活かすことで、地域全体の課題解決能力の向上に寄与する。

これらの取組み実施に向けて、必要経費の予算要求を行っているところである。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

国際情勢、外交関係など、事業の実施に影響を与える外部環境は常に変化するため、これらの変化を常に注視し、実施方法を柔軟に調整できるような体制を構築することが求められる。



慶尚南道青少年受入事業
万博招待ツアー

福山市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

広島県福山市

相手国・地域

リトアニア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

福山市は、瀬戸内海沿岸のほぼ中央、広島県南東部に位置する中核市であり、高速道路や空港、瀬戸大橋・しまなみ海道とのアクセスも良い交通結節点である。ものづくりが盛んで、繊維・鉄鋼産業や物流企業等が多く集積する人口約46万人の産業都市である。

1945年8月8日の空襲によって市街地の約8割が焼失したが、市民が荒廃したまちに潤いを与え、人々の心に和らぎを取り戻そうと1000本の「ばら」を植えたことがきっかけで、「ばら」が本市の戦災復興のシンボルとなった。2025年5月には「世界バラ会議福山大会」を開催し、「ばら」とともに歩んだ本市のまちづくりやローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を大切に育ててきた取組を世界に紹介した。

交流相手国のリトアニア共和国と本市は、経済分野では、福山通運株式会社本社に在福山リトアニア共和国名誉領事が置かれ交流が進んでおり、平和・教育分野では、市内にあるホロコースト記念館の「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」追悼記念式典(毎年開催)において、在日リトアニア共和国大使と本市中学生の交流が行われている。万博国際交流プログラムにより、これらの交流を発展させ、リトアニア共和国との友好を深めることを目的としている。

イ 目標

福山市とリトアニア共和国との教育交流を継続・発展させ、こどもたちが友情を深めながら国際的な視野を身に付け、平和な社会を築いていく人に育っていくことを期待している。

2 - (1) 事業内容

【万博パビリオン交流事業】(万博会場内)

①スケジュール

2025年3月から、リトアニア共和国大使館と万博会場内での交流について打ち合わせを開始。5月参加生徒募集、6月7日万博会場の下見、6月22日参加者説明会を経て7月6日リトアニア共和国ナショナルデーに合わせ、万博会場を訪問。

②体制

福山市教育委員会、福山市立中学校、在日リトアニア共和国大使館

③内容

2025年7月6日11時 ナショナルデーセレモニーに参加 約100名(生徒80名、引率14名。福山市長は来賓として出席)

12時 バルトパビリオンにおいてパビリオン職員との交流

14時 いのちの遊び場クラゲ館見学。2024年度のワークショップで作成したクラゲのイラストや「創造の木」のペイントを現地で確認。

④効果

参加したこどもたちは、アンケートで、リトアニアの音楽・歴史・言語への興味関心、万博会場内の建物やクラゲ館への感動や驚きなど、貴重な体験になったと回答している。

⑤当該事業において交流したい交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【教育交流事業】(万博会場外)

①スケジュール

2024年8月一ツ橋中学校とヨードビングギムナジウム校(リトアニア共和国アリートゥス市)の生徒間で手紙による交流開始。

10月福山市長がアリートゥス市を訪問。

2025年5月オンライン交流についての調整

8月21日 アリートゥス市長・副市長が福山市を訪問し、友好交流の覚書を締結。

10月～12月 一ツ橋中学校とヨードビングギムナジウム校の生徒がオンライン交流を実施。

②体制

福山市立一ツ橋中学校、ヨードビングギムナジウム校

③内容

2025年10月24日・11月27日・12月23日に福山市立一ツ橋中学校とヨードビングギムナジウム校間でオンライン交流を3回実施。自己紹介や日本・リトアニアに関するクイズを出し合うなどの交流を行った。参加者延べ50人程度。

◆報道

福山市とリトアニア共和国のアリートゥス市が友好交流の覚書を交わす(8月22日中国新聞)

オンライン交流の様子が地元紙に掲載(10月25日中国新聞)

④効果

手紙から始まった学校間交流はオンラインでの対面交流に発展し、生徒たちのリトアニアへの興味関心はさらに高まり、リトアニアの歴史や日本との関わりなどの学習が進んでいる。

交流計画の予定にはなかったが、首長による相互訪問が実現し、アリートゥス市との友好交流の覚書が締結された。

⑤交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【ホロコースト犠牲者を想起する国際デー交流事業】(万博会場外)

①スケジュール

2026年1月27日(予定) ホロコースト記念館で追悼式典を開催

②体制

福山市立一ツ橋中学校、幸千中学校、ホロコースト記念館、駐日リトアニア共和国大使館

③内容

ホロコースト記念館で毎年開催される「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」にリトアニア共和国大使らを招き、一ツ橋中学校・幸千中学校の生徒が、吹奏楽の演奏を披露し、展示資料や植栽している「アンネのバラ」について英語で説明を行う。

④効果

平和教育・人権教育の一環として、実践的・体験的に国際理解を深める貴重な学びの機会となっている。

⑤交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

福山市とリトアニア共和国との交流は、在福山リトアニア共和国名誉総領事が福山通運株式会社の本社(福山市内)に置かれている縁で、経済分野での交流が先行していたが、万博国際交流計画により、子どもたちを中心に交流の輪が拡大している。

具体的には、会期前の中学生による在日リトアニア共和国大使館訪問、万博テーマ事業プロデューサーを招いたワークショップ、在日リトアニア共和国大使による市立中学校長・教頭への教育研修が行われ、万博会期中の7月にはリトアニア共和国ナショナルデーに中学生80名が参加し、リトアニアの音楽やリトアニア語のレクチャーを受けるなど、様々な貴重な体験をすることができた。会期後は、10～12月にヨードビングギムナジウム校とオンライン交流により、異文化理解が進み、友情が育まれている。

また、交流のきっかけとなったホロコースト記念館での中学生による来館者への英語解説や、「アンネのバラ」の接ぎ木・栽培・全国への発送なども、継続的に行われている。

とりわけ、交流計画策定時には予期していなかった、リトアニア共和国アリートウス市との友好交流の覚書が2025年8月21日に締結され、9月にはリトアニアから経済団体の訪問を受け入れるなど、今後の持続的な交流の基盤がつくられてきている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・万博パビリオン交流事業に参加した生徒の満足度が高かったこと。
- ・企業の寄附により、参加生徒の万博チケットを確保できたこと。
- ・リトアニア共和国を交流相手国とする岐阜県八百津町の学校と、万博や杉原千畝の学習を介して交流することができたこと。

●苦労した点

- ・セレモニーの日程公表が遅かったため、ホテルやバス等の確保ができず、1泊2日のバス移動の予定を新幹線での日帰りの行程に変更することになったこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・福山市とリトアニア共和国アリートゥス市との間で友好交流の覚書が交わされたことから、今後も学校間の交流は継続し、内容も充実させていく見通しである。
- ・「ホロコースト犠牲者を想起する国際デー」「福山ばら祭り」などで、在日リトアニア共和国大使館との連携は継続される見通しであり、在日リトアニア共和国名誉領事館が置かれている福山通運株式会社の協力も得ながら、教育・文化・経済面での交流を続けていく予定である。
- ・大阪・関西万博テーマ事業パビリオン「いのちの遊び場クラゲ館」の移築先に福山市が契約候補者となっており、万博のレガシーを引き継ぐ準備を進めている。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

特になし



リトアニアナショナルデー

山口市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

山口県山口市

相手国・地域

スペイン

1 背景と目標等

ア 背景と目的

山口市は人口約18万8千人であり、人口減少、少子高齢化といった課題を有する反面、在住外国人が増加している状況の中で、第二次国際化推進ビジョンにもとづき、国際交流の推進と、多文化共生の推進を進めている。姉妹・友好都市、及びそれに準ずる都市は、5か国7都市あり、特にスペイン・パンプローナ市とは万博開催年の2025年が姉妹都市提携より45周年となることから、シティセールスの観点を含め、広く国内外に山口市を発信するため様々な事業に取り組んでいるところである。

イ 目標

万博を契機に45周年記念事業を実施し、山口市とパンプローナ市の長年に渡る交流の絆を再認識するとともに、両市の交流について広く国内外に発信を行う。

2 - (1) 事業内容

【事業名】山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念山口市民訪問団のパンプローナ市への派遣(万博会場外)

①スケジュール

- 2025年2月25日 (仮)山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念事業実行委員会
山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念事業実行委員会設置
第1回山口市・パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念事業実行委員会
- 2025年4月3日 事前説明会開催
- 2025年5月7日 結団式開催
- 2025年5月11日 山口市民訪問団出発
- 2025年5月15日 山口市民訪問団出発(短期滞在)
- 2025年5月17日～19日 パンプローナ市内での姉妹都市締結45周年記念事業
- 2025年5月21日 山口市民訪問団帰国
- 2025年8月31日 山口市民訪問団訪問記完成

②体制 パンプローナ市、ナバラ州、サン・ファン・デ・ラ・カデナ小学校、ヤマグチ図書館、パンプローナ市の市民団体nihonniponpamplona、パンプローナ市の市民団体ハイコンベルサシオネス

③内容 山口市民訪問団のパンプローナ市への派遣、パンプローナ市姉妹都市締結45周年記念式典、ヤマグチ公園でのパンプローナ市公園管理者と山口市の造園技師による技術・意見交換会、パンプローナ市の市民団体nihonniponpamplonaとの交流等、市民訪問団22名、スペイン地方紙掲載

④効果 行政のみならず、両市の市民を交えて両市の絆の再確認、及びその周知を図ることができた。山口市民訪問団にとっては、パンプローナ市とのこれまでの交流の歴史や人のつながりを含めて、スペイン文化・歴史への理解が深まるとともに、顔の見える関係づくりに繋がった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

- イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】大阪・関西万博スペイン館出演(万博会場内)

①スケジュール

2025年7月17日 スペイン館へ山口市出演について打診

2025年8月14日 ステージ担当者と調整開始

2025年10月11日 スペイン館出演

②体制 山口県立大学コーラスサークルSOG、フラメンコギタリスト、大阪・関西万博スペイン館(スペイン文化活動公社)、アマイア・ロメロ、山口市国際交流員

③内容 10月11日17時、大阪・関西万博スペイン館正面ステージにてスペインの歌姫アマイア・ロメロの歌「山口」をスペイン館招聘ギタリストの伴奏に合わせて、山口県立大学コーラスサークルSOGが披露した。本市、及びパンプローナ市の観光PR動画、パンプローナ市長からのビデオメッセージの上映等に合わせて、本市のスペイン出身国際交流員からパンプローナ市との姉妹都市交流等について紹介した。山口県立大学コーラスサークルSOG10名、椅子席90席、大屋根リング、及びスペイン館入場者の観覧あり。報道発表、関係機関によるSNSによる情報発信等あり。

④効果 大阪・関西万博での市民の活躍の場が創出されるとともに、本市、及びパンプローナ市の姉妹都市交流の紹介、観光PRの場となった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【事業名】スペイン・ゴヤ賞映画祭:国際上映シリーズin YCAM(万博会場外)

①スケジュール

2025年4月14日 YCAMでの映画上映決定

2025年11月28日～29日 駐日スペイン大使館文化科学担当参事官山口滞在

2025年11月29日 「燃え盛る家」「47系統」上映 ※各映画上映前に駐日スペイン大使館文化科学担当参事官挨拶、及び映画解説あり

2025年11月30日 「マルコ」上映、スペイン出身山口県国際交流員によるトークショー、「黒い蝶」上映

②体制 駐日スペイン大使館、山口情報芸術センター【YCAM】、山口県

③内容 11月29日～30日 スペイン映画賞「ゴヤ賞」受賞4作品(日本未公開作品)を上映。11月29日は駐日スペイン大使館文化科学担当参事官フェルナンド・クルシオ氏が2作品上映前に挨拶、及び作品紹介を行った。11月30日はスペイン出身山口県国際交流員によるスペイン映画事情等を紹介するトークショーを行った。

来場者計149名、報道発表、駐日スペイン大使館SNSによる情報発信等あり。

④効果 長年に渡る本市とパンプローナ市の交流が発展して、今回の映画上映に繋がった。来場者にとってスペイン映画等への理解を深める場となった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【事業名】スペイン パンプローナ市オンラインツアー(万博会場外)

①スケジュール

- 2025年6月14日 実施決定
- 2025年10月1日 事業実施委託
- 2025年12月14日 オンラインツアー実施
- 2025年12月23日 記録動画公開

②体制 パンプローナ市の市民団体nihonniponpamplona、パンプローナ市民

③内容 フランシスコ・サビエルとの絆により「12月、山口市はクリスマス市になる」ことから、12月14日19時(日本時間)から1時間程度、パンプローナ市のクリスマスのお祝いについて、Zoomを利用して、現地との中継を交えて紹介した。申込アカウント数55件、当日参加42件、報道発表、インスタグラム等で情報発信した。

④効果 パンプローナ市民と顔の見える関係づくりができていることにより、実施につながった。参加者にとってパンプローナ市(バスク地方の伝統等)への理解、クリスマスのお祝いについての理解を深める場となった。パンプローナ市にパンプローナ市民と山口市の連携について認知され、パンプローナ市からオンラインツアーの実施についてSNSへの投稿、及びナバラ州内の複数の報道機関に発信された。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (5) 事業内容

【事業名】(仮称)アマイア・フィルム上映会(万博会場外)

①スケジュール

- 2025年11月25日 実施調整開始
- 2026年2月13日 事業実施委託
- 2026年3月29日 フィルム上映会

②体制 アマイア・ロメロ、山口県立大学コーラスサークルSOG、日本のクリスマスは山口から実行委員会、山口市国際交流員

③内容 3月29日(日)、スペイン出身の山口市国際交流員が、本市とパンプローナ市の姉妹都市交流の状況やスペインの歌姫アマイア・ロメロについて紹介するとともに、2023年12月に本市で開催されたアマイアの初来日コンサートやアマイアと市民との交流の様子、2025年10月に大阪・関西万博スペイン館で山口県立大学コーラスサークルSOGがアマイアの歌「山口」(日本語版)を歌った様子を記録した映像の上映等を行う。

場所:クリエティブ・スペース赤レンガ 時間:14時から90分程度(予定) 会場定員:80名 報道発表、インスタグラム等で周知の予定

④効果 本市とパンプローナ市の長年にわたる姉妹都市交流が契機となって、パンプローナ市出身のアマイアが自身のコンサートで「Yamaguchi」を歌っている。また、アマイアが本市を訪問した際の様子や、山口県立大学コーラスサークルSOGが大阪・関西万博スペイン館で「山口」を歌った様子を記録した映像を上映し、若い世代にも姉妹都市交流について継承していることを紹介することで、新たな市民交流の機会の創出につながられる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

パンプローナ市との45周年記念を契機として両市の絆を再確認するとともに、記念事業が市民の活躍の場となった。また、両市の姉妹都市交流について、市内外へ広く周知することができた。

本市に加えて、駐日スペイン大使館や大阪・関西万博スペイン館等の関連機関や、参画した市民等が交流事業についての情報発信を行った。

本市内での新たな事業の実施について、日西商業会議所を通じてナバラワイン原産地呼称協会から打診を受けた。また、日西商業会議所の会報紙にて大阪・関西万博スペイン館出演について紹介する機会を得た。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

イベントの内容によっては、限られた市民の参加となったが、好評いただいた交流事業となった。また、山口市民にとっては、パンプローナ市を始めとしたスペインへの理解が深まった。

事業の実施には、両市の市民、パンプローナ市、スペイン政府機関等、多くの関係者に御協力いただいた。

●苦勞した点

万博会期中の取組については、当初の事業計画通りには進まなかった。イベントの開催を発表した後、開催直前に中止になったものがあった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

山口県立大学コーラスサークルSOGが大阪・関西万博スペイン館でアマリア・ロメロの歌「山口」を披露したことで、「山口」という歌が本市とパンプローナ市の姉妹都市交流を象徴する歌であることを披露することができた。山口県立大学コーラスサークルSOGにとっては活動を代表する歌として今後も歌い継がれることが見込まれる。また、市内のスペイン関連のイベント関係者から、本市の大阪・関西万博スペイン館での取組について国際交流員から紹介いただきたい旨の依頼を受ける等、市民レベルで「山口」という歌や本市の姉妹都市交流についての周知が図られてきている。

本市においては、長年の姉妹都市交流やフランシスコ・サビエルとの史実をもとに「12月、山口市はクリスマス市になる」などの民間団体主導のイベントが開催されている。これらの既存事業が発展することや、国際交流プログラムを活用して実施した事業の実績、及びそのPR効果によって新たな民間団体との連携につながり、交流の機会が創出されることを期待している。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

今年度はパンプローナ市との姉妹都市締結45周年記念や大阪・関西万博国際交流プログラムを活用することで交流に要する予算を確保することができた。次年度以降については、新たな交流を創出するための予算の確保が難しいことから、市民等の独自の取組に期待したい。また、スペインの民間事業者から経済的な交流について打診を受けており、新たな交流に繋げていきたいと考えているが、市内の受け手となる多様な民間事業者の確保が難しい状況である。



パンプローナ市内での市民交流



ヤマグチ公園での山口市造園技師と
パンプローナ市公園管理者意見交換会



大阪・関西万博スペイン館出演
(背景:アマイア・ロメロ)



大阪・関西万博スペイン館出演
(背景:ヤマグチ公園)



ゴヤ賞受賞作品上映会
(トークショー)



スペイン・パンプローナ市オンラインツアー



東みよし町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	徳島県東みよし町
相手国・地域	カナダ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

東みよし町における重点課題テーマは、「人口減少問題」への対応で、現在、町は「第2次東みよし町総合計画」に基づき、各種施策を実施しており、その重点戦略の一つが、子育て支援と教育環境の充実です。万博を経て国際交流への関心が高まる中、グローバル化が進む現代社会において、地方に住む子どもたちにも都市部と遜色のない国際感覚を養う機会を提供し、将来の地域リーダーを育成する「人づくり」のため、多様な価値観や国際感覚等を肌で感じる機会を創出しました。

イ 目標

町の未来を担う中学生が、海外での生活体験をとおし、国際社会で闘えるリーダーとなるべく、異文化交流に積極的かつ安心して挑戦し、グローバル人材の育成を図ることが目標です。

2 - (1) 事業内容

【令和7年度人材育成国際研修プロジェクト事業(バンクーバー市出身徳島文理大学講師によるカナダ国及びバンクーバー市についての研修会)】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年6月23日 実施

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

東みよし町企画課、徳島文理大学カナダ人講師、徳島県カナダ人地域おこし協力隊員

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年6月23日(月)

場所: 東みよし町役場 三加茂庁舎

取組内容: 徳島文理大学カナダ国バンクーバー市出身講師による、カナダ国及びバンクーバー市についての講演(地理、特徴、文化、歴史など)

参加者: 派遣学生10名

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

・カナダ国やバンクーバー市、また訪問場所について、現地出身者から事前に学ぶことで渡航への不安を減らし、異文化理解を深め、積極的な交流姿勢を育みましました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【令和7年度人材育成国際研修プロジェクト事業(カナダ派遣)】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- (1) 令和7年4月～5月(募集・選考)、(2) 6月(第1回保護者説明会、第1・2回研修会)、(3) 7月(第3・4・5回研修会)、
(4) 8月(第6・7回研修会、第2回保護者説明会、カナダ国渡航)

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

東みよし町企画課、教育委員会、各中学校、カナダ大使館、カナダ国出身者(徳島文理大学講師、県地域おこし協力隊)

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 令和7年8月21日(木)～8月27日(木)

場所: カナダ国ブリティッシュコロンビア州バンクーバー市

取組内容: ホームステイ、現地学生との交流、英語クラス

参加者: 町内中学2～3年生10名

報道対応等: 徳島新聞、広報東みよし、東みよし町公式Instagram

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・帰国後の報告会やSNS投稿を通じ、町内全域の中学生等に海外留学への挑戦意欲を伝えることができ、既に来年度に期待する学生が多数。
- ・10名の学生全員が現地で恐れず挑戦し続け、成功体験を得ている。帰国後の報告会でも全員が堂々と英語を披露する姿を見せ、「国際感覚」や「リーダーシップ」という目的を達成した。
- ・訪問先のホストファミリーや現地学生に、東みよし町や徳島県、日本の魅力やメッセージを入れた自作パンフレットを配布したり、阿波踊りや日本食を披露するなど、町や日本への親近感と理解を促しました。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【令和7年度人材育成国際研修プロジェクト事業(大阪・関西万博事後報告会)】…に関する交流イベントの実施

①スケジュール

- 10月13日(月) 10時30分～ カナダパビリオンステージでのトークショー、カナダパビリオン見学
12時30分～ 関西パビリオンステージでの発表、関西パビリオン見学
14時30分～ 関西パビリオンでのイベント参加

②体制

派遣学生10名、東みよし町企画課、東みよし町副町長、カナダパビリオン関係者、関西パビリオン関係者、徳島県万博推進課

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時・場所・内容:

令和7年10月13日(月)

10時30分～ カナダパビリオンステージでカナダパビリオン関係者とトークショー、カナダパビリオン見学

12時30分～ 関西パビリオンステージで英語、その後日本語で一人ずつ現地での感想を発表

参加者:派遣学生10名、保護者6名(現地参加者除く)、各中学校長2名、東みよし町副町長、東みよし町役場企画課6名、徳島県カナダ人地域おこし協力隊1名、徳島県万博推進課職員、カナダパビリオン関係者(運営調整、司会2名)、関西パビリオン関係者(運営調整)

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

- ・事後報告会や広報誌・新聞を通じ、学生や町民に海外留学への挑戦意欲を伝えることができ、既に来年度に期待する学生が多数。
- ・万博の大舞台で多様な国籍の観客に自らの想いを伝え、直接反応を得た経験が、派遣学生たちの更なる自身に繋がった。
- ・カナダパビリオンでの発表を通じて、パビリオン関係者や来場者に対し、東みよし町とカナダの交流を伝え、「多様な価値観の共有」を体現する相互理解に寄与。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (4) 事業内容

【令和7年度人材育成国際研修プロジェクト事業(会期後の交流)】
時期等未定(内容調整中)

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

現地カナダや大阪・関西万博事後報告会での経験により、学生たちの国際的な視野を拡げ、自信と「地域代表」としての自覚を育みました。この経験は、閉幕後も発信や交流への意欲として続き、国際感覚とリーダーシップの成長につながります。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

なかなか経験できないホームステイや現地学生との交流で異文化理解や世界を知り、数十万人の訪れる大阪・関西万博の舞台で成果報告ができるという貴重な経験をしたことで、短期間で学生の自信や行動力を培えた。また、学生全員が常に前向きに挑戦を続けた。

●苦勞した点

関係者・各所との調整、事前・事後研修の準備など

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・令和8年度人材育成国際研修プロジェクト事業
持続可能な事業となるよう、自己負担額の見直しを行い、個人版・企業版ふるさと納税を必要経費に充てる予定。
次年度も同時期で実施予定である。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・今後も継続的な事業とするための財源の確保
- ・現地プログラム内容の充実
- ・万博での報告会のような、帰国後も成長につながる機会づくり



令和7年度人材育成国際研修プロジェクト事業 カナダ派遣

カナダパビリオンでのトークショー

香川県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

香川県

相手国・地域

イタリア

1 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県とイタリア・パルマ市との交流は、うどんとパスタの「麺」つながりからスタートした。現在は、県内で農業を学ぶ高校生をパルマ市へ派遣し、現地で食品加工工場や農業施設の視察やパルマ市長の表敬訪問を行っている。万博を契機とした国際交流を通じて、次世代を担う高校生の国際的な感覚を育み、農業に対する興味関心がさらに深まるように取り組んでいく。

イ 目標

交流を通じて、香川県の魅力を伝えPRすることで、香川県の経済や地域の活性化を目指している。また、次世代を担う高校生の国際的な感覚を育み、地域の未来を担う人材を育成することを目指している。

2 - (1) 事業内容

【イタリアの高校生による全国高校総合文化祭参加事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年7月24日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者:イタリアで音楽を学ぶ高校生など21名、県内の高校生約30名

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

イタリアから高校生を全国高校総合文化祭に招き、県内の高校生と交流を図った。日本の伝統楽器である琴の弾き方を教え一緒に演奏したり、文化交流を実施したりした。また、県内の文化施設なども案内し、香川県の歴史や魅力をイタリアの高校生へ伝える機会となった。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

県内の高校生たちは、交流を通して香川県の歴史や魅力を再発見するとともに、イタリアの文化についても学ぶことができた。

⑤該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【大阪・関西万博イタリアパビリオン訪問事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年8月21～22日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者:パルマ市との交流事業に参加予定の高校生5名・引率教員1名・国際課職員1名、イタリアパビリオン職員

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

イタリアパビリオンを訪問し、職員の方に案内してもらいながらパビリオン内を視察したり、交流を図ったりした。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

参加した生徒たちは11月にパルマ市を訪問する予定で、その交流事業に向けて、事前にイタリアの文明や文化、歴史について学ぶことができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【県民向けイタリアイベント事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年9月27日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者:香川日伊協会や中山芳彦イタリア交流財団、県民等約100名

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

香川日伊協会などと連携し、県民向けのイタリアイベントを開催した。

パルマ市との交流を紹介するパネルを展示したり、過去に交流事業に参加した生徒による発表を行ったりした。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

パルマ市との交流について、県民へ周知をすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (4) 事業内容

【パルマ市との農業を通じた青少年交流事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年11月2～8日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者:県内で農業を学ぶ高校生5名・引率教員1名・国際課職員1名、現地の学生・住民、パルマ市職員、市長など

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

パルマ市を訪問し、現地の学生や住民との文化交流を実施したり、パルマ市長や食品加工工場等を訪問したりした。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

参加した生徒たちは、実際にチーズや生ハムなどの製造過程を視察したり、日本・香川の伝統文化を現地でPRしたりすることができた。

また、パルマ市長を初めて表敬訪問することができ、今後の交流促進に向けて、意見交換をすることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

県内で開催された各種イベントでは、パルマ市との交流のきっかけとなったバリラ社(パルマ市本社)のパスタを試食提供し、パネル展を通じてパルマ市との交流の歴史を紹介することで、県民のパルマ市に対する認知度向上に寄与した。また、イタリアパビリオンの訪問やパルマ市との交流を通じて、次世代を担う高校生がイタリアの文化に触れ、多文化理解を深めることができた。さらに、パルマ市との交流関係が一層強化され、今後の共同事業に向けた基盤が築かれた。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

香川県とイタリア・パルマ市との交流の歴史や取組み等について、県民の方々へ広くPRすることができた。

また、県内の農業を学ぶ高校生の国際的な感覚を育むことができた。

●苦労した点

交流国担当者との連絡・調整がうまく進まず、交流事業の計画的な実施に影響が出た。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

昨年11月、パルマ市長を訪問することができ、今後の交流事業の一層の活性化について協議することができた。今回の交流事業を契機に、次年度以降、青少年交流だけにとどまらず、様々な分野で交流を深めていきたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・交流国担当者との連絡・調整
- ・交流事業実施における予算の確保
- ・交流内容のさらなる活性化



イタリアパビリオン訪問



現地学生との文化交流



パルマ市長表敬

香川県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

香川県

相手国・地域

ベトナム

1 背景と目標等

ア 背景と目的

人口減少が進む中、外国人住民の数は増加しており、人手不足を課題とする各産業でも外国人労働者は貴重な担い手となっている。そのような中、本県では、外国人と日本人が互いの文化や生活習慣を尊重し、地域で活躍できる香川づくりを目指し、多文化共生の意識啓発や、異文化交流などの事業を実施しており、県居住者の国籍別では最多であるベトナムとの交流を通して相互理解を深めることは、県民の国際理解を深めるためにも重要な取組みであると考ええる。

イ 目標

本県の施策「外国人との共生推進」及び「環境を守り育てる地域づくりの推進」に資する取組みとして位置付ける。日本人ボランティアだけではなく、県内在住のベトナム人住民に参加してもらうことで相互理解を深め、多文化共生のまちづくりと、持続可能な未来づくりを共に推進することを目指す。

2 - (1) 事業内容

【ハイフォン市の高校生による全国高校総合文化祭参加事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年7月24日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者：ハイフォン市高校生15名・ハイフォン市職員数名、国際課職員1名

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

ハイフォン市から高校生を全国高校総合文化祭に招き、本県の青少年と交流を行った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

高校生によるパフォーマンスを相互に披露することを通して、異なる文化を持つ青少年同士が交流し、お互いの理解が深まり、国際的な視野を広げた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【ハイフォン市訪問団大阪・関西万博訪問事業】

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

2025年9月27日

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

参加者：ハイフォン市財務局副局長ら 4名・国際課職員1名

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

ハイフォン市から訪問団を招き、万博会場のベトナムパビリオン及びギャラリーWESTで開催中の香川県催事を訪問し、知事と意見交換等を行った。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

当県の環境施策をハイフォン市訪問団に対してPRし、ハイフォン市と当県との海ごみ清掃事業推進へとつながった。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【瀬戸内海ビーチクリーンアップ活動事業】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
2025年12月21日
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
参加者：県内のベトナム人住民11名、国際課職員2名
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
県内のベトナム人住民と日本人住民による瀬戸内海ビーチクリーンアップ活動を行った。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
県内で最も多い外国人住民であるベトナム人の方々に瀬戸内海の現状を知っていただくとともに、地域住民との交流の機会となった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

事業を通して、次世代を担う青少年同士が文化活動・環境事業等を通じて交流し、相互理解と国際的視野の拡大が図られた。
また、万博を通じて、当県の立場を国際的な場で発信できただけでなく、これを通じてハイフォン市との海ごみ清掃事業の推進という協力関係の強化につながった。
さらに、県内在住のベトナム人住民と日本人住民による瀬戸内海ビーチクリーンアップ活動等を通じて、地域課題を共有しながら協働する関係づくりが進んだ。これにより、交流が一過性に終わらず、地域に根差した多文化共生と持続可能な地域づくりへと発展した点が成果として挙げられる。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

交流対象を青少年、行政関係者、地域住民と段階的・多層的に設定したことで、人的交流から政策連携、地域実践まで幅広い成果を生み出した点が挙げられる。また、万博という国際的な注目度の高い場を活用することで、交流の意義や県の取組を分かりやすく発信できた。

●苦勞した点

日程調整、受入体制の整備など、調整業務が多岐にわたったこと

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

ベトナム・ハイフォン市とは、昨年交流協定を締結しており、万博閉会後も交流事業を継続していく予定である。また、ハイフォン市との海ごみ清掃事業の推進は、万博後も継続可能な協力関係として残る成果であり、実施していく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

予算の確保



ハイフォン市訪問団と知事による万博会場での意見交換



瀬戸内海ビーチクリーンアップ活動参加者の皆様

香川県交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

香川県

相手国・地域

中国

1 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県は、少子高齢化と人口減少という全国的な課題に直面しており、持続可能な地域づくりに向けて活力ある地域社会の実現が求められている。こうした状況の中、香川県は、友好都市関係にある中国・陝西省との文化・スポーツなど多岐にわたる分野での交流が続けられている。このような背景を踏まえ、大阪・関西万博を契機とした国際交流の深化は、香川県の地域活性化、県民の国際理解の促進、さらには未来を担う青少年の育成という観点からも極めて意義深い。本事業を通じ、万博の理念「いのち輝く未来社会のデザイン」の実現にも貢献しつつ、県としての国際的なプレゼンス向上を目指す。

イ 目標

- ・香川県と陝西省の新たな分野における青少年交流を通じ、相互理解と信頼関係をさらに強化する。
- ・大阪・関西万博への参加と連携を通じて、県民の万博への関心を高め、国際化推進への意識醸成を図る。

2 - (1) 事業内容

【万博における「陝西省ウィーク」への参加】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
2025年7月8日
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
参加者:省政府関係者・他県参加者・当県職員
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
万博「陝西省ウィーク」開幕式に参加し、陝西省副省长らと今後の交流について意見交換を行った。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
陝西省との友好を一層深めるとともに、今後の交流をさらに強化していくことを確認した。
- ⑤該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【大学生等による瀬戸内国際芸術祭ボランティア】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
2025年8月27日から9月3日
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
参加者:陝西省政府関係者1名、大学生等3名、国際課職員2名
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
陝西省政府関係者や省下の大学生等を本県に招き、瀬戸内国際芸術祭ボランティア等を通じて県民などと交流を行った。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
瀬戸内国際芸術祭のボランティア活動を通じて県民と交流したことで、学生と県民の異文化理解が促進された。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【省政府関係者による瀬戸内国際芸術祭参加】

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
2025年10月21日～22日
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
参加者: 陝西省代表団6名、国際課職員
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
陝西省政府関係者を本県に招いて瀬戸内国際芸術祭のツアーを実施
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
瀬戸内国際芸術祭の魅力を陝西省側にPRするとともに、陝西省との友好関係を強化した。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

- ・友好都市関係を基盤とした国際交流の深化を達成
- ・瀬戸内国際芸術祭のボランティア活動やツアーへの招待を通じて、陝西省へ当県のPRを行い、県としての国際的なプレゼンスが向上。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

- 良かった点
行政関係者に加え、大学生や県民が直接関わる形をとったことで、形式的な交流に留まらない、実感を伴った相互理解が進んだこと。
- 苦労した点
国の情勢が地方交流の調整にまで影響が及んだこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・万博閉会後も持続的な青少年交流と人材育成の枠組みが期待される。
- ・瀬戸内国際芸術祭への参加を通じて、本県の文化資源や地域の魅力を陝西省側に発信できたことは、地域文化の国際的な認知度向上による訪日・訪県意欲の継続的な高まりに寄与している。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

日中両国を取り巻く環境の変化が交流事業に影響を及ぼす可能性があることを念頭に置いて調整すること。



陝西省代表団による瀬戸内国際芸術祭参加



成果を発表するボランティア学生

1 背景と目標等

ア 背景と目的

香川県は、少子高齢化や地域活性化といった課題を抱えているが、これらの課題に対応するため、「アート県かがわ」として、瀬戸内国際芸術祭や伝統工芸品など芸術の力を活用し、地域の魅力を再発見し、地域の活性化につなげる取り組みを行っている。一方、スペインはガウディやピカソなどの著名な芸術家を輩出した芸術大国であり、日常生活の中にも多くの芸術作品が存在しており、そのため、スペインの人々は芸術に対する感性が高いと言える。

今回の万博開催を契機として、香川県の現代アートとスペインの芸術を結びつけ、現地イベントへの参加や、両国での視察などを通じて、国際的な文化交流の促進や交流人口の拡大を目指すものである。

イ 目標

国際的な観光客誘致と地域活性化を通じ、香川県の経済と文化の持続的発展を図る。

2 - (1) 事業内容

【スペインパビリオン訪問】

- ①スケジュール：2024年9月頃～ 関係者各位との調整開始、12月 スペインにて打ち合わせ
- ②体制：万博コーディネーター
- ③内容：2025年5月27日 スペイン パビリオンを訪問。館内をご案内いただき、今後の交流事業についてのミーティングを行った。
- ④効果：スペインと日本の歴史的な関わりなどを知ることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (2) 事業内容

【県内学生スペイン派遣事業】

- ①スケジュール：2024年9月頃～ 関係者各位との調整開始、2025年3月 委託業者および参加者選定
- ②体制：美術、デザイン、建築を専門クラスで履修している県内の高校生4名、現地在住の芸術家、建築家、象嵌細工の伝統工芸士
- ③内容：2025年7月6～13日に、マドリッド、トレド、バルセロナを訪れ、『アート・建築』をテーマとした研修旅行を行った。美術館や教会、建築物などを視察するとともに、現地在住の芸術家や建家に街を案内してもらったり、伝統工芸士から象嵌細工作りを教わるワークショップに参加したりして交流を深めるとともに、芸術文化に触れる機会を得た。
- ④効果：参加した学生たちは帰国後、現地でスケッチした絵をもとに制作した作品や学校での発表を通じて、スペインの魅力や自らの学びの成果を還元した。今回の研修旅行は、学生たちの国際的な視野を広げるきっかけとなっただけでなく、新たなアイデアの創出や今後のキャリアにも少なからず影響を与えたようだった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型（推進要綱第2(1)ア～ウから選択）
イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【瀬戸内国際芸術祭視察ツアー】

- ①スケジュール： 2024年9月頃～ 関係者各位との調整開始、2025年6月 招へい者決定
- ②体制： スペインパビリオンの万博スタッフ2名
- ③内容： 2025年7月23～24日にスペインパビリオンの万博スタッフ2名を香川県へ招へいし、瀬戸内国際芸術祭の会場にもなっている直島および本島を案内した。直島では美術館を訪れたり、島の風景を楽しんだりし、本島では丸亀市職員や瀬戸芸事務局の職員などを交え、瀬戸芸が地域活性化を目的としたイベントであることなどを紹介し、アートを巡りながら島の歴史などを学んだり、島の施設や食事場所で現地の人との交流を楽しんでもらった。
- ④効果： 招へいしたスタッフからは、地方を訪れることができ日本に対する印象が変わった、この旅は今回の滞在中のベスト3に入る良い思い出となったと喜んでもらった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (4) 事業内容

【Manga Barcelona出展に伴うスペイン訪問】

- ①スケジュール： 2024年9月 情報収集および出展検討開始、2025年 8月出展申し込み
- ②体制： うちわ職人、丸亀市観光協会職員、県職員、現地の日本文化等に関心の高いスペイン人
- ③内容： 2025年12月5～8日にスペイン国内最大の日本イベントへ出展し、日本文化へ関心が高いスペイン人と、丸亀うちわの物販およびうちわ作りのワークショップを通じて交流を図った。参加者たちは、職人から直々にうちわ作りを教わり、日本でしかできない本格的な体験を楽しんでいた。また、ワークショップに参加しなくても、珍しい工芸品作りに足を止める人もいたので、観光パンフレットを配布し、香川県の観光情報などを伝え、認知度向上につなげることができた。
- ④効果： 多くの方に効率よく香川県をPRすることができた。
ワークショップ参加者：延べ72名、パンフレット配布数：400部
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

・2年にわたり、マドリードとバルセロナの現地BtoCイベントに参加することで、訪日旅行や日本文化に関心の高い来場者に対し効率的にPRすることができ、本県の認知度向上に寄与した。またその際、単に情報を伝えるだけでなく、フォトセッションやうちわ作りなどを行うことで、じっくりとコミュニケーションを取ることができた。、
(観光パンフレット配布部数 両イベント合計1,500部)

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

- ・「芸術」というテーマに設けたことで、参加者同士が共通の関心を持ち、より深い交流が生まれた。
- ・また多くの方との縁やご厚意のおかげで、実施が困難と思われていた事業も無事に遂行することができた。
- ・事業に関わった人が、スペイン、香川県双方の魅力を知り、文化的な刺激を受ける機会を得られたことがよかった。

●苦労した点

- ・特定の団体等と交流協定のようなつながりがないので、交流接点を新しく創出したり、事業の調整を行うのに苦労した

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

- ・現地の日本イベントにおけるPR活動を通じて、香川県の魅力が現地の方々に広く認知され、今後は観光客や交流人口の増加が期待できる。
- ・今後も、瀬戸内国際芸術や直島など、両国をつなぐアートや芸術の魅力を継続的に発信、香川県の認知度をさらに高めていくことで、これらの観光資源を活用した国際交流が促進され、地域経済の活性化と地方創生への貢献が期待される。
- ・また今回の交流事業を通じて築かれたネットワークは、今後の継続的な国際交流活動の基礎となりえる。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

香川県は、特定の市や組織等との交流協定があるわけではないので、持続的な関係を構築するための事業予算の確保が課題である。
また、香川県を訪れる外国人旅行者が増加する一方で、受け入れ環境整備が不十分であるため、スペイン語での情報発信や対応などが求められる。



パビリオン訪問(黒潮をテーマにしたスペイン館)

学生派遣(象嵌細工や建築物の説明を聞く学生たち)



瀬戸芸ツアー(直島の作品の前で)



Manga Barcelona(うちわ職人から教わるワークショップ)



1 背景と目標等

ア 背景と目的

丸亀市は、人口減少や少子高齢化といった課題を背景に、市民一人ひとりの多様な幸せ(well-being)の実現を目指し、交流人口・関係人口の創出に取り組んでいます。その一環として、世界有数の美食の街である姉妹都市スペイン・サンセバスティアン市(以下「サンセ市」と「食」を通じた交流を深め、2019年には、姉妹都市提携の調印日である4月9日を『丸亀市×サンセバスティアン市「チャコリの日」』と制定しました。

令和7年度は昨年度からの継続事業として、オリジナル丸亀ピンチョスを披露する「まるがめピンチョス祭り」等のイベント開催や参加、来日したシェフが所属するレストランとの連携協定の締結などを通じ、国際交流の促進と交流人口の拡大を図ります。

イ 目標

行政だけではなく、一般市民、民間レベルにおける交流促進を図ることで、本市とサンセ市の友好関係をより強固にします。

2 - (1) 事業内容

【令和7年度 丸亀市×スペイン・サンセバスティアン市 姉妹都市友好事業】

サンセ市の人気バル「GANDARIAS」のシェフが開発した「オリジナル丸亀ピンチョス」を、チャコリの日記念イベント「まるがめピンチョス祭り」などで披露するとともに、「GANDARIAS」と食を通じた国際交流の推進に関する協定を締結しました。

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- ・2025年2月18日(火)～23日(日) GANDARIASのオーナー・シェフ招聘期間
- ・2025年4月5日(土) まるがめピンチョス祭り開催
- ・2025年10月8日(水) GANDARIASとの食を通じた国際交流の推進に関する協定締結
- ・2025年10月13日(月・祝) フェスティバル デ エスパニーニャ エン カガワ2025出展

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

- ・丸亀市:丸亀市・地域商社(株式会社OIKAZE)・チャコリの日賛同店舗・(一財)丸亀市観光協会・丸亀市国際交流協会 ほか
- ・サンセ市:ガンダリアス・本市出身の現地コーディネーター ほか

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、報道対応等)

(1) まるがめピンチョス祭り開催

日にち:2025年4月5日(土) 場所:丸亀市市民交流活動センター(マルタス)前西側スペース
取組内容:オリジナル丸亀ピンチョスのお披露目、市内外飲食店による創作ピンチョス販売、友好記念チャコリのふるまいなど
参加者:800名 報道:四国新聞社、読売新聞社

(2) GANDARIASとの食を通じた国際交流の推進に関する協定締結式

日にち:2025年10月8日(水) 場所:丸亀市役所(オンライン) 取組内容:料理人・シェフの相互交流など「食」をテーマとした国際的な交流の推進に向け協定締結
参加者:丸亀市長、GANDARIASオーナーほか 報道:四国新聞社、読売新聞社

(3) フェスティバル デ エスパニーニャ エン カガワ2025出展

日にち:2025年10月13日(月・祝) 場所:高松丸亀町壱番街前ドーム広場
取組内容:オリジナル丸亀ピンチョス・友好記念チャコリ販売など 参加者:350名(丸亀ブース) 報道:四国新聞社

2 - (1) 事業内容

- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
市民・事業者への国際交流の機運醸成、観光資源の活用、サンセ市での交流拠点(ガンダリアス)の確保など
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

行政にとどまらず、地域商社や料理教室の参加者など多様な主体が「ガンダリアス」のオーナー・シェフと直接交流したことで、国際交流への関心や期待が高まりました。とりわけ、サンセ市の食文化やライフスタイルへの理解が深まったことで、市民や事業者による自発的な交流や、新たな連携・事業展開につながる機運が醸成されています。

また、今回の連携協定の締結により、次年度以降の継続的かつ具体的な交流の実施が担保され、単発的な取組にとどまらない、実効性のある国際交流の基盤が構築されました。これにより、両市の友好関係が一層深化し、将来的な交流人口の拡大や地域活性化への波及効果が期待されます。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・GANDARIASのオーナー・シェフが丸亀市の風土や人、食文化に強い関心を示し、高い評価を得られたことから、連携協定の締結に至ったこと。
- ・協定締結を契機として、次年度以降の具体的な交流事業の実施が約束され、継続的な国際交流の道筋を示すことができたこと。
- ・丸亀市、地域商社、国際交流協会、現地コーディネーター等が役割分担を行い、官民連携による実施体制を構築できたこと。
- ・行政主導にとどまらず、民間や市民が関与することで、現場感のある実践的な国際交流を実現できたこと。

●苦勞した点

- ・スペイン語通訳について、県内での確保が困難であったため、愛知県から招聘する必要があるため、調整や費用面での負担が生じたこと。
- ・料理教室等で使用する食材が専門的であるうえ、両国における食材や規格、調達方法に対する認識の違いがあり、手配に多くの時間と労力を要したこと。
- ・海外招聘事業であることから、日程調整や文化的背景への配慮など、事前準備に想定以上の調整が必要となったこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本事業を契機として、令和8年度にはサンセ市の人気バル「GANDARIAS」へ本市のシェフを派遣するなど、行政と地域商社が連携した民間レベルでの国際交流を継続・発展させる取組を計画しています。次年度以降の事業実施に必要な経費については、関係部局や地域商社と連携しながら予算要求を行う予定としており、実施に向けた一定の見通しを立てています。

また、派遣事業の実施に向けては、GANDARIASをはじめとするサンセ市側関係者と継続的に意見交換を行っており、受入体制や交流内容について前向きな合意を得ています。あわせて、国際交流協会や現地コーディネーターとの連携体制も維持・強化することで、円滑な事業実施に向けた調整を進めています。

さらに、本事業で開発したオリジナル丸亀ピンチョスについては、市内飲食店等での継続的な提供を促進し、うどん・骨付鳥に次ぐ新たな本市の食の魅力として定着を図ります。万博を契機に生まれた取組を一過性のものとせず、地域に根付くレガシーとして継承することで、国内外からの関心を高め、交流人口の拡大や地域経済の活性化につながるものと考えています。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

食を通じた交流を継続するためには、経費の確保以上に、事業を担い継続していく「人材」の確保と育成が重要であると認識しており、特定の担当者や関係者に依存せず、持続的に交流を進めていく体制を構築することが求められています。

このため、令和8年度においては、サンセ市との友好事業を推進する中で、将来的に交流の担い手となる人材の育成も視野に入れ、行政、地域商社、関係団体が連携しながら、継続性のある交流の仕組みづくりに取り組んでいきたいと考えています。



まるがめピンチョス祭り



友好記念チャコリで乾杯



GANDARIASと連携協定締結

1 背景と目標等

ア 背景と目的

南宇和高校の海外研修先がカナダのバンクーバーであったり、愛南漁業協同組合がカナダのバンクーバーへ輸出事業を実施してあったりと愛南町とカナダの繋がりは少なからずあったが、万博国際交流プログラム事業を契機に万博終了後も継続・発展した交流を図りたい。

イ 目標

万博国際交流プログラムを通し、「愛南町総合計画」の施策である「次世代につなぐ子ども・子育て支援の充実」において、南宇和高校の社会研修も踏まえた文化交流の一助となることを目指すと共に、「水産業の振興」において、愛南町と愛南漁業協同組合、南宇和高校、地元水産加工会社が連携し、「チーム愛南」として持続可能な漁業の推進を目指す。

2 - (1) 事業内容

【チーム愛南(高校生含)によるカナダの製品を使った商品開発を通じた交流】

①スケジュール 令和7年5月31日(土)

②体制 南宇和高校地域振興研究部が主となり、開発した商品を通じて、カナダの留学生と交流を実施。

③内容 地方創生SDGsフェス会場で、開発した商品のPRを通じて、南宇和高校地域振興研究部とカナダ国留学生の交流を実施。

④効果 万博を契機としたカナダと愛南町の製品を使って開発した商品を通じた交流を図ることにより、参加した生徒の見聞を広めることができ、今後は、さらにカナダとの国際交流を深めることができる。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【カナダパビリオンでパビリオン関係者との交流】

①スケジュール 令和7年6月1日(日)

②体制 南宇和高校地域振興研究部、カナダパビリオン関係者

③内容 カナダパビリオンでパビリオンの関係者と南宇和高校地域振興研究部が交流を実施。

④効果 カナダパビリオンでパビリオン関係者からパビリオンの施設説明を通じた交流を図ることができ、カナダに対して認識を深めることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型

ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (3) 事業内容

【カナダ・ネットワーク・シンポジウムへの参加を通じた交流】

- ①スケジュール 令和7年6月30日(月)
- ②体制 在日カナダ大使館関係者、カナダパビリオン関係者、カナダと交流のある関係者
- ③内容 カナダパビリオンで開催されたカナダ・ネットワーク・シンポジウムを通じて、在日カナダ大使館の関係者、カナダパビリオン関係者、カナダと交流のある関係者と交流
- ④効果 カナダ・ネットワーク・シンポジウムで発表されたカナダの最新情報、交流団体の事例発表等を通じて、在日カナダ大使館関係者、カナダパビリオン関係者カナダと交流のある関係者と交流を図ることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

南宇和高校地域振興研究部と地元水産加工会社、愛南漁業協同組合、愛南町が「チーム愛南」となり、交流事業の相手国のカナダに関する食や文化に触れることにより、カナダに対して、親近感や思いを持ち、より一層、カナダと今後の交流事業実施の契機となっている。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

- 良かった点
知る機会の少なかったカナダについて、見聞を深めることができた。
- 苦勞した点
町がカナダと交流を図る交流計画を作成したが、国相手になると調整に時間を要した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

カナダと愛南町の産品を使った商品を今後も改良を重ね、PR等を通じて、カナダとの交流を発展させていきたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

カナダと愛南町の産品を使った商品はできたが、万博終了後もPR等を通じて、カナダとの交流を発展させていきたい。



カナダからの留学生と開発した商品PRを通じた交流



カナダパビリオンで交流



カナダ・ネットワーク・シンポジウムへの参加を通じた交流

1 背景と目標等

ア 背景と目的

佐賀県とオランダ王国の歴史的つながりをきっかけに、平成28年「クリエイティブ連携・交流協定」締結。これまでオランダ王国とクリエイティブ産業を中心に、スポーツや文化等様々な分野で交流を実施してきた。これまで、オランダ王国と築いてきた関係を深化させることはもちろん、新たなフィールドでの連携に挑戦し、新たな価値の創造を目指している。

イ 目標

佐賀県内においては、ダッチデザインによる新たな視点の取り込みや、人々が等しく幸せに生きる権利を有する共生社会の先進国であるオランダから学び、地域や社会の磨き上げを推進。また、オランダにおいても事業を実施することで、現地において佐賀県を発信し、認知度の向上を図ることで、佐賀県が掲げる「世界に誇れる佐賀づくり」、ひいては地方創生を進めていくことを目標としている。

2 - (1) 事業内容

【事業名】大阪・関西万博でのオランダと佐賀のコラボレーション(実施場所:万博会場内)

◇諸富家具×ダッチデザイン展示

- ①スケジュール : 令和7年5月20日～24日 ※オランダパビリオン[通常展示]の展示台として、万博会期中の週末にも使用(5月18日～25日を除く)
- ②実施体制 : 駐日オランダ王国大使館、佐賀県
- ③内容 : 万博オランダパビリオンで用いる展示台を、諸富家具とダッチデザインのデザイナーが協同制作。制作した展示台をオランダパビリオンやギャラリーイーストで使用。また、ナショナルデー式典に首長が出席。
- ④効果 : 万博における同国の特設展示での家具の制作・展示等の提案を受け、万博をきっかけに家具という新しいフィールドでの連携を実現することができた。

◇伊万里・有田焼×ダッチデザイン展示

- ①スケジュール : 令和7年5月20日～24日
- ②実施体制 : 駐日オランダ王国大使館、佐賀県
- ③内容 : 有田焼創業400年を機に開始したCreative Residency Arita交流事業で生まれた成果物等を会場で展示。県内窯業関係者を万博会場に派遣し、相手国博物館関係者とトークショーを実施。
- ④効果 : これまでオランダと行ってきた焼き物での取組を万博を通じ、国内外に広く発信することができた。

- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者、万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】佐賀県出身アーティスト及び佐賀県内高校生の壁画プロジェクト(実施場所:オランダ)

- ①スケジュール: 派遣期間 令和7年8月13日～19日
- ②実施体制: 佐賀県、佐賀県出身アーティスト、オランダ現地の博物館
- ③内容 : 県内の高校生3名を佐賀県出身アーティストがオランダで実施する壁画制作プロジェクトに派遣。壁画制作の補助や制作を通して現地の人との交流を行った。
- ④効果: 佐賀県出身アーティストや県内高校生等と、現地のアーティスト、博物館や地域住民との交流・ネットワーク構築を図ることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域の関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】万博の企画・運営に係る日本側関係者招聘(実施場所:佐賀県)

- ①スケジュール: 令和7年9月10日
- ②実施体制: 佐賀県、内閣官房
- ③内容 : 万博の企画・運営に係る日本側関係者を佐賀県に招聘し、学校訪問をとおして、県内の中学生に向けて、万博の取り組みを紹介
- ④効果 : 万博における佐賀県とオランダの取組を県内の中学生約120名に紹介することで、佐賀県とオランダの取組・繋がりの認知度向上につながった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (4) 事業内容

【事業名】オランダパラスポーツ関係者招聘(実施場所:佐賀県)

- ①スケジュール: 令和7年11月10日～11日実施
- ②実施体制: 佐賀県、オランダパラスポーツ関係者、県内特別支援学校・パラスポーツ関係者
- ③内容
実施: 令和7年11月10日、11日
1) 県内特別支援学校訪問
2) 生徒とのスポーツを通じた交流活動
3) 県内特別支援学校職員等との意見交換及びディスカッション×2回(テーマ: 学校内や地域におけるパラスポーツ、共生社会)
※デフリンピックの事前キャンプのため、県内に滞在していた選手も参加。
- ④効果: 2024年佐賀県で開催された、全国障害者スポーツ大会の“ポスト全障スポ”として、これからの県内におけるパラスポーツの在り方や、パラスポーツを通じたインクルーシブ社会の実現に向けて、県内関係者の意見交換が促進できた。特に、インクルーシブ社会の実現を推進するオランダ現地の声を聴くことで、当事者がより一層インクルーシブ社会の実現を考えるきっかけとなった。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型: 万博参加国・地域の関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

事業(2)－1では、これまでオランダと行ってきた焼き物の取組を万博を通じ、国内外に広く発信することができた。また、万博を契機とし、家具という新たなフィールドでの連携を生み出し、県内でのダッチデザインによる新たな視点の取組に寄与した。

事業(2)－2について、オランダ現地において、事業を行うことで、佐賀県の認知度向上を図ることができた。さらに、佐賀県出身アーティストや県内高校生等と、現地のアーティスト、博物館や地域住民との交流を促しネットワークを構築できた。

事業(2)－3では、県内の中学生に対し、万博を通じたオランダと佐賀県の連携の取組を紹介することで認知度向上に寄与した。

事業(2)－4では、インクルーシブ社会の実現を推進するオランダ現地の方々とともに活動し、意見交換を行うことができ、特別支援学校等の現場の先生方に、これからの県内におけるパラスポーツの在り方や、パラスポーツを通じたインクルーシブ社会の実現について、新たな考えを取り入れるきっかけとなった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

これまで積み上げてきた交流・連携の成果を万博を通して広く紹介することができ、オランダとの連携が更に深化したこと。また、万博をきっかけに新たな交流関係が築かれ、当事者(オランダクリエイター、伝統工芸品事業者、パラスポーツ関係者等)間の交流後の連携が継続していること。県内において、オランダにおける共生社会の考え方やダッチデザインに触れるきっかけとなり、また、佐賀県とオランダの取組の認知度向上につながったこと。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

事業(2)－1、(2)－4について、来年度の継続的な実施に向け、オランダ関係者や県内の関係者との調整を行っている。

特に、事業(2)－1の諸富家具の取組においては、万博をきっかけとして、今後の継続的な取り組みに繋がっており、レガシー創造に寄与している。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

・継続的な取組となるために各事業に関わる協力事業者を増やしていく必要がある。
そのため、県内及びオランダを中心とした国内外にそれぞれの事業がもたらす成果を発信していくこと。また、それらを継続してメディアに取り上げてもらうことで、県内及び国内外における佐賀とオランダの連携の機運を醸成していきたい。また、その過程において、人的ネットワークの強化や、新たな連携機会の発掘などを積極的に行っていききたい。



大阪・関西万博でのオランダと佐賀のコラボレーション
展示の様子



佐賀県出身アーティスト及び佐賀県内高校生の
オランダでの壁画プロジェクト(壁画制作の様子)



雲仙市交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名	長崎県雲仙市
相手国・地域	デンマーク

1 背景と目標等

ア 背景と目的

雲仙市の人口は約4万人で少子高齢化と人口減少が地域課題であり、主な産業は農業と観光業である。本市で有機農法をベースに在来種野菜の種を40年以上繋ぎながら育て全国から注目を集めている農業者「岩崎政利」氏がいる。岩崎氏の取り組みと在来種野菜に魅了され移住してきた料理人等がレストランや野菜の直売所を開業し、交流人口と関係人口の拡大につながっている。本市はこれらの動きに着目し関係人口の創出事業を行ってきた。また岩崎氏を軸とした官民の取り組みが評価され2024年に美食都市アワードに雲仙市が選ばれた。今回、万博を契機として、さらなる関係人口の拡大を目的とし有機農業先進国でかつ美食都市コペンハーゲンを首都に有する「デンマーク王国」と交流を行うとともに、岩崎氏の在来種野菜を展示するシグネチャーパビリオン「EARTH MART」の関係者などの著名人をゲストにしたトークセッションを行う。

イ 目標

アを踏まえ、交流計画を実施することにより国内のみならず国外の関係人口の創出を目標とする。

2 - (1) 事業内容

【事業名】雲仙市内におけるデンマーク王国関係者との交流

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和6年6月デンマーク大使館訪問、令和7年3月～デンマーク料理人来日交渉
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年8月30日、31日、雲仙市内各所、デンマーク王国の首都コペンハーゲンの世界的レストランで活躍されるシェフ及びプロジェクトマネージャーと在来種野菜の生産農家、市内外料理人、市民等との交流(在来種野菜種採り体験、郷土料理の紹介・試食会、トークイベント、交流会。参加者数70名(トーク除く)。31日の交流について8月22日プレスリリース、8月28日島原新聞掲載、9月4日長崎新聞掲載。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
雲仙市の在来種野菜の魅力発信による地域のブランディングの強化とシビックプライドの醸成に寄与。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
イ 万博参加国・地域の関係者、ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (2) 事業内容

【事業名】デンマーク王国関係者との万博会場内交流

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和7年9月末デンマーク政府代表との交流協議、調整
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
雲仙市、雲仙市有機農業推進協議会、デンマーク大使館、万博デンマーク政府代表、北欧パビリオン、EARTHMART
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年10月3日、万博会場内(EARTHMART内、北欧パビリオン内)、デンマーク政府代表グルドマン氏と在来種野菜農家岩崎政利氏、奥津爾氏、地域おこし協力隊新居隊員、市職員2名との交流
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
雲仙市の在来種野菜の魅力発信による地域のブランディングの強化とシビックプライドの醸成に寄与。また、交流相手国であるデンマークを含む北欧5か国の結びつきや文化に関する知識を学び、日本、雲仙市の古来の結びつきとの類似点に気づきを得るとともに、有機農業先進国であるデンマークとの今後の交流機会の創出につながることが期待される。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者、ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (3) 事業内容

【事業名】ナショナルデーイベントへの市長出席

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
令和7年3月博覧会協会儀典局より打診、万博デンマーク政府代表より招待
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
雲仙市、博覧会協会、万博デンマーク政府代表
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年4月24日、万博会場内(ナショナルデーホール、迎賓館、北欧パビリオン、日本館)、金澤雲仙市長がデンマークナショナルデー公式式典、午餐会、会場内パビリオン視察に出席
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
自治体トップの参加によるデンマーク王国との友好関係の構築。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)
ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者

2 - (4) 事業内容

【事業名】未来の食や文化に関するトークセッション

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年4月業務委託契約後、登壇者交渉、日程調整。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

雲仙市の在来種野菜と岩崎政利氏、奥津爾氏を軸として、全国各地で未来の食と文化をテーマにしたトークイベントを開催

令和7年8月31日、雲仙市千々石町・オーガニック直売所タネト、デンマーク有名レストランシェフによるトークセッション、50人、配信リーチ数39,000人。

令和7年9月6日、雲仙市千々石町・オーガニック直売所タネト、公開対談 岩崎政利×宇根豊 人と種、人と作物、40人

令和7年10月4日、兵庫県姫路市・まちの食堂羊雲、種のシンポジウム「野菜のいのち、種の未来」in姫路、50人。

令和7年10月5日、福島県福島市・ニューヤブウチビル前歩行者天国特設ステージ、「街を生み出す」、40人、配信リーチ数14,000人。

令和7年10月16日、東京都武蔵野市吉祥寺・キムチ、東浩紀トークセッション「若者たちのとの対話—日本文化の雑種性、喧騒する場の未来」、40人。

令和7年10月23日、東京都武蔵野市吉祥寺・キムチ、特別トークセッション「土地に根ざす、風を起こす」～種を蒔く仕事～、80人。

令和7年11月20日、インスタライブ、クロージingtーク「土地に根ざす、風を起こす」、配信リーチ数6,678人。

④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)

雲仙市の在来種野菜の魅力为全国各地で伝えることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (5) 事業内容

【事業名】在来種野菜をPRするマーケットイベント

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

令和7年4月業務委託契約後、開催地、内容企画、調整。

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

◆DESIGNEAST内でのマーケットイベント、野菜の鞘オブジェ展示(雲仙市有機農業推進協議会で実施)

令和7年9月20日～21日、大阪市住之江区・クリエイティブセンター大阪、1000人。

◆8月末の雲仙市内でのデンマーク王国料理人との交流にヒントを得て、「郷土料理」をテーマにしたマーケットイベントを各地で行い、在来種野菜の魅力を発信。

令和7年10月19日、雲仙市小浜町・蒸気家、郷土料理の日曜日in小浜温泉蒸気家、400人。

令和7年11月9日、鳥取県米子市・食べれる森シュトレン、郷土料理の日曜日in米子、300人。

令和7年11月16日、雲仙市千々石町・オーガニック直売所タネト、郷土料理の日曜日in雲仙タネト、600人。

2 - (5) つづき

- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
雲仙市の在来種野菜の魅力発信ことができた。クリエイティブセンター大阪ではシグネチャーパビリオンEARTHMART内での野菜のオブジェをイメージした在来種野菜の鞆の装飾を会場中心に据え、来場者の注目を集め、在来種野菜の認知度アップと万博への関心度アップに寄与した。鳥取県米子市、雲仙市内2での実施においては、8月末のデンマークの料理人との交流においてスポットを当てた郷土料理について発展させ、より雲仙市の在来種野菜への関心を高めることができた。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択) ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (6) 事業内容

【事業名】市民向け事業実施報告会およびアーカイブ冊子作成

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
本事業の市民へのフィードバックと記録を目的として、アーカイブ冊子の作成及び市民向け実施報告会の実施を企画、調整中。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制) 雲仙市、業務委託先(オーガニックベース)
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年3月上旬、雲仙市内、市民向け報告会。報告会において、アーカイブ冊子の配布を行う。
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
交流に参加できなかった市民への交流事業の報告とともに、万博レガシーの形成を目指す。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択) ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

2 - (7) 事業内容

【事業名】大阪・関西万博に展示されていた「野菜のいのち」の JR 長崎駅での再構築(展示)

- ①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)
交流計画を契機とした大阪関西万博のレガシー形成、在来種野菜を含む有機農業の魅力発信を目的とし雲仙市有機農業推進協議会が企画し実施。
- ②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)
雲仙市有機農業推進協議会(魅力発信部会奥津爾氏:EARTHMARTでの野菜展示の監修者)、九州旅客鉄道株式会社長崎支社
- ③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)
令和7年10月21日～令和8年3月31日、JR長崎駅新幹線コンコース(改札内)、「EARTH MART」で展示されていた「野菜のいのち」を再構築(展示)、10月15日プレスリリース
- ④効果(自治体内への波及効果)(実施により達成できた成果)(相手国への波及効果)
万博の展示を見れなかった方や長崎駅を利用する観光客等へ在来種野菜の魅力を発信するとともに、万博レガシーの形成を目指す。
- ⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択) ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

創出した関係人口の数

リアル参加2,691人、オンライン・アーカイブ配信視聴者数78,678人 合計81,369人

- 万博会期前(令和6年度実施) 未来の食や文化に関するトークセッション
令和7年3月10日、京都市・紫明会館、シグネチャーパビリオン「EARTH MART」プロデューサー小山薫堂氏とのトークセッション、21人、配信視聴者数19,000人。
- 万博会期中、会期後(令和7年度実施)
雲仙市内におけるデンマーク王国関係者との交流(令和7年8月30日、31日 70人)、
未来の食や文化に関するトークセッション(8月～11月・7回計300人、配信視聴者数59,678人)、
在来種野菜をPRするマーケットイベント(9月～11月・4回計2,300人)

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●良かった点

これまで市内又は国内のみでの魅力発信にとどまっていた雲仙市の在来種野菜という地域の宝を、国外の有名レストランの料理人に認知していただくことができたことは、

国際的な関係人口の創出の大きな一歩となった。今回蒔かれた種により、さらなる関係人口の拡大が図られることを期待する。

●苦労した点

今回の招聘対象が世界的有名レストランであり、交渉には時間がかかったが、交渉の中で当方の考えを理解して下さり、さらには興味を持っていただき、多忙なスケジュールを調整していただき来日が叶った。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本市としてこのような国際的な関係人口を創出するために交流事業を行うことは今回が初めてであったが、今回の取り組みが契機となったことで料理人と市民レベルでのSNS等での交流は続いている。本市としては市民レベルの交流を注視しながら、今後新しい展開が見いだされ、本市の地域課題の解決に資する取組みについて引き続き検討を行いたい。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・財源の確保
- ・事業内容の企画、調整
- ・言語、文化、法律、商習慣の異なる海外との調整や契約、通訳を行う際の知識をもった庁内人材の配置や外部委託に関するノウハウの蓄積



在来種野菜の種採り体験



市内料理人との交流会



トークセッション後の交流



EARTH MART内での交流



北欧パビリオン内での交流



姫路市内でのトークイベントの様子



デンマークナショナルデーに市長出席



大阪市内での在来種野菜PRイベント



長崎駅での万博展示の再構築

東彼杵町交流計画の令和7年度取組状況報告

自治体名

長崎県東彼杵町

相手国・地域

オランダ

1 背景と目標等

ア 背景と目的

東彼杵町は人口7,309人(令和7年3月31日現在)と長崎県において2番目に人口の少ない自治体であり、令和4年町内全域が過疎地域に登録された。本町は「TEAMEXPO2025」プログラム／共創パートナー登録や「地方創生SDGsフェス」への出展など、万博を契機として地域のさらなる活性化を目指しており、本国際交流事業の実施により、小学生を主役として巻き込み、彼らのコミュニケーション能力の向上、シビックプライドの醸成を目指す。

イ 目標

参加する子どもたち一人ひとりが、東彼杵町とその特産である「そのぎ茶」を自らの言葉で、オランダ王国及びその他万博関係者へ紹介することができる。

2 - (1) 事業内容

【事業名】そのぎ茶会

①スケジュール(交流事業の計画策定及び実施にあたっての実際の経過)

- 4月17日 オランダ総領事館広報担当野口様、在大阪オランダ王国総領事館・万博担当商務官 Martijn Heule氏から東彼杵町へビデオメッセージ送付
- 4月18日 修学旅行保護者説明会開催
- 4月22日 茶会講師との事前打ち合わせ:1回目
- 5月9日 オランダ大使館バス様来町
- 5月28日 オランダパビリオンを彼杵小学校校長、彼杵小学校PTA代表が見学
そのぎ茶会合同練習:1回目
- 5月30日 オランダパビリオンを町担当で視察、確認
- 6月9日 茶会講師との事前打ち合わせ:2回目
- 6月12日 そのぎ茶会合同練習:2回目
- 6月16日 修学旅行事前打ち合わせ、茶会講師との事前打ち合わせ:3回目
- 6月30日 西南女学院大学西原教授によるお茶会へ向けた英語学習
- 7月16日 オランダ大使館との事前打ち合わせ
- 8月7日 オランダ大使来町
- 9月3日 そのぎ茶会合同練習:3回目
- 9月5日 イベントスペース担当nerdy jonkers氏との事前打ち合わせ
- 9月10日 イベントスペース見学、荷物搬入、最終打合せ
- 9月11日 SONOGI Tea Partyそのぎ茶会
- 9月19日 授業参観にて茶会振り返り

②体制(交流事業の達成に向けた自治体及び相手国、交流関係団体の実施体制)

- ・相手国: 在日オランダ大使 Gilles Beschoor Plug氏
在大阪オランダ王国総領事 Mark Kaipers氏
オランダ王国大使館広報・政治・文化部副部長 Bas Valckx氏
在大阪オランダ王国総領事館・万博担当商務官 Martijn Heule氏
万博オランダパビリオンプロジェクトマネージャー Nerdy jonkers氏
オランダ王国総領事広報担当・野口彰英氏
- ・学校: 彼杵小学校校長 吉永信一郎、教諭 荒木優花、教諭 佐藤邑大、養護教諭 森嘉代子
千綿小学校校長 中路知恵、教諭 田中雄大、養護教諭 中尾典子
- ・役場: 地域プロジェクトマネージャー 小森竜樹、総務課企画係長 山下晋弘、企画係主査 森縁
- ・地域: 長崎いけどき 松本靖治氏、RAIJMAKERS MARJOLEIN SUZANNE氏
西南女学院大学 人文学部英語学科 教授 西原真弓氏

③内容(日時、場所、取組内容、参加者、来場者を含む参加者の人数、報道対応等)

日時: 4月18日17:00～19:00

場所: 東彼杵町総合会館大会議室

内容: 修学旅行保護者説明会

交流茶会に参加する子どもたち54名の保護者に対し、今回の取り組みの趣旨を説明。

在大阪オランダ王国総領事館・万博担当商務官 Martijn Heule氏からいただいたビデオメッセージを放映。

人数: 47名

日時: 5月28日9:00～11:00

場所: 千綿小学校調理室

内容: そのぎ茶会合同練習: 1回目

講師に長崎いけどきのお二人を迎え、交流茶会に参加する子どもたちが、茶会の流れを学んだ。

その際、万博会場とオンラインでつなぎ、彼杵小学校吉永校長により現地から万博の空気を伝え、子どもたちの意識高揚をはかった。

人数: 61名

日時: 6月12日9:00～11:00

場所: 東彼杵町総合会館大会議室

内容: そのぎ茶会合同練習: 2回目

町職員等をお客様役に迎え、茶会の流れを実践練習した。各学校のALTも参加し、発音練習にも取り組んだ。

人数: 168名

日時: 6月30日14:50～15:35

場所: 千綿小学校6学年教室

内容: 西南女学院大学西原教授によるお茶会へ向けた英語学習

オンラインで千綿小学校と彼杵小学校をつなぎ実施。そのぎ茶会に臨む気持ちづくり、外国語を用いて伝えるために大切なことを学んだ。

人数: 64名

日時:8月7日15:00～18:00

場所:明治の民家、元禄波止場、赤木集団茶園、千綿駅、東彼杵町役場

内容:在日オランダ大使 Gilles Beschoor Plug氏来町

明治の民家にて、Teamexpo2025プログラムで本町が共創パートナーを務めるテーブルスタイル茶道椿の会から西山師範を招き、テーブルスタイル茶道を大使自ら体験いただいた。その際、副町長、教育長により本町の概要と、万博への取り組みについて説明させていただいた。

その後、オランダとのつながりのひとつでもある川原慶賀の絵に描かれた「元禄波止場」を含む、町内のランドマークを視察し、町の魅力や特徴をお伝えした。町長との会談では、今後の友好都市締結についても言及し、引き続きの交流の意思をお伝えした。

報道対応:長崎新聞(8月24日発行「オランダ大使東彼杵訪問 明治の民家で茶道を体験」)

日時:9月3日9:00～11:00

場所:東彼杵町総合会館大会議室

内容:そのぎ茶会合同練習:3回目

班ごとに分かれ最終練習を行った。参加児童の保護者をお客様役として迎え、子どもたちの取り組みを見学、体験いただいた。

人数:70名

報道対応:長崎文化放送NCC『トコトンHappyサタデー』「上野敏子のあなたの町におじゃまします」トコハピ・トコサタ10周年特別企画～大阪・関西万博編～(9月20日土曜日9時放送)の取材

日時:9月11日11:00～12:00、14:00～15:00

場所:万博会場内オランダパビリオン・イベントスペース

内容:SONOGI Tea Partyそのぎ茶会

第1部を11時～、第2部を14時～9テーブル3名のお客様で20分を3回転で実施。

お客様には、オランダ総領事マーク様をはじめオランダパビリオンのスタッフに会場いただいた。また、残りの席は当日万博に来場された国内外の方にお越しいただき、非常に多国籍な茶会となった。また、TEAMEXPO2025プログラムで支援いただいた2025年日本国際博覧会協会のご担当者様、内閣官房国際博覧会推進本部事務局のご担当者様にも来場いただき、この取り組みを実地にて体験いただいた。

マーク様からは、万博のために制作したというマンガを子どもたちにプレゼント。その後の集合写真では、8月12日～17日に開催されたハウステンボスとのコラボイベントで制作された「ミッフィーの耳」をつけての撮影となった。また、パビリオンに設置されていたミッフィーも急遽屋外に登場するサプライズもあり、パビリオンを上げての歓迎をいただいた。

人数:176名

報道対応:オランダパビリオン公式インスタグラム、長崎文化放送NCC(9月3日取材分と同)

④効果

(実施により達成できた成果)

茶会后9月19日の授業参観では、参加した子どもたちから茶会の感想の発表があった。感想の中で、英語を学ぶことの大切さを知ったこと、外国の方と話す楽しさを知ったこと、そのぎ茶を通じて東彼杵町を知ってもらうことができたことへの達成感が得られたことなどが語られた。以上から、本事業の目的及び目標として掲げた「参加児童のコミュニケーション能力の向上、シビックプライドの醸成」は十分に達成された。

(自治体内への波及効果)

8月7日にオランダ大使プルッフ様が来庁されたことが長崎新聞8月24日発刊「オランダ大使東彼杵訪問 明治の民家で茶道を体験」で取り上げられ、9月11日そのぎ茶会の様子がNCC「トコトンHappyサタデー」で放送されるなど、今回のことを契機に再び東彼杵町とオランダ王国との関わりが注目されるようになった。これらは、多くの町民の目に触れ、今回の取り組みに直接かかわることがなかった層のシビックプライドの醸成にも大きな功を奏した。

(相手国への波及効果)

今回の取り組みをきっかけに、在日オランダ大使 Gilles Beschoor Plug氏に来町いただいた。交流のきっかけである川原慶賀の絵の場所を直接見学いただいたり、そのぎ茶の新たな挑戦でもある抹茶とテーブルスタイル茶道を体験いただくなど、お茶の町としての東彼杵町を印象付けることができた。さらにその際、今後オランダ進出を目指す町内茶農家を直接ご紹介し、今後も継続してオランダ王国と交流していく意思を直接伝えることができた。

⑤当該事業において交流した交流相手の類型(推進要綱第2(1)ア～ウから選択)

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加、万博参加国・地域のパビリオンの準備・運営等に関わる者
- イ 万博参加国・地域の関係者
- ウ 万博の企画・運営等に関わる日本側の万博関係者

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

参加する子どもたち一人ひとりが、東彼杵町とその特産である「そのぎ茶」を自らの言葉で、オランダ王国及びその他万博関係者へ紹介することができることを目標に掲げとり組み、十分な成果を上げることができた。この取り組みは、子どもたちの意識の変化だけでなく、関係する学校関係者、教育委員会、行政部局、そして保護者にも大きな影響を与え、「子どもたちを成長させる環境」を整える重要性を強く認識させた。これを契機に、英語教育のより一層の充実のためのオンラインシステムの導入、さらにはインバウンド客を活用した民間レベルでの交流企画等も持ち上がっている。

今後、オランダ王国のいずれかの市との友好都市締結を目指す、その取り組みの中核も今回のそのぎ茶会がベースとなって展開していく予定であり、本町の国際交流の基礎をなす取り組みとなった。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦労した点

●**良かった点** キーパーソンとなるオランダ大使館Bas様と早い段階で繋がることのできたことが成功につながった一番のポイント。Bas様を通じて、適宜私たちの活動に必要な方についていただき、たくさんの方に関わっていただくことができた。また、オランダパビリオンにイベントスペースがあったことも、非常に幸運だった。

●**苦労した点** 万博という特殊かつ閉鎖的な会場でのイベント開催により、荷物の搬入搬出が予想以上に難しかった。(時間指定ができない、万博会場内への発送方法がわからない、着払いが使えないなど)また、パビリオン内でも細かに担当が分かれており、なかなかはっきりとした回答をいただけないこともあった。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

実施後オランダ大使館からのお声かけで、長崎県平戸市の武家茶道「鎮信流」の茶会で用いる抹茶について、そのぎ抹茶をと、家元から開発の依頼をいただいた。歴史的にも長崎と深いかわりをもつオランダに、長崎のお茶は「そのぎ茶」という認識を強くもっていただけたことは、今後のそのぎ茶のブランディングにも非常に大きな影響を与える。

また、今回のつながりを今後も継続していくべく、オランダで唯一茶園のあるズンデルト市との友好都市締結に向け動いている。10月15日にはズンデルト市にあるゴッホハウスの館長ロン様、学芸員のエヴァ様とオンラインにて意見交換し、お二人からズンデルト市に直接お取次ぎいただけることになった。今後、オランダ大使、内閣官房2025年国際博覧会推進本部事務局の推薦状とともに、ズンデルト市へ働きかけていく。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

特別交付税措置がなくなることで、財源をどうするかが課題。オンライン会議システムの発達により、対面でなくとも交流できる時代であるが、やはり対面交流の与えるインパクトは量り知れない。しかし対面交流は、非常に費用がかさむ。今後、国際社会で活躍する人材育成は、町のみならず国県にとっても重要課題であるので、ぜひとも財政措置をいただきたい。



修学旅行保護者説明会の様子



オランダ大使館Bas様来町



第1回合同練習



第2回合同練習



第3回合同練習(テレビ取材あり)



西原教授の特別授業



オランダ大使Plug様と茶畑を視察



そのぎ茶会当日(総領事マーク様)



そのぎ茶会当日(会場全体)

1 背景と目標等

ア 背景と目的

大分県は、令和4年3月に英国ウェールズ政府との間で国際交流推進に関する覚書(MOU)を締結し、相互理解の促進や友好関係の発展に向けた交流を進めてきた。一方で、こうした取組については、県民の認知度が依然として十分とは言えず、また、交流を一過性のものとせず、より実質的かつ継続的な関係へと深化させていくためには、さらなる取組が求められている。このような中、大阪・関西万博への参加を契機としてウェールズ政府関係者が来日する機会を捉え、本県に招聘することで、これまでに構築してきた友好関係を改めて確認するとともに、文化・芸術分野をはじめとする本県の魅力や取組への理解を深め、新たな交流の促進につなげることを目的として、本事業を実施した。

イ 目標

本事業を通じて、万博参加国である英国ウェールズとの人的・制度的な関係を一層強化し、文化・芸術分野を軸とした交流の継続・発展につなげることを目標とする。また、本県の文化政策や地域資源への理解を深め、万博会期前後を通じた交流の基盤を形成することを目指す。

2 - (1) 事業内容

【ウェールズ政府関係者招聘事業】

① 令和7年4月26日(土) 式典出席・視察・交流事業実施、同日離県

- ② 体制
- ・主催：大分県
 - ・招聘先：ウェールズ政府
 - ・連携団体：大分県芸術文化スポーツ振興財団、県内関係機関・企業等

③ 内容

(1) 大分県立美術館 開館10周年記念式典

日時：令和7年4月26日(土)9時00分～9時45分

場所：大分県立美術館(OPAM)

内容：開館10周年記念式典への出席、レベッカ・エヴァンズ経済・エネルギー・計画大臣による来賓挨拶

参加者数：約100名以上

(2) 県内視察・交流

日時：令和7年4月26日(土)

視察先：大分県立美術館(OPAM)、地獄温泉ミュージアム、海地獄、湯の花小屋、別府温泉フルーツファーム、別府市竹工芸伝統産業会館

内容：文化・観光資源の視察及び関係者との意見交換

(3) 歓迎レセプション

日時：令和7年4月26日(土)17時00分～19時00分

会場：ホテル日航オアシスタワー 3階「紅梅の間」

主催：大分県

内容：ウェールズ政府関係者との交流・意見交換

参加者数：25名(ウェールズ側12名、県内関係者等)

主な参加者：知事、副知事、大分県芸術文化スポーツ振興財団理事長、県内企業関係者、大学関係者等

(4)報道対応

- ・プレスリリースを実施、取材・掲載実績なし

④ 効果

(1)自治体内への波及効果・成果

- ・大分県立美術館開館10周年という節目の機会に、海外要人を迎えることで、本県の文化・芸術施策の国際的発信につながった。

(2)相手国への波及効果

- ・ウェールズ政府関係者に対し、本県の文化・芸術資源や地域の取組への理解を深める機会を提供した。
- ・万博を見据えた交流の継続に向けた信頼関係の構築に寄与した。

⑤ 交流相手の類型

- イ 万博参加国・地域の関係者

2 - (2) 事業内容

【大阪・関西万博 英国パビリオン・ウェールズデーへの参加】

① 令和7年4月29日(火・祝) 大阪・関西万博 英国パビリオンにおいて開催されたウェールズデーレセプションに副知事が出席

② 体制 ・主催: ウェールズ政府(レベッカ・エヴァンズ経済・エネルギー・計画担当大臣)

・参加: 大分県(副知事ほか随員職員4名)

③ 内容 日時: 令和7年4月29日(火・祝)

会場: 大阪・関西万博 英国パビリオン

内容: 英国パビリオンにおいて開催されたウェールズデーレセプションに副知事が出席し、ウェールズ政府関係者への挨拶を行った。

あわせて、関係者との簡単な意見交換・挨拶を実施し、これまでの交流の継続を確認した。

主な出席者: レベッカ・エヴァンズ経済・エネルギー・計画担当大臣ほかウェールズ政府関係者や英国大使館関係者等

参加者数: 大分県側5名(副知事、随員職員4名)

④ 効果 ・招聘事業に続く形で副知事が直接出席・挨拶を行うことで、これまでの交流の積み重ねを確認するとともに、今後の交流継続に向けた信頼関係の構築に寄与した。

⑤ 交流相手の類型

- ア 万博参加国・地域のナショナルデーのイベント参加

3 交流計画が掲げる目標に対する万博会期前、会期中、会期後を通じた交流の成果

本事業を通じて、ウェールズ政府との直接的な交流を実現し、文化・芸術分野を軸とした関係深化の基盤を構築することができた。今後、万博会期中・会期後においても、本事業で培った関係を活かし、継続的な交流や具体的な連携の検討につなげていくことが期待される。

4 万博会期前、会期中、会期後を通じた交流を実施する中で良かった点、苦勞した点

●良かった点

- ・大分県立美術館(OPAM)開館10周年という象徴的な機会と連動させることで、事業の意義や発信力を高めることができた。
- ・視察、式典、レセプションを一体的に実施することで、短期間ながら内容の濃い交流が実現した。

●苦勞した点

- ・滞在期間が短く、限られた日程の中で効果的な視察・交流内容を構成する必要があった。
- ・多数の関係機関との調整を要し、事前準備に一定の労力を要した。

5 大阪・関西万博を契機としたレガシー創造への寄与

本事業は、大阪・関西万博を契機として来日したウェールズ政府関係者を本県に招聘し、これまでの交流の経過を踏まえた意見交換や相互理解の促進を図るものである。令和4年3月に締結した「友好と相互協力に関する覚書(MOU)」に基づく取組の一環として実施することで、これまでの交流内容を改めて確認するとともに、今後の交流の在り方について認識を共有する機会となった。

また、大分県立美術館開館10周年記念式典への出席や県内視察を通じて、本県の文化・芸術資源や地域の取組への理解が深められ、文化分野を中心とした国際交流について、地域の魅力発信や今後の交流の在り方を考える上で有意義な機会となった。

次年度以降の交流事業については、覚書(MOU)の更新も視野に、ウェールズ政府及び関係団体との間で、交流内容やその実施方法について引き続き検討・調整を行っていく予定である。

6 次年度以降の取組を実施する上での課題

- ・これまでの取組や本事業で構築した関係を維持・発展させるため、今後の定期的な情報交換や具体的な交流事業が必要である。
- ・文化・芸術分野にとどまらず、他分野への波及も見据えた交流内容の検討が今後の課題である。

【ウェールズ政府関係者招聘事業】



OPAM10周年記念式典の様子



県内視察の様子
(別府温泉フルーツファーム)



歓迎レセプションの様子

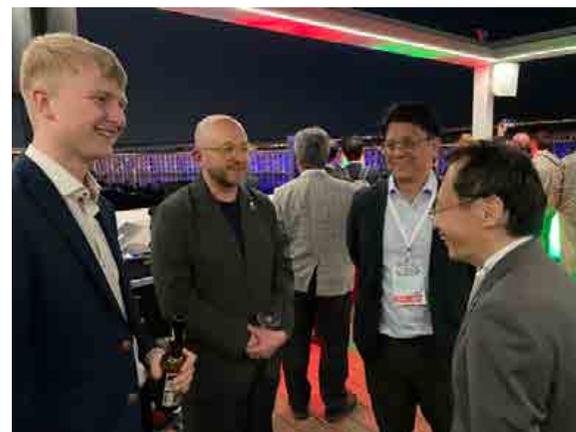
【大阪・関西万博 英国パビリオン・ウェールズデーへの参加】



レセプションでの
エヴァンズ大臣あいさつ



エヴァンズ大臣との挨拶



ティム・エヴァンズ氏、オーウェイン・
ローランズ氏(4/26大分県レセプション
でのパフォーマー)との挨拶